

隠岐空港整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書 第2冊

ひがし ふね い せき  
東 船 遺 跡

— 旧石器時代から近代までの複合遺跡の調査 —

2002年3月

島根県教育委員会

隠岐空港整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書 第2冊

ひがし ふね い せき  
東 船 遺 跡

— 旧石器時代から近代までの複合遺跡の調査 —

2002年3月

島根県教育委員会

## 序

本報告書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成10年度から平成12年度の3か年で実施した隠岐郡西郷町大字今津の隠岐空港整備事業予定地内に所在する東船遺跡の発掘調査成果を記録したものです。

この調査では、旧石器時代から近代までの数多くの遺構や遺物が発見されました。

この遺構や遺物は今津地区の集落の変遷と当時の生活を知るうえで大変貴重な資料といえます。

本書が、この地方の歴史に触れる契機となり、私たちの周りに残されている文化財への理解に少なからず寄与すれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査と調査報告書作成にあたって、御協力いただきました地元の皆様をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

島根県教育委員会

教育長 山崎悠雄



# 例 言

1. 本書は、島根県教育委員会が島根県上木部港湾空港課から委託を受けて、平成10年度から平成12年度に実施した隠岐空港整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 発掘調査を行った遺跡は、次のとおりである。

東船遺跡（隠岐郡西郷町大字今津字東船）

3. 調査組織は次のとおりである。

[平成10年度]

事務局 勝部 昭（文化財課長） 宍道正年（埋蔵文化財調査センター長）

秋山 実（課長補佐）

調査員 丹羽野裕（調査第5係長） 原田敏照（同上事） 田中強志（同調査補助員）

内田直美（同調査補助員） 野津 旭（同調査補助員）

野津研吾（研修生：隠岐島後教育委員会）

[平成11年度]

事務局 宍道正年（埋蔵文化財調査センター所長） 秋山 実（同総務課長）

松本岩雄（同調査第1課長） 今岡 宏（同総務係長）

調査員 西尾克己（同調査第2係長） 原田敏照（同上事） 伊藤徳広（同上事）

大野芳典（同調査補助員） 田中芳文（同調査補助員） 守山博義（同調査補助員）

丸谷万美子（同調査補助員）

野津研吾（研修生：隠岐島後教育委員会）

[平成12年度]

事務局 宍道正年（島根県埋蔵文化財調査センター所長） 内田 融（総務課長）

松本岩雄（調査課長） 今岡 宏（総務係長）

調査員 広江耕史（調査第6係長） 伊藤徳広（同上事） 田中芳文（同調査補助員）

丸谷万美子（同調査補助員） 守山博義（同調査補助員）

[平成13年度]

事務局 宍道正年（島根県埋蔵文化財調査センター所長） 内田 融（総務課長）

松本岩雄（調査第1課長） 今岡 宏（総務係長）

調査員 柳浦俊一（調査第2係長） 伊藤徳広（同上事） 勝部幸治（同調査補助員）

4. 本書の執筆・編集は、文化財課・埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て原田と伊藤が行い、自然科学的分析については埋蔵文化財研究所に依頼し、藁科哲男が執筆した。

5. 挿図中の方位は、測量法による第三座標系のX軸方向である。従って各遺跡の座標北方向と磁北、真北との関係は以下のとおりである。

東船遺跡 磁北より $7^{\circ}61'32''$ 、真北より $0^{\circ}41'32''$  東の方向

6. 本書に掲載した遺構実測図は調査員が作成した。

7. 遺物の実測図は、調査員を中心として以下のものが実測した。  
石橋俊朗 池橋こずえ 赤井和代 石田為成 大畑真由美 金森千恵子 高島留美 鉄尾愛子  
野中洋子
8. 遺跡の調査後の空中撮影及び図化については、㈱ジェクトに委託した。
9. 遺物の写真は、調査員と整理事業員の協力を得て原田と伊藤が撮影した。
10. 遺物の整理事業については、以下の者が従事した。  
大畑 金森 高島 鉄尾 野中 大田栄子 奥村美恵子 荒川あかね 吉田典子 西上美穂子  
村上広美 川津 史 渡部哲子
11. 本報告作成作業に関わる実測図の浄書、版下の作成は、金森、大畑、野中、鉄尾、高島が中心となっていた。
12. カラー図版2および図版60は西郷町ふるさと振興課の提供を受けた。図版94の著作権者は国土地理院である。
13. 本遺跡の出土遺物及び実測図、写真は島根県埋蔵文化財調査センターで保管している。
14. 調査にあたり協力・教示いただいた方は次のとおりである。(敬称略)  
田中義昭(県文化財審議委員)、遼岡法暉(県文化財保護審議委員会)・竹広文明(島根大学)、  
鈴木忠司(京都文化博物館)、横田登(隠岐島後教育委員会)、柚原恒平(西ノ島町教育委員会)、  
高橋弘丞(海士町教育委員会)、山下峰司(瀬戸市歴史民俗資料館)、阿部朝衛(帝京大学)、  
稲田孝司(岡山大学)、藤野次史(広島大学)、藁科哲男(京都大学)、浅川滋男(奈良国立  
文化財研究所〔当時〕)、藤野 薫(今津区長〔当時〕)、竹林啓三郎(今津区長〔現在〕)
15. 現地調査の発掘作業に従事していただいた方は次のとおりである。  
門脇武男、但馬 保、松本由和、井川京子、鶴居 優、宇野マツ子、金岡道子、古山長太郎  
古林和子、高梨美穂子、横地為憲、滝下好一、根本八重子、岩田良夫、上代佐重子、杉谷昭子  
角 浩子、日野義勝、藤野庄一、斎藤正敏、高平鈴江、池田長之進、佐々木安江、服部 勳  
佐々木菊雄、佐々木貞子、白川仁美、荒木忠義、川上秀親、高井章策、鶴居信子、池田重夫  
川上ふみ枝、村上礼子、新見淑子、岩山和宏、清水和雄、安部陽子、原 晴美、井上佳枝  
下澤 収、土築智則、橋本芳巳、藤野喜多子、菊池千栄子、景山広子、松浦エミ子、川本智美  
寺道道江、福島秀則、今岡由美、篠原久栄、森脇真子、宮脇みどり、住田洋之、永海大輔  
神田由美子、鹿島章義、岳野恵里、原 裕教、竹内美代江、河原ヨシノブ、村上志津子  
平井政行、服部卓哉、小野さゆり、長谷川幸生、平井政行、西尾文成、吉田直樹、安部 亨  
白根健太、池田ひろし、岡田 圭、真野幸子、船田一也、村上広美、米津正基、高比良将行  
中西 進、物部久美子、遠藤桂子、村上志津子、西村 航

# 本文目次

序	
第1章 調査に至る経緯	(伊藤) 1
第2章 調査の経過と方法	(原田) 3
第2節 調査の方法	
第3章 遺跡の環境と歴史的背景	(原田) 5
第1節 遺跡の位置と立地	
第2節 周辺の遺跡と歴史的背景	
第4章 検出遺構・遺物の概要	(原田) 8
第5章 旧石器・縄文時代の遺構と遺物	(伊藤) 27
第1節 旧石器時代	
第2節 縄文時代	
第6章 弥生時代の遺構と遺物	(原田) 43
第1節 竪穴建物跡	
第2節 土坑	
第3節 溝状遺構	
第4節 その他の出土弥生土器	
第5節 小結	
第7章 古墳時代の遺構と遺物	(伊藤) 55
第1節 竪穴建物跡	
第2節 土坑	
第3節 性格不明遺構	
第4節 遺構外出土遺物	
第5節 小結	
第8章 古代の遺物	(伊藤) 63
第1節 出土遺物	
第2節 小結	
第9章 中世の遺構と遺物	(伊藤) 63
第1節 掘立柱建物跡	
第2節 出土遺物	
第3節 小結	
第10章 近世以降の遺構と遺物	(原田) 83
第1節 土坑	
第2節 近世墓	
第3節 遺構外出土遺物	
第4節 小結	
第5節 小結	
第11章 時期不明の遺構と遺物	(伊藤) 105
第1節 遺構	
第2節 遺物	
第12章 まとめ	(伊藤) 111
第1節 東船遺跡で出土した遺物について	
第2節 旧石器時代の東船遺跡	
第3節 中世の東船遺跡	
自然科学的分析	(薬科) 117
観察表	
石器計測表	
カラー図版	
図版	

# 挿 図 目 次

第1図	東船遺跡の位置	1
第2図	東船遺跡周辺地形測量図 (S = 1/10,000)	5
第3図	東船遺跡と周辺の遺跡 (S = 1/50,000)	6
第4図	第1調査区調査後測量図 (S = 1/300)	8
第5図	第2調査区調査後測量図 (S = 1/300)	8
第6図	調査区配置図 (S = 1/2,000)	9
第7図	第3調査区調査後測量図 (S = 1/300)	10
第8図	第5調査区調査後測量図 (S = 1/300)	10
第9図	第7調査区調査後測量図 (S = 1/300)	11
第10図	第9調査区調査後測量図 (S = 1/300)	11
第11図	舟王区調査前測量図 (S = 1/300)	12
第12図	第10調査区調査後測量図 (S = 1/300)	13
第13図	舟王区調査後測量図 (S = 1/300)	14
第14図	伝舟親王区土層断面図 (S = 1/40)	14
第15図	第F調査区調査後測量図 (S = 1/300)	15
第16図	第12調査区調査後測量図 (S = 1/300)	15
第17図	第13調査区調査後測量図 (S = 1/300)	16
第18図	第11・14調査区調査後測量図 (S = 1/400)	17・18
第19図	第15調査区調査後測量図 (S = 1/300)	19
第20図	第16調査区調査後測量図 (S = 1/300)	20
第21図	第17調査区調査後測量図 (S = 1/300)	20
第22図	第19調査区調査後測量図 (S = 1/300)	21
第23図	第18調査区調査後測量図 (S = 1/300)	21
第24図	第20調査区調査後測量図 (S = 1/300)	22
第25図	第21調査区調査後測量図 (S = 1/300)	22
第26図	第22調査区調査後測量図 (S = 1/300)	22
第27図	第23調査区調査後測量図 (S = 1/300)	23
第28図	第24調査区調査後測量図 (S = 1/300)	23
第29図	第25調査区調査後測量図 (S = 1/300)	24
第30図	旧石器実測図 (S = 2/3)	27
第31図	SK01・02遺構実測図 (S = 1/20)	29
第32図	SK03遺構実測図 (S = 1/20)	30
第33図	縄文土器実測図 (S = 1/3)	30
第34図	石鏃実測図 (S = 2/3)	32
第35図	石器実測図 (1) (S = 2/3)	33

第36図	石器実測図 (2) ( $S = 2/3$ )	34
第37図	石器実測図 (3) ( $S = 2/3$ )	35
第38図	石器実測図 (4) ( $S = 2/3$ )	36
第39図	石器実測図 (5) ( $S = 2/3$ )	37
第40図	石器実測図 (6) ( $S = 2/3$ )	38
第41図	石器実測図 (7) ( $S = 1/2$ )	39
第42図	石器実測図 (8) ( $S = 1/2$ )	40
第43図	調査区石器出土量比較グラフ図	42
第44図	S I O 1 遺構実測図 ( $S = 1/40$ )	43
第45図	S I O 1 遺物出土状況実測図 ( $S = 1/40 \cdot 1/4$ )	44
第46図	S I O 1 出土弥生石器実測図 ( $S = 1/3$ )	45
第47図	S I O 1 出土砥石実測図 ( $S = 1/3$ )	46
第48図	S I O 2 遺構実測図 ( $S = 1/40$ )	47
第49図	S I O 2 遺物出土状況実測図 ( $S = 1/40 \cdot 1/4 \cdot 1/2$ )	48
第50図	S I O 2 出土遺物実測図 ( $S = 1/3 \cdot 2/3$ )	49
第51図	S K O 4 出土弥生石器実測図 ( $S = 1/3$ )	50
第52図	S K O 4 遺構実測図 ( $S = 1/20$ )	50
第53図	S K O 5 出土遺物実測図 ( $S = 1/3 \cdot 2/3$ )	51
第54図	S K O 5・06・07 遺構実測図 ( $S = 1/20$ )	51
第55図	S D O 1 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )	52
第56図	ピット内・遺構外出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )	52
第57図	S D O 1 遺構実測図 ( $S = 1/20 \cdot 1/40$ )	52
第58図	S D O 2・03 遺構実測図 ( $S = 1/100 \cdot 1/40$ )	53
第59図	S I O 3 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )	55
第60図	S I O 3 遺構実測図 ( $S = 1/40$ )	55
第61図	S I O 4 遺構実測図 ( $S = 1/40$ )	56
第62図	S K O 8 遺構実測図 ( $S = 1/20$ )	57
第63図	S K O 8 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )	57
第64図	S K O 9 遺構実測図 ( $S = 1/20$ )	58
第65図	S K O 9 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )	58
第66図	S K 10 遺構実測図 ( $S = 1/20$ )	59
第67図	S K 10 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )	59
第68図	S X O 1・02 遺構実測図 ( $S = 1/40$ )	60
第69図	S X O 1 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )	60
第70図	ピット内出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )	60
第71図	遺構外出土須恵器実測図 ( $S = 1/3$ )	61
第72図	遺構外出土土師器実測図 ( $S = 1/3$ )	62
第73図	ピット内出土須恵器実測図 ( $S = 1/3$ )	63

第74図	SB 0 1 出土遺物実測図 (S = 1 / 3)	63
第75図	SB 0 1 遺構実測図 (S = 1 / 60)	64
第76図	SB 0 2 遺構実測図 (S = 1 / 60)	65
第77図	SB 0 3 遺構実測図 (S = 1 / 60)	65
第78図	SB 0 4 遺構実測図 (S = 1 / 80)	67・68
第79図	SB 0 5 遺構実測図 (S = 1 / 60)	69
第80図	SB 0 6 遺構実測図 (S = 1 / 60)	69
第81図	SB 0 7 遺構実測図 (S = 1 / 60)	70
第82図	SB 0 8・0 9 遺構実測図 (S = 1 / 60)	71
第83図	SB 1 0・1 1 遺構実測図 (S = 1 / 80)	73・74
第84図	SB 1 2 遺構実測図 (S = 1 / 80)	75・76
第85図	SB 1 3 遺構実測図 (S = 1 / 60)	77
第86図	SB 1 4 遺構実測図 (S = 1 / 80)	78
第87図	SB 1 5 遺構実測図 (S = 1 / 60)	79
第88図	SB 1 6 遺構実測図 (S = 1 / 60)	80
第89図	遺構外出土陶磁器実測図 (S = 1 / 3)	81
第90図	中世土師器・黒色土器実測図 (S = 1 / 3)	82
第91図	遺構出土遺物 (S = 1 / 3)	82
第92図	SK 1 1 出土遺物実測図 (S = 1 / 3)	83
第93図	SK 1 1 遺構実測図 (S = 1 / 40)	83
第94図	SK 1 2 遺構実測図 (S = 1 / 20)	84
第95図	SK 1 3・1 4 遺構実測図 (S = 1 / 20)	81
第96図	SK 1 5 出土鉄器実測図 (S = 1 / 2)	85
第97図	SK 1 5 遺構実測図 (S = 1 / 10・1 / 20)	86
第98図	SK 1 6 遺構実測図 (S = 1 / 20)	86
第99図	SK 1 7 出土遺物実測図 (S = 1 / 2)	87
第100図	SK 1 7 遺構実測図 (S = 1 / 10・1 / 20)	87
第101図	SK 1 8 出土鉄器実測図 (S = 1 / 2)	88
第102図	SK 1 8 遺構実測図 (S = 1 / 20)	88
第103図	SK 1 9 遺構実測図 (S = 1 / 20)	89
第104図	SK 2 0 遺構実測図 (S = 1 / 20)	89
第105図	SK 2 1 出土鉄器実測図 (S = 1 / 2)	90
第106図	SK 2 1 遺構実測図 (S = 1 / 20)	90
第107図	SK 2 1 出土遺物実測図 (S = 1 / 3)	91
第108図	SK 2 2 遺構実測図 (S = 1 / 20)	91
第109図	SK 2 2 出土遺物実測図 (S = 1 / 3)	92
第110図	SK 2 3 遺構実測図 (S = 1 / 20)	92
第111図	SK 2 2 出土金属器実測図 (S = 1 / 2)	93

第112区	SK 2 3 出土金屬器実測図 (S = 1 / 2)	92
第113区	SK 2 4 遺構実測図 (S = 1 / 20)	94
第114区	SK 2 5 遺構実測図 (S = 1 / 20)	94
第115区	SK 2 6 · 2 9 出土小玉実測図 (S = 1 / 1)	95
第116区	SK 2 6 · 2 7 出土鉄器実測図 (S = 1 / 2)	95
第117区	SK 2 6 遺構実測図 (S = 1 / 20)	95
第118区	SK 2 7 遺構実測図 (S = 1 / 20)	96
第119区	SK 2 8 遺構実測図 (S = 1 / 20)	96
第120区	SK 2 8 出土鉄器実測図 (S = 1 / 2)	97
第121区	SK 2 9 出土小刀実測図 (S = 1 / 2)	97
第122区	SK 2 9 遺構実測図 (S = 1 / 20)	97
第123区	SK 3 0 遺構実測図 (S = 1 / 20)	98
第124区	SK 3 1 遺構実測図 (S = 1 / 20)	98
第125区	SK 3 2 遺構実測図 (S = 1 / 20)	99
第126区	SK 3 3 遺構実測図 (S = 1 / 20)	100
第127区	SK 3 4 遺構実測図 (S = 1 / 20)	100
第128区	第17調査区遺構外出土鉄釘実測図 (S = 1 / 2)	101
第129区	舟干区出土陶磁器実測図 (S = 1 / 3)	101
第130区	遺構外出土近世～近代陶磁器実測図 (S = 1 / 3)	101
第131区	出土銭貨拓影 (S = 1 / 2)	102
第132区	段状遺構実測図 (S = 1 / 60)	105
第133区	SA 0 1 遺構実測図 (S = 1 / 60)	106
第134区	SX 0 3 遺構実測図 (S = 1 / 30)	106
第135区	古道実測図 (S = 1 / 100 · 1 / 20)	107 · 108
第136区	SX 0 4 遺構実測図 (S = 1 / 40)	109
第137区	SX 0 5 遺構実測図 (S = 1 / 40)	109
第138区	SK 3 5 遺構実測図 (S = 1 / 20)	110
第139区	SK 3 5 出土紡錘車実測図 (S = 1 / 2)	110
第140区	不明土製品実測図 (S = 1 / 3)	110
第141区	土錘実測図 (S = 1 / 3)	110
第142区	.....	127
第143区	.....	128

# 写真図版目次

- カラー図版1 東船遺跡全景空撮  
カラー図版2 遺跡全景空撮  
遺跡全景空撮  
カラー図版3 日本海より遺跡を望む  
S I 01・S D01出土弥生土器  
カラー図版4 出土中世陶磁器  
S K22出土金属製品
- 図版1 第1調査区全景(調査後)  
第3調査区全景(調査後)  
第5調査区全景(調査後北側)  
図版2 第5調査区全景(調査後南側)  
第7調査区全景(調査後西側)  
第7調査区全景(調査後東側)  
図版3 第9調査区全景(調査後)  
第10調査区全景(調査後西側)  
第10調査区全景(調査後東側)  
図版4 船王調査区全景(調査後南側)  
船王調査区全景(調査後北側)  
F調査区全景(調査後)  
図版5 第11調査区全景(調査後)  
第12調査区全景(調査後)  
第13調査区全景(調査後)  
図版6 第14調査区全景(調査後)  
第16調査区全景(調査後)  
第17調査区全景(調査後)  
図版7 第18調査区全景(調査後)  
第21調査区全景(調査後)  
第22調査区全景(調査後)  
図版8 第23調査区全景(調査後)  
第24調査区全景(調査後)  
遺跡見学会風景  
図版9 伝船親王墓全景(調査前南西より)  
伝船親王墓全景(調査前北西より)  
伝船親王墓 石塔  
図版10 伝船親王墓 土層断面(東西ベルト)  
伝船親王墓土層断面(東西ベルト)  
伝船親王墓土層断面(南北ベルト)  
図版11 S K 03 検出状況  
S K 03 遺物出土状況  
図版12 S I 01 検出状況  
S I 01 遺物出土状況
- S I 01 土層断面  
図版13 S I 01 ビット・溝検出状況  
S I 01 完掘状況  
図版14 S I 02 ビット・溝検出状況  
S I 02 完掘状況  
図版15 S I 02 土層断面  
S I 02 遺物出土状況  
S I 02 遺物出土状況  
図版16 S K 05・06・07 検出状況  
S K 05 弥生土器状況  
図版17 S K 05 土層断面  
S K 06 土層断面  
S K 07 土層断面  
図版18 S K 04 遺物出土状況  
S D 01 完掘状況  
S D 01 弥生土器出土状況  
図版19 S D 02・03 検出状況  
S D 03 遺物出土状況  
図版20 S D 03 発掘状況  
S D 03 土層断面  
S D 02 完掘状況  
図版21 S D 03 完掘状況  
S D 02 完掘状況  
図版22 S I 03 遺物出土状況  
S I 03 完掘状況  
図版23 S I 03 遺物出土状況  
S I 03 焼土面検出状況  
S I 03 ビット土層断面  
図版24 S K 08 土層断面  
S K 08 遺物出土状況  
図版25 S K 08 遺物出土状況  
S K 08 遺物出土状況  
S K 08 完掘状況  
図版26 S K 10 検出状況  
S K 10 土層断面  
図版27 S K 10 遺物出土状況  
S K 10 完掘状況  
図版28 S K 09 土層断面  
S K 09 完掘状況  
図版29 第1調査区ビット群検出状況  
第16調査区ビット・土坑検出状況  
図版30 S B 01 完掘状況

- SB02完掘状況
- SB01ピット内遺物出土状況
- 図版31 SB10・11完掘状況(北から)
- SB10・11完掘状況(東から)
- 図版32 SB12完掘状況(北から)
- SB12完掘状況(南西から)
- 図版33 SB12周辺状況
- SB12周辺ピット内遺物出土状況
- SB12礎石状礎検出状況
- 図版34 SB07完掘状況
- SB07完掘状況(アップ)
- 図版35 SB06作業状況
- SB06完掘状況
- 図版36 SB17完掘状況
- SB17完掘状況
- 図版37 SB14完掘状況
- SB15完掘状況
- 図版38 SB13完掘状況
- SB16完掘状況
- SB05完掘状況
- 図版39 SB04完掘状況(西から)
- SB04完掘状況(北から)
- 図版40 SB08・09完掘状況
- SB13作業風景
- 図版41 古道検出状況(南より)
- 古道完掘状況(南西より)
- 古道礎検出状況
- 図版42 古道状況
- 古道精査状況
- 古道半蔵状況
- 図版43 古道精査後状況
- 古道礎検出状況
- 古道完掘状況
- 図版44 古道全景
- 図版45 SK15・16完掘状況
- SK15完掘状況
- SK15遺物出土状況
- 図版46 SK16上層断面
- SK17土層断面
- SK17遺物出土状況
- 図版47 17区近世墓群
- 17区石列完掘状況
- 図版48 SK18上層断面
- SK18遺物出土状況
- SK19完掘状況
- 図版49 SK20完掘状況
- SK20土層断面
- SK21遺物出土状況
- 図版50 SK21土層断面
- SK21完掘状況
- SK22完掘状況
- 図版51 SK22遺物出土状況
- SK22遺物出土状況
- SK22遺物出土状況(柄杓取上後)
- 図版52 SK23完掘状況
- SK25完掘状況
- SK26遺物出土状況
- 図版53 SK27完掘状況
- SK28遺物出土状況
- SK28上層断面
- 図版54 SK29土層断面
- SK29遺物出土状況
- SK30石材出土状況
- 図版55 SK31遺物出土状況
- SK32完掘状況
- SK32土層断面
- 図版56 SK33石材出土状況
- SK34完掘状況
- SK34上層断面
- 図版57 段状遺構検出状況
- SK35出土状況
- SK35土層断面
- 図版58 SX04・05完掘状況
- SX05上層断面
- 図版59 SX03検出状況
- 18区打製石斧出土状況
- 18区より今津集落を望む
- 図版60 今津とんど風景
- 白鳥神社奉納北前船模型
- 図版61 旧石器時代遺物
- 図版62 旧石器時代遺物
- 縄石刃核
- 図版63 縄文土器(外面)
- 縄文土器(内面)
- 図版64 石畿
- 図版65 石器(1)
- 図版66 石器(2)
- 図版67 石器(3)
- 図版68 石器(4)
- 図版69 石器(5)

図版70	石器 (6)	遺構外出土七師器高坏	
図版71	石器 (7)	遺構外山土土師器甕	
	石器 (8)	土師器甕	
図版72	S I O 1 出七弥生土器 (在地)	図版84	S B O 1 出土こね鉢
	S I O 1 出土弥生土器 (搬入系)		遺構外出土束播系鉢
図版73	S I O 1 出七弥生土器		李朝碗
	S I O 2 出土弥生土器		遺構外出土陶器溜鉢
	S K O 5 出七弥生土器	図版85	遺構外出土中世土師器
図版74	S I O 1 出土砥石		遺構外出土中世土師器
	S I O 2 出土石器		青磁椀
図版75	S K O 4 出土弥生土器		ピット出土硯
	遺構外出土弥生土器 (底部)	図版86	S K 1 1 出土陶磁器・土鐘
	遺構外出土弥生土器 (底部)		S K 1 1 出土陶磁器柄
図版76	S D O 1 出土弥生土器		S K 2 1 出土硯
	S D O 1 出土弥生土器		S K 2 1 出土水滴
図版77	S I O 3 出土七師器・須恵器	図版87	S K 2 2 出土陶器・硯
	S I O 3 出七須恵器蓋		S K 2 2 出土硯
	S I O 3 出土土師器甕		小瓦 (S K 26・29・17)
	S I O 3 出七須恵器坏身		S K 1 5・1 7 出土鉄器
図版78	S K O 8 出土土師器・須恵器	図版88	S K 1 8・2 1 出土鉄器
	S K O 8 出七須恵器坏身		S K 2 2 出土小柄・柄鏡
	11区ピット内出土土師器 (甕口縁)	図版89	S K 2 2 出土鉄器
図版79	S K O 9 出土土師器・須恵器		S K 23・26~29 遺構外出土金屬製品
	S K O 9 出土須恵器 (直口壺)	図版90	出土銭貨
	S K O 9 出土土師器 (高坏)	図版91	遺構外出土陶磁器 (近世以降)
	S X O 1 出土土師器 (甕)		船王調査区出土陶磁器 (近世)
図版80	遺構外出土須恵器	図版92	遺構外出土陶磁器
	遺構外出土須恵器蓋		船王調査区出土陶磁器
	遺構外出土須恵器坏身		船王調査区出土土製品
図版81	遺構外出土須恵器横瓶		25調査区出土陶磁器 (統制番号入り)
	遺構外出土土師器	図版93	S K 3 5 出土鉄製紡錘車
図版82	遺構外出土土師器甕		遺構外出土不明土製品
	遺構外出土七師器椀		出土七鉢
図版83	甕口縁	図版94	今津周辺空撮写真
	遺構外出土七師器高坏		

## 表 目 次

表1	調査地と周辺の遺跡 一覧……………	7	表8	古墳時代 遺構一覧 ……………	60
表2	各調査区の遺構・遺物……………	25・26	表9	中世 遺構一覧 ……………	82
表3	縄文時代 遺構 一覧……………	41	表10	近世墓 一覧 ……………	104
表4	調査区石器出土表……………	42	表11	調査区遺物集計表 ……………	112
表5	S I O 1 出土石材 計測表……………	46	表12	石器・土師器以外遺物比率 ……………	113
表6	S I O 2 出土石材 計測表……………	50	表13	貿易陶磁集計表 ……………	114
表7	弥生時代 遺構一覧……………	54	表14	中世土師器集計表 ……………	115

# 第1章 調査に至る経緯

昭和40年8月に開港した隠岐空港は開港当時の1,200m×30mの滑走路を昭和54年4月に新たに1,500m×45mに拡張するなどの施設変更し、現在に至っている。

この間運航されてきた機体はプロペラ機のYS-11型機であるが、滑走路の長さの関係でジェット機の使用は不可能であった。このYS-11型機は現在製造中止になっており、その後継機として小型ジェット機が考えられた。

そこで島根県では、隠岐島の振興や活性化、航空機運航の安全性・就航率向上のため、滑走路を小型ジェット機の運航可能な長さ2,000mにする等の事業を計画した。

そこでこの計画に伴う埋蔵文化財調査について、平成8年から周辺事業予定地内も含め隠岐島後教育委員会・島根県教育委員会によって遺跡の分布調査が実施された。これによって空港整備事業予定地内に御崎谷遺跡・大床遺跡・東船遺跡の3か所で遺跡の存在が明らかになった。

- ・御崎谷遺跡（西郷町大字碑町字御崎谷）・・・明治：海軍望楼跡
- ・大床遺跡（西郷町大字碑町字大床）・・・昭和：防空監視哨跡
- ・東船遺跡（西郷町大字今津字東船）・・・旧石器時代～中世：集落跡等

分布調査の成果を基に、遺跡の取り扱いについて協議が行われ、御崎谷遺跡・大床遺跡については、遺跡の時代・性格について不明確な点が多いことや近代以降の新しいものである可能性があつ



第1図 東船遺跡の位置図

たが、地元の要望等もあり調査を行うこととなった。

そして、隠岐島後教育委員会により平成9年に遺跡の広がりを確認するための東船遺跡の範囲確認調査が行われた。これにより東船遺跡の調査範囲が確定することとなった。以上の分布調査、範囲確認調査を基に埋蔵文化財調査の基本計画が協議され、現地調査については島根県教育委員会が平成10年度～平成12年度の3か年で基本的に行うこととなった。また、埋蔵文化財調査を円滑に進める上での調査地の用地買収・重機による表土掘削・立ち木伐採・発掘作業員確保等の環境整備について協議し、本格的な調査を実施する上での準備は整えられた。

現地調査は、平成10年度に御崎谷遺跡・大床遺跡・東船遺跡の3か所について行い、11年度以降については、東船遺跡の調査を継続して行うこととなった。

また、平成11年度には、地元住民の方からの指摘と文献資料から御崎谷遺跡と大床遺跡の間間地点の谷奥に遺跡が存在することが新たに確認された。この新たに発見された遺跡を御崎谷Ⅱ遺跡として平成12年度に調査することとなった。

平成10年度の調査は4月から諸準備をおこない、1パーティで同年6月に御崎谷遺跡から実施し、同年8月からは大床遺跡の調査を開始した。この2遺跡については同年9月には調査を終了し、それ以降同年12月まで東船遺跡の調査を行い、平成10年度の現地調査は終了した。

平成11年度の調査は、調査班を2パーティに増やして4月より実施した。遺跡は前年度から継続して東船遺跡の調査を実施し、同年12月に終了した。

平成12年度は、前年度同様に東船遺跡の調査を4月より実施した。11月からは御崎谷Ⅱ遺跡の調査も並行して行い、同年12月に両遺跡の現地調査を終了した。

この段階で東船遺跡の調査部分のうち調査を実施できなかった部分が残ることとなったが、それについては、協議の結果、隠岐島後教育委員会によって平成13年度に調査を実施することが決定した。

今回報告する東船遺跡（西郷町大字今津）は、平成10年度から平成12年度に現地で行った調査と平成10年度から平成13年度に行った遺物の整理作業の成果をまとめたものである。

## 第2章 調査の経過と方法

### 第1節 調査経過

遺跡の調査範囲は、平成9年度の隠岐島後教育委員会によるトレンチ調査の成果に基づいた部分である。また調査は、用地買収の終了している部分と発掘調査の承諾が得られた部分から実施することとなり、初年度は1パーティで部分的に所々調査を行った。またそれぞれの調査区名の名称は土地所有者一覧表の番号をそのまま踏襲しておこなったが、最終的に番号が飛ぶなど一貫性に欠けた名称となり問題があった。

調査は現地での準備段階を経て、平成10年10月5日から発掘作業を開始した。この年度の調査面積は3,500㎡であった。10月21日には、隠岐では調査例の少ない弥生時代後期の竪穴建物跡を検出した。そして、10月29日には、伝船王墓の立ち木の伐採を開始して11月10日に調査前のお祀りを行い地形測量を行った。こうして平成10年度は、12月18日に現地作業を終了した。また、この年は石器が多数出土する可能性を考え7月1日・2日に竹広文明氏から調査指導を受けた。

平成11年度の調査は、4月21日よりパーティ数を増やし2パーティで実施した。5月10日には伝船王墓の調査を開始した。そして6月1日には、弥生時代後期の竪穴建物跡2棟を検出したことから調査指導を山中義昭氏にお願いした。さらに6月26日には弥生時代後期の竪穴建物跡を中心に遺跡の見学会を開催して地元から60名の参加があった。10月25日・26日には、黒曜石製の石器が多数出土していることや旧石器の細石核について竹広文明氏の調査指導を受けた。11月13日には、黒曜石製の旧石器と掘立柱建物跡を中心に2回目の遺跡見学会を開催して地元から40名の参加があった。12月16日には現地調査を終了し、調査面積は9,400㎡であった。

平成12年度の調査は、4月24日から1パーティで現地調査を開始した。また、過去に黒曜石製の石器剥片等の表採が見られた場所が調査区外に存在していたことが分かり、新たにトレンチ調査も実施することとなった。トレンチ調査は5月15日から開始して計24本入れたが遺物の出土はなかった。11月7日からは御崎谷Ⅱ遺跡（西郷町大字岬町）の調査も並行して行った。10月28日には、中世の掘立柱建物跡と古墳時代後期の竪穴建物跡を中心に遺跡見学会を開催して50名の参加を得た。そして12月12日～13日には、遺跡の空撮を行って12月21日に現地調査を終了した。またこの年度の調査面積は7,300㎡であった。なお、出土した石器について平成13年3月12日・13日に鈴木忠治・竹広文明氏の両名に調査指導を受けた。

なお、用地の関係で調査が不可能であった場所については、平成13年度に隠岐島後教育委員会によって調査が行われることになった。調査は、5月7日から開始し12月21日に終了し、調査面積は1904㎡であった。

最後に隠岐空港整備事業に係る埋蔵文化財調査で刊行配布したものについて以下のとおりである。

#### (発掘たより)

隠岐空港発掘たより「隠岐に仔すま」B4版 隠岐郡西郷町内配布（950部）隔月 1号～16号

#### (カラーパンフレット)

隠岐空港発掘たより『隠岐に仔すまスペシャル』8P 5,600部印刷 1号（1999年3月刊行）

隠岐空港発掘たより『隠岐に仔すまスペシャル』8P 5,600部印刷 2号（2000年3月刊行）

隠岐空港発掘たより『隠岐に仔すまスペシャル』12P 5,800部印刷 3号（2002年3月刊行）

## (隠岐空港整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書)

第1冊 『御崎谷遺跡・大床遺跡—明治の海軍軍艦跡と昭和の防空監視砲跡の調査—』2001年3月刊行

第2冊 『東船遺跡—旧石器から近代までの複合遺跡の調査—』2002年3月刊行 本書

第3冊 『御崎谷Ⅱ遺跡—海軍望楼の官舎跡の調査—』2002年3月刊行

## 第2節 調査の方法

ここでは、遺跡の現地調査の方法と出土した遺物の整理分析について述べてい。ただし、特殊な遺構等については若干異なっており、それについては別に詳細に述べることとして基本的な方針について記述しておきたい。

### 1. 遺跡の発掘

遺跡の現況はほとんどの部分が畑として耕作されていることから耕作土については、重機によって基盤層(地山)近くまで除去した後に精査を行った。また、調査区ごとの土層堆積状況は記録しなかった。

基盤層の精査によって検出された遺構は、土層の写真・図化等の記録(土層観察は中軸1本または、直交する十字方向の2本で基本的に行った)を行い、遺物が出土している場合にはその状況によって手測りによる実測または、遺跡調査システム『サイト』によってその出土したポイントを記録した。最後に遺構完掘後の遺構実測は『サイト』を使用し、打ち出して図化したものを現地で校正するよう努めた。なお、遺構の断面図については『サイト』によって作成した。

調査区から出土した遺構に伴わない遺物は、平成10年の調査では遺跡を10mのメッシュで区切ったもので取り上げていたが、基本的に耕作土からの出土であることから平成11年の調査からは調査区で一括して取り上げた。

調査終了後には、その都度調査区全体の測量図を25cmコンター、1/100縮尺で作成した。また平成12年度には、遺跡の全体の空中撮影を行った。

### 2. 出土遺物の整理・分析

遺跡から出土した遺物は水洗・注記・接合を行った後に土器・須恵器・陶磁器・石器に分類し整理した。

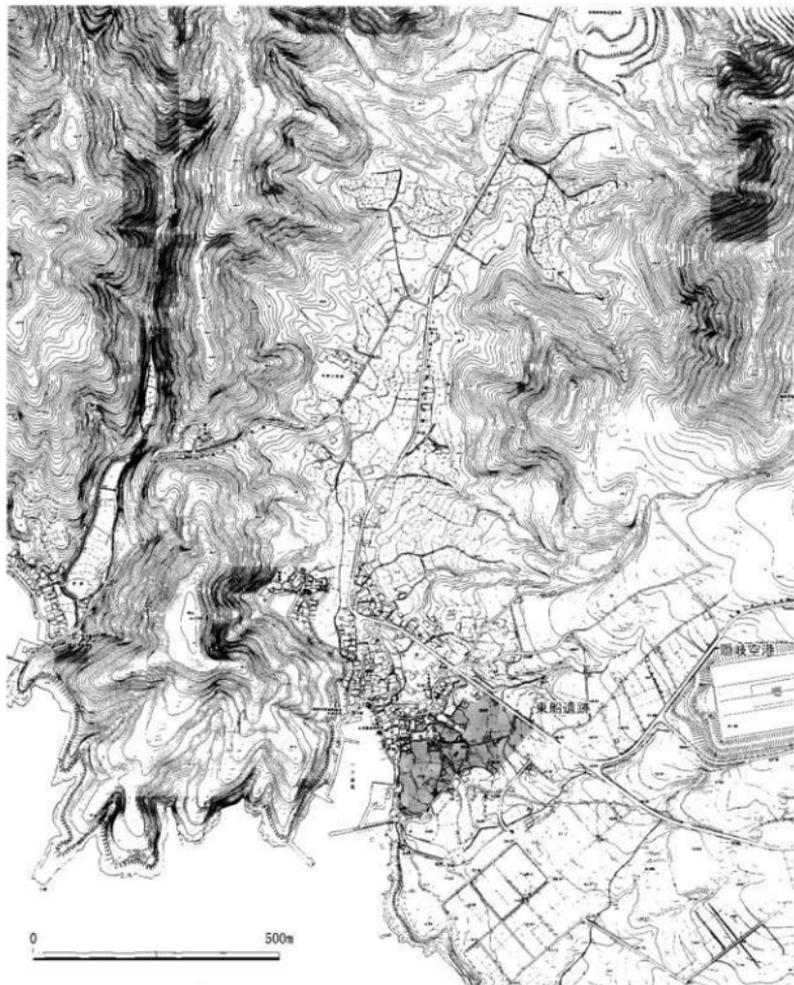
このうち石器については、全点数を計測し一覧表を作成した。そしてその中で遺構に伴うものはおおむね実測し、遺構外出土のものは必要と考えられるものを実測し図化した。

土器・須恵器・陶磁器については同一分類のものの中で実測可能な1～数点を実測し、図化した。

### 第3章 遺跡の環境と歴史的背景

#### 第1節 遺跡の位置と立地

東船遺跡は、隠岐の島後西郷町大字今津字東船に所在し、南側に日本海を臨む島の南側の今津港に面した低い台地に位置している。この今津港は、奥行き約500m程の天然の入江となっており、ここから北に向かって幅は狭いが平坦な平野が続いている。遺跡の立地する台地は、今津港から東の岬の突端付近まで広がる広大なものであり、その先端部分の標高12m～31m程の緩斜面に遺跡が立地している。また、調査前はほとんどの部分が畑として利用されている外は墓地が点在していた。



第2図 東船遺跡 周辺地形測量図(S = 1/10,000)

## 第2節 周辺の遺跡と歴史的背景

隠岐島後の南部では、西郷湾周辺とそこに注ぎ込む矢尾川流域を中心として多くの遺跡が存在している。その中で東船遺跡の位置する今津周辺は今津港から北に西郷湾へ向かって谷筋となり、西郷湾周辺の中心部と繋がっている。

この地域では、旧石器時代の細石核と台形礫石器が東船遺跡で出土し約3万～2万4千年まで隠岐島の人類史を遡ることが可能となった。そして縄文時代では、宮尾遺跡で前期に遡る土器が出土し、また東船遺跡でも縄文土器が出土していることから、ある程度継続的に人類の歴史をたどることができ、さらに、隠岐産の黒曜石の中国地方各地の出土例からも足跡をたどることができる。

弥生時代には、月無遺跡から弥生時代前期～中期の遺物が出し、また後期には大城遺跡で四隅突出型弥生墳丘墓が築かれ、尼寺原遺跡や東船遺跡では住居跡が検出されており、遺構の検出はまだ少ないがある程度の集落の存在を窺わせるものである。

古墳時代～奈良時代は、矢尾川流域と玉若能神社周辺に大型の古墳が集中し、また国分寺、国府が存在し隠岐島の中心地域の一つに挙げられる。今津周辺地域では、古墳時代後期から奈良時代頃の遺構・遺物が東船遺跡・奥田遺跡・森遺跡で認められている。



第3図 東船遺跡 調査遺跡と周辺の遺跡 (S = 1/50,000)

中・近世は、やはり中心地は矢尾川周辺と考えられ、また、役人が巡検使として訪れる場合に今津港から入港して陸路で北の陣屋へ向かっていることから、今津周辺は交通の要衝と位置づけられる。このことから古代においても中心地の矢尾川周辺へ向かう場合に、西郷湾へ入港する場合と今津港へ入港する場合が考えられ、近世と同じように交通の要衝であった可能性が考えられる。

以上のように遺跡の所在する今津周辺では港周辺とそこから北に向かう平野部の山裾に沿って古代から集落が営まれ、また、中心部の矢尾川流域に至るための交通の要衝の地であったものと思われる。

表1 調査地と周辺の遺跡 一覧

地契番号	遺跡名	概要	地図番号	遺跡名	概要
1	東船遺跡	集落跡 旧石器～中世	46	中山古墳群	古墳3基(埴形不明)
A	御崎谷遺跡	海軍望楼跡、近代	47	小安神社古墳	古墳、前方後円墳、真石他
B	大床遺跡	防衛施設跡、近代	48	平東古墳群	円墳2基
C	御崎谷II遺跡	海軍望楼官舎跡、近代	49	釜山古墳	古墳、割石
3	四土塚古墳	円墳	50	平西の古墳	円墳、横穴式石室
4	森遺跡	集落跡 奈良時代	51	宇神社古墳	前方後円墳、石室、墓石、埴輪
5	奥田I遺跡	包含層 須恵器・土師器	52	本先古墳	円墳、石棺、土師器・須恵器
6	奥田II遺跡	集落跡 須恵器・土師器	53	小松城跡	城跡
7	奥田III遺跡	集落跡 須恵器・土師器	54	青古墳跡	散布地、土師器
8	飯の山横穴墓群	20基以上、埴輪、須恵器、土師器	55	船ヶ谷古墳	古墳(埴形不明)
9	高井古墳	円墳	56	藤岐四分寺跡	寺院跡、礎石、軒平瓦
10	くぐりま遺跡	散布地、石線	57	野中西遊跡	散布地、須恵器
11	西出古墳	円墳	58	野中東遺跡	散布地、須恵器
12	嶺中学校跡古墳	古墳、刀子、鋸先、須恵器他	59	高城遺跡	散布地、土師器
13	大庭古墳群	円墳3基	60	尾寺遺跡	築造住居跡、鉄器、瓦、須恵器
14	ト西海岸遺跡	散布地、縄文土器、石線	61	大光寺跡	寺院跡、石碣
15	国府尾城跡	城跡	62	赤田古墳群	古墳3基(円墳、前方後円墳)
16	白壁古墳群	古墳4基	63	月籠遺跡	散布地、赤生土器、木器他
17	国府原遺跡	館跡	64	八門横穴墓群	横穴墓、須恵器
18	甲の原古墳群	古墳4基	65	粟木遺跡	散布地、土師器・須恵器
19	甲の原古墳群	古墳5基	66	大城遺跡	散布地、赤生土器(スタンプ文)
20	大塚遺跡	散布地、須恵器、黒曜石	67	大城西側突出型埴形瓦	赤生土器、管玉
21	大塚遺跡	散布地、須恵器、黒曜石	68	大川神社古墳	古墳、円墳、横穴式石室
22	能木原遺跡	散布地、須恵器	69	西郷小学校1号墳	古墳、円墳
23	能木原古墳群	古墳8基	70	西郷小学校2号墳	古墳、円墳
24	能木原古墳群	古墳9基	71	天神古墳群	古墳、円墳2基、墓石
25	甲の原遺跡	散布地、須恵器、黒曜石	72	西郷公園古墳	古墳、円墳
26	宮の前遺跡	散布地、須恵器、黒曜石	73	平崎古墳群	横穴墓
27	宮の前1号墳	古墳、円墳	74	清久寺裏遺跡	散布地、古銭、陶器
28	宮の前2号墳	古墳、円墳	75	へぎ遺跡	散布地、土師器・須恵器
29	志保町命神社境内古墳群	円墳4基	76	へぎ古墳	古墳、土師器・須恵器
30	岩泉古墳	円墳	77	駿貝トンネル遺跡	散布地、須恵器
31	神籠古墳群	円墳5基	78	西尾古墳群	古墳、円墳5基
32	神籠古墳群	古墳40基以上、塚蓋	79	宮尾遺跡	集落跡、縄文土器、石線他
33	玉科命神社古墳群	14基、前方後円・円墳、須恵器他	80	神米遺跡	散布地、土師器
34	横井寺跡	寺院跡、礎石、軒平・丸瓦	81	神米古墳群	古墳3基
35	榑古墳	円墳	82	小田横穴墓	横穴墓、須恵器
36	ト西御崎神社古墳群	円墳2基	83	小田西元寺古墳	古墳、円墳、石室、勾玉、刀他
37	ヒノメタン古墳群	古墳2基	84	宮田城跡	城跡
38	馬籠遺跡	散布地	85	小田古墳	古墳、円墳
39	青谷谷南古墳群	古墳2基	86	本堂高校西側横穴墓	横穴墓、須恵器
40	ハサコ古墳群	4基、円墳、前方後円墳	87	飯田小学校裏古墳	古墳3基、須恵器、土師器
41	青谷谷古墳群	古墳4基	88	津井古墳群	古墳2基
42	田井古墳	古墳、埴形不明	89	湯遊跡	集落跡、縄文土器
43	日記古墳	円墳	90	蓮華寺跡	寺院跡
44	矢尾川流域桑原遺跡	桑原遺跡	91	蓮華寺山経塚	経塚
45	中山遺跡	集落跡、塚穴住居跡、須恵器他			

## 第4章 検出遺構・遺物の概要

東船遺跡では3ヶ年にわたって調査を行い、第6図のように調査可能な部分から順次発掘を実施した。この章では、それぞれの調査区の検出遺構と出土遺物についてその概要を記述する。なお、各遺構遺物の詳細報告は、時代ごとに次章以降より記述する。

### 1. 第1調査区（第4図）

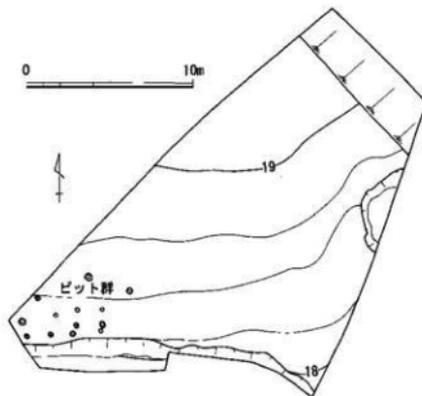
第1調査区は遺跡の中程標高17m～18mに位置し、地形は遺跡東側に存在する谷に面した緩やかな丘陵の裾部分である。調査前の現状は畑であり標高の高い北側部分は耕作によって上面が削られている。調査は畑の耕作土を重機によって除去した後人力で精査をおこなった。

遺構は、南西側の比較的低標高が低い部分のみでピットを検出しており、調査区の北側の大部分では遺構を検出できなかった。ただし北側は耕作によって削られていることから、本来はピットが調査区全体にある程度存在していた可能性が考えられる。検出したピット群は、おそらく掘立柱建物跡を構成するものと考えられるが、建物跡を復元可能な並びは存在しなかった。また、ピット内から須恵器破片が出土したことがあることから古墳時代後期頃の建物跡が存在していた可能性が考えられる。

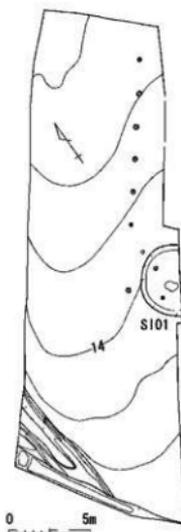
基本的に検出した遺構はピットであるが、調査区の東側では土坑を検出した。この土坑は覆土が非常に硬く締まったものであり、遺物は出土しなかった。性格不明な土坑である。

### 2. 第2調査区（第5図）

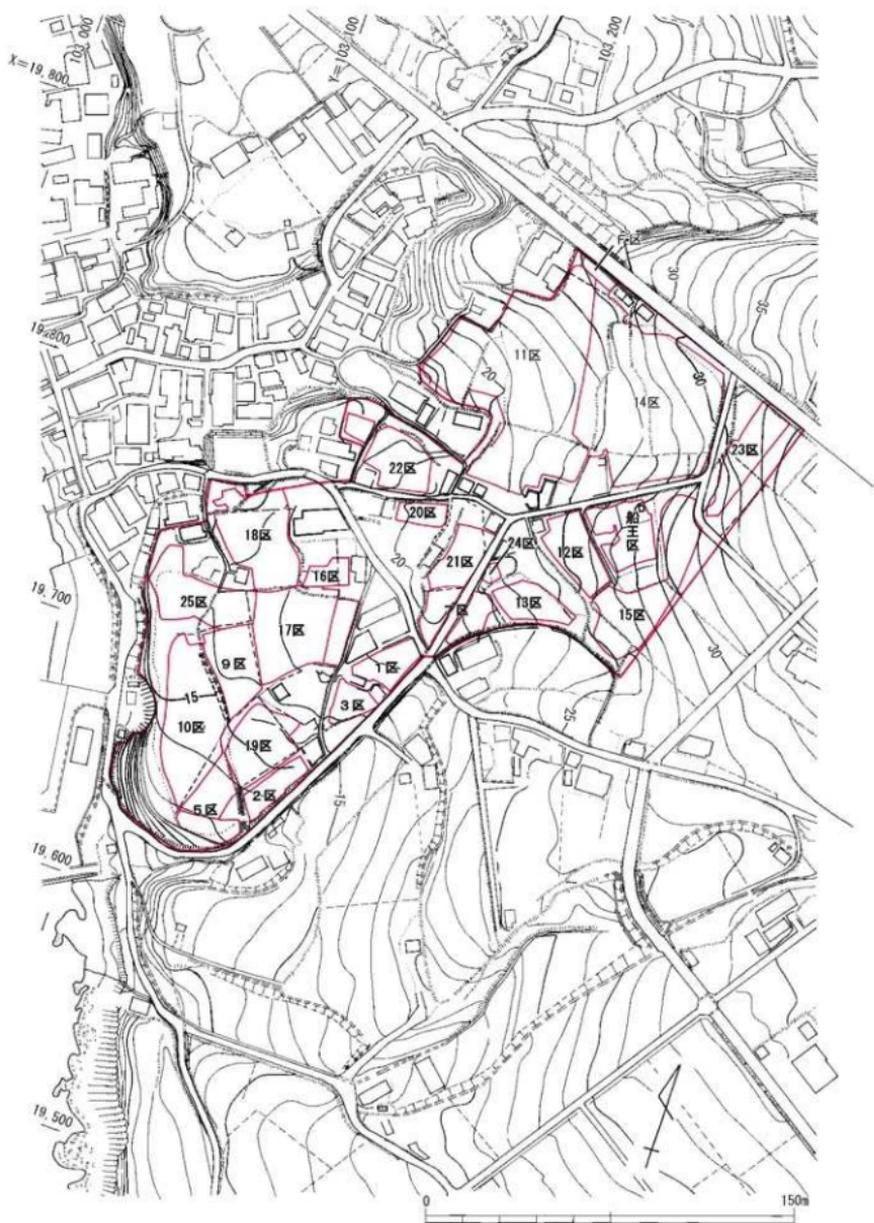
第2調査区は、遺跡の南端に位置し東側の谷に面した丘陵裾部標高13m～15mにあたる。調査前の状況は畑であり、耕作土を重機によって除去した後人力で精査した。検出した遺構は、弥生時代後期の竪穴建物跡が1基と近世以降の時期が考えられるピット列と溝である。竪穴建物跡は、東側の道路で半分程削られているが、比較的残存状況は良好なもの



第4図 第1調査区測量図 (S = 1/300)



第5図 第2調査区測量図 (S = 1/300)



第6図 調査区配置図 (S = 1/2, 000)

であった。この調査区の主な出土遺物は、建物跡出土の弥生土器と石器であり、それ以外には近代以降の陶磁器が若干出土している。

### 3. 第3調査区 (第7図)

第3調査区は、第1調査区の南側に位置しており、そこは遺跡東側の谷に面した緩やかな丘陵の裾部分標高16m～18mにあたる。調査前の現状は畑であり、耕作土を重機によって除去した後人力で精査をおこなった。なお果樹が植えられた周辺は調査不可能であったため、その部分は掘り残したまま調査した。

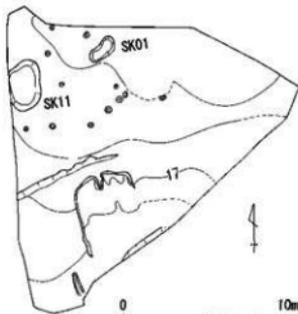
遺構は調査区の北側でピットと土坑を検出し、南側では後世の改変が著しい部分であることから遺構を検出しなかった。土坑は、近世の土坑と縄文時代の可能性のあるものを各1基検出した。ピットは遺物が出土したものは無く時期は不明なものである。

### 4. 第5調査区 (第8図)

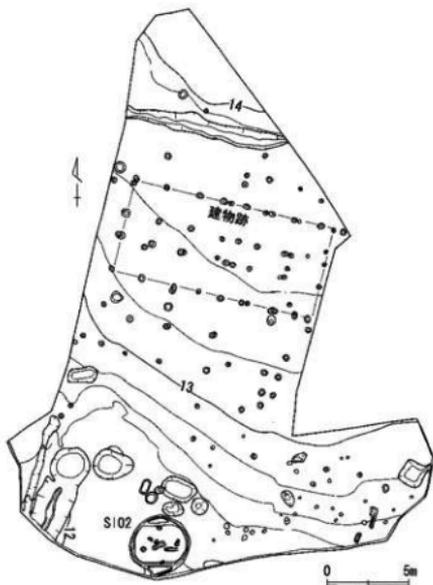
第5調査区は標高12m～14mの遺跡の南端にあたり、東側は谷に面した南側は大きく崖になって落込んでいる。調査前の状況は畑であり、その耕作土を重機によって除去した後人力で精査を行った。また、用地買収の関係で平成9年度と10年度の2か年に分けて調査を行っている。

遺構は調査区の北側で多数のピットを検出した。これは、大形の建物跡のピットであるが、覆土が非常に軟らかい事と出土遺物から近代の時期の建物跡であった。また、周辺で検出した土坑も出土遺物等から大部分が近代のものである。

調査区の南側では、弥生時代後期の堅穴建物跡を1基とその周辺で多数のピットと土坑を検出した。また、調査区の南東端ではマウンド状の高まりが存在しており、平板測量(25cmコンタ、1/100)を行った後に調査した。これは、盛土や旧表土の状態から古墳の可能性が考えられたが、最終的に旧表土中及び盛土から近代以降の陶磁器などが出土したことから、新しい時期の土盛りであることが判明した。



第7図 第3調査区測量図(S=1/300)



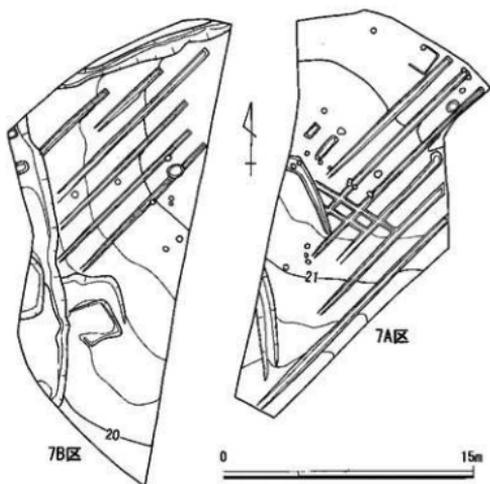
第8図 第5調査区測量図(S=1/300)

この調査区からの山上遺物は竪穴建物跡の弥生上器、石器が主なものであり、ほかに陶磁器と黒曜石の石器がある。

### 5. 第7調査区 (第9図)

第7調査区は1区の北側に位置し、遺跡東側の谷に面した丘陵裾部標高20m～21mにあたる。調査区は道路によって東西に分かれ、東側を7A区、西側を7B区として調査を行った。調査前の状況は畑であり、その耕作土を重機によって除去した後、人力で精査を行った。

遺構は溝状遺構、ピット、土坑を検出しているが、いずれのものも近代以降の陶磁器片が出上しているものが多く、また覆土も軟らかい上層であり古い遺構と思われるものは存在しなかった。また、畑の耕作に伴うものと思われる溝が数条平行して確認された。なお、この区から出土した遺物は、近世後半～近代の陶磁器のみである。



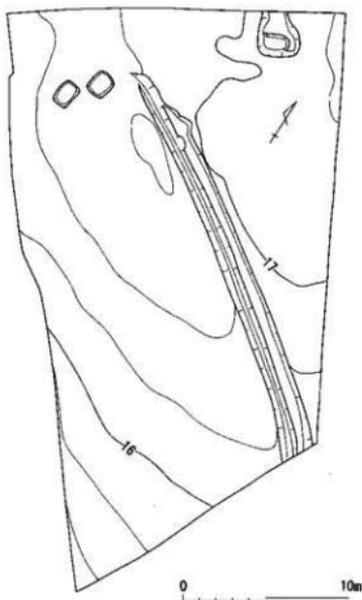
第9図 第7調査区測量図 (S = 1/300)

### 6. 第9調査区 (第10図)

第9調査区は遺跡の南側に位置し、そこは丘陵先端部付近標高16m～17mになる。調査前の状況は畑であり、耕作土から人力で調査を行った。

遺構は、土坑と溝状遺構を検出しており、そのうちの1基 (SK02) から近代以降の陶磁器片が出土している。このことから上坑は新しい時代である可能性が高く、溝状遺構も同様に新しいものと判断した。

調査区からの出土遺物は、陶磁器、土師器、須恵器等があり、その割合は陶磁器が殆どであり、土師器・須恵器等は数点である。また、陶磁器は、近世以降のものが主流であり、中世のものは青磁が2点だけ出土している。



第10図 第9調査区測量図 (S = 1/300)

## 7. 第10調査区 (第12図)

第10調査区は9区の南側下方に位置し、遺跡の南端丘陵先端部標高13m～15m付近の部分にあたる。調査前は、畑であり耕作土を重機によって除去した後人力で精査をおこなった。

遺構は溝状遺構、ピット、土坑を検出している。このうち土坑は縄文時代と弥生時代後期に属するものがあり、溝状遺構は弥生時代後期のものである。ピットは多数検出しているが、遺物の出土が見られるものはほとんどなかった。またピット内山上の遺物は、黒曜石の剥片や弥生土器片であり詳細な時期が分かるものはなかった。ただし、遺物からはピットの時期を明確に出来ないが、覆土の状態を観察すると非常に硬く締まった暗褐色土のピットも存在し、弥生時代後期のもの以外に縄文時代まで遡る可能性も考えられるものも含まれていた。

なお、調査区の北側と東側に見られる溝状遺構は、畑などに付属するものと考えられるもので新しい時期のものと思われる。

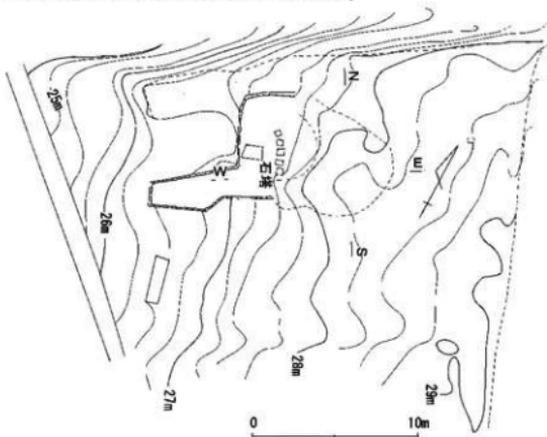
遺物は黒曜石剥片、縄文土器小片、弥生土器、陶磁器が出土している。陶磁器は中世のものは含まれておらず、近世後半～近代のものが出土している。

## 8. 舟王墓調査区 (第13図)

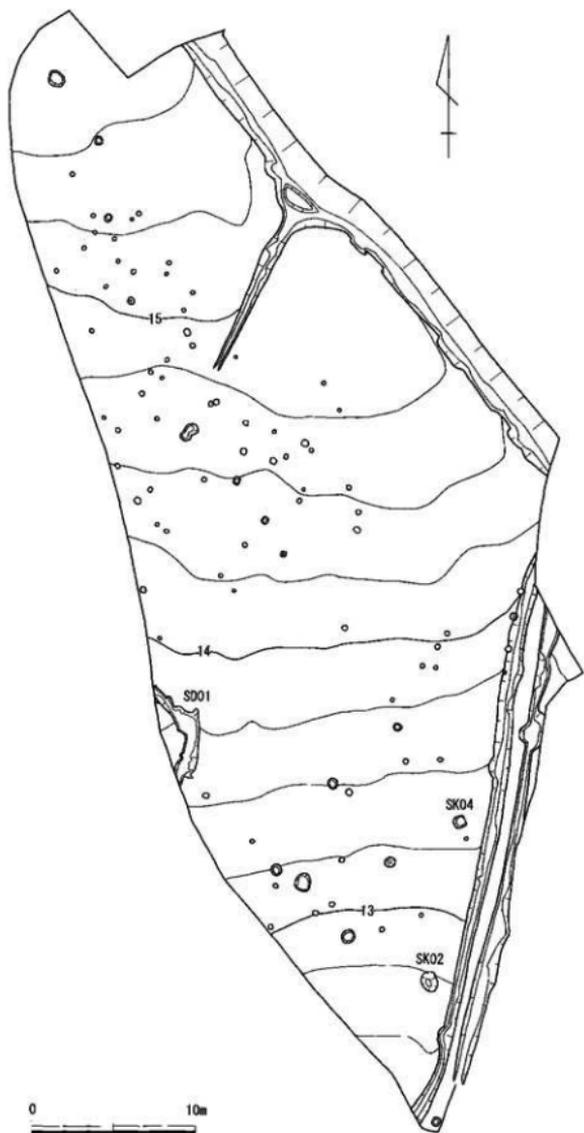
舟王墓調査区は遺跡の北側標高25m～29mの緩斜面にあたり、隠岐に流罪になった奈良時代の舟王(舟親王)の墓と地元で伝えられている塚を中心とした区である。調査は、伝舟王墓周辺は人力によって調査し、畑である部分については耕作土を重機によって除去した後人力で精査した。

(調査前の状況) (第11図)

伝舟王墓の調査前の状況は、塚の南側に高さ1m程人頭大の石が石垣状に積み上げられ、その上に石塔(五輪塔・宝篋印塔)が据え置かれていた。塚は耕作の手が加わっていないことから木が生い茂っていた。塚状の高まりは東西6m、南北3m程で高さ0.8m程であった。また、その高まりの地表面には石垣の石と同じ石が所々見られた。また、この塚状の高まりは、径・高さとも以前はもう一回り大きいものであったと地元で言い伝えられている。



第11図 舟王区調査前地形測量図(S = 1/300)



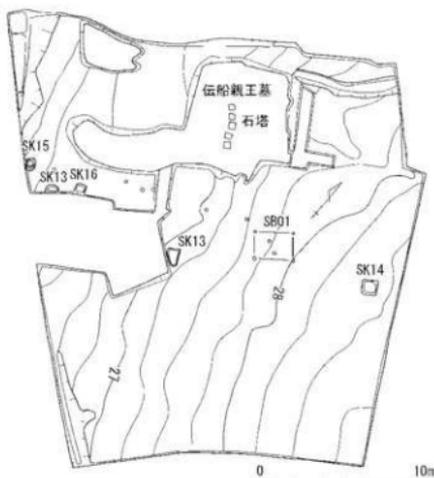
第 12 図 第 10 区調査後地形測量図 (S = 1/300)

〔調査後の状況〕 (第13図)

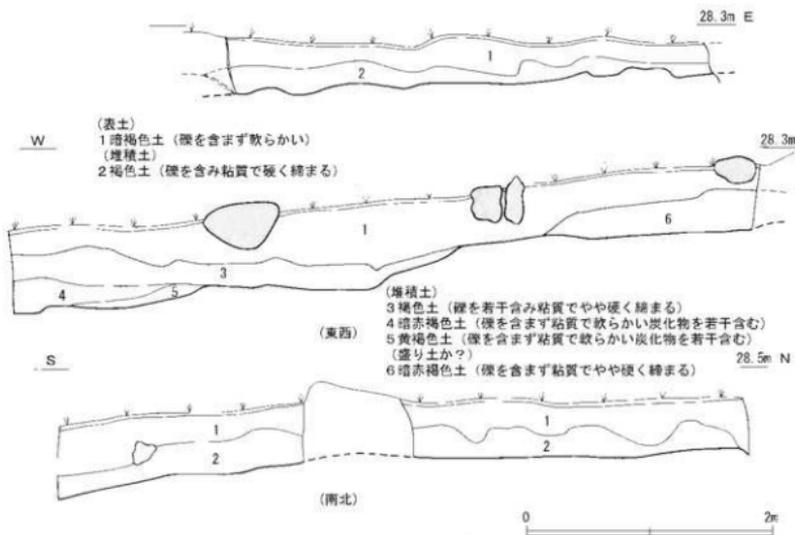
伝船王墓は移転の計画があることから石塔の置かれている石垣の周囲は発掘調査を行わなかった。ただしマウンド状の高まりで調査可能な部分については、十字方向に土層観察用の畦を設けて表土を除去した。その結果明確な盛土・旧表上については、確認できなかったが、第14図の第6層については、盛土の可能性が考えられるが明確にはできなかった。

検出した遺構は、土坑とピットがある。上坑は、近世の墓と考えられるものが3基見ついている。ピットは、掘立柱建物跡が1棟復元できるものがある。時期は中世頃と思われるが詳細について不明である。

遺物は、近世墓から出土した銭貨・鉄器以外では、須恵器・陶磁器・土唾・黒曜石剥片等若干ある。陶磁器は近世後半から近代のものが多く、伝船王墓周辺からほとんどのものが出土している。



第13図 船王区調査後地形測量図 (S = 1/300)

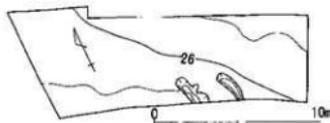


第14図 船王区土層図 (S = 1/40)

## 9. F調査区 (第15図)

F調査区は遺跡の北端の標高26m前後の緩斜面に設定した小規模な調査区である。調査前は、畑であり耕作土を重機によって除去した後に人力で精査をおこなった。

遺構は溝状に落ち込んだ遺構を2基検出した。どちらも土師器と推測される土器小片を覆土に含み、



第15図 第F区測量図(S = 1/300)

近接する第11調査区で見つかっている遺物の状況から考えて古墳時代後期頃の時期と思われる。

調査区から出土した遺物は、溝状遺構から出土した土師器小片以外では近代の陶磁器が数片出土したのみであった。

## 10. 第12調査区 (第16図)

第12調査区は、舟工区の南側の調査区にあたり、標高は24m～26mである。調査前は畑として利用されており、耕作土を重機によって除去した後に人力で精査した。

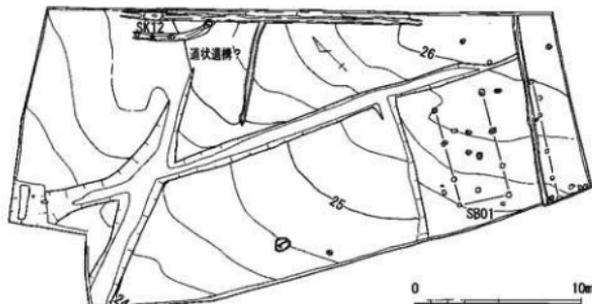
遺構は、ピット群、土坑、溝状遺構を検出した。ピット群は、調査区の東側に集中しており、並びの判明したものでは掘立柱建物跡と櫓列が復元できるものであった。また、ピット内から出土した鉢から時期は中世であることが判明した。土坑は時期の判明するものはなかったが、北側に接した舟工区からは近世墓を検出していることから近世の墓である可能性が考えられる。

調査区の北側で検出した溝状遺構は、底にピットが等間隔に見られることから道であった可能性が考えられるが、時期の分かる遺物は出土しなかった。

遺物は、掘立柱建物跡のピットから出土した土器以外には、耕作土より黒曜石剥片、土師器片、陶磁器が出土している。また、陶磁器は近代以降のものがほとんどであり、近世に属する時期のものは2点出土しているのみである。

## 11. 第13調査区 (第17図)

第13調査区は、12区の南側に設定した調査区であり、標高は22m～24mであり、ちょうど遺跡東側の谷の奥にあたる部分である。調査前は、畑と墓地として利用されており畑の部分について調査

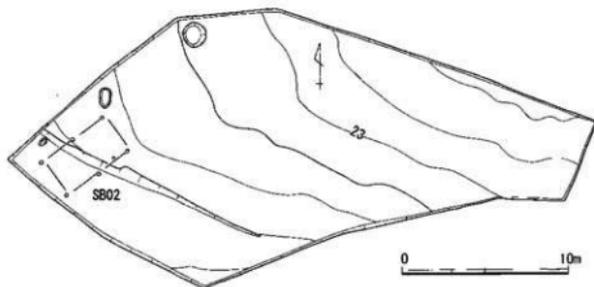


第16図 第12区調査後測量図(S = 1/300)

した。また、耕作土は重機によって除去した後に人力で精査した。

遺構は土坑とピットを検出したが、遺物の出土が見られなかったことから時期を明らかにすることはできなかった。また、ピットは掘立柱建物跡1棟を復元できるものであった。

遺物は、須恵器甕小片、陶磁器、煙管、土鍾があり、陶磁器は近代以降のものが大多数で近世に属するものは少ない。



第17図 第13区調査後測量図 (S = 1/300)

## 12. 第11・14調査区 (第18図)

第11調査区は、遺跡北側の標高は17m～25m付近の緩斜面に設定した調査区である。また、第14調査区は11区東側に隣接した緩斜面の標高23m～31m程の調査区である。11区の調査を先行して行ったが、一体のものと考えられるので、一括して報告している。両調査区とも調査前は畑として利用されており、耕作土を重機によって除去した後に人力で精査した。

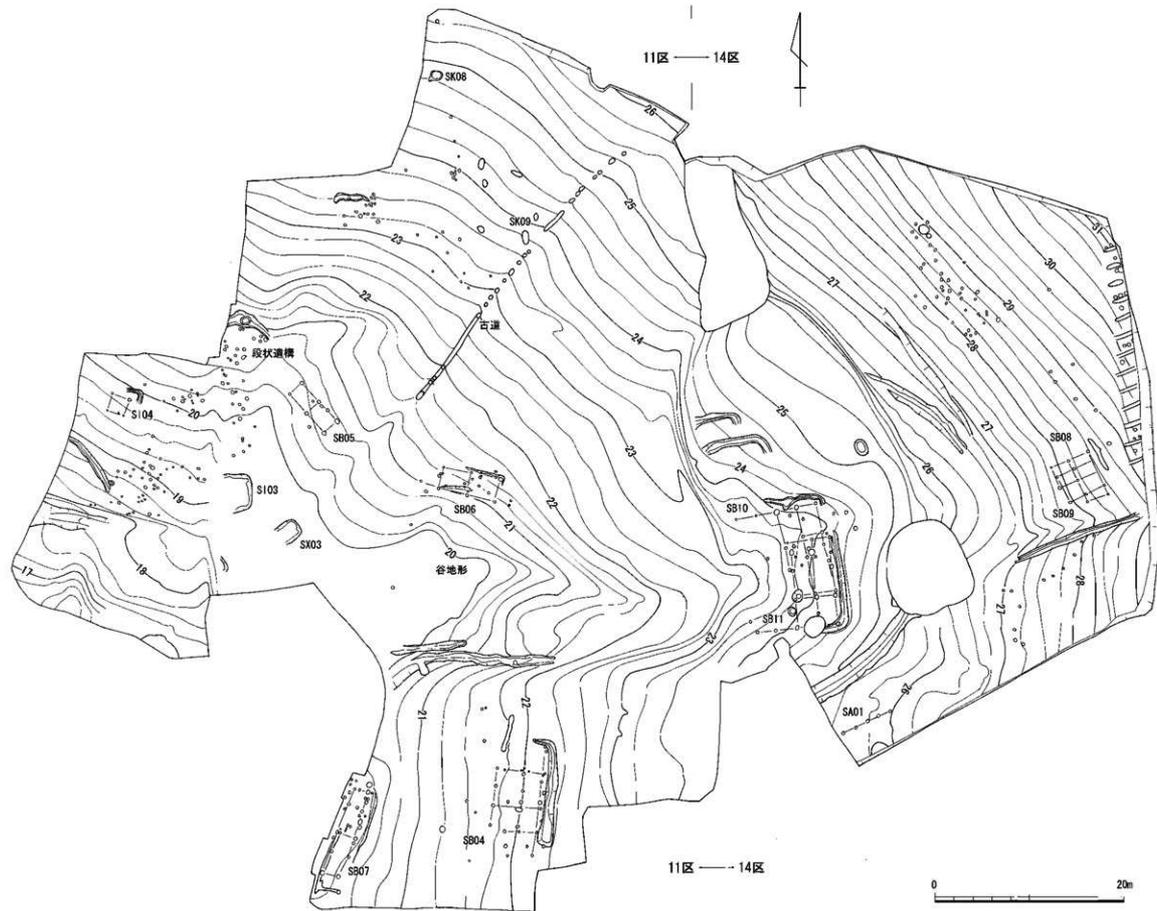
11区で検出した遺構は、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、ピット群、七坑、溝状遺構、古道を検出した。掘立柱建物跡は調査区の南側で検出しており、時期はほとんどのものが中世と考えられるものである。また竪穴建物跡と七坑には古墳時代後期の時期が考えられるものがある。調査区の北側で検出した道状遺構は、溝の底に浅いピットを掘り跡を詰めているものである。

また調査区の南側には東西方向にはしる古い谷を検出し、その堆積層からは弥生時代を除く旧石器時代～中世頃までの遺物が多く出土している。

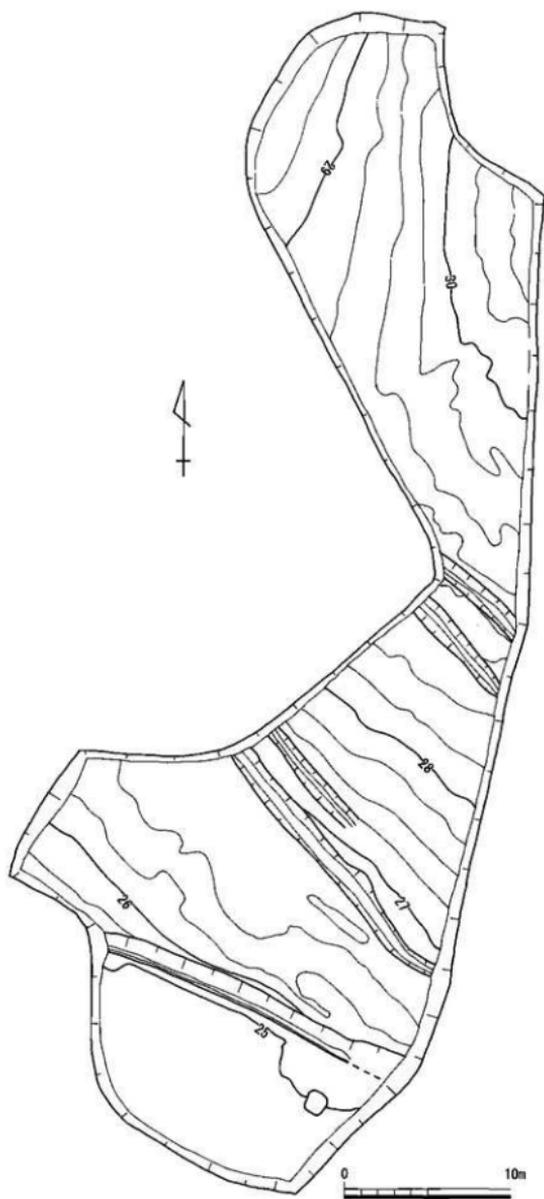
遺物は中世の陶磁器が主に掘立柱建物跡周辺から主に出土している。また、旧谷地形の堆積層から土師器、須恵器、陶磁器、黒曜石製の石器等が出土している。なお、この堆積層から出土した石器の中には旧石器が含まれていた。

第14調査区で検出した遺構は、掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、櫓列、ピット群、古道であり、第11調査区で見られる遺構と同じようなものが見つかっている。また、掘立柱建物跡は時期の分かるものは中世に属するものであり、11区と14区にかけては中世の集落跡の中心部として考えて良いものと思われる。

出土遺物は、石器、土師器、須恵器、陶磁器であり基本的に耕作土等から出土している。また、陶磁器は主に中世に属しているものである。



第18図 第11-14区調査後測量図(S = 1/400)



第19图 第15区調査後測量図(S = 1/300)

### 13. 第15調査区 (第19図)

第15調査区は、遺跡の東端の標高25m～30m付近の緩斜面に設定した調査区である。調査前は、畑として利用されており、その耕作上については重機によって除去し、その後人力で精査した。

遺構は溝状遺構、ピット、土坑等を検出したが、ピット以外のものは近代に属する新しい時期のものである。

遺物は石器、土師器、須恵器、陶磁器が出土している。このうち陶磁器は青磁が出土しているものの大半は近代のものである。



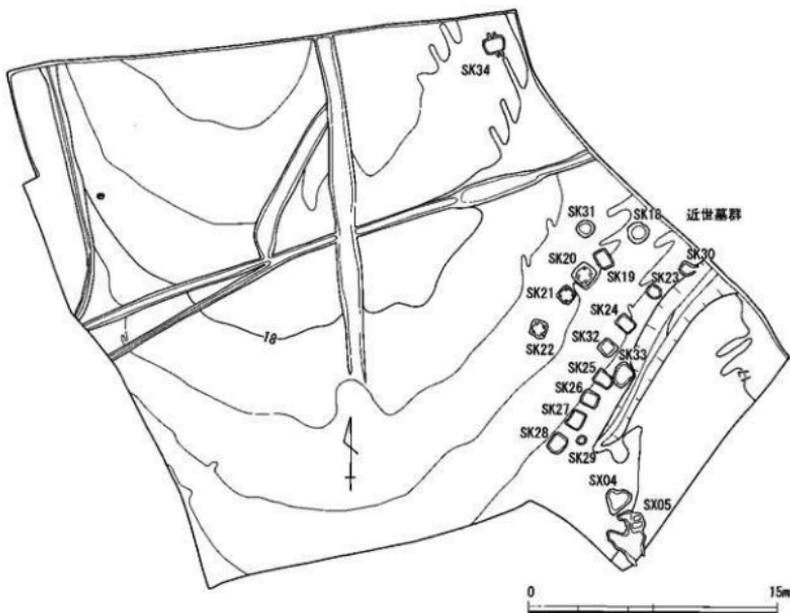
第20図 第16区調査後測量図 (S = 1/300)

### 14. 第16調査区 (第20図)

第16調査区は遺跡の南側の標高17m～18m付近に設定した調査区である。調査前は畑として利用されており、その耕作土については重機によって除去した後人力で精査した。

遺構は古墳時代後期頃のピット、上坑を検出しており、遺物は土師器、陶磁器、黒曜石製の石器が出土している。また陶磁器は近代以降の新しい時期が考えられるものである。

### 15. 第17調査区 (第21図)

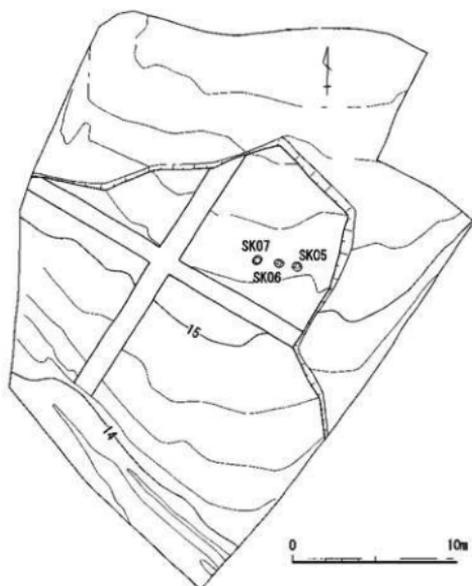


第21図 第17区調査後測量図 (S = 1/300)

第17調査区は遺跡の南西側の標高17m～19m付近に設定したもので、9区・16区・18区・25区に隣接している。調査前は畑であり耕作土は重機によって除去し、その後人力で精査した。

遺構は調査区の南側に列状に並んだ16基の土坑を検出した。これらは出土遺物から近世の墓地であることが判明した。また、それらの土坑と平行するように沿った溝と石列を検出している。

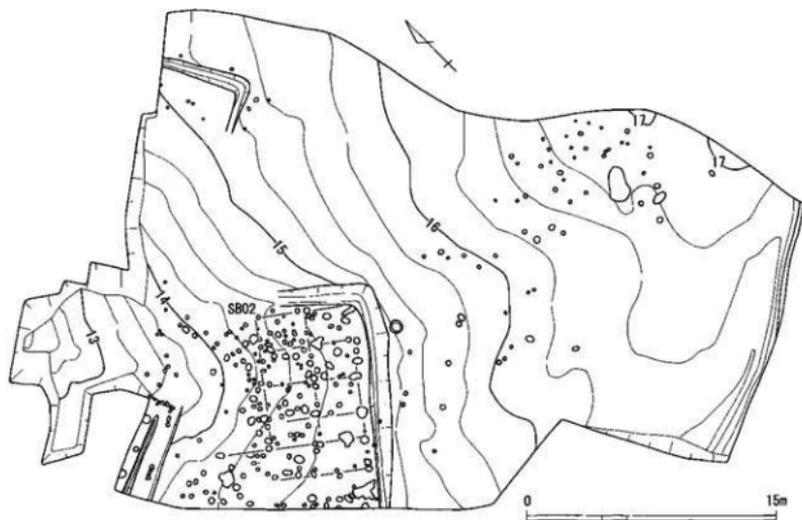
遺物は黒曜石製の石器、石斧、十錘、陶磁器と近世墓から陶磁器片、鉄器、硯、銭貨等が出土している。遺構外から出土した陶磁器には中世のものは無く、近世以降の時期のものであった。



第22図 第19区調査後測量図(S=1/300)

#### 16. 第18調査区 (第23図)

第18調査区は遺跡の南西側に設定した調査区であり、東西方向にはしる谷の奥標高13m～17m付近にあたる。調査前は畑であり耕作土は重機によって除去し、その後



第23図 第18区調査後測量図(S=1/300)

黒色土（遺物包含層）を人力で精査した。

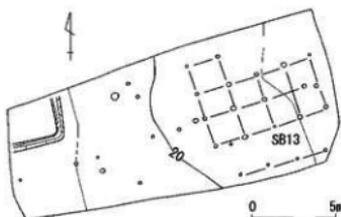
遺構は掘立柱建物跡、上坑、溝状遺構、ピット群を検出している。このうちピット群は谷に沿って多数検出しており、いくつかの掘立柱建物跡が存在していたものと考えられる。

遺物は石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、内面黒色土器等の各時代の土器が出土している。この中で土師器は中世に属するものが多数出土している点特徴的である。また縄文土器はやや硬く締まる暗褐色の堆積土層から出土しており、このような古い堆積層が認められる調査区は遺跡の南側に設定した調査区でいくつか存在する。

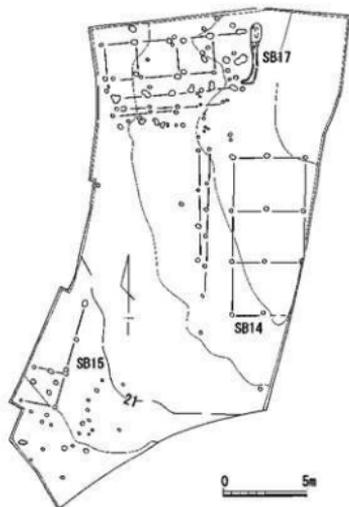
### 17. 第19調査区（第22図）

第19調査区は遺跡の南側の標高14m～16m付近丘陵上に設定した調査区で、2区・5区の北方向に位置している。調査前は畑であり耕作土は重機によって除去し、その後人力で精査した。

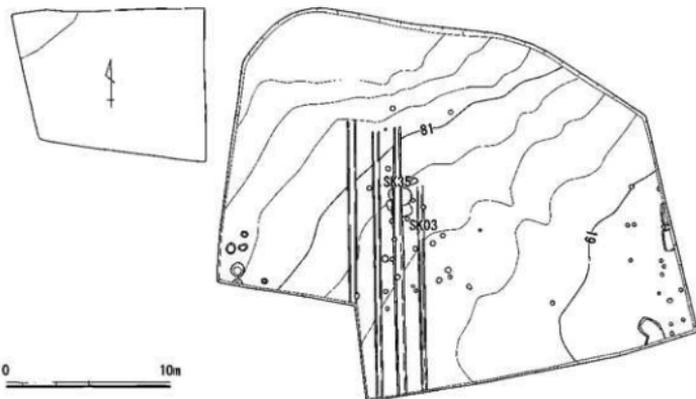
遺構は上坑、ピット、石列を検出しているが、石列は近代の新しい時期のものである。調査区の中央部で検出した上坑は3基並んでいるもので弥生時代後期のものである。



第24図 第20区調査後測量図 (S = 1/300)



第25図 第21区調査後測量図 (S = 1/300)



第26図 第22区調査後測量図 (S = 1/300)

遺物は石器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土鍾が出ている。弥生土器は土坑に伴う遺物であり、他の遺物は耕作土中から出土しているものである。出土した遺物では土師器が比較的多く出土している点が特徴的である。

なお、陶磁器は多数出土しているが多くは近代以降のものであり、中近世のものは僅かである。

#### 18. 第20調査区 (第24区)

第20調査区は遺跡の中央部標高20m前後の丘陵上に設定した調査区である。調査前は畑であり耕作土は重機によって除去した後人力で精査した。

遺構は掘立柱建物跡と多数のピットを検出している。このうち掘立柱建物跡は、中世の時期が考えられるものである。

遺物は黒曜石製の石器、土師器、須恵器、陶磁器、土鍾が出土している。陶磁器は近代以降のものが多く中世に属する時期のものはほとんど認められない。

#### 19. 第21調査区 (第25区)

第21調査区は遺跡の中央部標高21m～22m付近に設定した調査区であり、7区の北に隣接している。調査前は畑であり耕作上については重機によって除去し、その後人力で精査した。

遺構は掘立柱建物跡と多くのピットを検出している。このうち掘立柱建物跡は、周辺の調査区と同様に中世の時期と思われる。

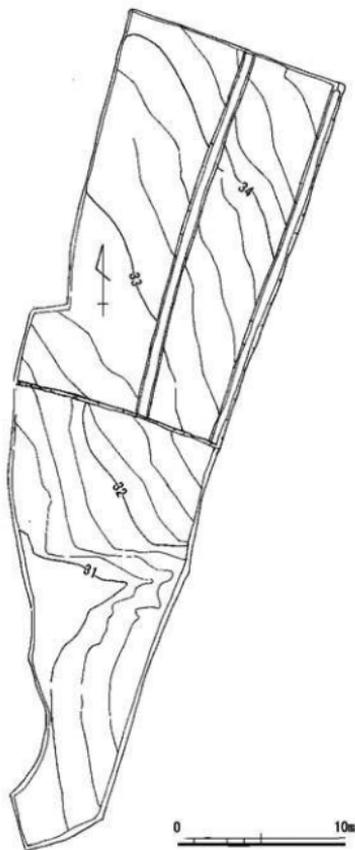
遺物は台形礫石器を含む石器、土師器、須恵器、陶磁器等が出土している。

#### 20. 第22調査区 (第26区)

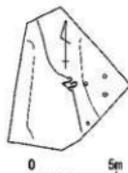
第22調査区は遺跡の中央部標高17m～19m付近に設定したもので第20調査区の北西側に位置している。調査前は畑であり耕作土を重機によって除去した後人力で精査した。

遺構は土坑と溝状遺構、ピットを検出しているが、溝状遺構は近代以降の時期のものである。また土坑は縄文時代に属するものと近世祭の可能性のあるものを検出している

遺物は石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器が出土しており、須恵器の出土量が多い調査区である。また、陶磁器は近代以降のものが多く出



第27図 第23区調査後測量図 (S = 1/300)



第28図 第24区調査後測量図 (S = 1/300)

土しているが中世に属する時期のものも比較的多く見られる。

## 21. 第23調査区 (第27図)

第23調査区は遺跡の東端の緩斜面標高31m～35m付近に設定したものである。調査前は畑であり耕作土を重機によって除去した後人力で精査した。

遺構はピットをいくつか検出しているのみであり、調査区の南端では狭い谷が入り込んでいるのを確認した。

遺物は石器、土師器、須恵器、陶磁器等が出土しているが、陶磁器以外は少量である。また陶磁器は近代以降のものがほとんどであり、中・近世に属するものは僅かである。

## 22. 第24調査区 (第28図)

第24調査区は遺跡の中央部標高22m前後に設定した非常に面積の狭い調査区であり、13区・21区の間位置している。調査前は畑であり耕作土を重機によって除去した後人力で精査した。

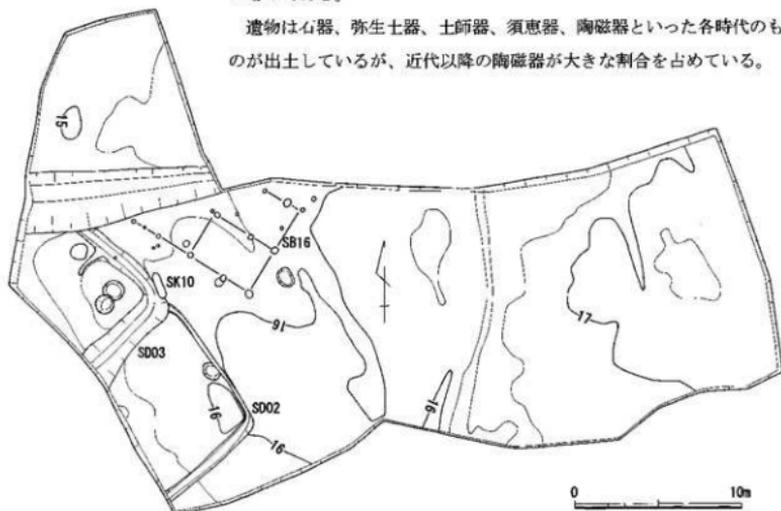
遺構はピットをいくつか検出しただけであり、出土した石器と陶磁器も少量である。なお陶磁器は中・近世ものが2点あるのみで、近代以降のものが多い。

## 23. 第25調査区 (第29図)

第25調査区は遺跡の南端部に設定した標高15～17m付近の調査区であり、すぐ間近に今津港を臨む位置にある。調査前は畑であり、その耕作土を重機によって除去した後人力で精査した。

遺構は掘立柱建物跡、七坑、溝状遺構、ピットを検出している。掘立柱建物跡は中世のものであり、土坑は古墳時代後期に属するものである。溝状遺構は弥生時代後期の区画藪である可能性をもつものである。

遺物は石器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器といった各時代のものが出土しているが、近代以降の陶磁器が大きな割合を占めている。



第29図 第25区調査後測量図 (S = 1/300)

表2 各調査区の遺構・遺物

調査区	主な遺構	時期	出土遺物	その他の遺構	遺構外遺物	調査年度
01	-	-	-	土坑、ピット (古墳時代)	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器	1998
02	S10,1	弥生	弥生土器・石器	-	弥生土器・土埴・純石	1998・1999
03	SK01	縄文	縄文土器・石器	ピット	石器・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器	1998
	SK11	近世	陶磁器・土埴			
05	S10,2	弥生	弥生土器・石器	ピット、建物跡 (近代)	石器・陶磁器	1998・1999
07	-	-	-	土坑・ピット・溝状遺構 (近代)	石器・陶磁器	1998
09	-	-	-	土坑 (近世～近代)	石器・土師器・須恵器・陶磁器	1998
10	SK02	縄文	縄文土器・石器	ピット	石器・土師器・陶磁器	1998
	SK01	弥生	弥生土器			
	SD04	弥生	弥生土器			
	S10,3	古墳	須恵器・土師器			
	S10,4	古墳				
	SK08	古墳	須恵器・土師器			
	SK09	古墳	鉄器			
	SB05	中世				
11	SB06	中世		ピット、溝状遺構 谷地形	石器・須恵器・土師器・陶磁器	1999・2000
	SB04	中世				
	SB07	中世				
	段状遺構	不明				
	古道	不明				
	SX03	不明	陶磁器			
12	SB01	中世	土師器鉢	ピット・遺状遺構?	石器・弥生土器・土師器・陶磁器	1999
	SK01	近世	石材			
13	SB02	中世		土坑・ピット	須恵器・陶磁器・土埴	1999
14	SB10	中世		ピット、土坑、溝状遺構 谷地形	石器・須恵器・土師器・陶磁器	1999
	SB11	中世				
	SB08	中世				
	SB09	中世				
	SA01	不明				
15				溝状遺構・土坑	須恵器・青磁	1999
16	SX01	古墳	土師器	ピット・土坑	石器・土師器・陶磁器	1999
	SX02	古墳	土師器			
18	SB1,2	中世		土坑、溝状遺構・ピット・谷地形	石器・縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・純・内面黒色土器	2000
19	SK02	弥生	弥生土器	ピット・石列	石器・土師器・須恵器・陶磁器・土埴	2000
	SK03	弥生				
	SK04	弥生				

調査区	主な遺構	時期	出土遺物	その他の遺構	遺跡外遺物	調査年度
17	SK18	近世	鎌・小刀・銭貨・人骨	石列・ピット	石器・陶磁器・土種	1999
	SK19	近世	—			
	SK20	近世	—釘・人骨			
	SK21	近世	小刀・釘・銭貨・硯・水筒・			
	SK22	近世	酒碗・小柄・釘・銭貨・硯・鉄			
	SK23	近世	釘・環状製品			
	SK24	近世	—			
	SK25	近世	—			
	SK26	近世	包丁・燻炭			
	SK27	近世	釘			
	SK28	近世	小刀・釘			
	SK29	近世	小刀・銭貨・小玉・壺			
	SK30	近世	—			
	SK31	近世	銭貨・人骨			
	SK32	近世	—			
	SK33	近世	—			
	SK34	近世	炭			
SX04	不明	—				
SX05	不明	—				
20	SB01	中世	—	ピット	石器・土師器・須恵器・ 陶磁器	2000
21	SB15	中世	—	横列・ピット	石器・土師器・須恵器・ 陶磁器・土種	2000
	SB04	中世	—			
	SB17	中世	—			
22	SK03	縄文	縄文土器	土坑・溝状遺構・ピット・ 谷地形	石器・縄文土器・土師器・ 須恵器・陶磁器	2000
	SK35	不明	鉄器			
23				ピット・谷地形	石器・土師器・須恵器・ 陶磁器・土種	2000
24				ピット	石器・陶磁器	2000
25	SD02	弥生	縄文土器・石器	溝状遺構・ピット	石器・弥生土器・土師器・ 須恵器・陶磁器	2000
	SD03	弥生	縄文土器・弥生土器・石器			
	SK10	古墳	須恵器・土師器			
	SD16	中世	—			
船	SB03	中世	—	ピット・室瓦印塔・ 土輪等	石器・須恵器・陶磁器・ 銭貨・土種・小玉	1998・1999
	SK15	近世	小刀・銭貨			
	SK16	近世	—			
	SK17	近世	小刀・釘・銭貨			
	SK13	近世	—			
SK14	近世	—				
F区				溝状遺構	土師器	1998

## 第5章 旧石器・縄文時代の遺構と遺物

### 第1節 旧石器時代

概要 東船遺跡から出土したのは、石器のみである。明らかに旧石器時代の遺物と分かるものは8点である。出土した調査区は11区4点が最も多く、21区と25区から各2点出土している。出土した層位は耕作土や古墳時代後期の層から出土しており、旧石器時代の層は確認されなかった。しかし、第38図7と8は同一の層位で同じ日に出土しており、本来は近接していたものと考えられる。また第30図5以外はほとんど欠損しておらず、耕作や流水などの諸影響はあまり受けていないものと推測される。したがって出土した地点からさほど遠くない所に埋まっていたものと考えられる。



第30図 旧石器時代遺物実測図 (S=2/3)

## 出土遺物（第30図）

旧石器時代の遺物は石器が8点出土している。全て黒曜石製であった。

11区から3と5、7、8、21区から1と2、25区は4と6が出土している。全て原位置を保っておらず、11区は古墳時代後期の層から、25区は弥生時代後期から古墳時代後期の間に掘られたSD03の覆土中からの出土である。1～6が台形様石器で、7が細石刃核である。8は細石刃核の素材と考えられる。5の刃部は欠損しており本来の形状も不明であるので台形様石器なのか判断しづらいが、形状や調整により台形様石器であると考えている。

1と2は他よりも表面の風化が進んでいる台形様石器で小形の逆台形である。4と5は撥状になるもの、3と6は方形あるいは長方形になるものである。3は側縁調整を背面側から行っているが、それ以外は全て腹面側から行っている。また1は腹面の調整も行っている。1～3・5・6は縦長の剥片を切断し素材としているので、剥片の側縁が刃部となる。4のみが素材となる剥片の末端を刃部としている。1・2・4・5は腹面のリングを見ると素材剥片の中程ではないかと思われる。3と6はフィッシャー（打製）やバルバースカー（打竈裂痕）から素材の打面はかなり近いと思われる。7は細石刃の剥離を一方から行っている細石刃核である。下縁に自然面を残している。細石刃の剥離は作業面を見る限り数本しか取れていないように思われる。しかし素材自体は長大であったが細石刃の剥離作業によって短くなった可能性も否定できない。両側面には一方からの側縁調整が行われているが右側面は欠損により一部しか見ることができない。船野型か帆加型と思われるが現状では判断できない。

8は細石刃核の素材ではないかと考えている。原位置を保っていないが7とは同じ谷部の層から同日に出土しており関係が注目される。7と同じく両側面には側縁調整が行われており打面の側縁が平行になるように調整されている。

以上が旧石器時代の遺物であるがここからは時期について考えたい。台形様石器は後期旧石器前半（AT以前）から後半にかけて見られるもので、細石刃核は船野型か帆加型のどちらでも後期旧石器時代後半期のナイフ形石器文化期よりも新しい。船野型と帆加型は後半期でも新しい時期のものであるが、いずれにしても後半期には違いないと言える。以上から後期旧石器時代に隠岐で人間の活動があったことが、隠岐で発掘された遺物で初めて証明された<sup>9</sup>。

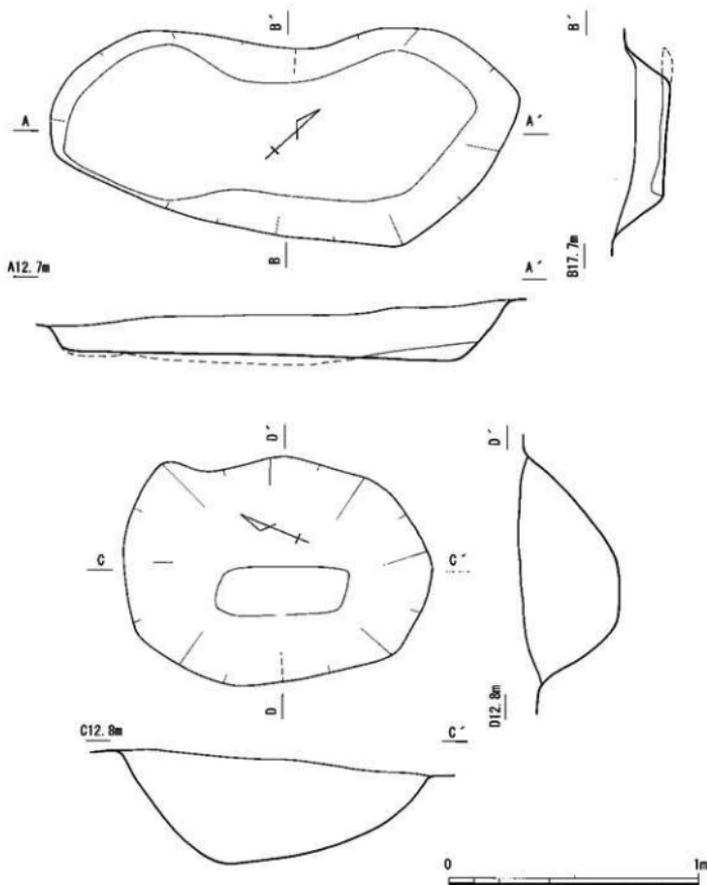
## 第2節 縄文時代

**概要** 縄文時代の遺構は七坑が3基検出されている。遺物は縄文土器が86点、石器が多数出土している。縄文土器のうち数点は後述の土坑（SK01～03）から出土したが、その他はほとんどが弥生時代後期以降の溝（SD03（第15図））から出土している。包含層出土分も縄文時代といえる層からの出土はなかった。したがって原位置である可能性のあるものはSK01～03から出土した数点のみである。またほとんどの石器も時期が不明であり、便宜上、明らかに旧石器時代のものと弥生時代の遺構から出土したものを以外は縄文時代の石器として扱っている。実際、縄文時代の石器として認識できるものは尖頭器や石鏃、石匙だけである。多くの石器は谷状の地形（11・18・22区など）から土師器や須恵器などと共に出土しているので時期は不明である。

### SK01（第31図）

3区の北側に位置している長楕円形の土坑である。長軸は1.85mで短軸が0.90～0.75mである。

深さは最も残りが良いところで25cmであった。覆土は固く締まった淡褐色土で後述のSK02やSK03の覆土と同じであった。出土遺物は1cm角程しか残っていない縄文土器と思われる土器片と黒曜石の剥片がわずかに出土している。覆土の色調や締まり、出土遺物、SK02とSK03との関係から縄文時代の上坑ではないかと考えている。



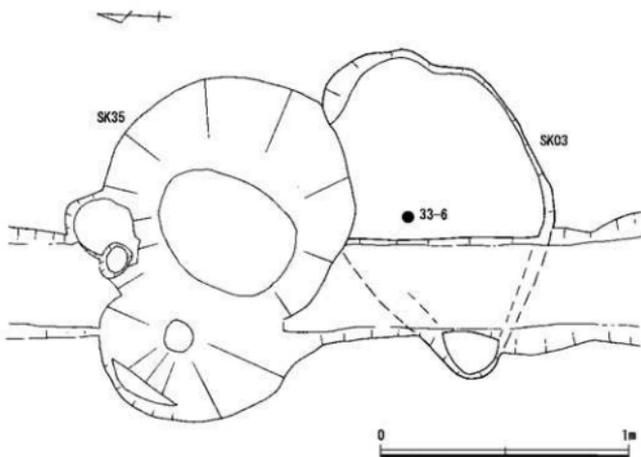
第31図 SK01・SK02実測図(S=1/20)

#### 10区SK02 (第31図)

10区の南側に位置している楕円形の上坑である。長軸は1.25mで短軸が0.95mである。深さは最も残りが良いところで43cmであった。覆土は固く締まった淡褐色土であった。SK01と同じく出土遺物は1cm角程の縄文土器と思われる破片と黒曜石の剥片である。縄文時代の土坑と考えたい。

#### 22区SK03 (第32図)

時期不明のSK35と桑畑の溝に切られていた土坑である。土層は淡褐色土のみで上面は削平され



第32図 SK03実測図(S=1/20)

ているようだった。遺構の検出面と同じ面でも縄文土器(第33図6)が1点出土している。長軸は1.4m短軸が現存長0.9mであった。覆上の淡褐色上層は弥生時代や古墳時代の上層に比べると色が薄く地山との区別がつきにくい。確証はないが縄文時代の遺構ではないかと考えている。

#### 縄文土器(第33図)

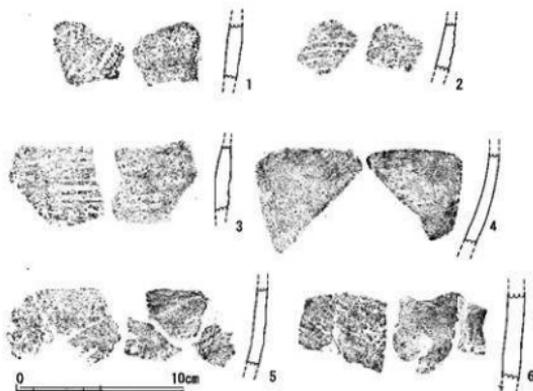
1~6は粗製の深鉢の破片である。このうち1~3はSD03から、6は上記のSK03で出土している。それ以外の土器は土師器や須恵器と共に18区の包含層から出土している。

1は表面に縄文を持っている。LRの1段の縄文が斜めに施されている。内面は不明である。2は外面に沈線が横方向に施されているものである。3の外面には条痕が横に施されているが内面は不明である。4は内外面共に風化しているので分からないが縄文などの文様はないように思われる。

5は外面は風化しているが内面は斜めの条痕で、6は外面のみ条痕が確認されている。また5と6は断面を観察すると数本の細長い圧痕のようなものが見られた。これは土器に混入された繊維の痕跡ではないかと考えている。繊維の痕跡は少ないものの繊維土器の可能性を考えている。

#### 石器(第34~42図)

石器は旧石器時代の石器



第33図 縄文土器実測図(S=1/3)

と弥生時代の遺構（SIO1など）から出土した石器を除いたものをここでは扱っている。の中には石槍や石鏃、石匙があり、縄文時代を中心とした石器と考えられる。しかし弥生時代の石器も含まれていると考えられるが、分類することができなかったため、包含層から出土した石器についてはここでまとめて報告する。詳細は石器計測表を参照していただきたい。

#### 石鏃（第34図）

東船遺跡からは石鏃が44点出土しているが縄文時代と弥生時代のものも含んでいると思われる。これらは完形品だけでなく欠損品、未製品を含んでいるためはっきりしないが全て無茎石鏃と見られる。出土した石鏃のうち基部の形状が分かるものを分類すると平基式と凹基式の2種類になる。石材は全て黒曜石であった。

1は木製品で平基式とも凹基式とも判断できない。凸基式の可能性も考えられる。2～5は平基式である。これらは基部の調整が丁寧に行われておりスクレイパーとも考えられる。6～22は凹基式である。凹基式の中でも長いもの（6）、脚端部が尖らず基部のえぐりが三角形のもの（7）、脚端部が尖り、えぐりが三角形のもの（8）、幅広の薄い剥片を素材としており両側縁も湾曲するもの（10・11）、両側縁から先端にかけて直線に尖るもの（12）、素材が比較的厚く両側縁の突起が大きいのもの（13）、基部のえぐりが弧状で脚端部が尖るもの（14～16）左右対称でないもの（15～19）、短いもの（18～19）、えぐりが浅く平基式に近いもの（20～21）、脚部が端部に向けて広がっており「銀形鏃」（22）に分けられる。

第35図1は安山岩系の石材を使用した尖頭器である。上下と左側縁が欠損しているが上方の折れ面はその他の折れ面より風化が著しいため石器を使用あるいは製作時の欠損と考えられる。

2はサヌカイト（金山産）製の石匙である。背面側の調整を主とし、腹面の調整が少ない。

3は黒曜石製の石鏃である。さほど長くない剥片の端部に刃部を作っている。

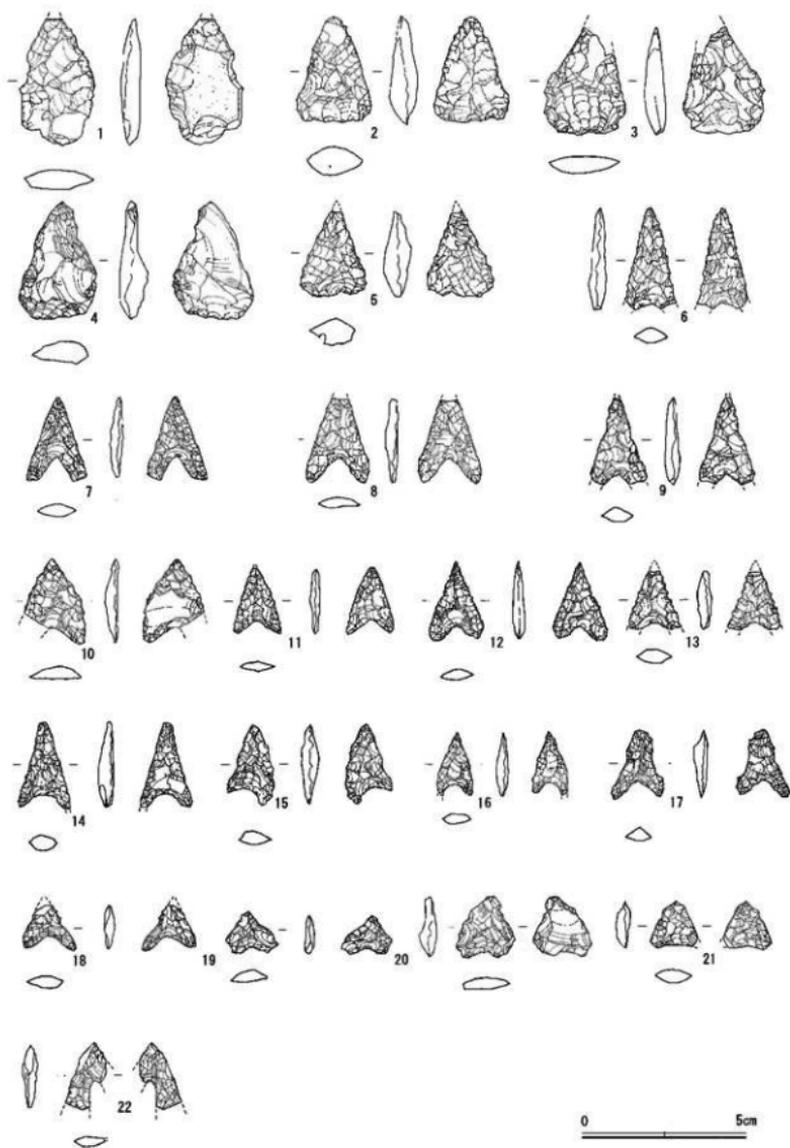
第35図4～第36図6はスクレイパーである。スクレイパーには搔器（エンドスクレイパー）と削器（サイドスクレイパー）、円形搔器（ラウンドスクレイパー）、両面調整石器を含んでいる。

第35図4～6は搔器である。4は両面調整石器になる可能性もある。腹面側からの調整が顕著である。5と6は分厚い剥片を使っており特に6は石斧に近いものである。7はラウンドスクレイパーの可能性もある。8・9は両面調整石器と考えている。しかしラウンドスクレイパーや小形の尖頭器とも考えられる。8は右側縁が未加工であり未製品と思われる。第35図10～第36図6まで削器である。10と11は背面に自然面を残し横長の剥片を素材としている。12も横長の剥片を使った削器であるが表面の風化の状態が第30図1の台形鏃石器と非常に似ている。両者は同じ21区から出土しており、12は旧石器時代の石器の可能性もある。第36図1～5までは縦長かそれに近い剥片を素材とした削器である。左右一方の側縁に調整が入るものや両側縁にはいるもの、腹面が背面どちらか一方の調整のみ行っているもの、両面から調整を施しているものなど多様にわたる。また5は削器の中でも大きい調整剥離が施されている。

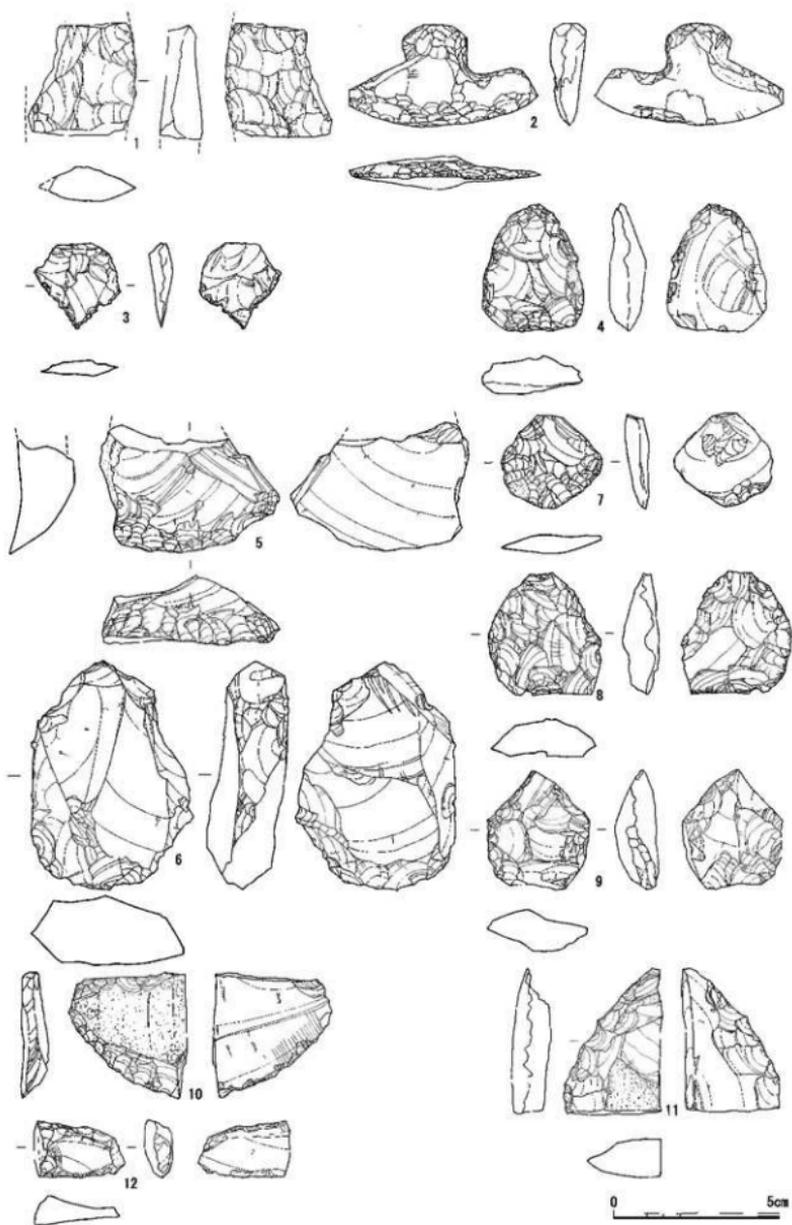
7～9は楔形石器（ピエスエスキュー）である。7・8は厚みがあり9は薄い剥片を素材としている。3点とも両極打法による上下からの剥離をもっている。

10は石核の作業面再生剥片か剥片である。背面に残る剥離方向を見ると上下で打面を転移している様子が分かる。

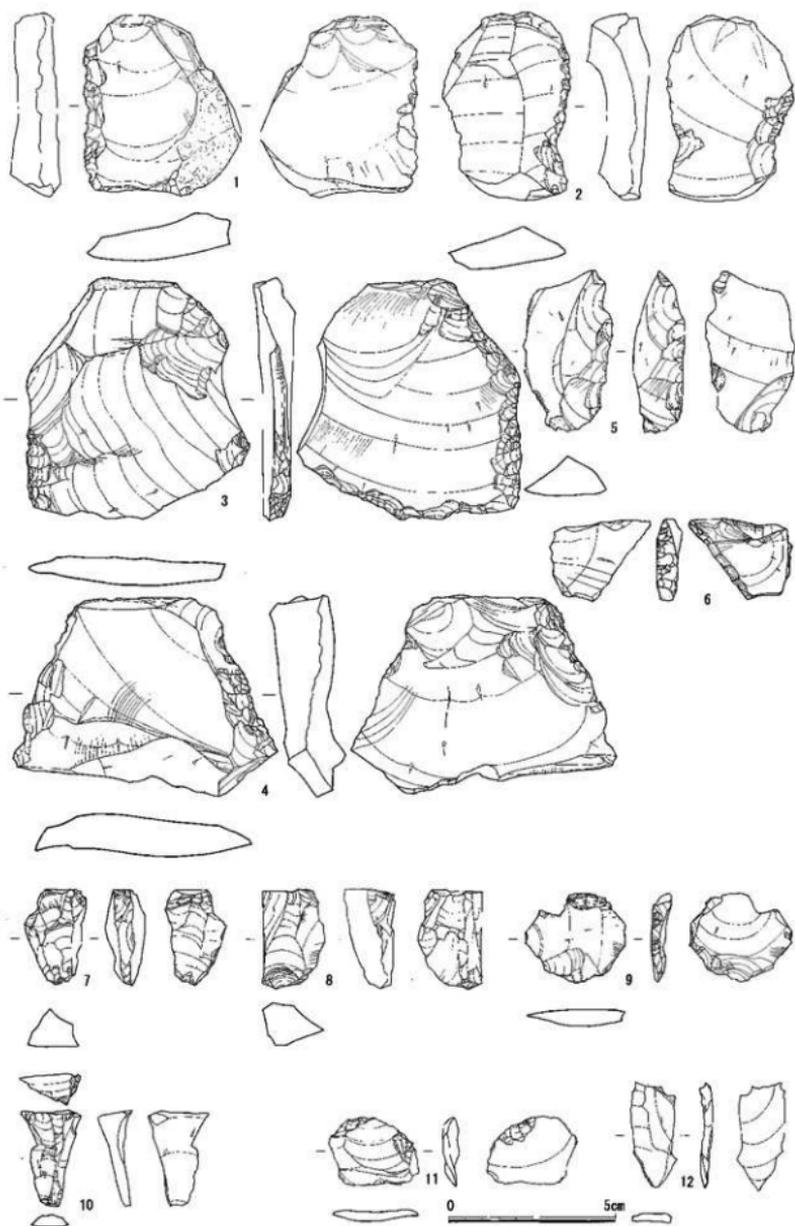
第36図11は二次加工のある剥片（リタッチドフレイク）としているものである。二次加工はある



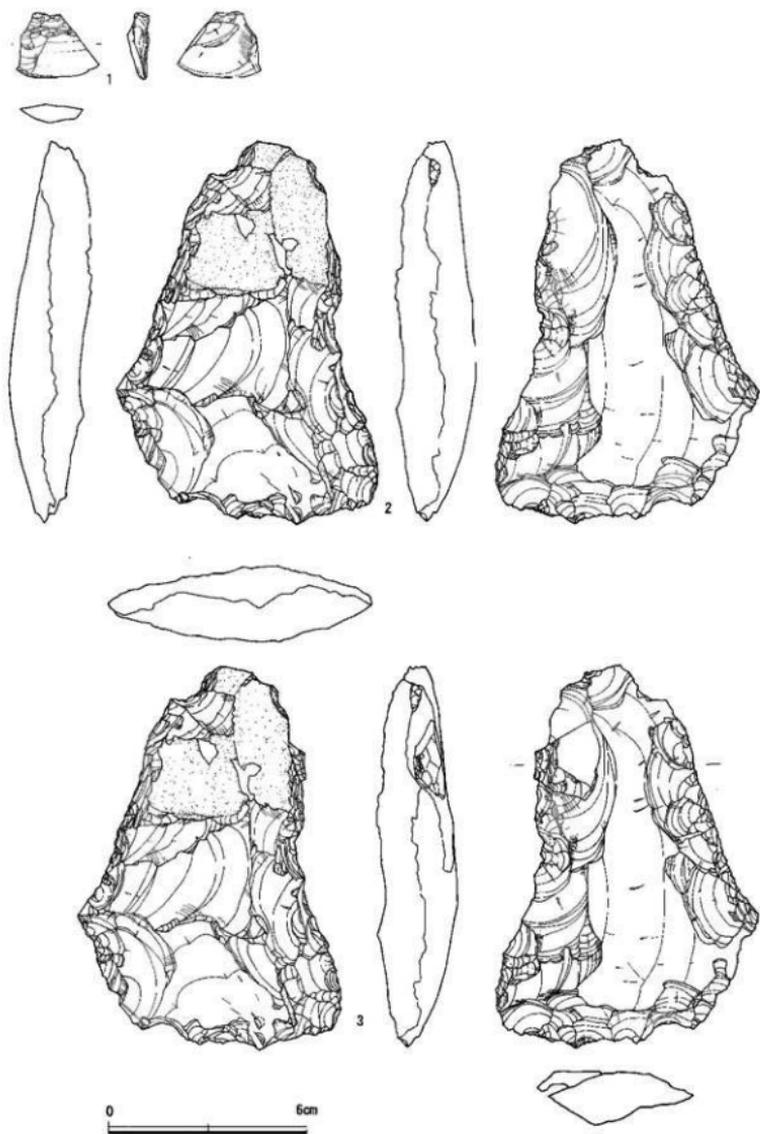
第 34 图 石鏃実測図 (S = 2 / 3)



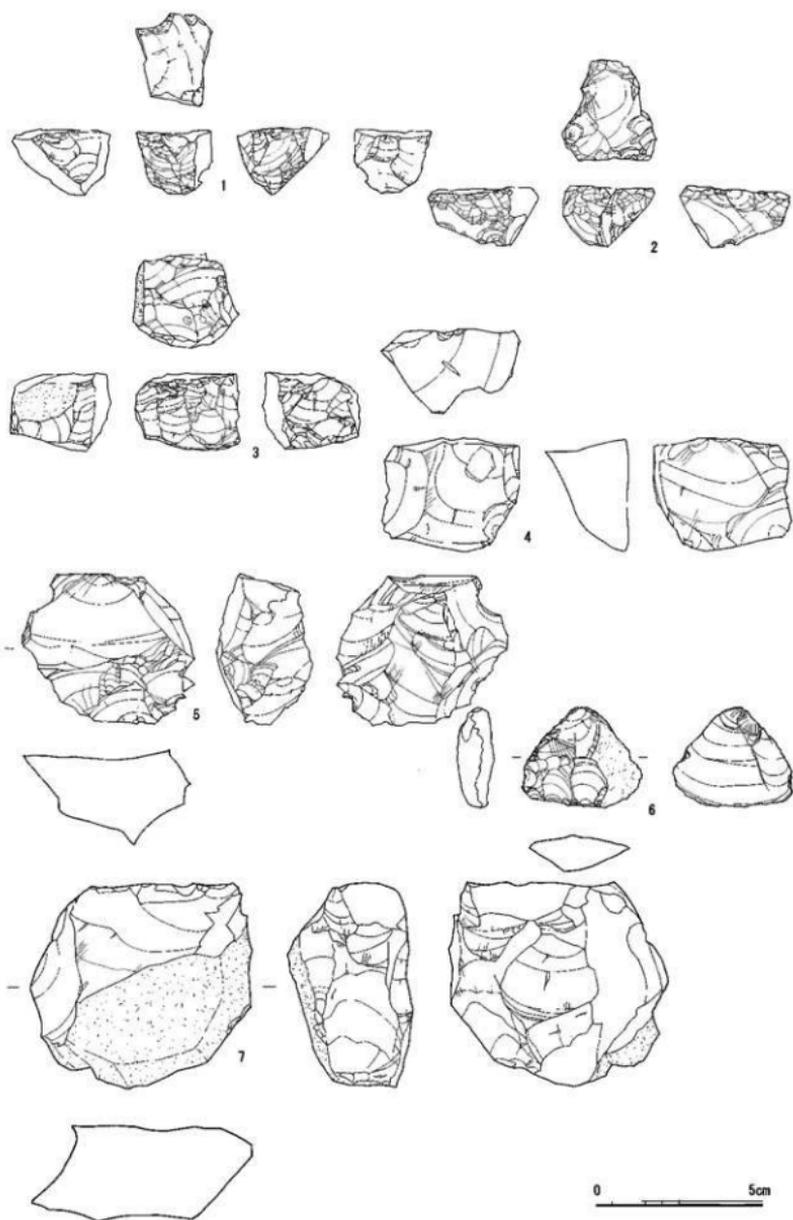
第 35 图 石器实测图(1)(S=2/3)



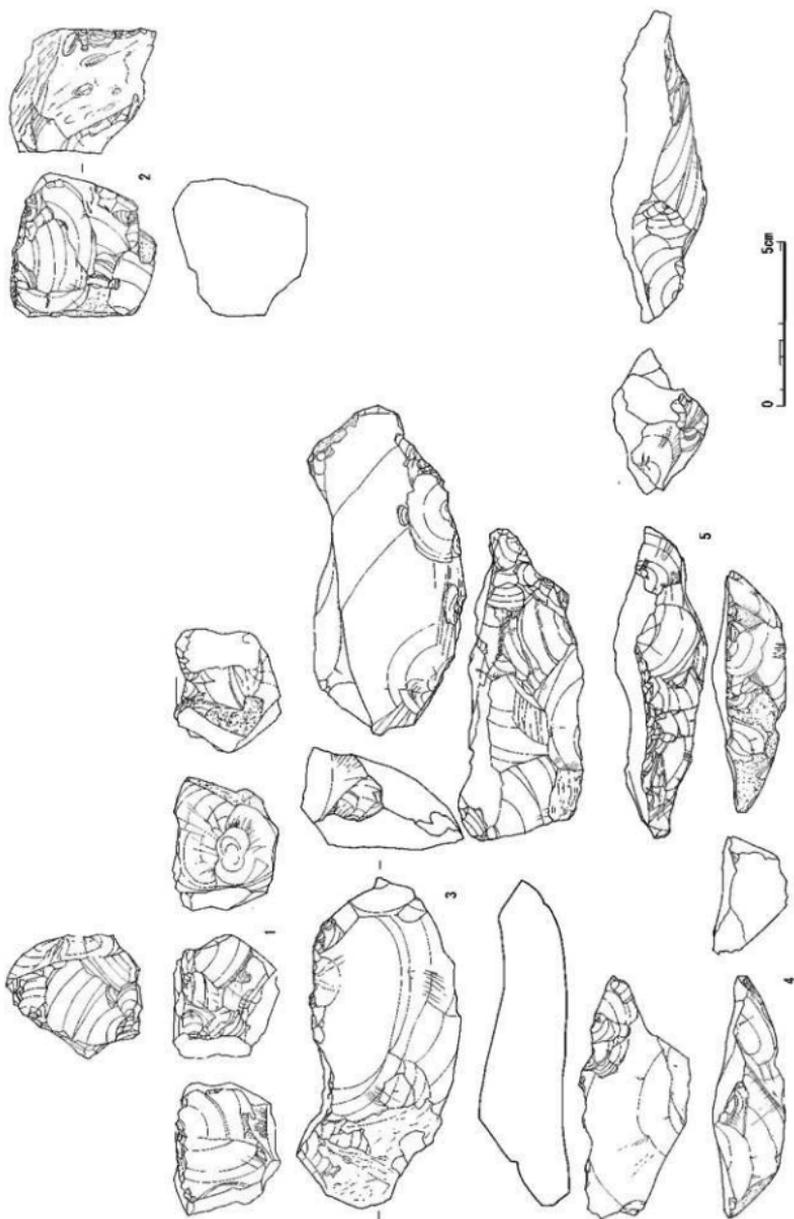
第 36 图 石器实测图 (2) (S=2/3)



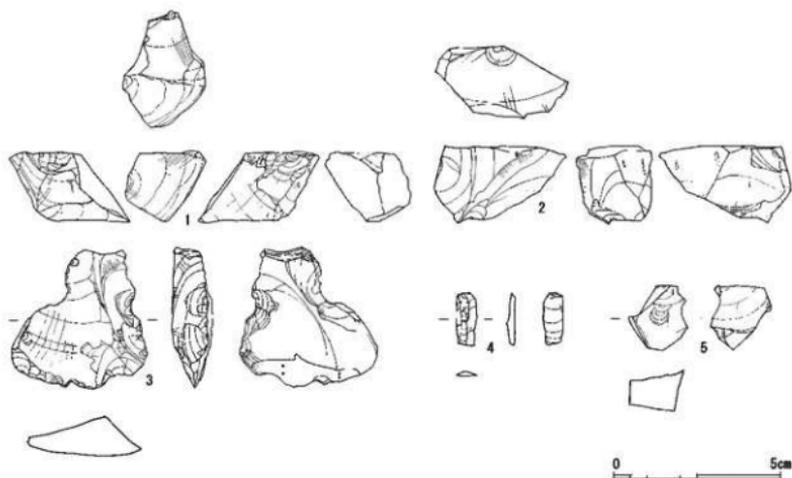
第37图 石器实测图(3) (S=2/3)



第38图 石器实测图(4)(S=2/3)



第 39 图 石器实测图(5) (S=2/3)



第40図 石器実測図(6) (S=2/3)

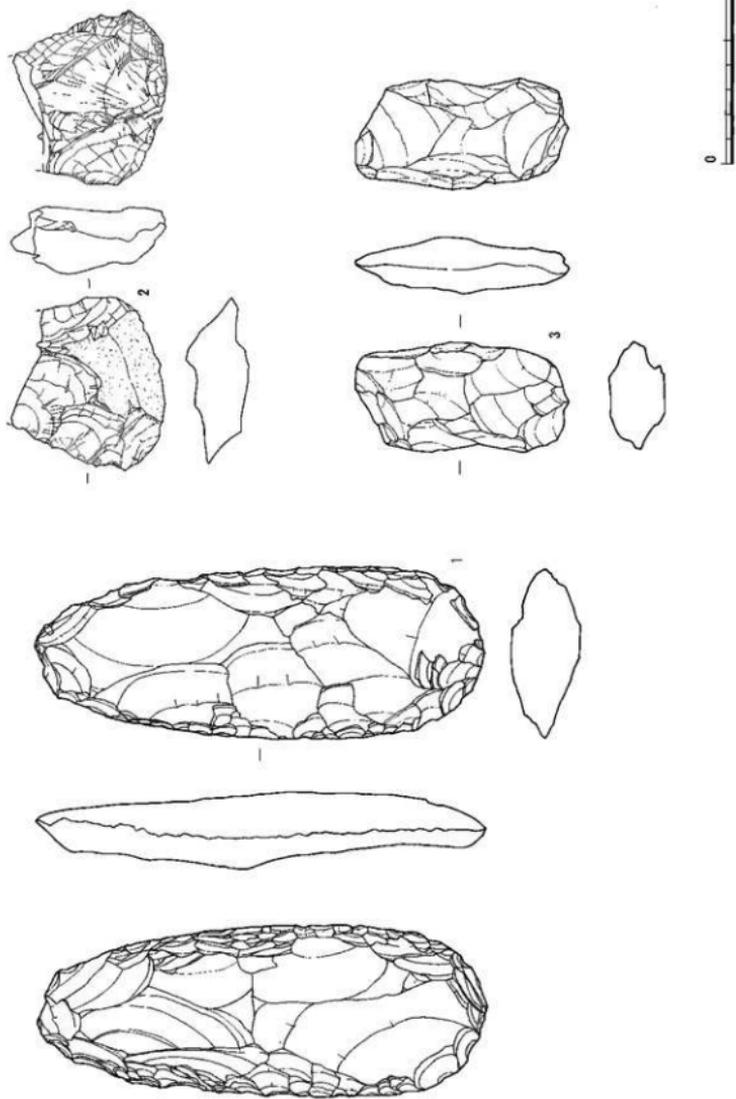
がスクレイパーほどの連続した調整ではないものをあてている。12は微細剥離のある剥片である。使用の痕跡による微細な剥離（刃こぼれなど）をもつものも含んでいる。

第37図1は二次加工のある剥片と考えられるが、微細剥離も末端部にある剥片である。右側縁には切断面のような剥離があり腹面にも二次加工が施されているので、台形椀石器の可能性が考えられるが確実性に欠けるためここでは二次加工のある剥片としておきたい。1は2の腹面側の大きな剥離面に接合する。

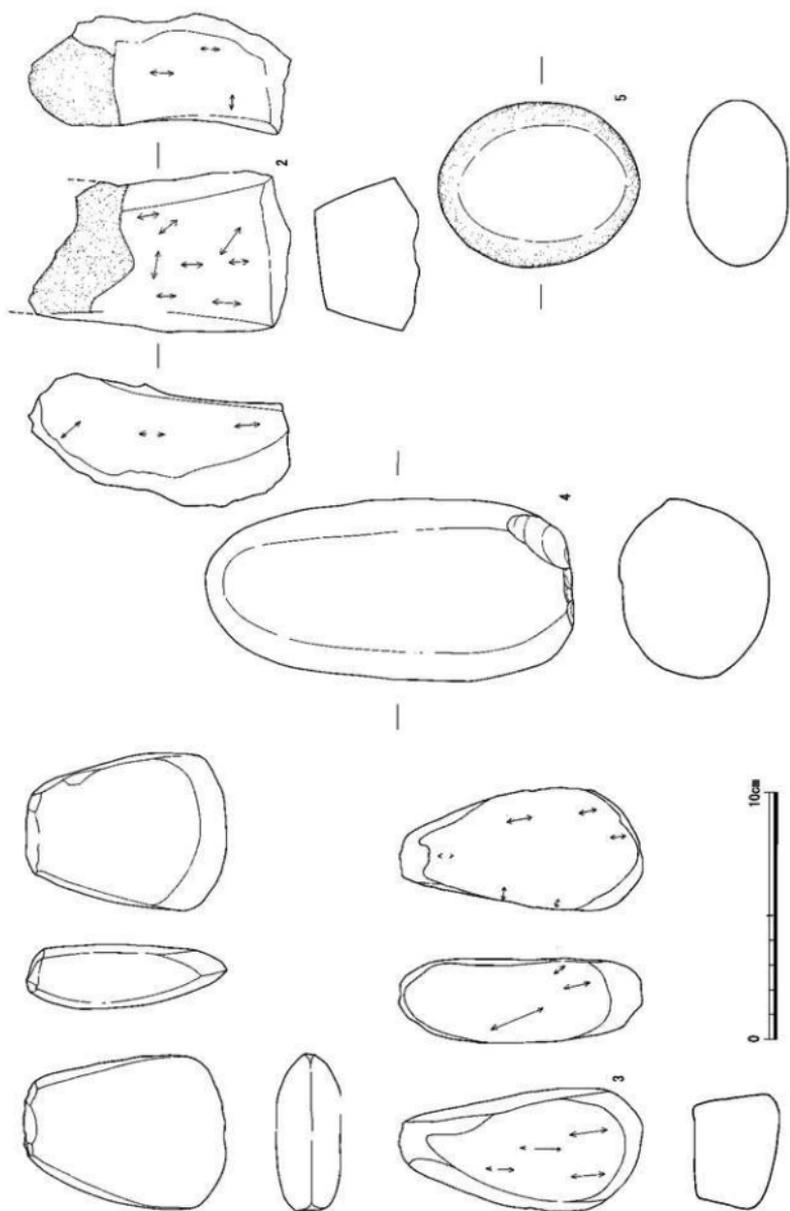
2は石核あるいはスクレイパー、石斧と考えられる石器で1と接合する。背面に自然面をもつ、かなり大きな剥片を素材としている。両側縁と下縁には多くの調整が見られるが、剥片剥離を目的とした剥離とも考えられる。調整であれば石斧やスクレイパーなどのこの石器自体が道具として使用されたと考えられ、剥片剥離が目的であるなら石核ということになる。しかし両者が明確に分けられていたかも不明であるので、この石器の器種は不明である。

3は1と2が接合した状況を図示している。接合の結果1は本来横長の剥片であったことが分かる。また1の背面の大きな剥離は2の主要剥離面ということも分かった。器種の不明な2と二次加工のある剥片である1が接合することによって2は少なくとも意図的であるかは別としても結果的に石核の役割は果たしている。2に残された1の剥離は比較的大きなもので、剥片を作ることを目的にして剥離されたのかも知れない。しかし両側縁、特に左側縁に細かい剥離が多くスクレイパーといった可能性も捨てきれない。

第38図1～第39図5は石核である。第38図1～3は小形の石核で打面が平坦なものである。1と3は幅の狭い剥片を剥離している。2はわずかに剥片の剥離を行っているが縦長の剥片は剥離しておらず、石核の素材の可能性もある。3の打面には何かを打ちつけた痕が数カ所見られる。剥片を剥離しようとしたものであろうか。また3から取られた剥片の幅が狭いので細石刃核の可能性もある。4は打面が平らで大きな剥片を剥離している。5と7は打面転位を繰り返している石核である。6は剥片が素材で、石鏃などの細かい石器の石核と考えているがスクレイパーとなる可能性もある。



第41图 石器尖刺图(7)(S=1/2)



第 42 图 石器实测图(8)(S=1/2)

第39図1は大きな剥片は剥離されていない石核である。2は自然面を打面とした石核である。3～5は船底状ともいえる石核または石核の素材となるものである。3は主だった剥離はないので素材であろうか。4と5は側面に剥離が行われているが、石核の側面調整の可能性があり緑石刃核の素材である可能性も考えられる。

第40図1は正面が欠損しており本来の形状は不明であるが第30図7の細石刃核に側面調整など類似しているため欠損した細石刃核の可能性を考えている。2は石核の素材となるかもしれない。3は下縁に擦痕がみられる二次加工のある剥片である。当遺跡で出土した黒曜石製の石器で磨製ものはこれのみである。4は細石刃にも思えるが、背面の両側縁の2面は中心の剥離面と剥離された時期が違っているようなので細石刃の可能性は少ないと思われる。5は緑色の石材の剥片である。碧玉を想定していたが比重が非常に軽いので違うようである。詳細は自然科学的分析を参照のこと。

第41図は打製石斧で、1は大形の石斧である。第42図1は磨製石斧である。2と3は黄褐色の石材を使用している砥石である。4は砂岩製の敲石で、5は同じ石材の磨石である。

### 小結

旧石器・縄文時代の遺構と遺物について述べてきたが、ここでは東船遺跡の遺物の中で最も多く出土している石器について集計表などから気づいた点を述べてみたい。

表5は調査区毎に出土した石器の器種を集計したものである。出土数は11区と18区、22区が1000点を超えており突出している。これら3つの調査区には谷があり多量の遺物が流れ込んでいたためである。なお25区にも谷があり773点出土している。第43図には表5を基に調査区毎で出土した石器の比率をグラフ化している。出土数が少なくグラフの中に見れない器種は「その他」に含んでいる。

旧石器時代の遺物が出土している調査区は11区と21区、25区である。このうち21区は総出土数が少ない割に台形縁石器が2点も出土している。また11区と14区は調査の進行の上で別の調査区としているが、地形的には同じものと考えられる。器種比率を見ても11区から出土した器種が若干多いもの、剥片が占める割合などが出土数が大きく異なっているにもかかわらずほぼ同じ様相を示している。

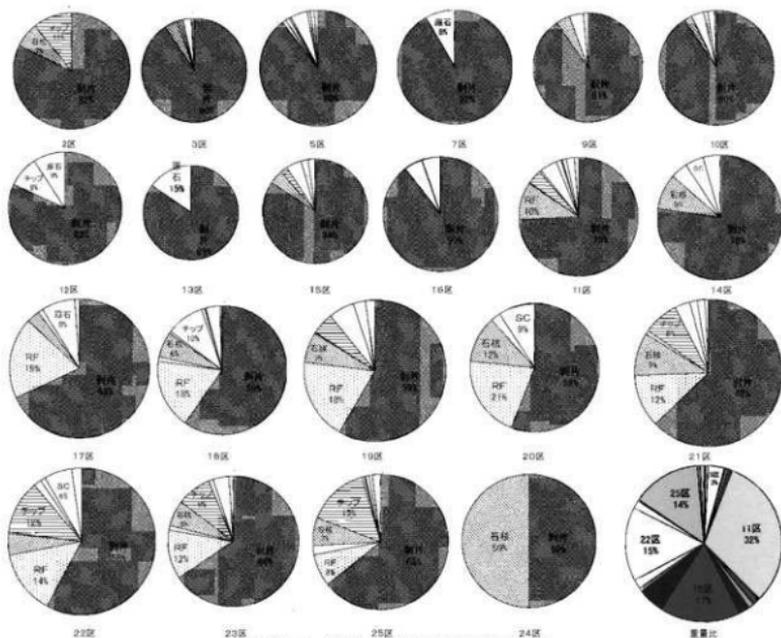
以上から東船遺跡では谷ごとに出土する石器の比率が違っていることが分かった。これは原位置を保っていない多くの石器が本来埋まっていた（使用された）場所をある程度示していると考えられる。

表3 縄文時代 遺構一覧

遺構名	規 模 (m)			形 状	出土遺物	時 期
	長径 (一辺)	短 径	深 さ			
SK01	1.85	0.75~0.9	0.25	長楕円形	縄文土器片	
SK02	1.25	0.95	0.43	楕円形	縄文土器片	
SK03	1.4	0.86	—	楕円形	縄文土器片	

表4 調査区石器出土表

調査区	剥片	R.P	微細	心核	石核素材	チップ	原石	台形様 子器	細石刀核	石鏃	SC	その他	合計
1													0
2	23			2		3							26
3	104			3		1	1			3		1	115
5	152	2	2	1		8				1	2	2	170
6	5									1			6
7	11						1						12
9	65			3		3	1						72
10	151			4		6	2			3	1		167
11	851	119	2	45	6	33	17	2	1	14	23	14	1147
12	9						1						11
13	22						4						26
14	17			2			1				1	1	22
15	37			2		1	2				1	1	44
16	17					1	1						19
17	68	19		3		1	8						100
18	748	222	14	80	5	121	9			4	45	7	1235
19	152	48		18	1	13	15				7	6	260
20	24	9		5			1				4		43
21	74	14		11	1	9	4	2			2	1	118
22	579	142		46	5	118	18			10	63	23	1002
23	53	10	1	5		7	1				3	1	81
24	1			1									2
25	496	60	18	52		114	4	2		6	8	14	774
船工区	3					1	1			1			8
小町	31	2		5							1		39
合計	3693	647	37	290	18	461	92	6	1	44	100	76	5521



## 第6章 弥生時代の遺構と遺物

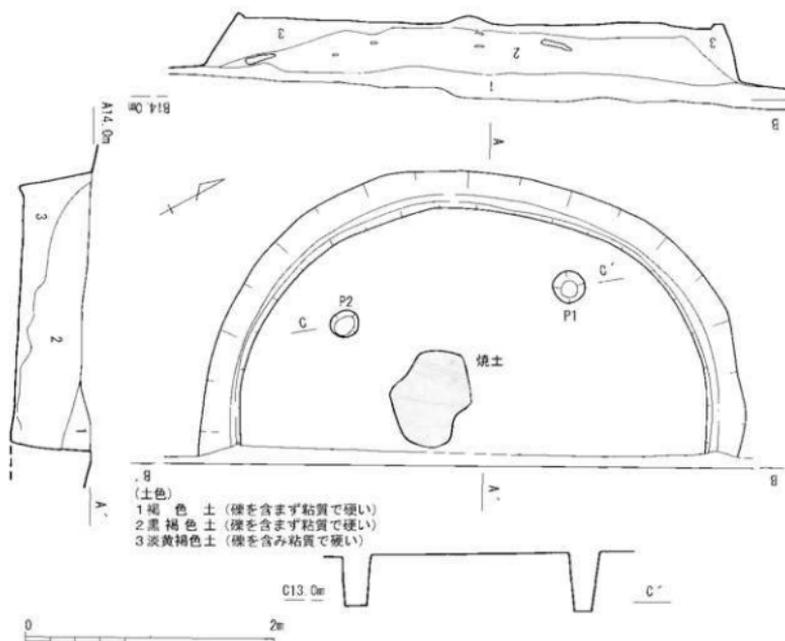
弥生時代の遺構は、2区・5区・10区・19区・25区といった遺跡の南端部に集中して見つまっている。そこは、今津港に向かって延びる丘陵の先端部にあたる部分である。おそらくこの周辺が弥生時代後期の居住域として利用されていたものと推測される。以下検出遺構について竪穴建物跡、土坑、溝状遺構の順に述べる。

### 第1節 竪穴建物跡

#### S101 (第44図)

S101は、第2調査区で検出した建物跡で標高14mの丘陵裾部に位置し、東側は道路によって大きく削られ残っていなかった。遺構の平面プランは径4.4m程の円形であり、床面までの深さは現状で0.5mである。また床面の壁際には、幅12cm、深さ42cm程の溝がめぐっている。

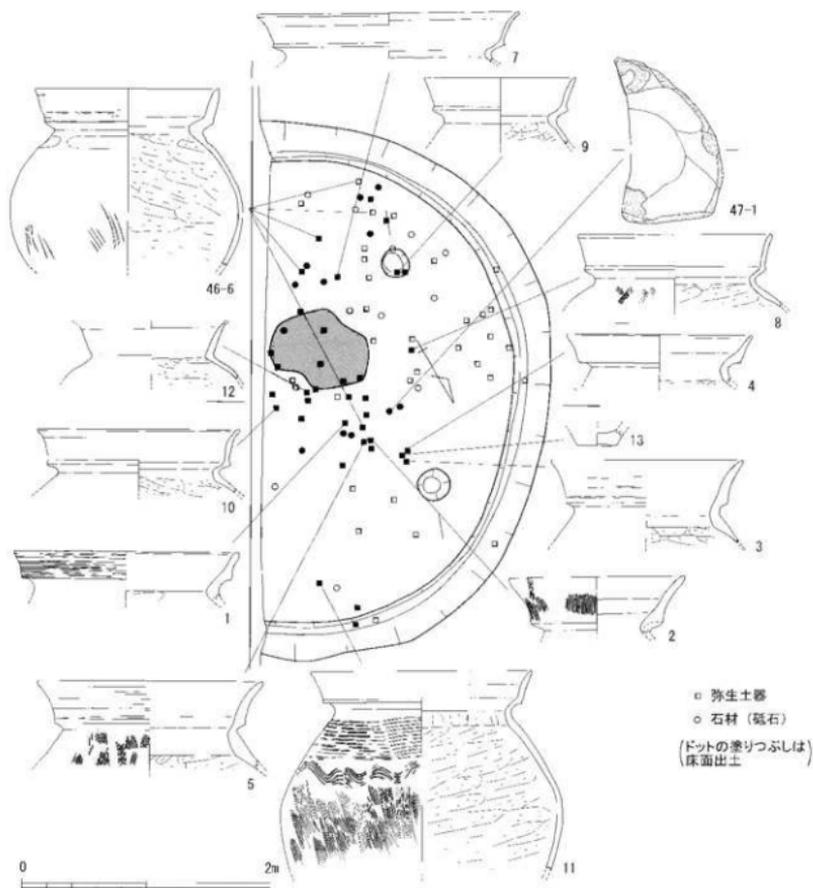
床面からはピット2基と焼土面1か所を検出している。建物跡はピットが西壁沿いにあることから本来は調査区外のピット2基とセットの4本の支柱が復元される。ピットの規模は、P1が径26cm、深さ50cm、P2が径22cm・深さ42cmである。焼土面は床面の中央付近で検出しており、その範囲は径60cmほどである。



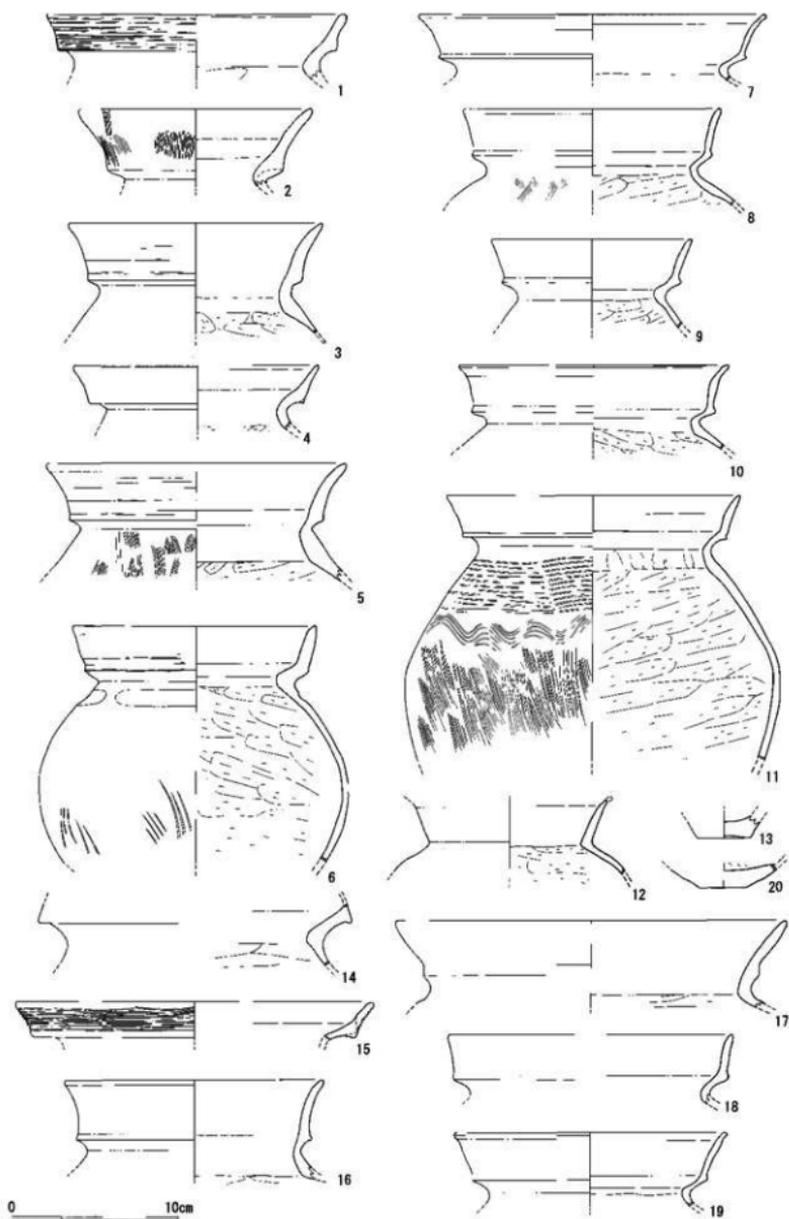
第44図 S101実測図(S=1/40)

遺物は、覆土から出土するものと床面付近から出土するものを区別して取り上げた。また、取り上げはポイントを記録しておこなった。建物跡から出土した遺物の多くは弥生土器であるが、その他に拳大から人頭大の自然石が多数出土している。出土した自然石は計測表(表5)の通りであるが、これらの性格については建物の屋根上に置かれていた可能性が考えられるが、今後の他の類例を待って再検討が必要である。

出土した弥生土器(第46図)は甕のみであり、器台・煮・高坏などは含まれていなかった。1~13の土器は床面付近から出土したものであり、14~20は覆土中から出土している。これらの土器の色調は基本的に橙色系のものであり比較的大きめの砂粒を含んだものが主流である。ただし、11は白色系の色調で砂粒も細かいものを含み全体的に器壁が薄くシャープである。このように他と異な



第45図 S101遺物出土状況実測図(S=1/40・1/4)



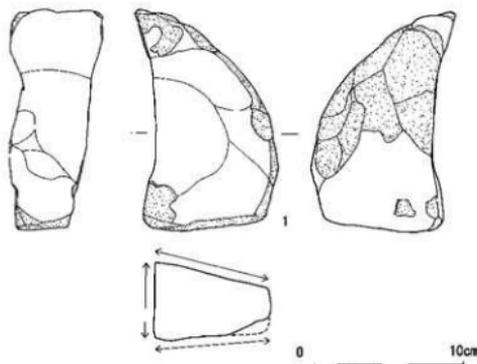
第46图 S101出土弥生土器实测图(S=1/3)

る特徴が見られることからこの上器は本上からの搬入土器である可能性を持つものである。

出上した妻の口縁形態は基本的に複合口縁であるが、12だけは単純口縁の形態をとるものであり外来系と考えられる。ただし、胎土・色調は基本的にこの遺構から多く出土するものと変わらないものである。17は口縁が長く直口系の甕になるものと思われる。出土した土器の時期は、14が弥生時代後期初頭頃、1・15が草田3期<sup>②</sup>、2～6・16～18が草田4期、7～11・19が草田5期と考えられる。

砥石（第47図）は肌理の細かい岩石のもので3面の使用面が確認できるものである。

最後に建物跡の廃絶の時期については床面上出の弥生土器から草田5期頃と考えられ弥生時代後期後半と推測される。



第47図 S101出土砥石実測 (S = 1/3)

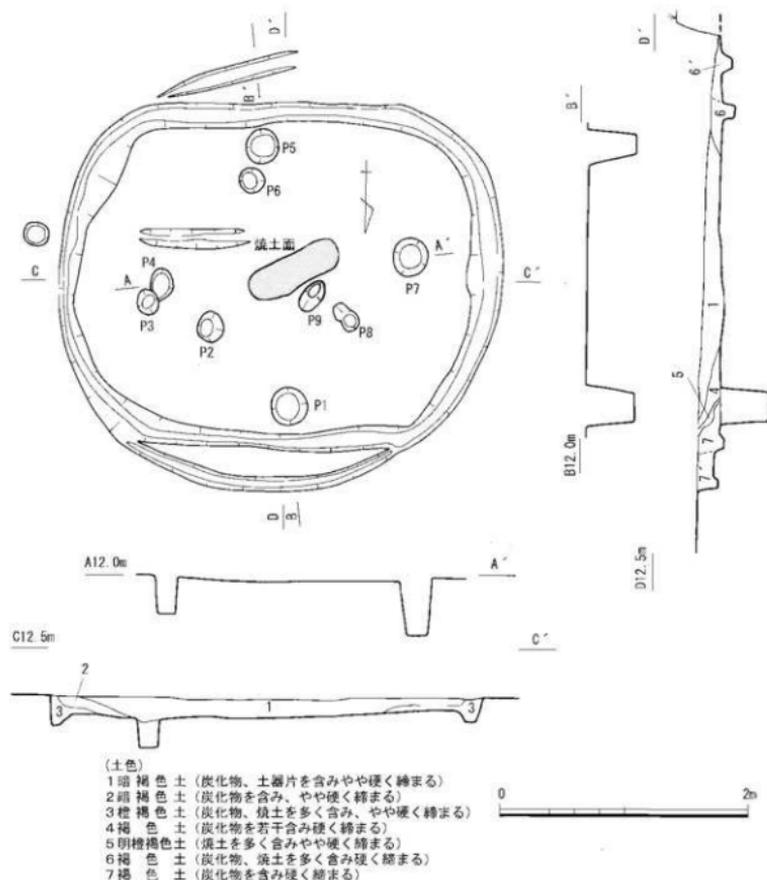
表5 東船遺跡 S101出土石材 計測表

個体番号	層位	取上番号	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	個体番号	層位	取上番号	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考
1		41	25	20	9	5.36	板状	18	床付近	79	10	10	5	0.72	表面なめらか、工具痕
2		76	16	13	8	2.88	色白、筋ふく	19		32	12	8	3	0.82	板状
3		75	27	21	8	8.08	円縁	20		26	12	9	4	0.62	板状
4		27	17	11	7	3.06	円縁	21	床面付近		5.5	3.5	3	0.09	円縁
5		88	20	10	6	1.08	表面に穴	22			5	4	1.5	0.05	平丸形
6		57	13	10	5	1.02	表面に穴、直角縁	23		18	4.5	3	3	0.04	表面に穴
7		29	23	19	9	5.40	表面に穴	24		51	6	4	2.5	0.03	表面に穴
8		80	12	7	5	0.58	表面に穴	25			8	6	4.5	0.26	円内縁
9		60	13	10	5	1.04	帯門縁	26	56-10 上層		3	3	2	0.04	表面なめらか
10		8	19	13	4	1.14	板状	27		59	7.5	5.5	2	0.10	板状
11		9	14	12	6	1.70	円縁、表面に穴	28		51	7	4	2.5	0.08	表面凹凸
12		30	17	10	7	1.92	帯門縁、表面に穴	29		51	6	3.8	2.5	0.07	表面ざらざら
13		37	13	10	6	1.66	表面に穴	30			8	6.5	4	0.26	円縁
14		95	14	9	4	0.78	直角縁	31			9	7.5	6	0.72	表面なめらか
15		36	15	8	7	1.16	円縁	32		51	15.5	7.5	5	0.94	長方形、表面に穴
16		44	11	11	6	1.02	帯角縁、表面に穴	33			13	11	6	0.88	表面凹凸
17		15	17	11	4	1.32	円縁								

S102 (第48図)

S102は、5区で検出した建物跡で標高12mの丘陵先端部に位置している。遺構は検出当初には分からなかったが、2棟が切り合っているものであった。建物跡は、古い方が円形のプランを呈し、新しい方がやや規模を縮小した隅丸方形の形態をとるものであった。この2棟は非常に近接していることから建て替えに伴う遺構の切り合いと認識した。

建物跡の規模は(古)で径3.6mの円形プランで床面までの深さ14cm、(新)で東西3.6m、南北2.8mの隅丸方形で深さ20cmである。また、壁沿いには幅18cm、深さ8cm程の溝がめぐっている。床面からは、9基のピットを検出し、このうち主柱穴はP1~P4と考えられる。これらのピットが4基とも関連したものと考えると円形プランの(古)の主柱穴となるが、(古)と(新)がそれぞれ



第48図 S102遺構実測図(S=1/40)

2本柱の主柱をもつ構造のものであったと考えると(古)にP1、5が(新)にP4、7が伴うものと考えられる。建物跡の床面には、ピット以外に中央付近に焼土面が確認され、その範囲は東西80cm、南北26cmである。また、中央よりやや南西側に幅16cm、深さ10cm、長さ90cm程の溝を検出したが性格については不明なものである。

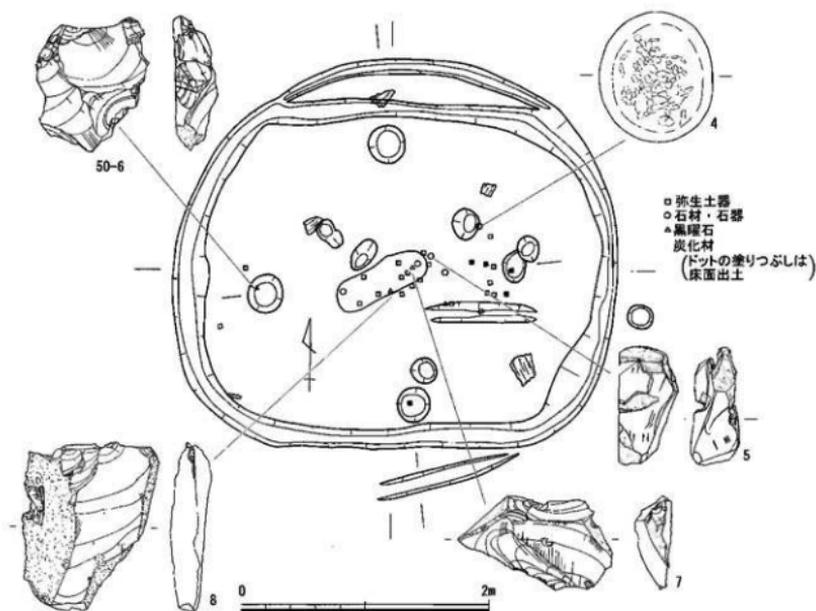
建物跡の覆土からは遺物が出土しているが、S101と比較すると非常に僅かなものである。また遺物は覆土のもつ床面付近から出土したものを分けて、出土ポイントを記録して取り上げた。

遺物の出土状況(第49図)は、中央付近に集中しているがその数は少ない。また、炭化材が出土しており焼失した建物跡の可能性も考えられる。なお、S101と同じように自然石(表6)が出土しているがその数は少ない。

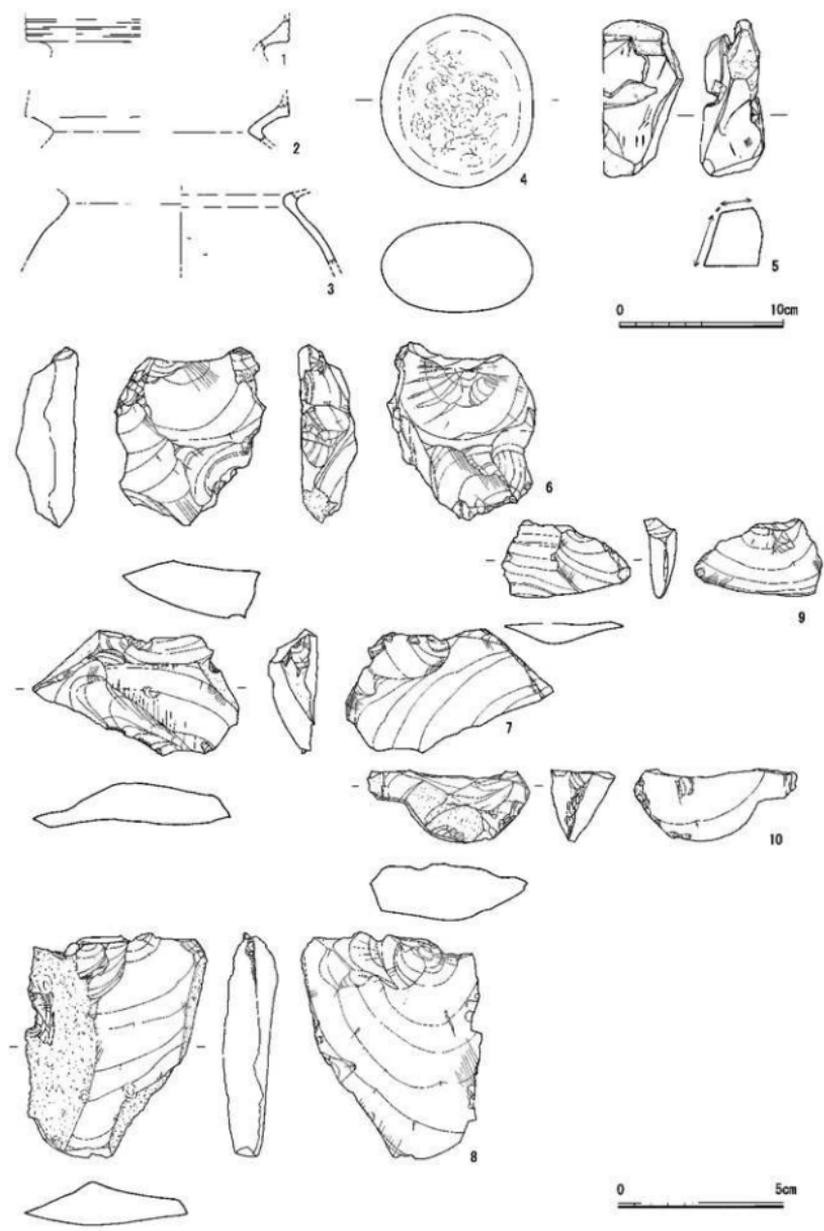
出土した遺物(第50図)は弥生土器と石器があるが、弥生土器は小片のため図化できたものは3点(1~3)のみである。また弥生土器は焼が出土しているが摩滅が著しいものであり時期の確実に分かるものはかろうじて1であり、それは草田3期と推測される。

石器は、敵石(4)、砥石(5)、黒曜石製の石器(6~10)が出土している。4は広い面の1面だけで敵打痕が認められた。5は肌理の滑らかな石材のもので2面で使用時の擦痕を確認することができた。

最後にこの建物跡の時期であるが、良好な弥生土器が出土していないことから難しいが、草田3期~4期頃の可能性があり、弥生時代後期後半頃と思われることをとりあえず指摘しておきたい。



第49図 S102遺物出土状況実測図(S=1/40・1/4・1/2)



第 50 图 S102 出土遺物実測図 (S = 1/3 · 2/3)

表6 東船遺跡 SIO2出土石材 計測表

副体番号	層位	取上番号	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	副体番号	層位	取上番号	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考
1		41	23	20	9	5.36	板状	18	床付近	79	10	10	5	0.72	表面なめらば、工具痕
2		76	16	13	8	2.68	色白、粉ふく	19		32	12	8	3	0.62	板状
3		75	27	21	8	8.08	円盤	20		26	12	9	4	0.62	板状
4		27	17	11	7	3.06	円盤	21	床面付近		6.3	3.5	3	0.09	円盤

## 第2節 土坑

### SK04 (第52図)

SK04は10区の標高13m付近で検出した土坑である。平面は方形を呈し長径67cm、短径64cmで深さは15cmである。土坑底面は平垣であり暗黒色土が堆積していた。

土坑内からは、弥生土器(第51図)と礫が出土している。弥生土器は甕の口縁から胴部にかけての破片であり、時期は草田1期に相当し、弥生時代後期初頭と考えられる。

### SK05 (第54図)

SK05は19区の標高15m付近で検出している。この調査区からはこの土坑を合わせて3基が並んだ状態で検出している。

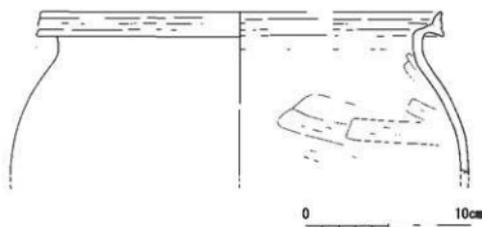
この土坑の平面は円形のもので、規模は径55cm、深さ16m程と小さいものである。土坑底面は平垣であり黒色土が堆積していた。土坑内からは弥生土器と黒曜石製の石鏃が各1点出土している。弥生土器は、完形に近いものが置かれそれが潰れた状態で出土している。

出土した弥生土器(53図1)は、甕の口縁から

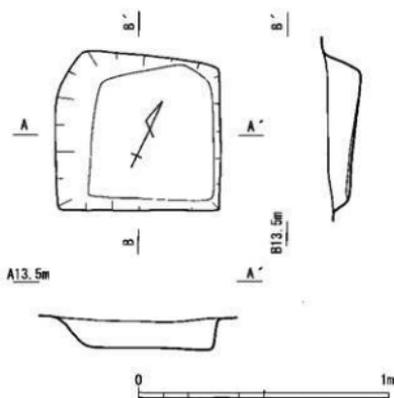
胴部にかけて部分であり、口縁帯には平行沈線が施されていない。時期は草田4期に相当するものと思われる、弥生時代後期後半である。石鏃(2)は、凹基式のものである。

### SK06 (第54図)

SK06は、SK05の隣に位置し、平面形は円形である。規模は径45cm程で深さ15cmである。覆土は黒色土が堆積しており遺物の出土はなかった。この土坑の時期は不明であるがSK02と並ぶように存在し覆土も同じ土であるので弥生時代後期と推測される。



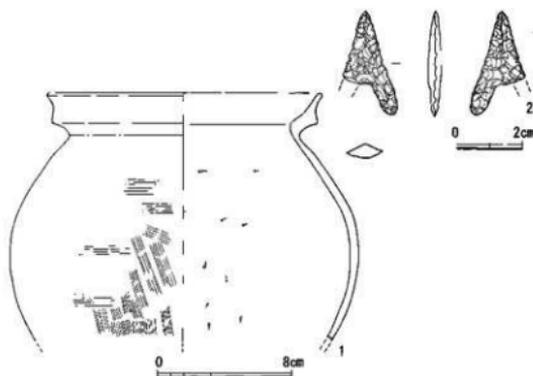
第51図 SK04出土弥生土器実測図(S=1/3)



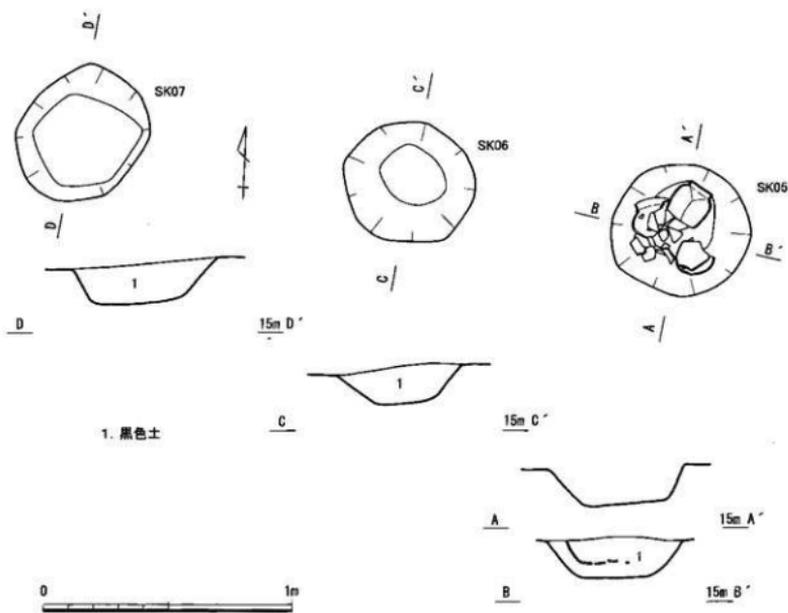
第52図 SK04遺構実測図(S=1/20)

SK07 (第54図)

SK07は、SK06の隣にあり平面形は円形である。規模は径55cm、深さ16cmであり、土坑内には黒色土が堆積し遺物は出土していない。遺構の時期は不明であるが一連で並んでいるSK05・06と同じ時期と推測され弥生時代後期と思われる。



第53図 SK05出土遺物実測図 (S = 1/3・2/3)



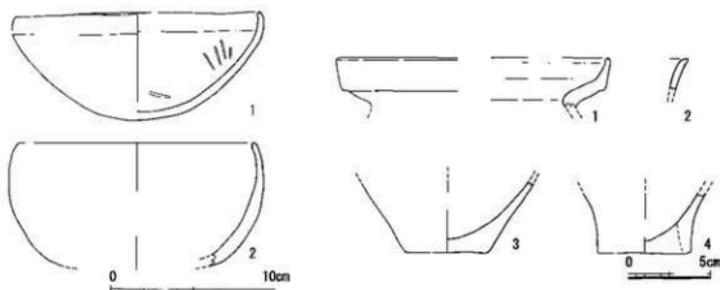
第54図 SK05・06・07遺構実測図 (S = 1/20)

### 第3節 溝状遺構

溝状遺構は3基検出しておりそれぞれ共通する点が見られる。それは、丘陵先端部に位置している点と周溝状に廻るような形状を呈している点である。

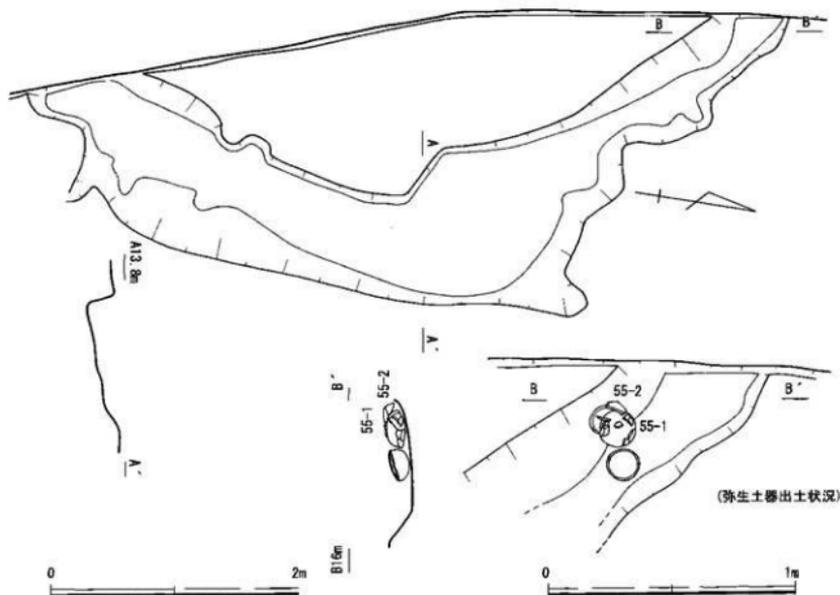
#### SD01 (第57図)

SD01は、10区の調査区境界付近標高14m付近で検出し、北側に4m延びた後に西側に折れ3m程延びる形状のものである。溝状遺構の幅は0.8mで深さは20cm程である。溝状遺構からは伏せられた弥生土器碗が3個体分と細片が出土した。出土した碗は図化可能なものが2個体(55図)あった。1はやや浅いタイプのもので、2は深くて体部が直立するタイプである。これらの土器の時期は草田6期に相当すると思われ、弥生時代後期後半と推測される。

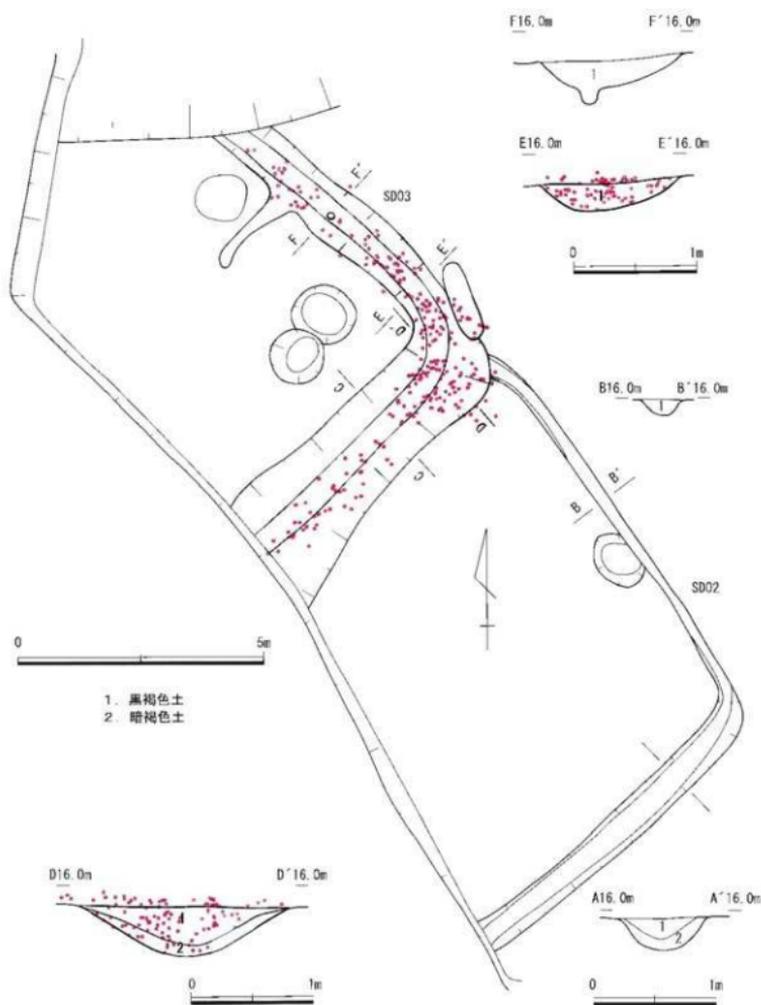


第55図 SD01出土遺物実測図(S=1/3)

第56図 その他の出土遺物実測図(S=1/3)



第57図 SD01遺構実測図(S=1/20・1/40)



第58图 SD02·03遺構実測図(S=1/100·1/40)

## SD02 (第58図)

SD02は、25区の調査区境界付近の丘陵先端部標高16m付近で検出しており、後述するSD03とは近接し切り合い関係からSD02の方が古い時期のものである。

遺構は「=」字形に廻る周溝状を呈しており、その長さは南東側の辺が7m、北東側の辺が9mで幅0.75m、深さ28cmである。遺物は南東側で縄文土器片が出土しているが、遺構に伴う可能性は考え難い。この溝状遺構の性格については、周溝状に廻る形状から墳墓の区画溝である可能性が考えられるが、区画された内側は上面が耕作で削られており墓坑等の施設が確認されなかったことから明確には出来なかった。

## SD03 (第58図)

SD03は、SD02を切って造られており、現状では「L」字形の平面形を呈す。その規模は、南東側の辺が7.3m、北東側の辺が7m程で幅1.2m、深さ0.2mである。遺物は周溝内から弥生土器、縄文土器の破片が出土しており、図化できたものは1点(56図2)であった。2は、弥生土器甕の複合口縁端部と考えられ、明確に出来ないが弥生時代後期に属するものと思われる。この遺構の性格についてはSD02と同様に墳墓の区画溝である可能性があることを指摘しておきたい。

## 第4節 その他の出土弥生土器 (第56図)

1は5区のピットから出土した弥生土器の複合口縁であり草田4～5期に相当し、時期は弥生時代後期後半と考えられる。3、4は弥生土器の甕底部であり、3は5区、4は18区の包含層から出土している。

## 第5節 小結

最後に弥生時代の遺構について整理しておきたい。弥生時代の遺構で竪穴建物跡は、隠岐では類例が少なくこれまで隠岐島後で1遺跡<sup>9</sup>、島前で2遺跡<sup>9</sup>あるのみであり検討する上で貴重な資料を提供することとなった。また弥生時代後期の土器の地域的特徴も今後検討する上で貴重な資料となった。

溝状遺構としたものは墳墓の区画溝である可能性も考えられ、今後の類例の増加を踏まえて近年調査された西郷町大城遺跡の四隅突出型墳丘墓<sup>9</sup>も含めて再度検討する必要がある。

表7 東船遺跡 弥生時代 遺構一覧

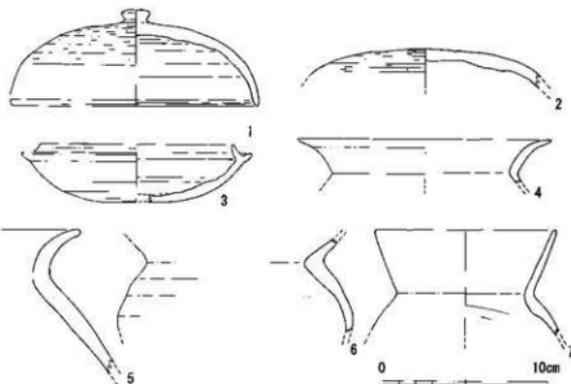
遺構名	規模 (m)			形状	出土遺物	時期
	長径 (一辺)	短径	深さ			
SD01	4.4	—	0.5	円形	弥生土器・石器	草田5期
SD02(穴)	3.6	—	0.14	円形	弥生土器・石器	草田3期～4期
SD02(断)	3.6	2.8	0.2	隅丸方形	弥生土器・石器	草田3期～4期
SK04	0.67	0.61	0.15	方形	弥生土器甕	草田1期
SK05	0.35	—	0.16	円形	弥生土器甕	草田4期
SK06	0.45	—	0.15	円形	—	—
SK07	0.25	—	0.16	円形	—	—
SD01	一辺4×3m	0.8(幅)	0.2	方形に廻る?	弥生土器類	草田6期
SD02	一辺7×9m	0.75(幅)	0.28	方形に廻る	弥生土器片	弥生時代後期
SD03	一辺7×7.3m	1.2(幅)	0.2	方形に廻る	弥生土器片	弥生時代後期

## 第7章 古墳時代の遺構と遺物

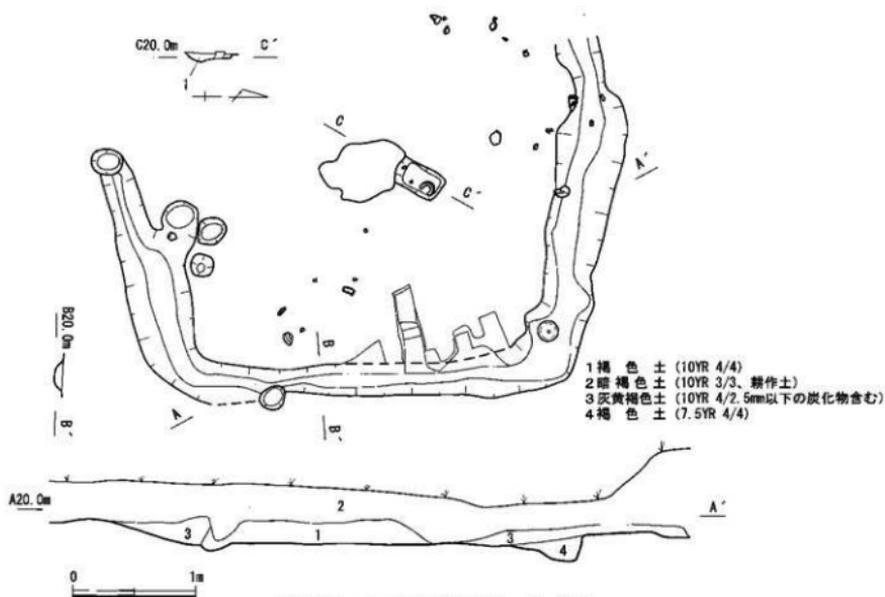
概要 東船遺跡で検出された古墳時代の遺構は堅穴住居跡が2棟、土坑3基、性格不明遺構2基である。その他には土師器の出土したピットもあった。

遺構のうち、25区のSK10と16区のSX01・02以外は全て11区で検出している。

古墳時代の遺物は表11にあるようにほとんどの調査区で出土している。遺物は土師器、須恵器と多い。鉄器もわずかに出土している。そのうち11区は谷部から遺物がまとまって出土している。その他の18区や22区でも数多く出土しているが、これらも谷状に落ち込んだ部分から出土している。



第59図 S103出土遺物実測図(S=1/3)



第60図 S103実測図(S=1/40)

## 第1節 竪穴建物跡

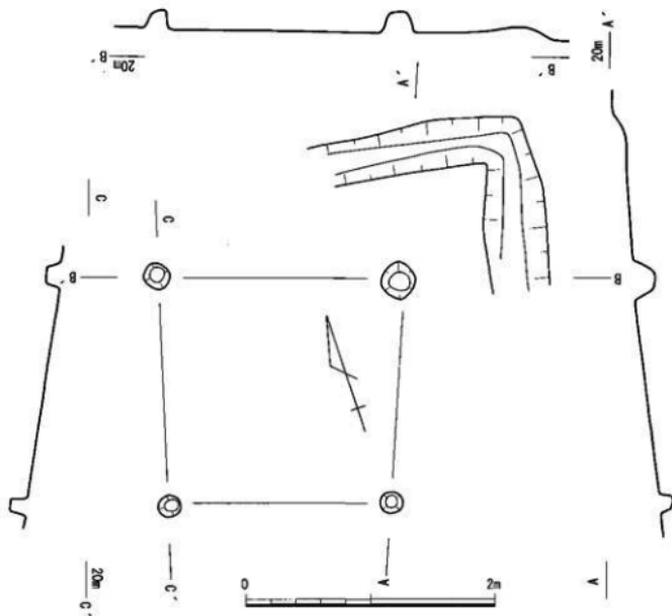
### S103 (第60図)

S103は方形の竪穴住居跡である。調査区の関係で2か年にわたり調査が行われた。建物跡の上面と西側は削平されており、建物の規模は長さ4.2m前後、幅3.2m以上で、壁の高さは20cm残っていた。柱を立てられるような柱穴は見つからず、床の中央には焼土面があった。削平により一方の壁が残っていないが造り付けのかまども無いと思われ、また移動式かまども無くこの焼土面を炉として使っていたようで、ここで火を使い煮炊きや暖をとっていたものと考えられる。

出土遺物(第59図)は須恵器と土師器である。1と7は床近くから、それ以外は床面から浮いて出土している。1は須恵器のつまみ付きの蓋である。周溝の北東隅でひっくり返った状態で出土している。当遺跡出土の須恵器で唯一の完形品である。高環か坏の蓋と考えられるが、セットになりそうな須恵器は出土していない。隠岐や出雲地方では見られない器形である。2・3は須恵器の坏蓋と坏身である。4～7は土師器で、5と6は小片のため、径等が不明である。7は焼土面に近い落ち込みから出土している。須恵器の年代から6世紀後半(大谷福年出雲4期)と考えられる。

### S104 (第61図)

S103の北西約15mのところにある。斜面に作られているため残りが悪いが、L字状に溝が巡りその内側に4本の柱穴が方形に並ぶ。柱穴間は1.8m前後で、段状遺構に立てられた掘立柱建物跡とも思われたが、柱穴が4つであることから竪穴住居跡と想定した。出土遺物もなく建物の時期は不明であるが、溝がL字に曲がっていることから古墳時代の竪穴建物の可能性が高い。



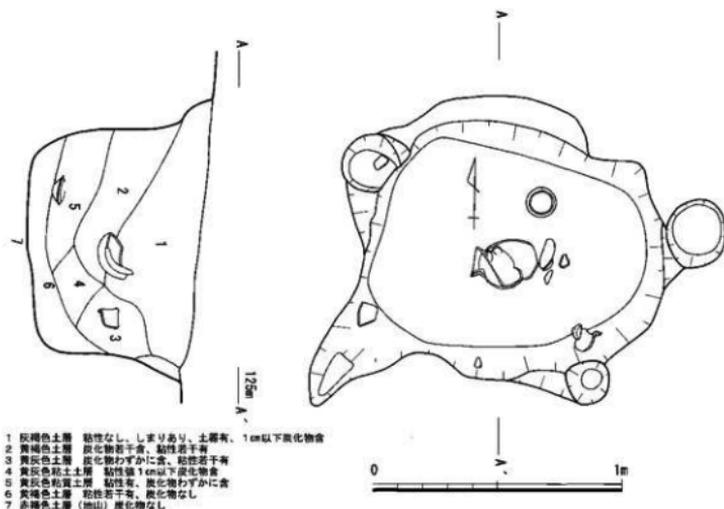
第61図 11区S103実測図(S=1/40)

## 第2節 土坑

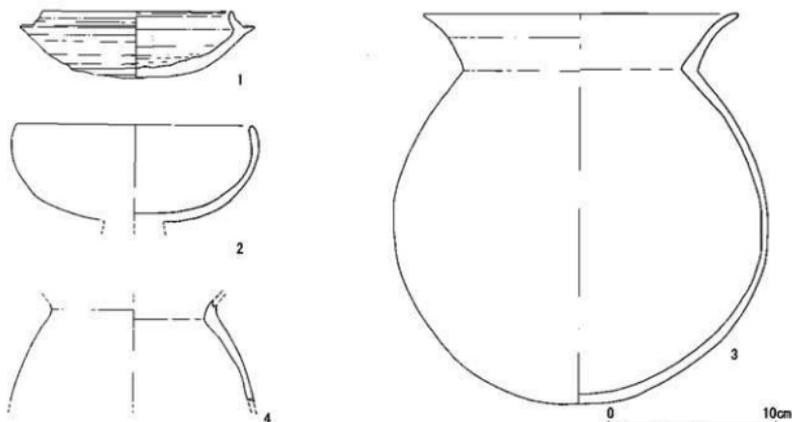
### SK08 (第62図)

楕円形の土坑である。周囲には柱穴らしきピットも見られるが、この土坑との関係は不明である。長軸約1.2mで短軸約1.1m、深さは約0.7mである。底は平面で壁面はまっすぐ落ち込む。

出土遺物(第63図)は、須恵器(1)と土師器(1~4)である。1は7層直上から、3は2層直上で横になって出土している。2と3は土坑の落ち際からの出土である。1は坏身である。2は高坏であるが脚部は無い。坏部の底外面には脚部を接合した痕跡が見られる。3は甕である。口縁



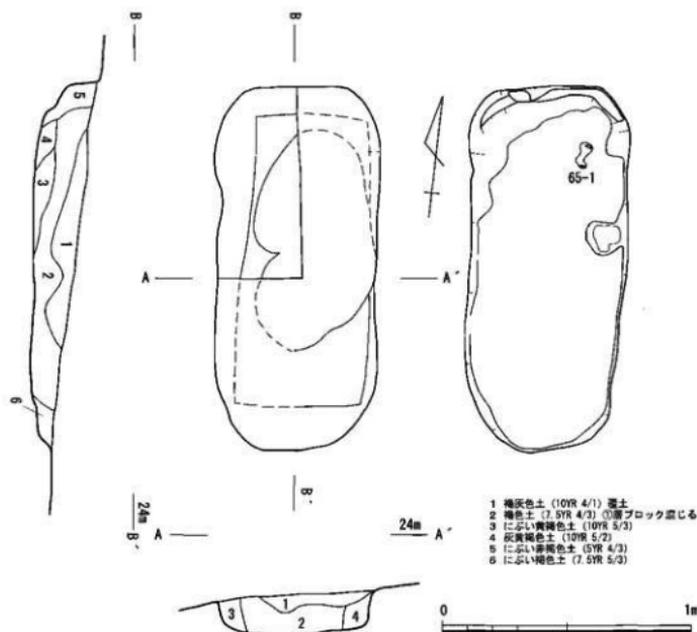
第62図 SK08実測図(S=1/20)



第63図 SK08出土遺物実測図(S=1/3)

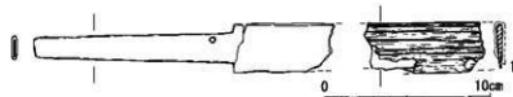
部は大きく外反し、さらに口唇部は外に反る。4は小形の甕である。口縁部は残っていない。摩耗により外面の調整は不明で、胴部内面はケズリである。須恵器の坏は出雲IV期と考えられる。

SK09 (第64図)



第64図 SK09実測図 (S=1/20)

緩斜面に作られた土坑である。当初は近世墓を想定していたが調査中に鉄製の直刀が出土し古墳時代の上坑として認識した。この土坑は長さ



第65図 SK09出土遺物実測図 (S=1/2)

1.5mで幅が0.6mである。深さが0.2mあるが上面は削平されているようである。土層の堆積状況を見るとまず平面図には遺構のすぐ内側に長方形になるであろう第2層が堆積し、更に第1層が内に堆積している。第2層は木棺の内部に落ち込んだため木棺の形を反映し、このような形になっているものと考えられる。土層の断面を見ても第2層は縦に堆積していることが分かる。したがって第2層の外側の層は木棺の外側の埋葬時に木棺の外側を固めた層と思われる。

出土遺物(第65図)SK09からは1のみ出土している。1は両関の直刀である。調査中の破損が多いが、それ以前の破損も見られる。このため長さは不明である。刀身には木質が残っており鞘に入っていたものと考えられる。目釘穴は1つ確認されている。刀身に反りは無く、古墳時代の直刀と考えられる。

出土状況は、ほとんどの部分が排土から発見されたため詳細は不明である。しかし柄の位置は判

明しているのこれから直刀の出土状況を想定すると、柄が下を向いていたものと考えられる。

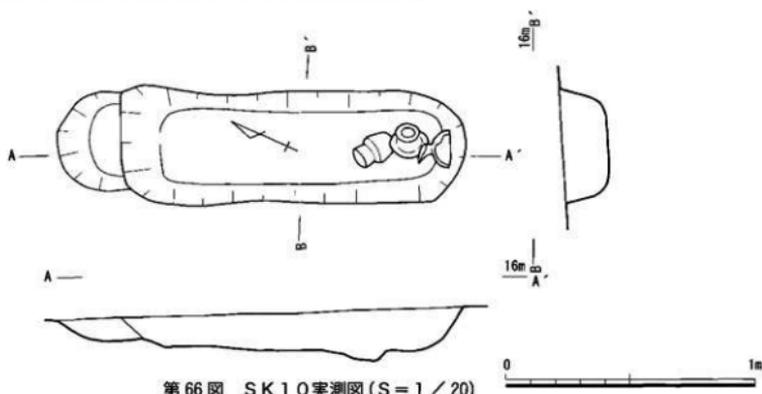
#### SK10 (第66図)

SK07は弥生時代以降に作られた溝(SD03)に一部が削平されている上坑である。現在、遺構の南西約8mには今津港に落ち込む10mの断崖があり、遺構の作られた当時も今津の入り江を見下ろせる高台であったと思われる。

遺構は長さ約1.4mで幅約0.5mの長楕円形で、深さが約20cmである。北側は別の遺構によって攪乱を受けている。土層の観察からは木棺の痕跡などは確認されなかった。

土坑内からは3点の遺物が出土している(第67図)。

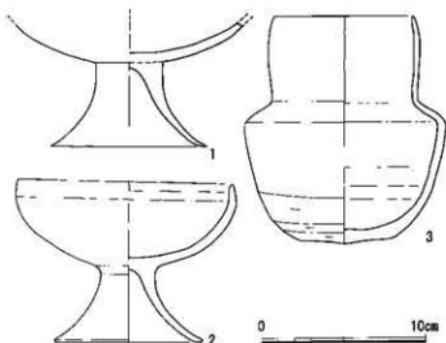
1と2は上師器の高杯で、1は調査時に破損してしまった。1と2は並んで出土しているが、1は色調が黄橙色だが2は淡褐色で、また脚部の上半が1は2よりも太いという違いが見られる。3は1と2の下方で出土した完形の須恵器の直口壺である。この壺の内部には1cm程の黒曜石の剥片が入っていたが、流れ込みにより入ったものと思われる。



第66図 SK10実測図(S=1/20)

これら3点は七坑の南端にまともに出土しており、埋葬時に供献した状態をある程度反映しているものと考えられる。

さてこの遺構の時期であるが、弥生上器とみられる小片が出土しているSD03を掘り込むように造られている。さらに供献されたと思われる遺物の年代から古墳時代後期と考えている。



第67図 SK10出土遺物実測図(S=1/3)

### 第3節 性格不明遺構

#### SX01・02 (第68図)

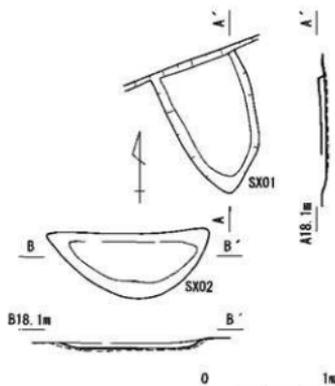
SX01・02は性格不明の遺構である。SX01は調査区の際で検出された。一部が調査区外に広がっており全体の形は不明である。現在の規模は長さ約1.1mで幅約0.7m、深さ約5cmである。

覆土は暗褐色土層で硬く締まっていた。土師器の甕(第69図)が出土している。古墳時代後期のものである。

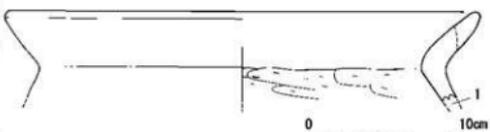
SX02は三日月状の遺構である。SX01も同じような形になるかもしれない。長さ約1.3m、幅約0.5m、深さ約5cmで土層も同じである。出土遺物はない。SX01と時期を同じくすると考えられる。

#### ビット出土遺物(第70図)

これは11区のSK02の北側約5.6m検出されたビットから出土した土師器の甕である。口縁下半部が厚くなっており、外面中程に段ができる。内面は胴部からくの字に開き中程をすぎて更に外傾する。調整は胴部内面は削りで、それ以外はナデのようであるが、風化のため明確ではない。弥生時代後期から古墳時代前期に見られる「二重口縁」の影響を残す「隠岐型甕」<sup>10)</sup>である。古墳時代後期のものである。



第68図 SX01・02実測図(S=1/40)



第69図 SX01出土遺物実測図(S=1/3)

### 第4節 遺構外出土遺物

第71図は須恵器である。16から21

は甕片の胴部の叩き目を示している。当遺跡では外面は平行タタキ目と格子目文で内面は同心目文である。1・2は出雲3期で3は出雲4期の坏である。東船遺跡ではこの2時期の須恵器が出土している。

第72図は土師器である。1から7は甕であるが、口縁部の形状は多様である。二重口縁が退

化したような1や口唇部の外傾が著しい3や5、口縁下部が厚い4、6や7には二重口縁の名残は見られない。坏(8・9)は図化した2種類以上あるようだが小片であるため不明である。高坏(10~12)は坏部の口唇にわずかに違いがあるが内傾する。しかし脚部は低いもの(10)と高いもの(11・12)がある。13~15は甕としているが既述の甕と違い鍋のようなものと考えられる。



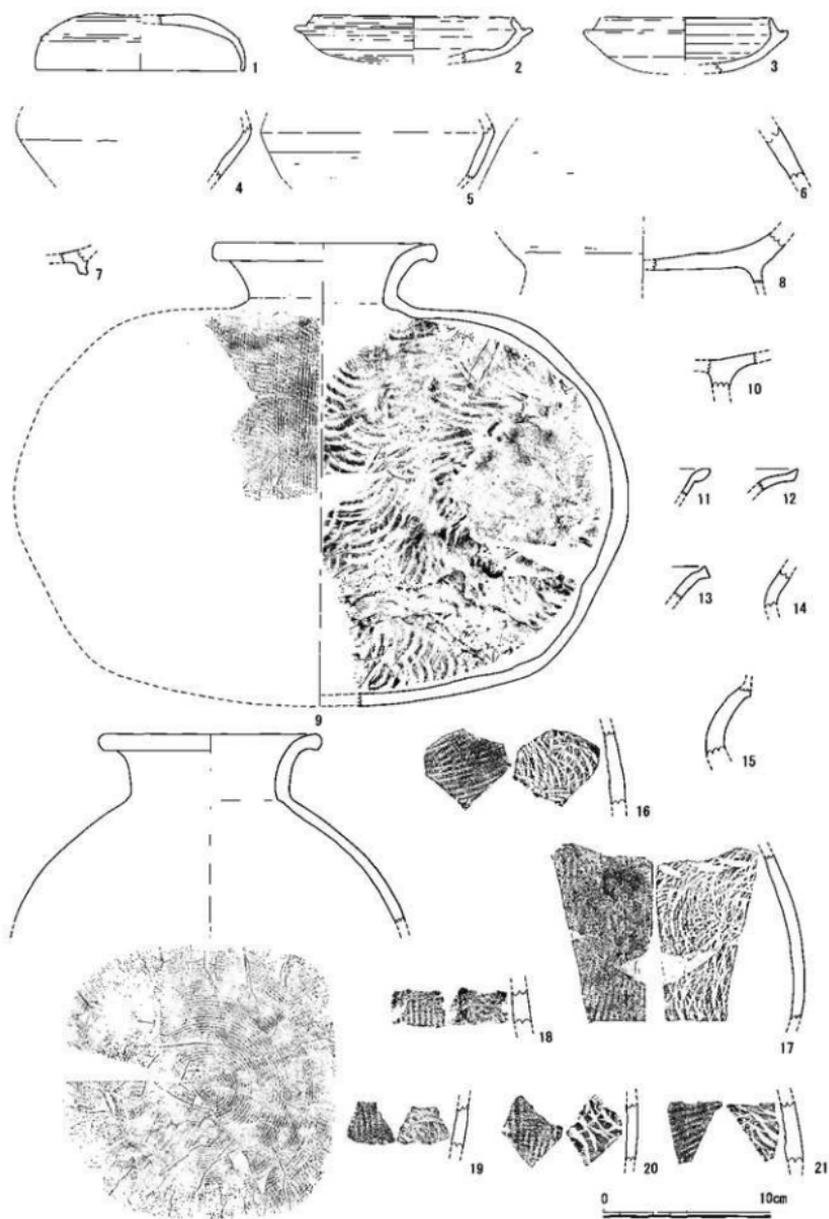
第70図 ビット出土遺物実測図(S=1/3)

### 第5節 小結

以上のように古墳時代を見てきたが、東船遺跡の古墳時代は後期に限られるが、主体は出雲4期である。遺構も同じ時期のものと考えている。特に竪穴建物は方形プランで、立地は弥生時代後期

表8 古墳時代遺構一覧

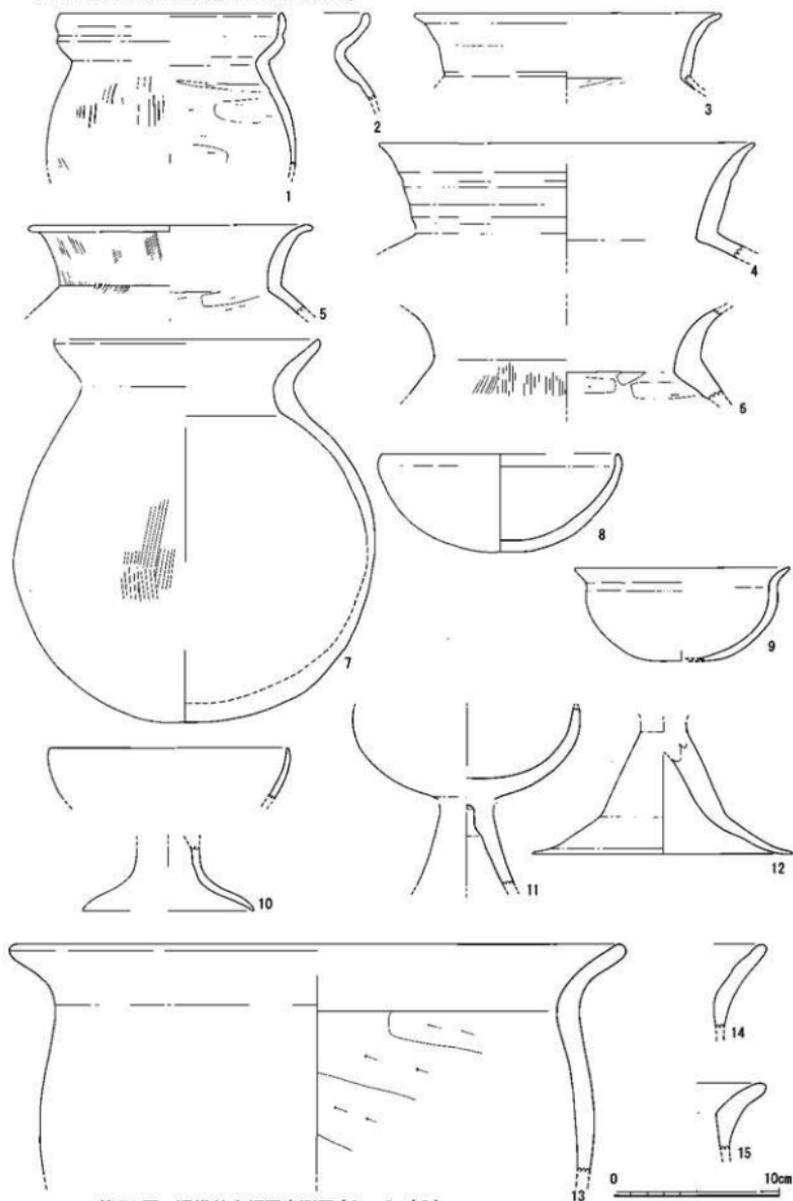
調査区	遺構名	規模(m)			形状	出土遺物	時期
		長径(一辺)	短径	深さ			
11	S103	4.2	(3.2)	0.2	方形	須恵器・土師器	古墳時代後期
11	S104				方形?		古墳時代?
11	SK08	1.2	1.1	0.7	楕円形	須恵器・土師器	古墳時代後期
11	SK09	1.5	0.5	0.2	長楕円形	鉄器(直刀)	古墳時代?
25	SK10	1.4	0.5	0.2	長楕円形	須恵器・土師器	古墳時代後期
16	SX01	(1.1)	0.7	0.05	不明	土師器	古墳時代
16	SX02	1.3	0.5	0.05	三日月	-	古墳時代



第 71 图 遺構外出土須恵器実測図 (S=1/3)

の堅穴建物と異なり海岸に近いところには造られず、やや高い所に造られるようになる。

以上が古墳時代の東船遺跡の様相である。



第72図 遺構外土師器実測図(S=1/3)

## 第8章 古 代

概要 東船遺跡の確実に古代といえる遺構は確認されていない。

遺物は18区の段状遺構のピットから出土している1点のみである。

### 第1節 出土遺物 (第73図)

須恵器の壺あるいは瓶の肩部である。両面の調整は共に回転ナデである。細かい時期は不明であるが奈良時代以降の須恵器であろう。



第73図 ピット内出土遺物実測図 (S=1/3)

### 第2節 小結

古代の遺構・遺物はほとんど無く、東船遺跡では古代に集落など営まれていなかったと思われる。

## 第9章 中 世

概要 東船遺跡は古代で激減した遺構や遺物が、中世になるとまた増加する。特に掘立柱建物跡は17棟確認されている。調査区毎に見ると11区・14区が4棟と多いが、両区は他の調査区に比べると面積が広いので、一概に掘立柱建物跡が集中しているとは言えない。しかし11区は遺物も多く出土している。

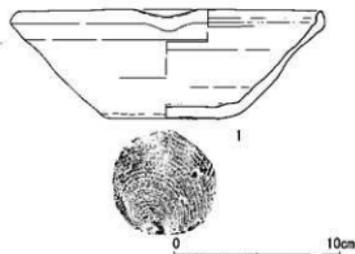
東船遺跡の掘立柱建物跡は谷に近い緩斜面や谷地形に立地していることが多いようで、斜面を削り出し平坦面を造り建物を建てている。こういった平坦面が確認された掘立柱建物跡は全体で6棟存在する。

遺物は中世土師器や中世陶器、青磁、白磁が出土している。これらは11区と18区から比較的多く出土している(表11~14参照)。この2つの調査区には谷地形が存在し、そこから遺物が出土している。12区には柱穴から束播系中世須恵器を模倣した土師器が出土していて遺構の時期決定の基準になっている。その他の調査区も谷地形から遺物が出土することが多かった。

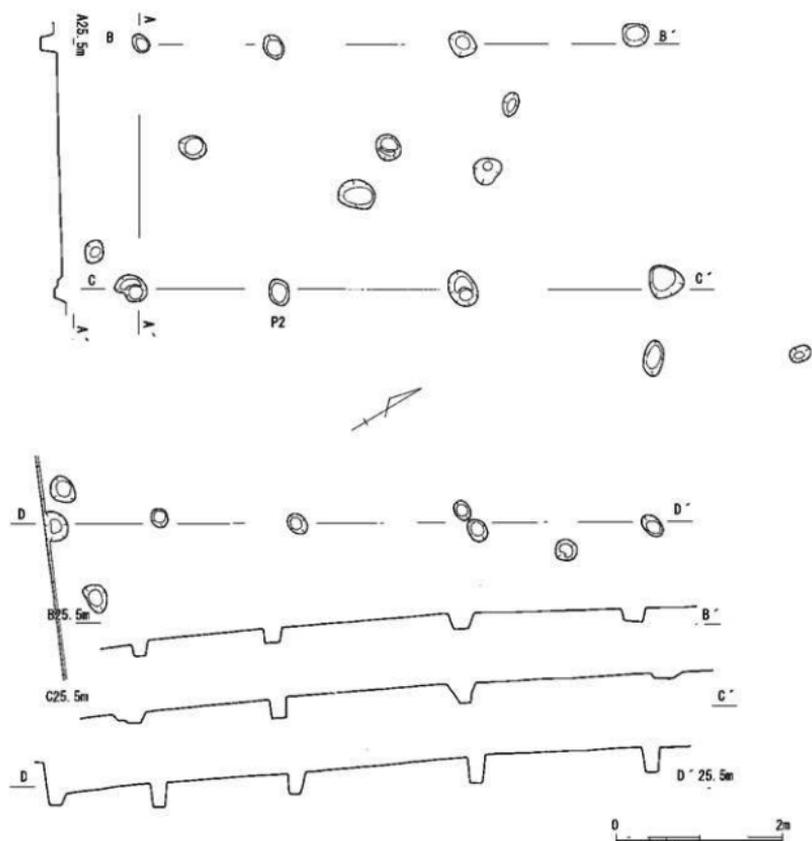
### 第1節 掘立柱建物跡 (SB)

この節では掘立柱建物跡について述べるが、時期が不明なものも含んでおり、全てを中世と考えていない。掘立柱建物跡の時期が確定できないのは遺物が出土することが少なく時期が判断しづらいことが一因である。また建物の構造(例えば柱穴の大きさや並びなど)は時期決定の参考にはなるがその点のみで判断はできない。

ここで紹介する掘立柱建物跡は出土遺物は当然として、立地や周辺の出土遺物の数や割合などから時期をある程度推測しているが、年代について



第74図 SB 01 出土遺物実測図 (S=1/3)

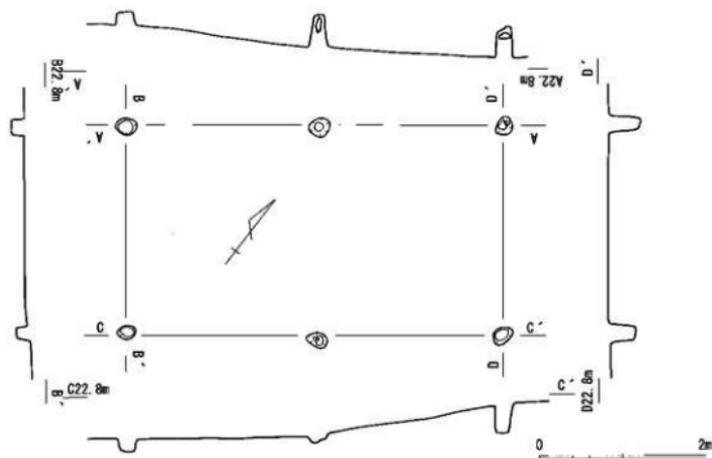


第75図 SBO1遺構実測図(S=1/60)

は参考程度に留めていただきたい。時期不明のものをあえて中世の章にまとめて掲載するのは掘立柱建物跡を相互に比較しやすくするためであり、全ての掘立柱建物跡を中世としているわけではないことを記しておく。

### SB01 (第75図)

SB01は12区の東側の平坦面に位置している。桁行3間(6~6.3m)、梁間1間(3m)で面積はおよそ18㎡である。柱間寸法は桁行1.6~2.2mである。柱堀形は円形である。東側に柱穴列がほぼ同じ柱間と並んでおり、櫓か塙を想定しているが、建物の一部となって総柱建物になる可能性もある。柱穴列は調査区の境まで延びているので建物自体もさらに南方向に延びることも考えられる。P2からは割れた1個体分の土師器が重なって出土している。



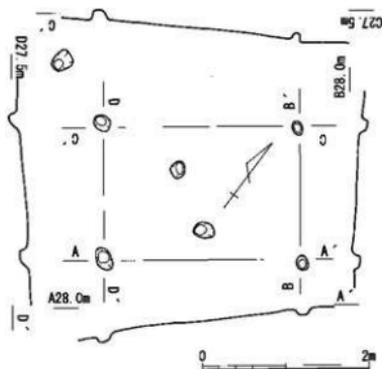
第76図 SB02遺構実測図(S=1/60)

### 出土遺物 (第74図)

P2から出土した土師器の片口鉢である。東播系中世須恵器の片口鉢を模倣して作っている。口縁部は厚みをもち、端部を上方へ拡張している。口径がおよそ18.4cmと小振りである。森田氏の編年<sup>9)</sup>によると第II期第1段階(12世紀中葉~後半)の片口鉢を模倣しているようであるが、口径はかなり小さい。この遺物からSB01の年代は12世紀中頃以降と考えられる。

### SB02 (第76図)

13区の西側の平坦面に位置している。桁行2間(4.6m)、梁間1間(2.5m)で面積はおよそ11.5㎡である。柱間寸法は桁行2.2mである。柱堀形は円形で、柱穴内には根石が残っているものもあった。根石に



第77図 SB03遺構実測図(S=1/60)

は加工のない自然石を使用している。石材は不明である。周辺からその他の遺構は確認されていない。出土遺物は無く時期は不明であるが、12区SB01に近い時期ではないかと考えている。

#### SB03 (第77図)

船王区の中央の緩斜面に位置している。伝船親王墓から4.2mほど離れている。桁行1間(2.4m)、梁間1間(1.7m)で面積はおよそ4㎡である。柱堀形は円形である。周辺から検出されているピットはこの遺構に関係したものであるか不明である。出土遺物は無く時期は不明である。伝船親王墓にある石塔との関係も不明である。

#### SB04 (第78図)

11区の南端、谷の左岸で緩やかな斜面に位置する。柱穴の配置がはっきりせず建物の構造は不明である。確実な部分では桁行3間(6.3m)、梁間2間(4.2m)で面積はおよそ26.5㎡である。斜面の上手には溝が掘られている。この溝は斜面上方からと、屋根から落ちる雨水を排水していたと考えられる。溝の北隅の内側には柱穴があり、ここを基準に建物を配置すると最大で桁行4間(9m)、梁間3間(6.4m)なるが推測の域をでない。両側にも柱穴が残っていたようであるが残りが悪く不明である。柱間寸法は桁行1.9~2m、梁間2~2.9mである。柱堀形は円形で、上層に柱痕が残るものもある。出土遺物は無く時期は不明である。

#### SB05 (第79図)

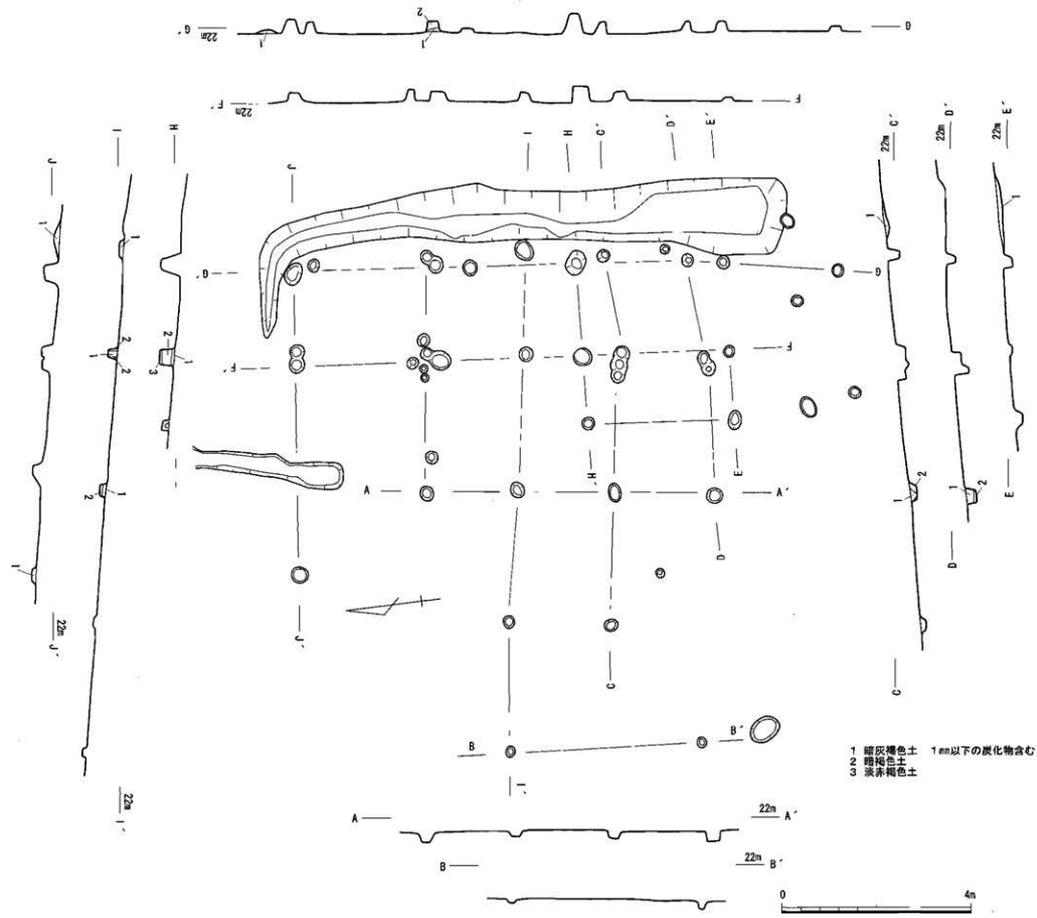
11区の中央やや西よりに位置する。古墳時代の堅穴建物跡のS103から北東に9mのところにある。桁行2間(5.5m)、梁間1間(1.7m)で面積はおよそ9.3㎡である。柱間寸法は桁行2.7~2.8m、梁間1.7mである。柱堀形は円形で、土層に柱痕が残るものもある。出土遺物は無く、周辺からも関係するような遺構や遺物は検出されなかった。したがって時期は不明である。

#### SB06 (第80図)

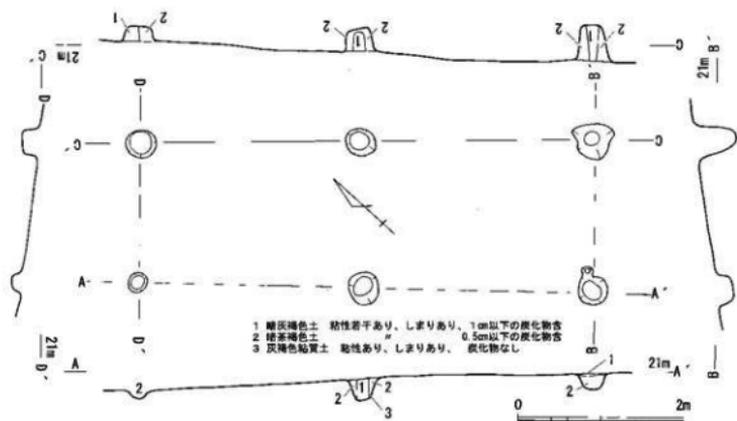
11区の中央を横切る谷の右岸にあたる斜面に位置する。建物は傾斜に直交するように建てられている。桁行2間(6.1m)、梁間1間(2.3m)で面積はおよそ14㎡である。柱間寸法は桁行2.9~3.1m、梁間2.3mである。東柱はない。建物の山側には溝があり斜面から流れてくる水や屋根から落ちる雨水を排水していたものと考えられる。この溝は柱穴に沿って直角に曲がるが、斜面のため一部しか残っていない。A-A'ライン近くにはもう一条の溝があるが、この建物との関係は不明である。この溝の内側には怪は小さいながらも深いピットがあり、あるいはSB02と同じ様な建物があったのかもしれない。出土遺物は無く時期は不明である。

#### SB07 (第81図)

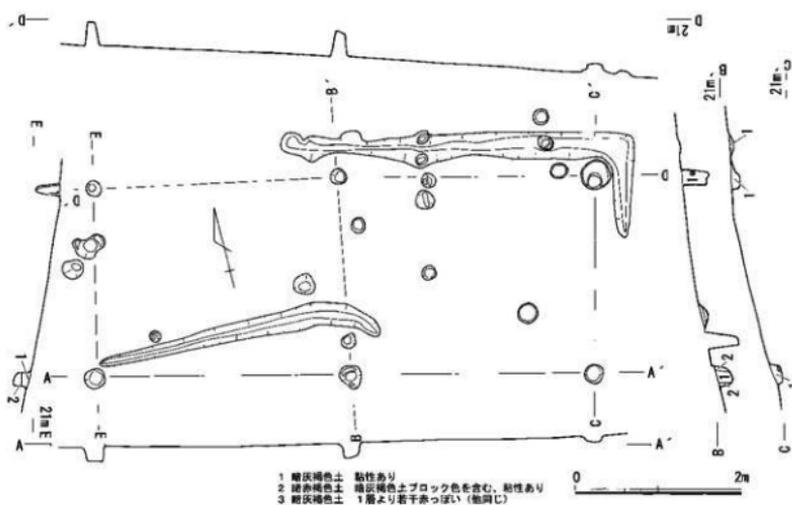
11区の南端の緩斜面に位置している。確実に柱穴が並ぶもので桁行3間(6.3m)、梁間1間(1.9m)で面積はおよそ12㎡である。建物の一部は調査区の外に広がっていると思われるので、さらに面積は大きくなるようである。柱間寸法は桁行1.7~2.5m、梁間1.9mである。建物は斜面を削り出した平坦面に造られている。山側には浅い溝が掘られているが、北側しか残っていない。その溝には建物の柱穴に合わせて小さいピットが2つ掘られている。柱穴との並びからいっても庇か出入口かそういったものの可能性がある。平坦面には並ばなかったピットが数多くある。東柱や建て替え、他の遺構の重複などが考えられる。出土遺物は無く時期は不明である。



第78図 SBO4遺構実測図(S=1/80)



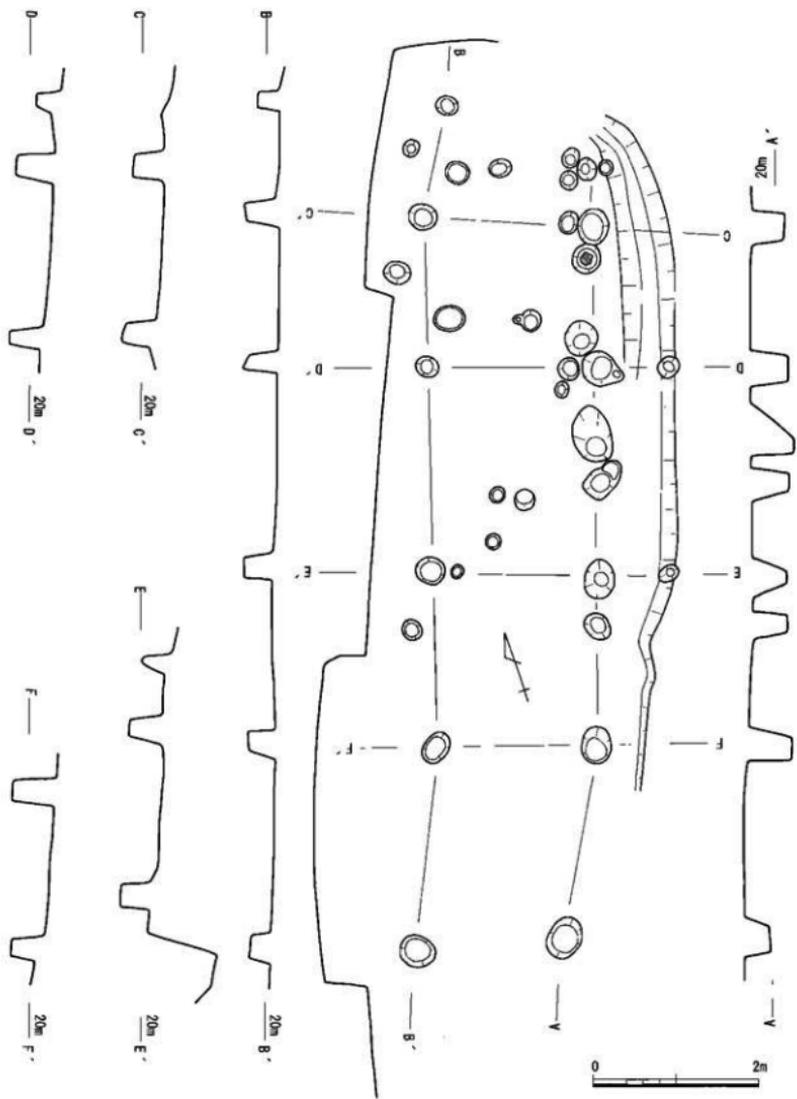
第79図 SB05遺構実測図(S=1/60)



第80図 SB06遺構実測図(S=1/60)

SB08・09 (第82図)

この2棟の建物は14区の中央東側の斜面に位置する。建物は傾斜に直交するように建てられている。SB08は桁行2間(4.9m)で梁間2間(4.3m)だが、南西隅の柱が検出されず、面積はおよそ16㎡のL字状の建物である。SB09は桁行2間(4.1m)で梁間1間(4.7m)、面積はおよそ19.2㎡である。柱間寸法はSB08が桁行2.3~2.4m、梁間1.9~2.3mで、SB09が桁行2.0m、梁間2.9mある。東柱はない。隅柱が特別太く掘られているといったことも無いようである。こ

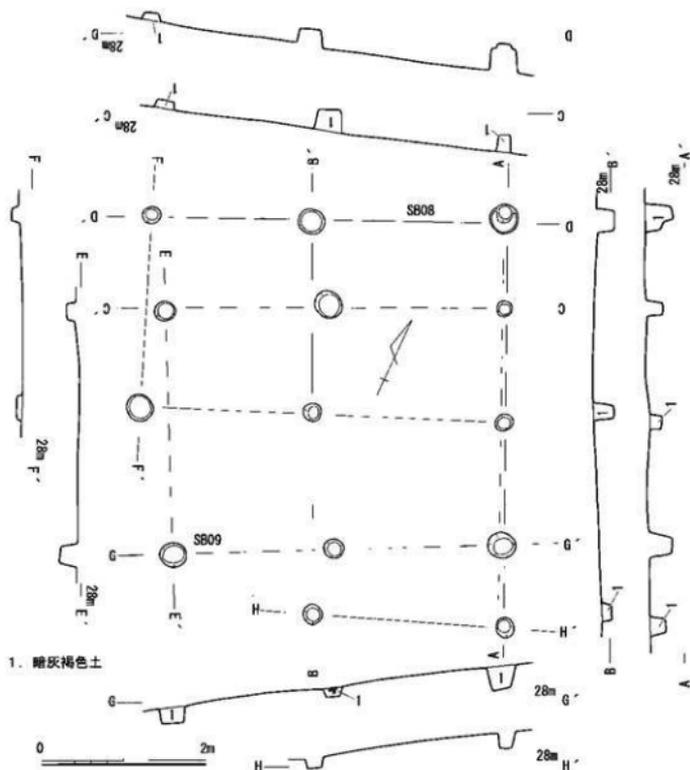


第81図 SB07遺構実測図(S=1/60)

の2棟の新旧は全く不明で、出土遺物もなく両者の時期も不明である。

### SB10・11 (第83図)

SB10とSB11は14区中央を東から西に流れる自然流路(谷地形)上に位置している。SB10がSB11より若干大きいが一方は建て替えによるものと考えられる。これらは遺跡の中でも最大規模の建物である。桁行3間(最大9.1・9.4m)、梁間4間(最大8.5m)で面積は77.3・80㎡と大形である。東柱はない。建物は斜面を削り出した平坦面に作られている。平坦面の山側には溝があり斜面から流れてくる水や屋根から落ちる雨水を排水していたものと考えられる。SB10は平坦面の北端から造られており南側に空きスペースがある。SB11は反対に南端を基準に北側を空けているようである。この2つの建物の新旧は不明である。柱間は両者とも桁行3〜3.3m、梁間2.15〜2.3mで梁間の西の間は2mである。この部分は庇と思われる。柱堀形は30〜47cmの円形で深さは最大72cmである。柱穴の検出面で柱の痕跡が見られ、15〜18cm四方の角柱と15〜18cmの円形のものがあった。抜き取りの痕跡は見られなかった。SB11の柱穴からは根石が検出されたもの



第82図 SB08・09遺構実測図(S=1/60)

もある。2棟とも出土した遺物は無いが周辺からは備前焼IV期頃と思われる播鉢（第89図29）が出土している。

建物の構造と周辺出土遺物から、この2棟は14世紀中頃以降の掘立柱建物と考えている。

#### SB12（第84図）

18区の西側の緩斜面に流れる自然流路（谷地形）に立地している。建物は斜面を削り出した平坦面に作られている。平坦面の山側は浅い溝状になっており斜面から流れてくる水や屋根から落ちる雨水を排水していたものと考えられる。平坦面にはピットが数多く存在し、確実に並ぶものから考えると、桁行4間（8m）で梁間2間（5.8m）、面積はおよそ46.4㎡である。梁間のF-F'ラインにはその他の梁間よりも1間分ピットが多い。このピットの北側にはほとんど遺構は無いが、これは谷地形になっているので遺構面が流失しているためであり、建物はさらに北西側に広がっていた可能性もある。建物の南西には柱穴列が2条あり、柵列か塀ではないかと考えている。建物と関係する遺構かもしれない。一条の柵列は調査区の端に造られているので、調査区外に広がっていることも考えられる<sup>※</sup>。柱間寸法は桁行1.85～2.15m、梁間2.6～3.2mである。平坦面の中央に近い所には焼土面があった。この焼上面が建物に関係したものか不明である。また、建物と柱穴列の間には礎石状の石が置かれていた。この石は加工は無いが明らかに平坦面をもっており、建物や柱穴列に関係する可能性もある。

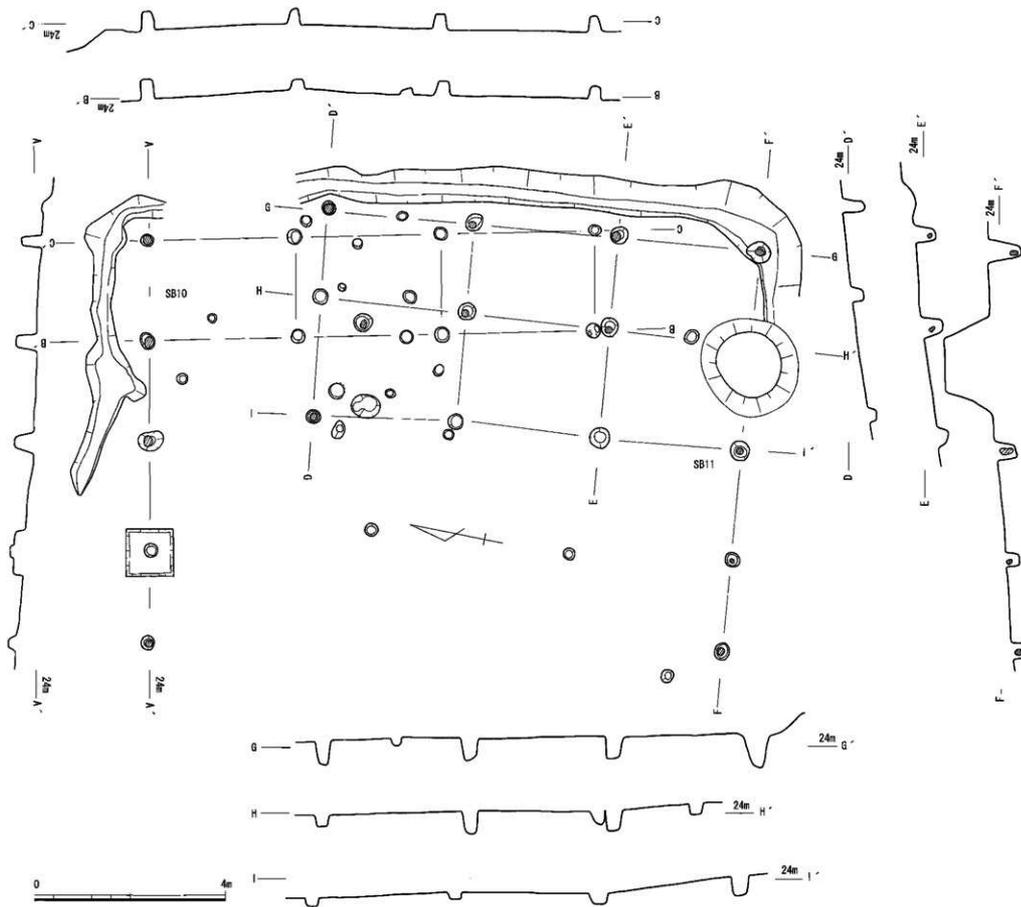
遺物は建物の柱穴や溝から出土していないが、柱穴列に近いピットから白磁の皿の底部（第89図19）と小片の土師器が、別のピットからは石製の硯（第91図2）が出土している。またこの建物は谷地形に建てられているが平坦面よりさらに下った谷の黒褐色土層（黒色土層）に青磁（第89図11など）や中世の上師器（第90図5など）が出土している。このような出土遺物から13世紀以降の掘立柱建物と考えられる。

#### SB13（第85図）

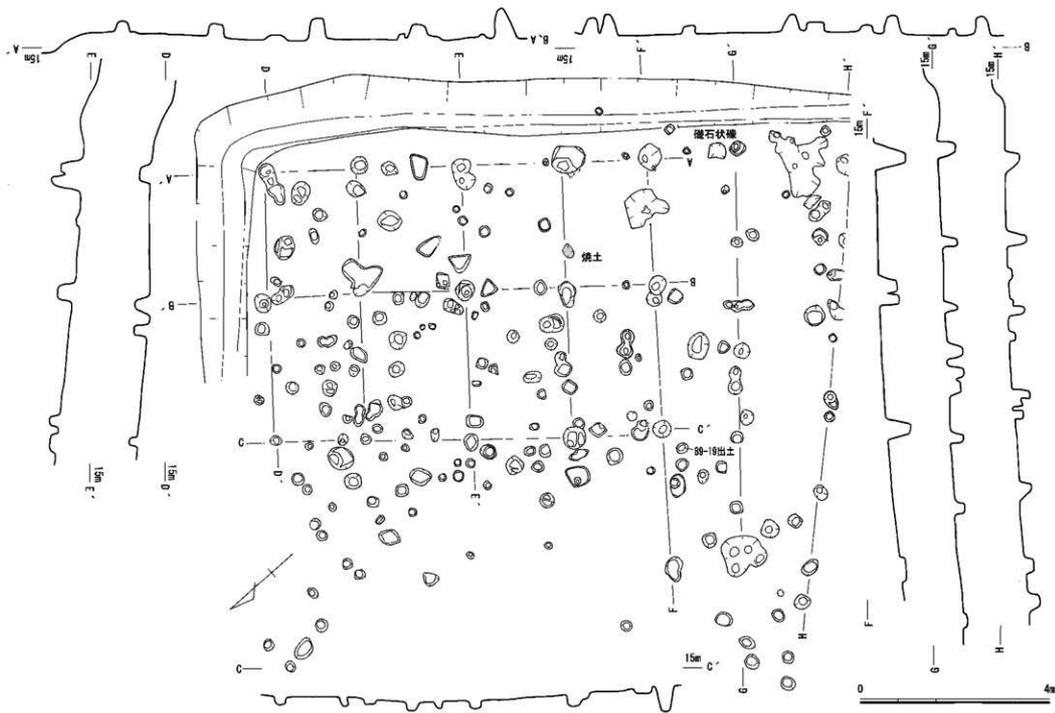
この建物は20区の東側にあり平坦地に造られている。北西に造り出しをもち桁行4間（7.1m）で梁間2（3）間（3.4（5.2）m）、面積はおよそ34.3㎡である。柱間寸法は桁行1.6～1.9m、梁間1.6～1.8mである。柱掘形は円形で、上層に柱痕が残るものもある。建物の北側には柱穴は検出されなかったので、造り出し部のみ突出している。建物の東端は柱穴の並びが揃っておらず、さらに調査区の外まで広がっている可能性もある。建物の南側には径が建物の柱穴より小さい柱穴の列があり柵か塀の可能性もある。柱間寸法は1.7mである。出土遺物は無く周辺からも関係するような遺構や遺物は検出されなかった。中世の掘立柱建物ではないかと推測している。

#### SB14（第86図）

21区の東側の平坦面に造られており、建物の一部は調査区の外に広がっている。建物の軸が南北を向いている東船遺跡で唯一の建物である。調査区の外に存在すると考えられる1つの柱穴を含めると桁行3間（7.2m）で梁間2間（3.2m）、面積はおよそ23㎡である。柱間寸法は桁行2.4m、梁間1.6～1.7mである。柱掘形は円形で、柱穴内に拳大の根石が残っているものもあった。東に建物が広がる可能性もあるが隣接する24区には関係するような柱穴など無く大きくは広がらない。さらに南にはB-B'ラインのようにやや離れているが直線に並ぶものピットもあるので、建物の規模は検出できた規模より大きくなる可能性もある。出土遺物は無く周辺からも関係するような遺構や遺物は検出されなかった。時期を確定できる証拠はないが、中世の掘立柱建物と考えたい。



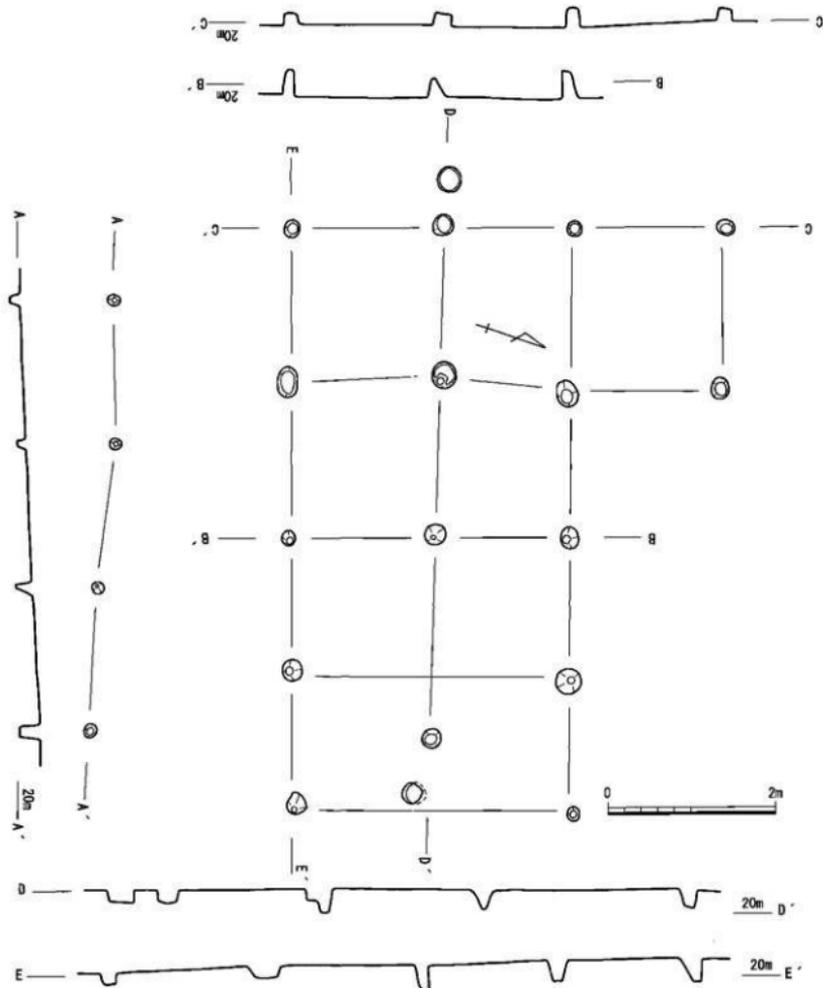
第83图 SB10·11 遺構実測図 (S=1/80)



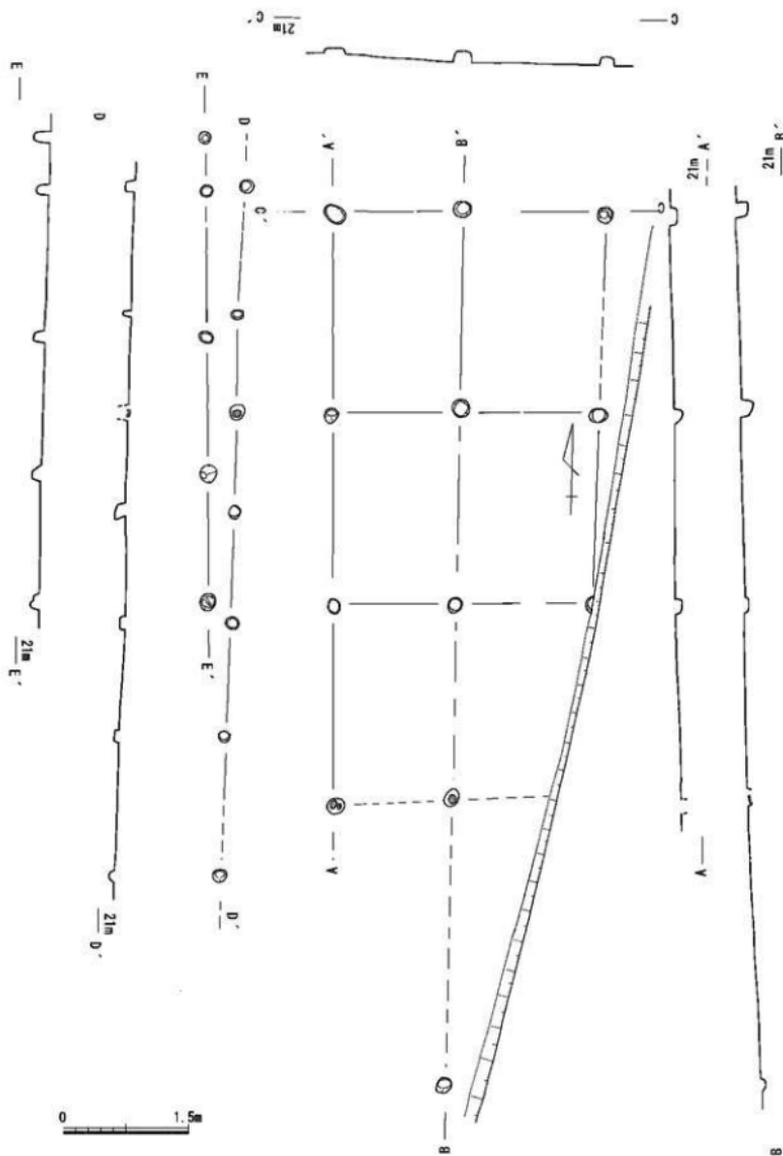
第84図 SB12遺構実測図(S=1/80)

SB15 (第87図)

21区の南端の平坦面に造られている。調査区の際にあたり一部が調査区外に広がっている。B-B'ラインの柱穴列は土層の堆積や柱穴の大きさから同じ遺構と判断した。そして南側の2穴にある程度平行した位置に並び、なおかつ土層も同じ様相であった2穴を含め建物と考えた。したがって北側の2穴に平行するであろう柱穴は調査区外にあると推定される。柱穴列は長さ3間(6.6m)で、方形に柱穴が並ぶ部分は柱間がおよそ2mであった。柱穴の壁を掘りすぎているものが多く断面には壁の推定ラインを破線で記載している。出土遺物は無く時期を特定できない。



第85図 SB13遺構実測図(S=1/60)



第 86 图 SB 14 遺構実測図 (S = 1 / 60)

## SB16 (第88図)

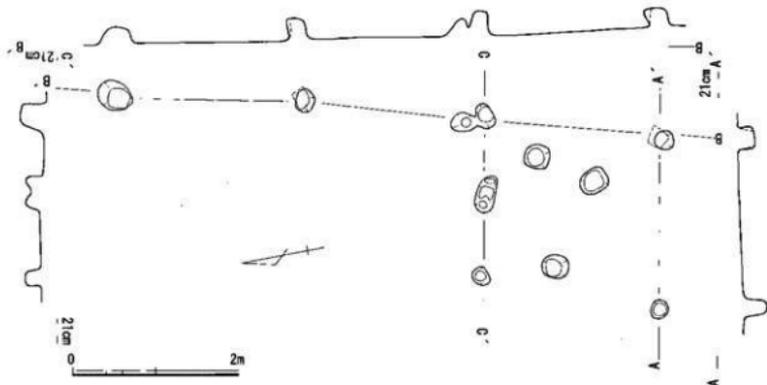
この建物は25区のほぼ中央の平坦面で弥生時代後期以降のSD03や古墳時代後期のSK10の東側に造られている。調査区の角にあたるため遺構の一部は調査区外に広がっている。また25区は北西に広がっている部分が一段低くなっており、そこを削平した時に遺構の一部も破壊されているようである。したがって建物全体の把握は不可能である。調査によって確認された建物の規模は桁行2間(4.2m)で梁間1間(3m)、面積はおよそ12.6㎡となるが、A-A'ラインは延びるようであり、B-B'ラインも同じであることから最低4間×2間になる可能性が高い。柱間寸法は桁行1.8~2.4m、梁間3mである。柱壱形は円形で、柱穴内に扁平な根石が残っているものもあった。出土遺物はなく時期は不明である。

## 第2節 出土遺物 (第89~91図)

中世の遺物は陶器、磁器、土師器、石製品が出土している。この節では12区のSB01で出土した土師器以外の遺物を掲載している。したがってピットから出土したものや遺構の周辺から出土したもの、包含層から出土したものを扱っている。

第89図1~13は青磁である。1~6と8が碗の口縁部から胴部のもの、10~13は碗の底部である。碗はしっかりした鎗蓮弁文のもの(1・2・8)と鎗蓮弁が退化したもの(3)、雷文のもの(4)、無文のもの(5・6)に分けられる。7は口縁部との境に段が付く皿である。15は青白磁の菊皿である。9と14は李朝で、9がそば茶碗、14は白磁の皿である。16~19は白磁で全て無文である。17と18は口壳の皿で19は皿の底部である。19は18区のSB12が建つ平坦面に掘られていたピットから回収できないほどの小片の土師器と共に出土している。20と21は染付の皿と碗である。22~24は東播系の須恵器で片口鉢の口縁部である。22は片口が残っている。25は内外面に叩き目のある須恵器の胴部である。東播系須恵器の範疇ではないかと考えている。26からは陶器である。26と27は鉢だが産地と時期は不明である。28と29は備前焼の播鉢である。29は14区のSB10・11の周辺で出土したものである。30と31、33は播鉢である。30は片口が付く。32と34は鉢である。播日は見られないが播鉢かもしれない。34は内面にハケメが施されている。

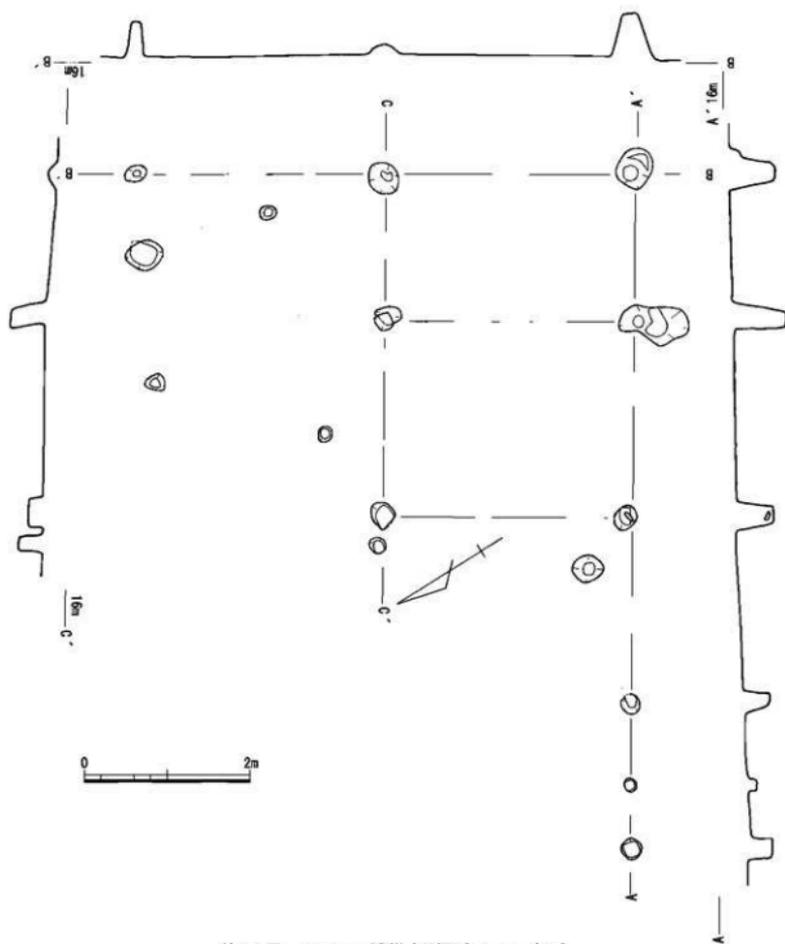
第90図は1~10が中世土師器である。1と2は皿で3~10は碗である。9と10には付け高台が施



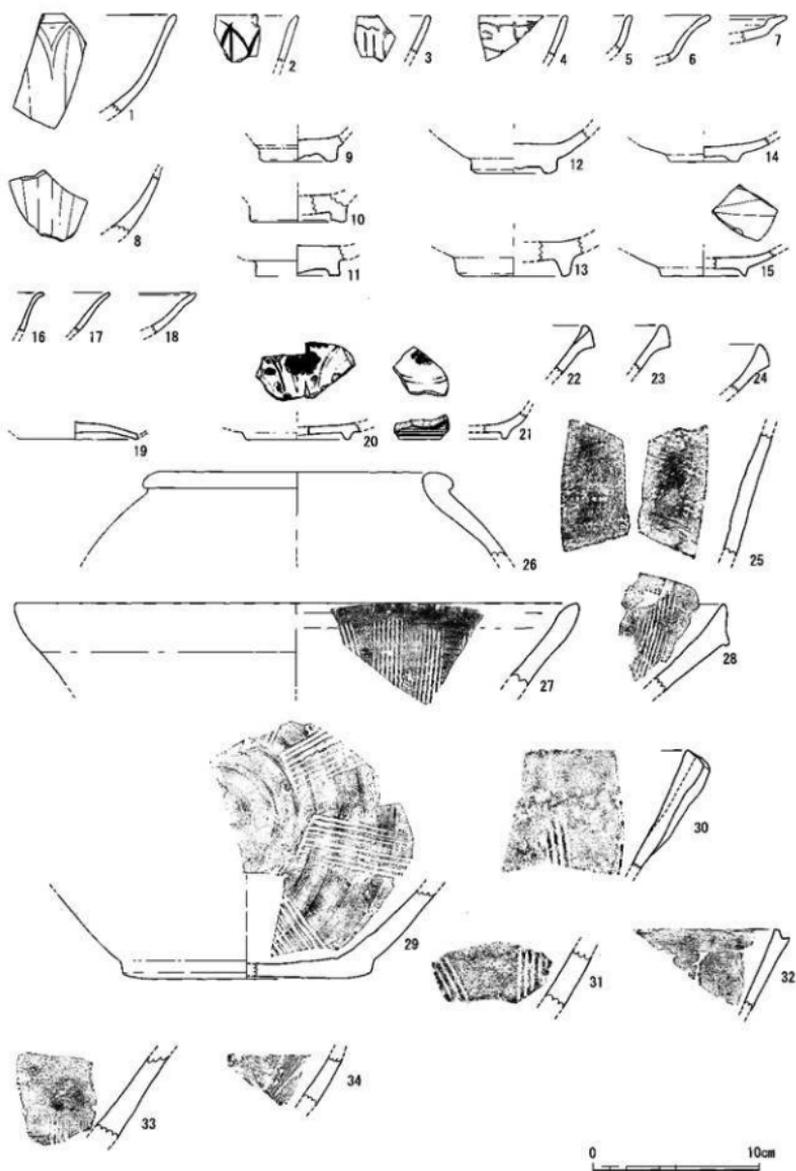
第87図 21区 SB15遺構実測図(S=1/60)

されている。口縁部まで残っているものは2点のみでほとんどは底部あるいは胴部のみである。底部の切り離し技法は基本的に回転糸切りであるようだが、ナデや風化によって痕跡が残っているものはほとんど無かった。11と12は内面黒色土器であるが粗い作りで内面の黒色は著しくない。12は付け高台である。これらは産地も不明であるし時期も明らかではないので中世土師器と同じ図版に掲載している。

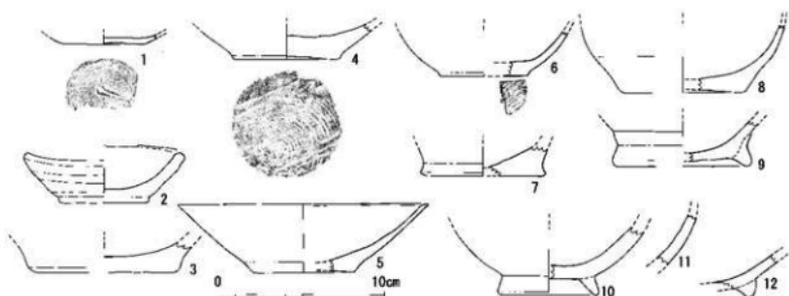
ではここまで説明した遺物の時期を表11を参考にして考えてみたい。青磁は龍泉窯系碗B1類（13世紀初頭から前半）から無文の龍泉窯系碗D類（15世紀後葉～16世紀前葉）の時期に収まる<sup>9</sup>。出土した割合から見ると13～14世紀が中心ではないだろうか。白磁碗皿はA類（13～14世紀）からE2（16世紀）まで出土している。東播系須恵器は12世紀末葉～13世紀初頭とされる第II期の第2段



第88図 SB16遺構実測図(S=1/60)



第 89 图 遺構外出土陶磁器実測図 (S = 1/3)

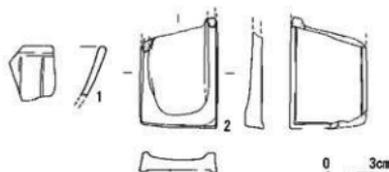


第90図 中世土師器・黒色土器実測図(S=1/3)

階の口縁部が出土している。備前焼はIV期以降にあたるようなので14世紀中頃から15世紀になるだろうかと。

第89図のその他の陶器は在地産のものではないかと考えている。これらは現在のところ時期や産地を判断することはできていない。

第90図の中世土師器の時期は隠岐での出土例に限りがあるため今のところ編年は行われていない。出雲や石見地方は土師器の編年が提示されているので、参考にしながら隠岐出土の土師器の編年を考える必要があるが、今後の課題としたい。11と12の内面黒色土器の時期は不明である。



第91図 ビット内出土遺物(S=1/3)

### 第3節 小結

東船遺跡の掘立柱建物は表9に示したように17棟検出された。このうち遺物の出土したのはSB01のみでその他は時期が不明である。しかし柱穴の配置からは1間×2間など柱穴の少ないものと数間×数間規模のものに分けられる。これらは時期と遺構の性格を反映しているものと考えられるが今後の課題としたい。

表9 中世遺構一覧

調査区	遺構名	軒行 (m)	梁間 (m)	面積 (㎡)	規模 (間)	出土遺物	時期
12	SB01	6.0~6.3	3.0	18.0	3×1	土師器	12世紀中頃以降
13	SB02	4.6	2.5	11.5	2×1		
船工	SB03	2.4	1.7	4.0	1×1		
11	SB04	6.3	4.2	26.5	3×2		
11	SB05	5.5	1.7	9.3	2×1		
11	SB06	6.1	2.3	14.0	2×1		
11	SB07	6.3	1.9	12.0	3×1		
14	SB08	4.9	4.3	16.0	2×2(変形)		
14	SB09	4.1	4.7	19.2	2×1		
14	SB10	9.1	8.5	77.3	(3×4)		14世紀中頃以降
14	SB11	9.4	8.5	80.0	(3×4)		"
18	SB12	8.0	5.8	46.4	4×2		13世紀以降
20	SB13	7.1	3.4(3.2)	34.3	4×2(3)		
21	SB14	7.2	3.2	23.0	3×2		
21	SB15	6.6			3×2		
25	SB16	4.2	3.0	12.6	2×1		
21	SB17	6.6	2.1	13.8	3×1		

## 第10章 近世以降の遺構と遺物

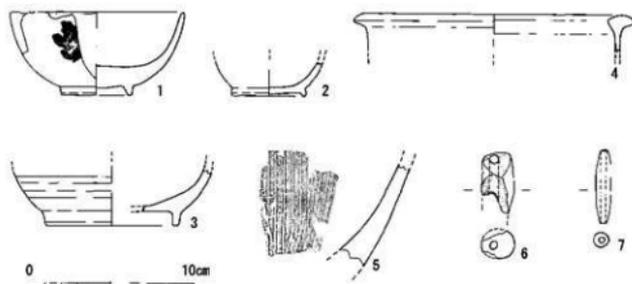
近世の遺構は土坑が確認され、それらは墓坑であるものが多くを占め船王区と17区で集中して検出している。また、遺物は陶磁器を中心に遺構に伴わないものが各調査区から出土している。

### 第1節 土坑

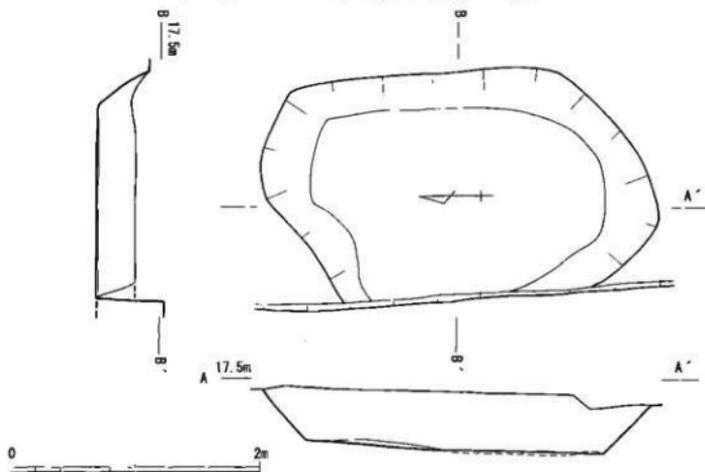
#### SK11 (第93図)

SK11は、3区の西壁沿いの標高17.5m付近で検出し、調査区外にも広がる遺構である。平面は不整形形状を呈して、その規模は南北3.2m、東西1.8m以上、深さ40cm程である。土坑底面は平坦であり締まりのない暗褐色土が堆積していた。土坑内からは陶磁器・土錘(第92図)、銭貨(第131図1)が覆土に混在しており、これらの出土遺物は土坑に廃棄されたものと考えられる。

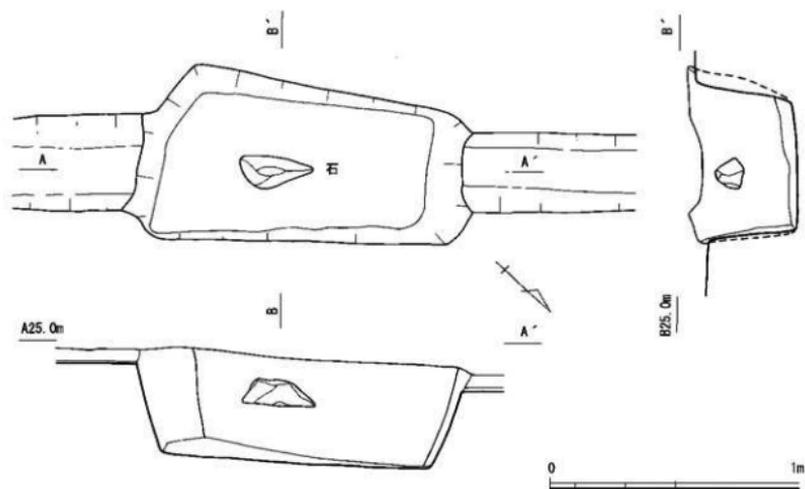
出土した陶磁器のうちで図化したものは5点(1~5)ある。1は肥前系の磁器碗<sup>②</sup>であり、2は石見焼の陶器碗、3は陶器壺底部、4は陶器甕口縁、5は陶器摺鉢である。また、他に肥前系の広



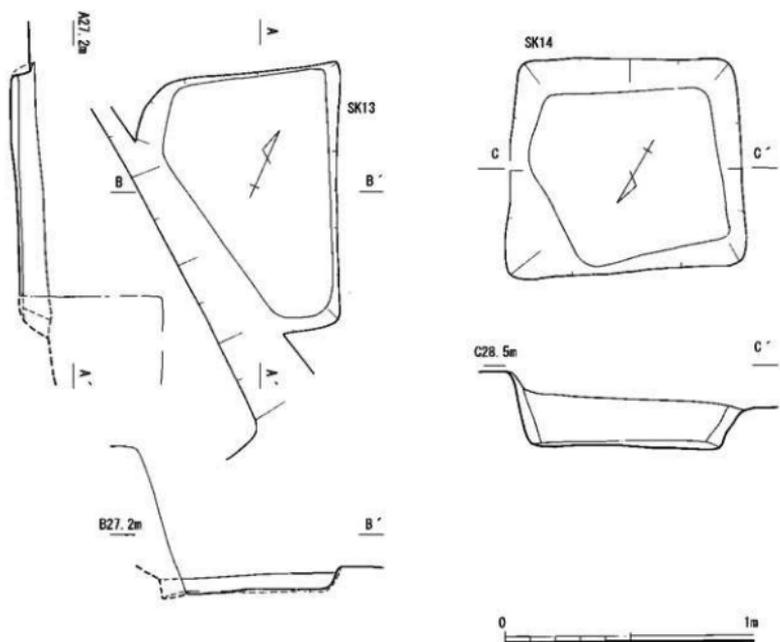
第92図 SK11出土遺物実測図(S=1/3)



第93図 SK11遺構実測図(S=1/40)



第94图 SK12遺構実測図 (S = 1/20)



第95图 SK13·14遺構実測図 (S = 1/20)

東系碗、肥前系の見込み蛇目輪刺ぎの皿、陶胎染め付けの碗等が出土している。これらの陶磁器の時期が18世紀～19世紀前半になることから、土坑は19世紀前半頃の時期が推測される。

#### SK12 (第94図)

SK02は12区の北西側標高25m付近で検出した上坑である。平面は長方形に近い形で長径1.3m、短径0.7m、深さは45cmである。上坑内には締まりのない暗褐色土が堆積しており、中央付近からは石材が出土している。この遺構の性格は明確に出来ないが、近接する船土区で近世墓を3基検出していることから墓坑である可能性が考えられる。

#### SK13 (第95図)

SK13は船土区の中央付近の標高27m付近で検出し、コーナーの一部を調査できなかった上坑である。平面は長方形で長径1.1m、短径0.8m、深さは10cm程である。覆土は暗褐色土であり遺物の出土はなかった。この上坑の時期については遺物が無く分からないが、同調査区内で近世墓を検出しているから近世頃の時期が想定される。

#### SK14 (95図)

SK14は船土区の北東側標高28.5mで検出した長方形の土坑である。上坑の規模は径95cm、深さ30cm程で底面は平坦である。覆土は暗褐色土で出土遺物は認められなかった。この上坑の時期は不明であるが、SK13と同様に近世のものである可能性が考えられる。

## 第2節 近世墓

検出した土坑のうちで、近世墓と確実に考えられるものが船土区、17区で集中して検出した。近世墓は船土区で3基、17区で17基の総数20基検出した。以下それぞれの近世墓について述べる。

(船土区)

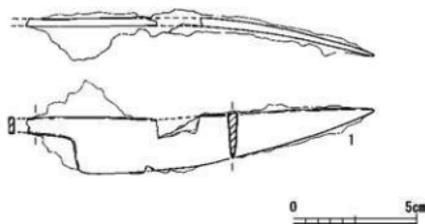
#### SK15 (97図)

遺構は調査区の西側標高25.5m付近で検出しており、一部が現代の墓地へのコンクリート道があるために調査ができなかった。上坑の形状は円形であり規模は径65cm、深さ40cmである。底面は平坦で壁に沿って幅10～15cm、深さ5cm程の溝が穿たれていた。上層断面の観察から土坑内には棺が納められていたものと推測され、5層が裏込め土、2～4層が棺内流入土と思われる。土坑内からは、棺床と考えられる木片と小刀(96図)1本、銭貨5枚(131図76～79)、漆器が副葬され、銭貨は小刀の周辺とやや離れた場所に集中した状態で置かれていた。包丁は若干曲がっているもので、銭貨は分かるものは新寛永<sup>②</sup>である。

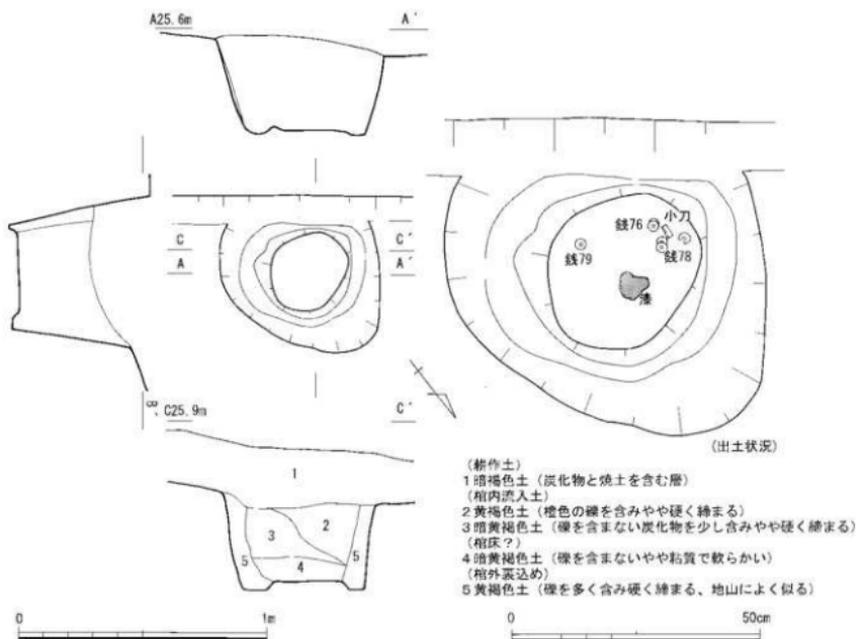
#### SK16 (第98図)

遺構は調査区西側のSK15の東側で検出し半分ほどが未調査部分である。また2つの新旧の土坑が切り合っていることが上層断面から判明した。

上坑の形状は明確にはならないが不整な円形を呈し、規模は現状で長径0.8m、短径0.45m、深さは新土坑で0.7m、旧土坑で0.85mである。土坑内から



第96図 SK15鉄器実測図(S=1/2)



第97図 SK15遺構実測図 (S = 1/10・1/20)

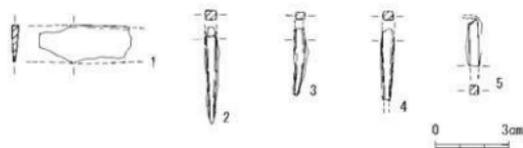


第98図 SK16遺構実測図 (S = 1/20)

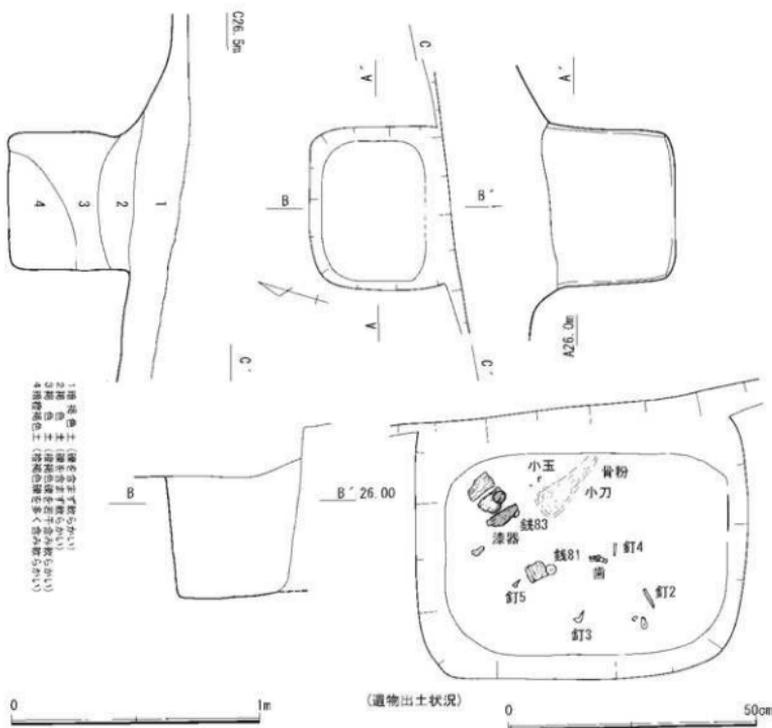
は遺物は出土しなかった。

SK17 (第100図)

遺構は、SK16の北西側に並ぶように位置し、土坑の南西側の一部を調査できなかった土坑である。土坑の形状は方形を呈し規模は東西0.7m、南北0.55m以上、深さ0.5mである。土坑内からは、棺財と思われる木片と漆器、小刀片(99図1)、鉄釘(99図2~5)、銭貨(131図80~83)、小玉(図版77)の他に人骨(歯)が中央付近で出土している。また、銭貨は、漆器や小玉の周辺と中



第99図 SK17出土遺物実測図(S=1/2)



第100図 SK17遺構実測図(S=1/10・1/20)

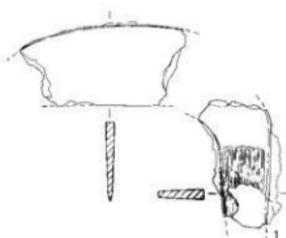
央付近で出土し、分かるものは無文銭と新寛永である。釘は北側で出土している。

(17区)

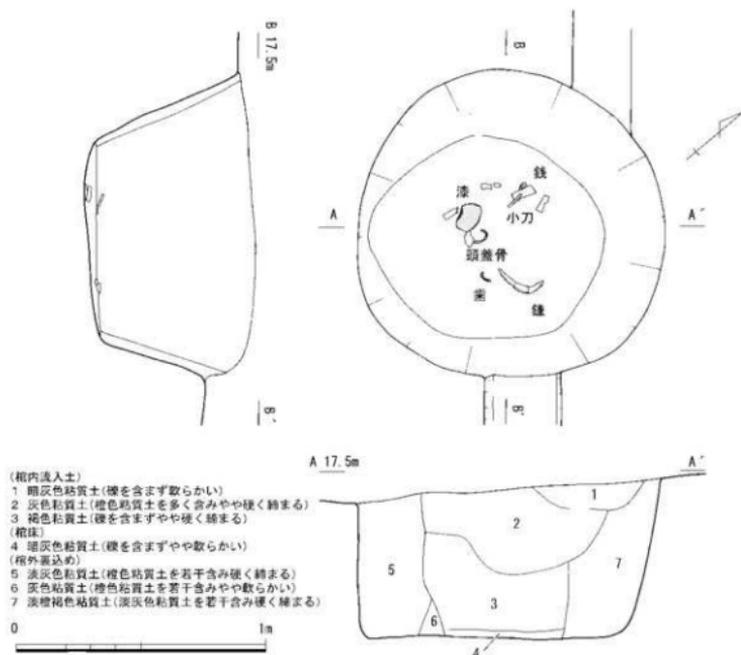
17区の南西側では、大きく3群に分かれた近世墓を検出している。第1群は南北方向に並ぶ2基(SK18・31)で円形プランで墓坑といった特徴を持つ群である。第2群と3群は、平行して北西-南東方向に列状に並ぶ近世墓群であり北東側(第2群)の4基(SK19~22)と南西側(第3群)の10基とに分けられる。

SK18 (第102図)

遺構は第1群として分けられるもので、標高17.5m付近で検出している。形状は円形の墓坑であり規模は径1.2m深さ0.65mで深く底面は平坦である。土層観察から墓坑内には棺が納められたと考えられ、棺外の裏込め土(5~7層)と棺内流入土(1~3層)、棺床の腐植土(4層)とに分けることができる。墓坑内



第101図 SK18出土鉄器実測図(S=1/2)

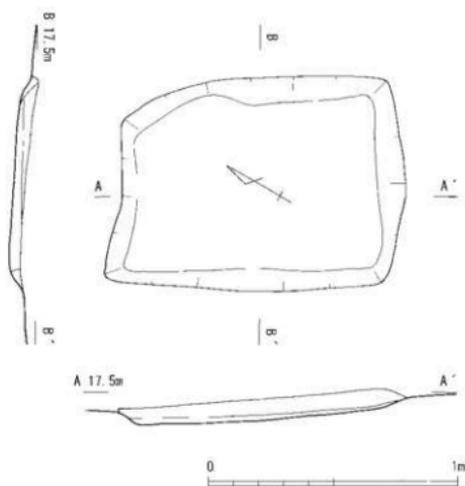


第102図 SK18遺構実測図(S=1/20)

の棺床の竈食上層直上からは、棺材の木片、鎌(101図1)、小刀(101図2)、銭貨と中央部分からは漆器片と人骨(頸)が出土している。銭貨は小刀の近くから3枚がまとまって出土している。銭貨は寛永通宝で、判別可能な2枚は文銭である。

#### SK19 (第103図)

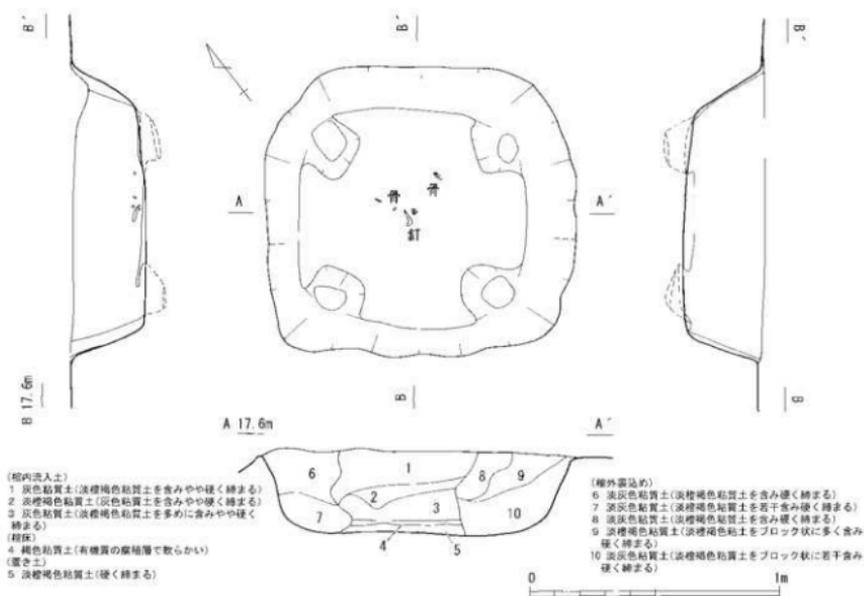
遺構は第2群として分けられる一群の南東端の標高17.5m付近に位置している。形状は長方形の墓坑であり規模は長径1.2m、短径0.9m、深さ7cm程と浅いものである。底面は平坦で灰色粘質土が堆積していた。墓坑内からは遺物は出土しなかった。



第103図 SK19遺構実測図(S=1/2)

#### SK20 (第104図)

遺構は第2群として分けられるもので、標高17.5m付近で検出している。形状は方形の墓坑であり規模は長径1.25m、短径1.2m、深さ35cm程で浅い墓坑で底面は平坦である。また、床面の四隅に



(棺内流入土)

- 1 灰色粘質土(淡褐色粘質土を含まずやや硬く締まる)
- 2 淡褐色粘質土(灰色粘質土を含まずやや硬く締まる)
- 3 灰色粘質土(淡褐色粘質土を多めに含まずやや硬く締まる)

(棺床)

- 4 褐色粘質土(有機質の腐植層で軟らかい)
- 5 (置き土)
- 6 淡褐色粘質土(硬く締まる)

(棺外露出)

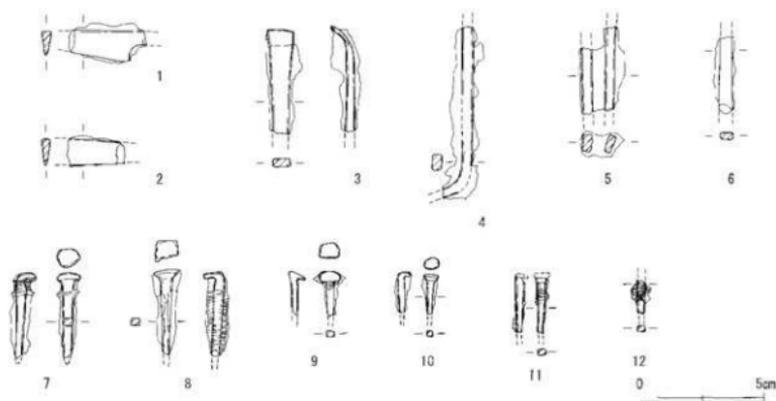
- 7 淡灰色粘質土(淡褐色粘質土を若干含む硬く締まる)
- 8 淡灰色粘質土(淡褐色粘質土を若干含む硬く締まる)
- 9 淡褐色粘質土(淡褐色粘質土を多めに含む硬く締まる)
- 10 淡灰色粘質土(淡褐色粘質土をブロック状に若干含む硬く締まる)

第104図 SK20遺構実測図(S=1/20)

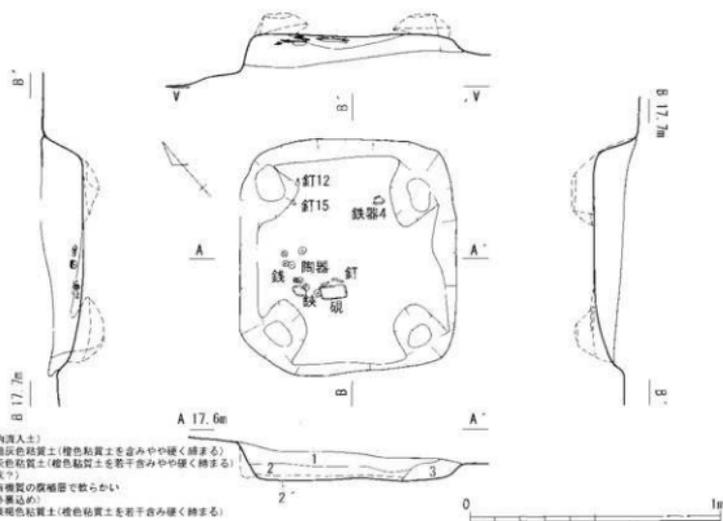
は径25cm、深さ10cm程のビットが掘られていた。

土層観察から墓坑内には棺が納められたと考えられ、棺外の裏込め土(6~10層)と棺内流入土(1~3層)、棺床の腐植土(4層)、棺底下の置き土(5層)とに分けることができる。墓坑内の棺床の腐植土層直上からは、人骨片が中央から北側にかけて、鉄釘1本が中央部より出土している。

SK 2 1 (第106図)



第 105 図 SK 2 1 出土鉄器実測図 (S = 1/2)



- (棺内流入土)  
 1 暗灰色粘質土(褐色粘質土を混みや硬く締まる)  
 2 灰色粘質土(褐色粘質土を若干混みや硬く締まる)  
 (腐植土?)  
 2' 赤褐色の腐植層で軟らかい。  
 (棺外裏込め)  
 3 淡褐色粘質土(褐色粘質土を若干混みや硬く締まる)

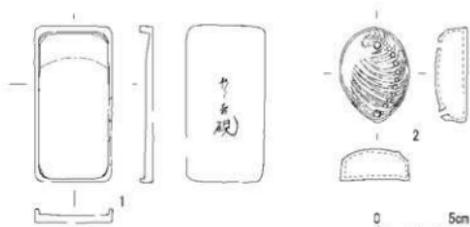
第 106 図 SK 2 1 遺構実測図 (S = 1/20)

遺構は、第2群として分けたい群に属するものである。形状は方形の墓坑で規模は長径95cm、短径90cm、深さ15cmで浅い墓坑である。墓坑床面は平坦でSK20と同じように四隅に径20cm深さ10cm程のピットが掘られていた。

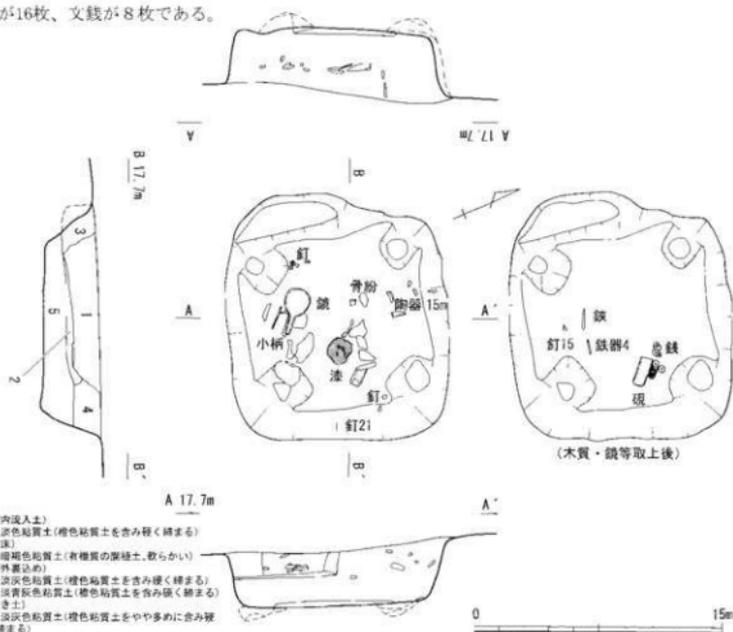
浅いこともあり良く分からない土層断面であったが、墓坑内には

棺が納められていたものと思われ、棺外の裏込め土(3層)、棺内流入土(1・2層)、棺床の腐植土(2'層)とに分けて考えることができる。墓坑内の腐食土層上面からは、硯(107図1)、水滴(107図2)、銭貨(131図10~34)、鉄器(105図1~6)が西側でまとまって出土し、漆器片が東側で出土している。これらは副葬品と考えられるもので、硯と水滴は伏せられた状態で置かれ、銭貨は重なるようにまとまっており、紐に通した状態で置かれていた可能性が考えられる。硯は裏面に文字が描かれているものであり、水滴は鮫を模した形状のもので孔が1対付いているものである。

鉄器は、1・2が小刀と考えられる破片であり、3が用途不明なものであるが先端が薄く反っている形状のものである。4~6は断面が方形で鉄釘より長いものであるが用途が不明なものである。銭貨は総数で27枚と大量に出土しており、判別が付く24枚すべて寛永通宝である。これらは、古寛永が16枚、文銭が8枚である。



第107図 SK21出土遺物実測図(S=1/3)



- (棺内流入土)  
 1 灰色粘質土(褐色粘質土を含み硬く締まる)  
 (腐植土)  
 2 褐色粘質土(有機質の腐植土、散らかい)  
 (棺外裏込め)  
 3 淡灰色粘質土(褐色粘質土を含み硬く締まる)  
 4 淡青灰色粘質土(褐色粘質土を含み硬く締まる)  
 (覆き土)  
 5 淡灰色粘質土(褐色粘質土をやや多めに含み硬く締まる)

第108図 SK22 遺構実測図(S=1/20)

### SK 22 (第108図)

遺構は、第2群として分けた群に属し、最も西側に位置している。形状は方形の墓坑で規模は長径95cm、短径90cm、深さ25cmで浅い墓坑である。墓坑床面は平坦であり、SK20・21と同じように四隅に径20cm、深さ5cm程のピットが掘られていた。

土層断面観察から墓坑内には棺が納められたと推測され、棺外の裏込め土(3・4層)、棺内流入土(1層)、棺の腐食土(2層)、置き土(5層)とに分けて考えることができる。

墓坑内の腐食土層上からは、棺材と思われる木片、硯(109図2)、柄鏡(111図1)、小柄(111図2)、鉄等の鉄器(111図3、4~6)、銭貨(131図35~59)、漆器片、人骨片が出土し、副葬品と考えられる遺物は墓坑の東側に集中している。また、副葬品は大きくその出土位置で2群に分かれ、重なって置かれた柄鏡と小柄周辺の鉄等鉄器の一群と硯、漆器、銭貨の一群に分かれる。さらに銭貨は大量に重なって出土していることから紐に通したものと考えられる。また、覆土に混在して鉄釘、陶器片(109図1)、土師器片も出土している。

陶器片は香炉の破片と思われる、布志名焼系で時期が19世紀代頃のものと思われる。

柄鏡は非常に遺存状態が良好で白銅色に輝く部分が見られるものである。鏡背文様は中央部に家紋が配置されており、左下には「天下一」とある。小柄は柄部に梅花の文様が見られるものである。

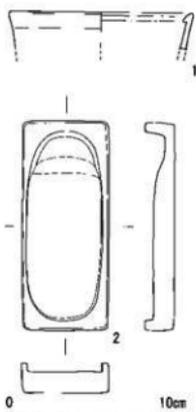
銭貨は大観通宝1枚、開元通宝1枚、寛永通宝24枚が出土している。寛永通宝は判別ができるものは古寛永12枚、文銭7枚、新寛永が2枚である。

鉄釘は15本出土しており長さ4cm前後である。

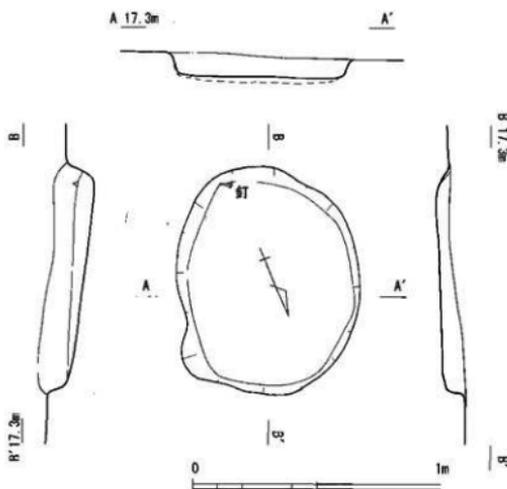
### SK 23 (第110図)

遺構は、第3群として分けた一群に属し標高17m付近に位置している。形状は楕円形の墓坑で規模は長径95cm、短径75

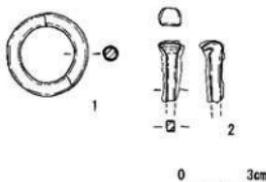
cm、深さ10cmと浅いものである。墓坑床面は平坦であり、覆



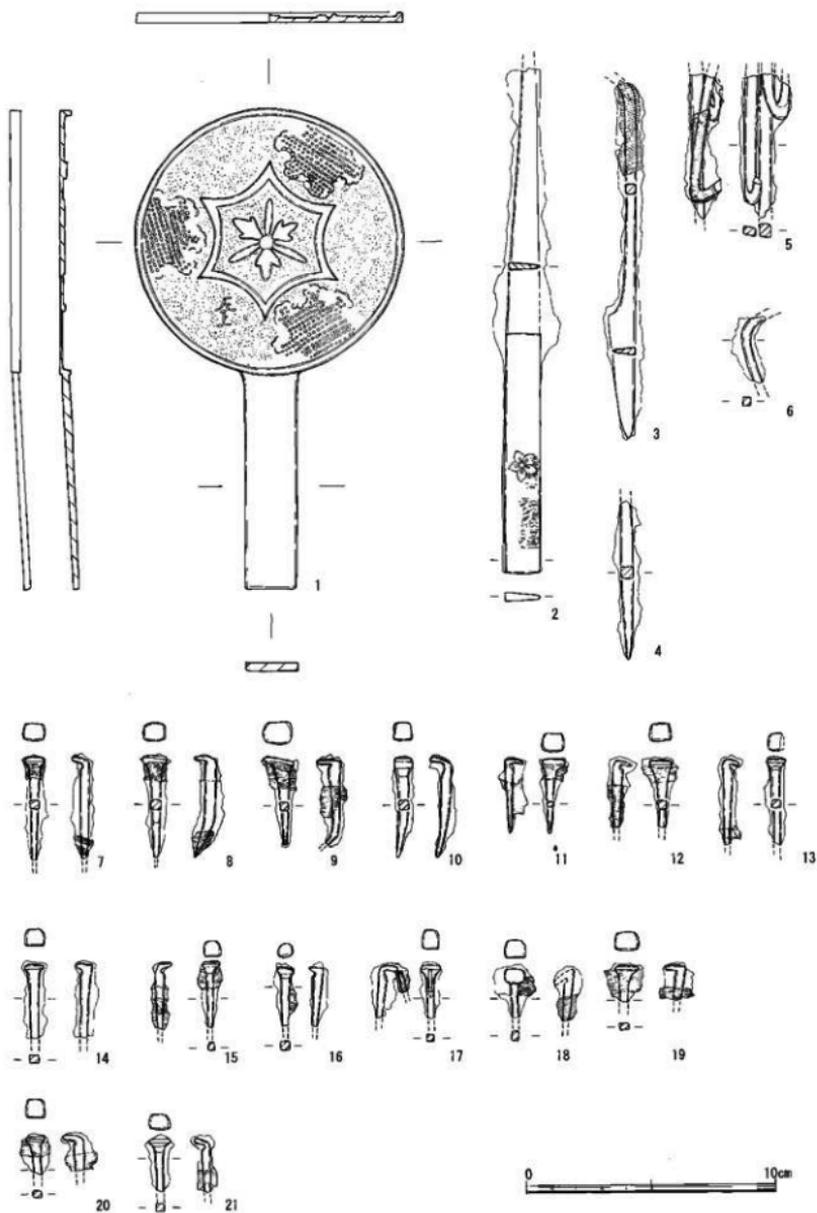
第109図 SK 22  
出土遺物実測図(S=1/3)



第110図 SK 23 遺構実測図(S=1/20)



第112図 SK 23 金属器実測図(S=1/2)



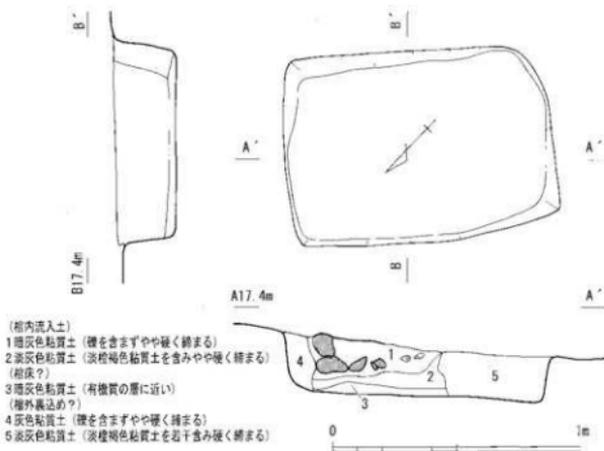
第111图 SK 22 金属器实测图(S=1/2)

土は暗褐色土である。墓坑内からは、環状金属器（112図1）、鉄釘（112図）が出土しているが、環状金属器については出土位置を明確にできなかった。

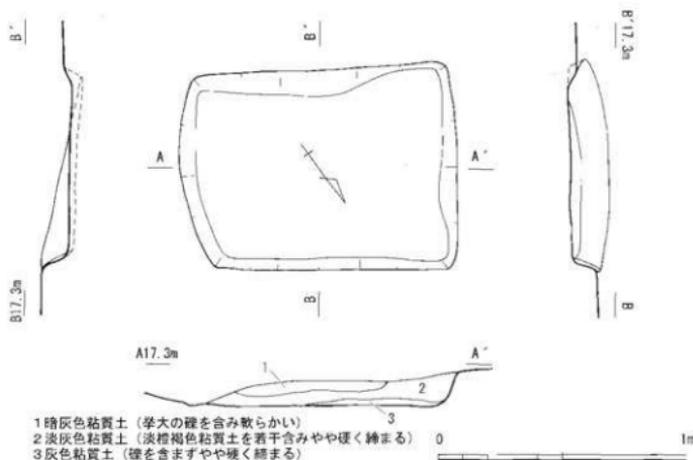
環状金属器は用途は分からないが、鉄地に銅が張ってあるもので、貫通していない孔が一つ空けられている。鉄釘は他の近世墓出土のものと同様なサイズのものである。

#### SK 2 4（第113図）

遺構は、第3群として分けた一群に属するものである。形状は長方形の墓坑で規模は長径1.1m、短径0.8m、深さ25cmである。土層断面観察から墓坑内には棺が納められていたと推測され、棺外の裏



第113図 SK 2 4 遺構実測図 (S = 1/20)



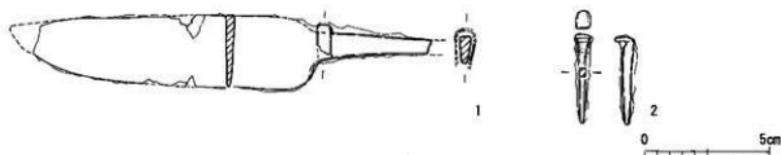
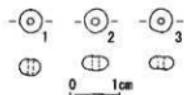
第114図 SK 2 5 遺構実測図 (S = 1/20)

込め土（4・5層）、棺内流入土（1・2層）、棺の腐食土（3層）とに分けて考えることができる。なお、墓坑内からは遺物は出土しなかった。

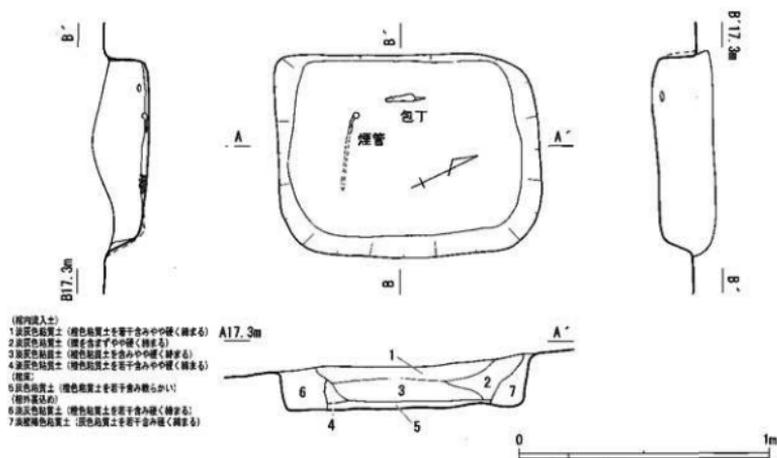
#### SK 25（第114図）

遺構は第3群として分けた一群に属している。形状は長方形の墓坑で規模は長径1.15m、短径0.8m、深さ15cm程である。土層

断面観察からは、墓坑内に棺が納められていたと積極的に認められる。第115図 SK 26・29 小玉実測図（S=1/1）



第116図 SK 26・27 鉄器実測図（S=1/2）



- (棺内流入土)  
 1 黄褐色粘質土（褐色粘質土を若干含みやや硬く締まる）  
 2 黄褐色粘質土（褐色粘質土を若干含みやや硬く締まる）  
 3 黄褐色粘質土（褐色粘質土を若干含みやや硬く締まる）  
 4 黄褐色粘質土（褐色粘質土を若干含みやや硬く締まる）  
 (腐食)  
 5 灰色粘質土（褐色粘質土を若干含み軟らかい）  
 (棺内腐食土)  
 6 黄褐色粘質土（褐色粘質土を若干含み硬く締まる）  
 7 黄褐色粘質土（褐色粘質土を若干含み硬く締まる）

第117図 SK 26 遺構実測図（S=1/20）

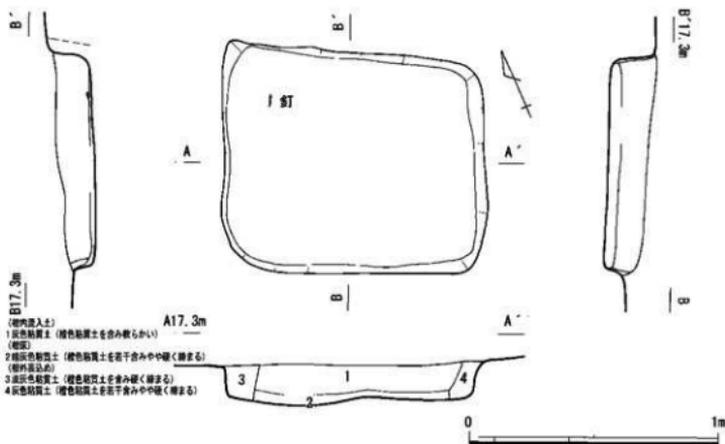
れる証拠はなかった。また遺物も出土しなかった。

#### SK 26（第117図）

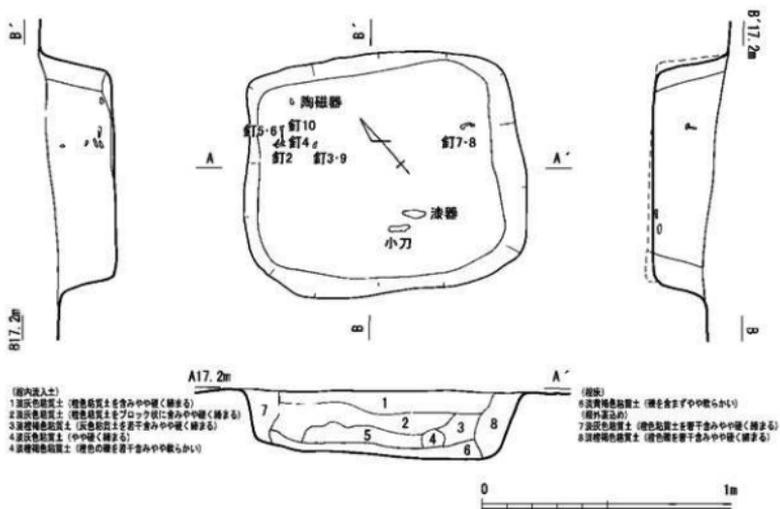
遺構は第3群とした一群に属し形状は長方形の墓坑である。規模は長径1.05m、短径0.8m、深さ20cm程で床面は平坦である。上層断面観察から墓坑内に棺が納められていたと考えられ棺外の裏込土（6・7層）、棺内流入土（1～4層）、棺の腐食土（5層）とに分けて考えることができる。墓坑内からは棺の腐植土上面から包丁（116図1）と煙管、小玉（115図1）が出土している。

#### SK 27（第118図）

遺構は第3群とした一群のもので長方形の墓坑である。墓坑の規模は長径1.15m、短径0.9m、深さ20cm程で床面は平坦である。土層断面の観察から墓坑内に棺が納められていたと考えられ、棺外の裏込め土（3・4層）、棺内流入土（5層）、棺の腐食土（2層）とに分けて考えられる。墓坑内



第118図 SK 27 遺構実測図 (S=1/20)

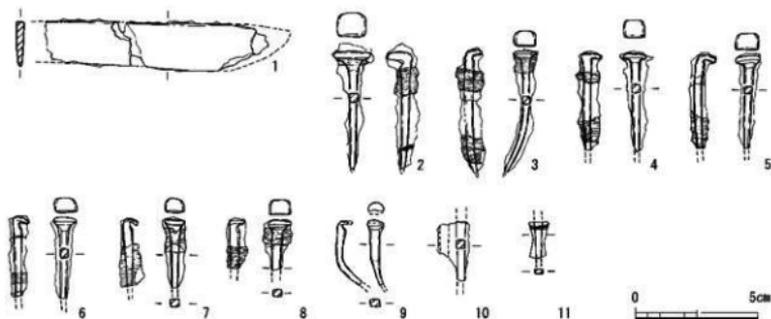


第119図 SK 28 遺構実測図 (S=1/20)

からは鉄釘 (116図2) が1本出土している。

#### SK 28 (第119図)

遺構は第3群とした一群の中で最も北西に位置している。墓坑は長方形でその規模は長径1.1m、短径1m、深さ30cmで床面は平坦である。上層断面の観察から墓坑内に棺が納められていたと推測され、棺外の裏込め土(7・8層)、棺内流入土(1~5層)、棺の腐食土(6層)とに分けて考えられる。墓坑内の棺の腐植土上面からは、小刀(120図1)、漆器片が南側に縋まって出土している。また、鉄釘(120図2~10)と陶磁器片が出土している。出土した小刀は刃部のみが遺存してい



第120図 SK 28 出土鉄器実測図 (S = 1/2)

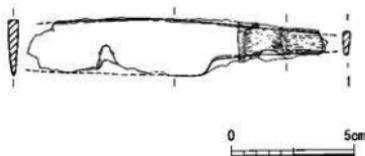
るものであり、鉄釘は5cm前後のものである。

SK 29 (第122図)

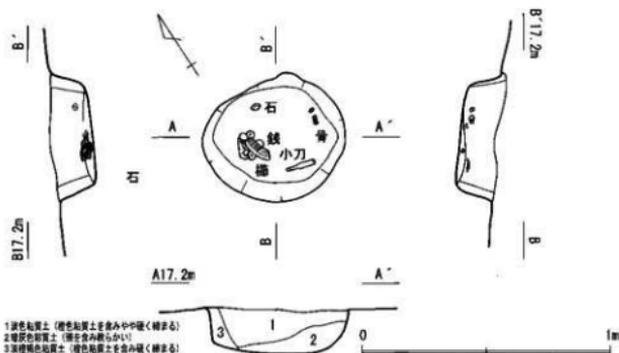
遺構は第3群とした一群に属しているが、列からややはずれたSK10・11の南西側に位置している。墓坑は楕円形でその規模は長径0.6m、短径0.5m、深さ20cmと他のものにして非常に小さいものである。土層断面の観察では、墓坑内に棺が納められていた積極的な証拠については見て取ることはできなかった。

墓坑内の床面付近からは櫛、小玉 (115図2・3)、銭貨 (131図60~74)、小刀 (121図1)、丸い石、人骨 (歯) が出土している。櫛は上手く取り上げることが出来なかったが、長さ12cm、幅4cm程のものである。丸い石は、図化しなかったが暗緑色の川原石状のものである。

銭貨は24枚全て寛永通宝であり、判別が付いたものは古寛永13枚、文銭2枚、新寛永3枚である。



第121図 SK 29 出土小刀実測図 (S = 1/2)

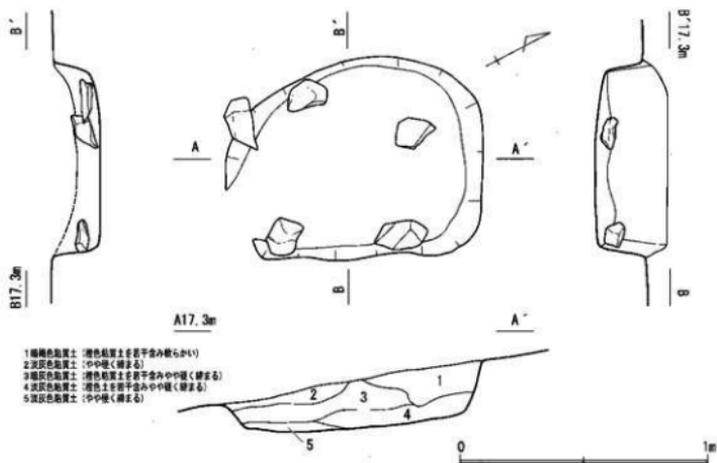


- 1 赤色粘質土 (褐色粘質土を含まない中硬く締まる)
- 2 褐色粘質土 (粘土を含み軟らかい)
- 3 黄褐色粘質土 (褐色粘質土を含まない中硬く締まる)

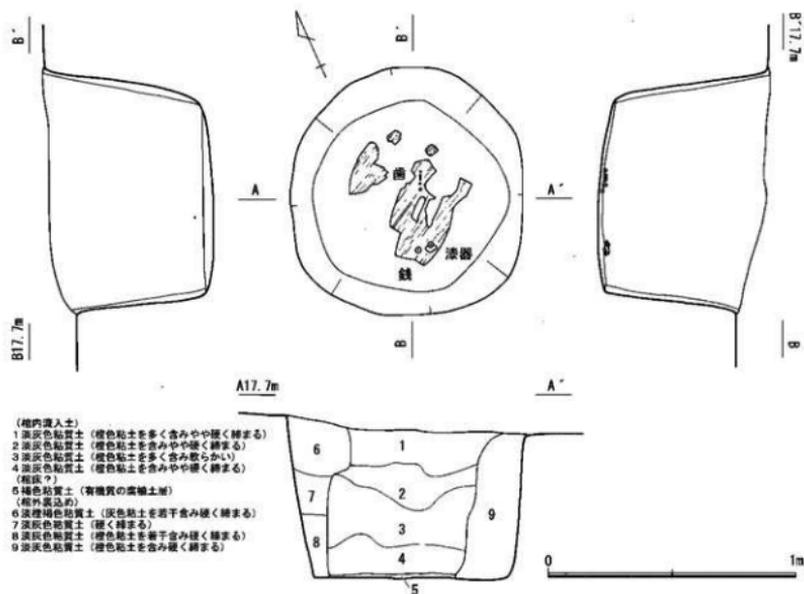
第122図 SK 29 遺構実測図 (S = 1/20)

SK30 (第123図)

遺構は、第3群とした一群の東端標高17m付近に位置している。墓坑は不整な楕円形であり、その規模は長径1m、短径0.8m、深さ30cmである。墓坑床面は平坦であり、20cm程の角礫が墓坑壁際



第123図 SK30 遺構実測図(S=1/20)



第124図 SK31 遺構実測図(S=1/20)

に5点出土している。この角礫は用途が分からないものであるが、棺の設置に関わっている可能性も考えられる。ただし墓坑内の土層観察では、棺が納められていた積極的な証拠は見ることが出来なかった。また角礫以外の遺物は出土していない。

### SK31 (第124図)

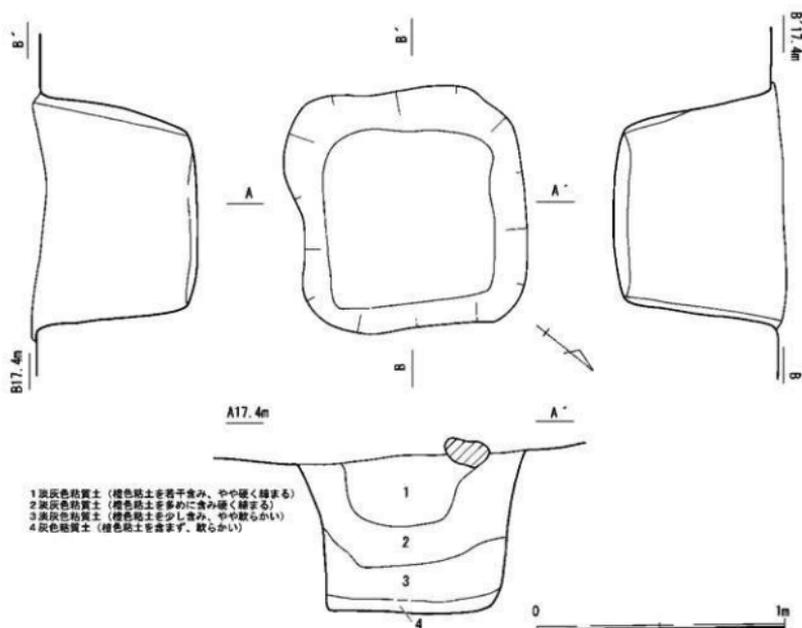
遺構は第1群とした群に属する近世墓である。墓坑は凹形でその規模は長径1m、短径0.95m、深さ0.7mと深いものである。土層断面の観察では、墓坑内に棺が納められていた可能性が考えられ、棺外の裏込め土(6~9層)、棺内流入土(1~4層)、棺の腐食土(5層)とに分けて考えられる。墓坑内の棺腐植土層上面からは、棺材と考えられる木片とその上から漆器、銭貨(131図75)、人骨(歯)が出土している。銭貨と漆器は両側に纏まって置かれており、人骨は中央部から出土している。出土した銭貨は2枚とも寛永通宝であり、その内の一枚は古寛永と思われるが不明瞭である。

### SK32 (第125図)

遺構は第3群とした分けられた群に属する近世墓で墓坑の形状は凹形である。その規模は長径1m、短径0.95m、深さ70cmとこの一群では深い墓坑である。土層断面の観察では、墓坑内に棺が納められていた可能性はないものと考えられた。また、墓坑内からは遺物の出土はなかった。

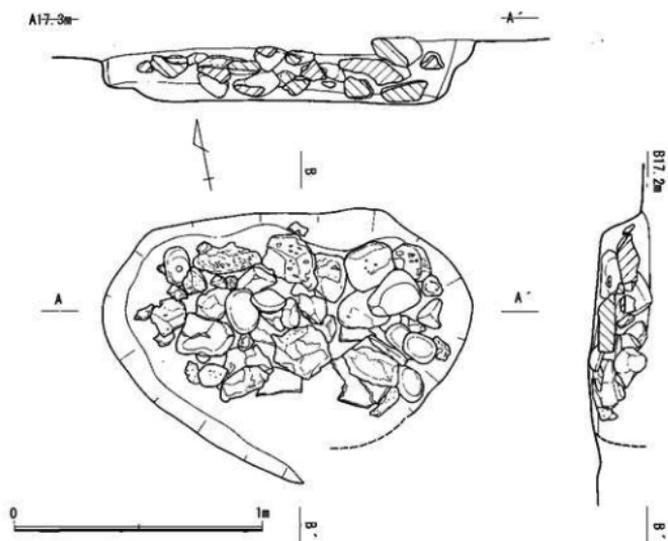
### SK33 (第126図)

遺構は第3群に属する土坑であるが、列から外れていることや土坑内に多数の礫が詰まっていること等の理由から墓では無い可能性を持つものである。墓坑の形状は楕円形であり長径1.5m、短径

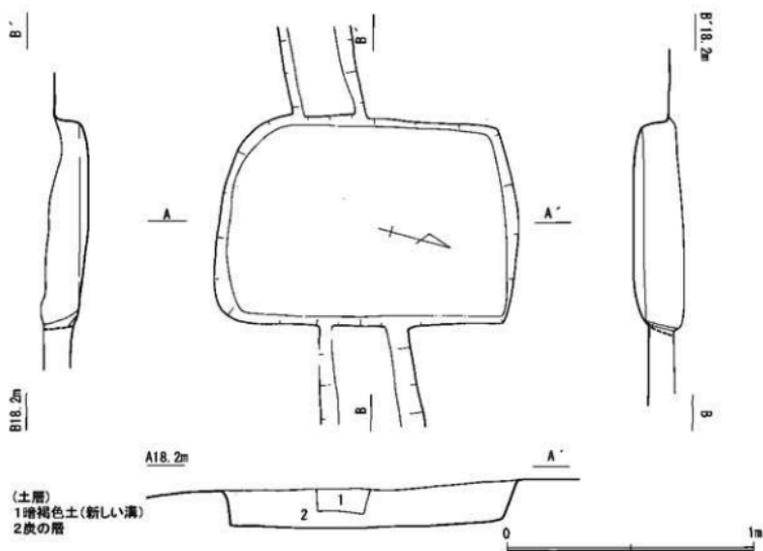


第125図 SK32 遺構実測図(S=1/20)

1 m、深さ25cmである。土坑内には、田圃と海岸でよく見られる石が詰められており、遺物は山上していない。



第126図 SK 33 遺構実測図 (S = 1/20)



第127図 SK 34 遺構実測図 (S = 1/20)

### SK34 (第127図)

遺構は第1群～第3群の近世墓とは離れた位置にある土坑であり、調査区の東端標高18m付近に位置している。上坑の形状は長方形で規模は長径1.2m、短径0.85m、深さ20cm程である。上坑内には木炭が充填しており、上坑壁面が火を受けている可能性が考えられた。なお、土坑内からは遺物は出上していない。

## 第3節 遺構外出土遺物

各調査区で遺構以外から出土した近世～近代の遺物についてここでは述べる。また、遺物の出土した土層は基本的に耕作土である。

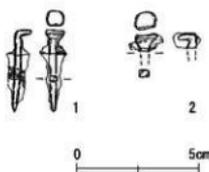
### 17区遺構外出土鉄釘 (128図)

1、2とも17区の近世墓から出土している棺釘と同じようなサイズであり、木質が付着しているものである。

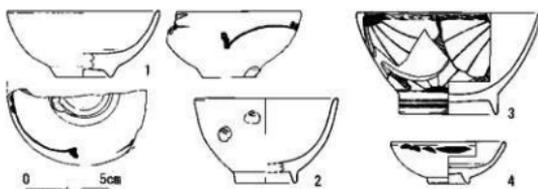
### 舟王区出土陶磁器 (第129図)

舟王区から出土している陶磁器は、伝舟王墓周辺の表上から出土しているものが多い。これらは伝船王墓の祭祀と何らかの関わりがある可能性が考えられる陶磁器である。

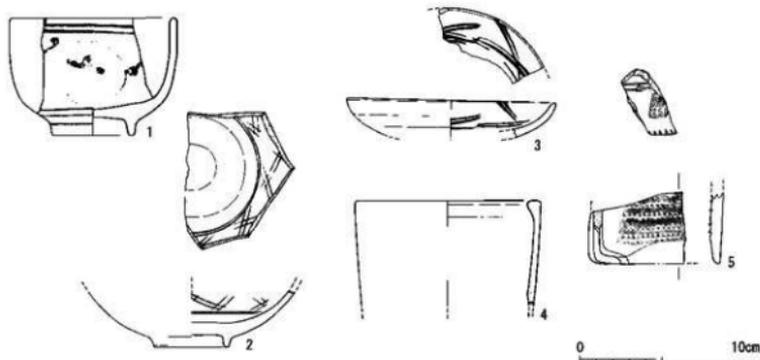
1と2は肥前系の磁器碗である。3は肥前系の磁器碗であり、広東系の高台をもつもので19世紀前半頃の磁器が考えられる。4は、肥前系の磁器小杯であり18世紀代頃と思われる。



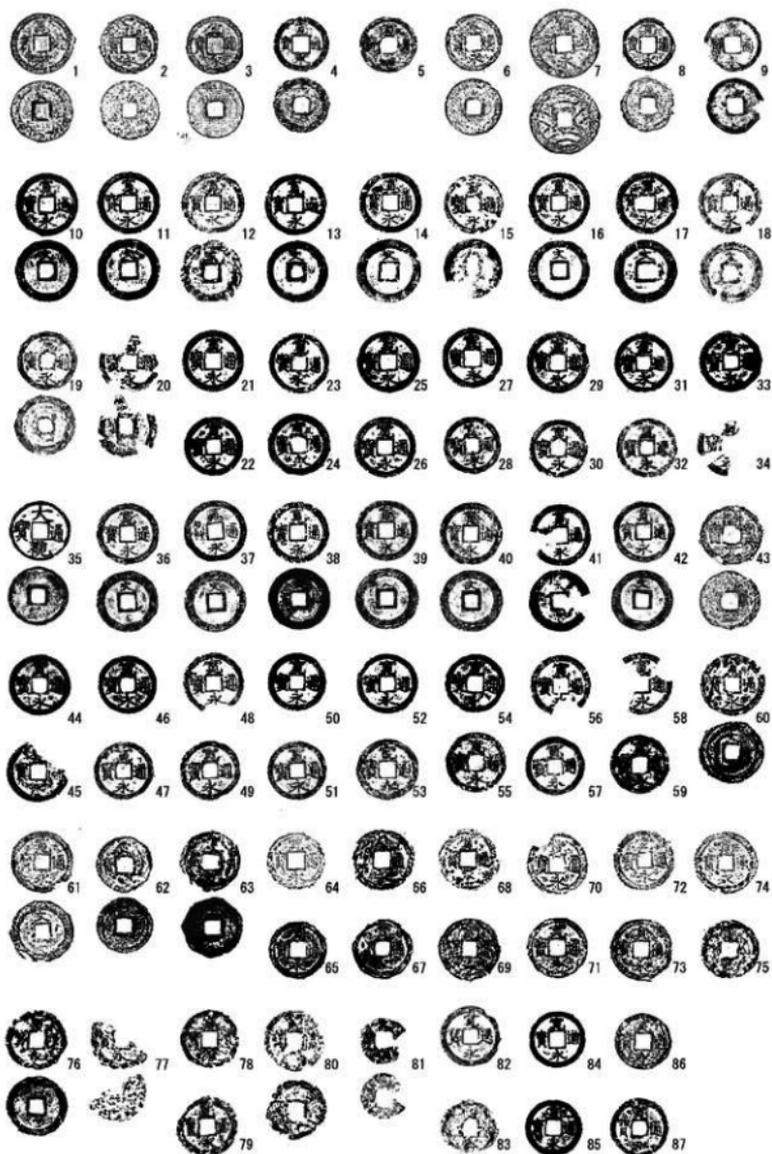
第128図 17区遺構外出土鉄釘実測図 (S = 1/2)



第129図 舟王区 出土陶磁器 実測図



第130図 遺構外出土 陶磁器 実測図 (S = 1/3)



0 3cm

第 131 図 錢貨 拓影 (S = 1/2)

#### 遺構外出土陶磁器 (130図)

1は肥前系の陶器碗で、陶胎染め付けである。時期は18世紀後半頃と考えられる。2は肥前系の磁器皿であり、見込み部分は蛇の目に釉を剥ぎ取っている。3は肥前系の磁器皿であり18世紀後半頃の時期が考えられる。4は肥前系の磁器香炉である。

5は、1～4の陶磁器とは異なり近代の陶磁器である。これは白磁のおろし皿であり、「瀬256」とあることから第二次大戦中のいわゆる「統制食器」と考えられる。また、「瀬256」は、瀬戸陶磁器工業組合所属者の生産によるものであることから産地は瀬戸であると考えられる<sup>9</sup>。

#### 遺構外出土銭貨 (131図3～9、84～87)

遺構外から寛永通宝がいくつか出土している。4は9区出土の文銭、7は11波の四文銭であり、他のものは新寛永である。なお、寛永通宝の古寛永に分類されるものは遺構に伴うものだけ出土しており、遺構外から出土したものは存在しない。

## 第4節 小結

はじめに これまで主に近世の遺構それも近世墓について記述してきたが、最後にこれらの船玉調査区と17調査区で検出した近世墓について特徴をまとめておいて結びとしたい。

近世墓の 一覧をまとめたものが表10であるが、17区検出のSK30・33については墓坑である可能性が低いものである。また、基本的に副葬品の豊富なものから順番に並べたものである。

**近世墓の時期** 検出した近世墓群の時期については、銭貨から推測すると古新の2つに分けることが出来る。古相のものは17区SK18・21で、これは副葬された銭貨が新寛永の文銭のみであるグループであり、新相のものは文銭以外の新寛永が含まれるグループである。出土銭貨から推測される時期は、古相のものは17世紀代、新相のものは18世紀以降の時期の可能性が考えられる。

**副葬品について** 副葬品を見ると大きくA～Cの3つのグループに分けることができる。Aは最も副葬品が豊富なグループであり、SK22・21・29が含まれる。このグループは銭貨が24枚～27枚と非常に多数副葬されており、刃物、漆器も含むという特徴がある。また、SK21・22は、硯を副葬しており文字の書ける被葬者が想像される。

Bは銭貨が2枚～6枚と少ないもの又は無いもので、刃物、漆器も副葬されるグループである。これは銭貨の有無でさらに2つに細分される可能性が考えられるものである。

そして、Cは副葬品が無いものである。以上のように遺跡で検出した近世墓は副葬品に階層差が認められることが指摘でき、また銭貨が多量に副葬されている墓が存在する点の特徴であり、鳥根県内でも特異な例であると言える<sup>9</sup>。この銭貨大量副葬が東船遺跡のみで見られる特徴なのか福岐地方に広がる特徴であるかどうかについては今後の類例をまって再検討が必要である。

**墓坑構造について** 墓坑の平面プランを見ると大きく3つに分けることができる。それは、方形のもの、長方形のもの、円形のものに分けられる。また、方形のものは四隅のピットの有無でさらに細分は可能なものである。この墓坑の平面プランと副葬品の関係を見ると、銭貨を副葬する墓は方形か円形のものであり、長方形のものは副葬品があまり豊富でないことが指摘される。

**おわりに** 以上のように東船遺跡検出の近世墓は副葬品から階層差が認められ、さらに銭貨の大量副葬がある点の特徴である。これらの特徴をさらに他地域との比較検討によって深めていく必要があるが今後の課題としておわりたい。

表10 東船遺跡 近世墓 一覽

副葬品グループ分け	地区	遺構名	墓 坑			木棺	釘	出土遺物											その他					
			形 状	規模(m)				銭貨				刃物				漆器	煙管	小玉						
				直径	直径			深さ	銅貨	銀貨	銭貨	不明	銭貨合計	小柄	鎌					包丁	鉸			
																						銭貨	銅貨	銀貨
A	17	SK22	方形・四角ピット	0.95	0.9	0.25	○	15	1	1	1	1	12	(7)	9	3	1	-	-	1	-	-	木片・土器 器・陶器 水流・不研 磁器	
		SK21	方形・四角ピット	0.95	0.9	0.15	○	5	1	-	-	-	16	(8)	8	3	-	-	2	-	-	-	-	木片・土器 水流・不研 磁器
		SK29	小形円形	0.6	0.5	0.2	-	-	-	-	-	-	13	(2)	5	6	-	-	1	-	-	-	-	木片・土器 器・陶器 水流・不研 磁器
B	17	SK17	長方形	0.7	0.5	0.5	○	74	-	-	-	1	-	1	4	6	-	-	1	-	-	-	木片・人骨	
		SK15	円形	0.65	0.65	0.4	○	-	-	-	-	-	-	-	2	3	5	-	-	1	-	-	木片	
		SK18	円形	1.2	1.2	0.65	○	-	-	-	-	-	-	-	(2)	2	2	-	-	1	-	-	木片・人骨	
		SK31	円形	1	0.95	0.7	○	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	木片・人骨	
		SK28	長方形	1.1	1	0.3	○	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	陶磁器	
		SK26	長方形	1.05	0.8	0.2	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	木質	
C	17	SK23	楕円形	0.95	0.75	0.1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	環状製品	
		SK20	方形・四角ピット	1.25	1.2	0.35	○	0?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	人骨	
		SK33	方形	1	0.95	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		SK27	長方形	1.05	0.9	0.2	○	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		SK19	長方形	1.2	0.9	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		SK24	長方形	1.1	0.8	0.25	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		SK25	長方形	1.15	0.8	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17	SK16	不整形円形	0.6	0.45	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		SK30	不整形円形	1	0.8	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	17	SK33	楕円形	1.5	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石が埋まる	

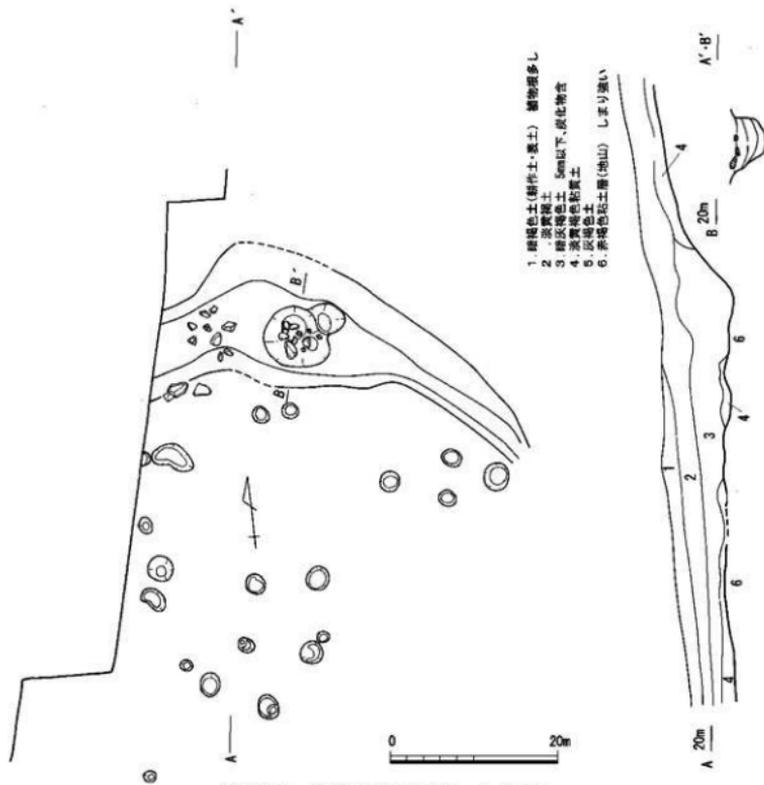
# 第11章 時期不明の遺構

## 第1節 遺構

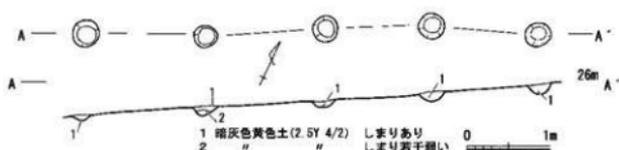
### 段状遺構 (第132図)

遺構は11区の西端の斜面を削平し平坦面を造っている段状遺構である。平成11年度に調査を行い、一部が調査区外に広がっていることが判明したので、12年度に西側の調査を行った。12年度調査でさらに西に遺構が広がっていることが分かったが、以前に行われた墓地の造成によって破壊されていることが明らかとなり、残存している部分のみ調査を行っている。

斜面を10.6mほど削り、平坦面との境には浅い溝が掘られている。平坦面には多くのピットが掘られていたが建物などが建てられるような配置になるものは無く、この段状遺構が何のために造られたのか不明である。溝の中には直径0.8mの土坑が掘られており検出面には礫がまばらに散らばっていた。土坑の性格も不明である。12年度の調査によって溝内にも礫が散乱していることが判明し、礫は土坑ではなく溝に伴うものであると考えられる。この段状遺構からは全く遺物は出土せず性格は不明であるが、竪穴建物か掘立柱建物を建てるための造成であることが考えられる。



第132図 段状遺構実測図 (S = 1 / 60)



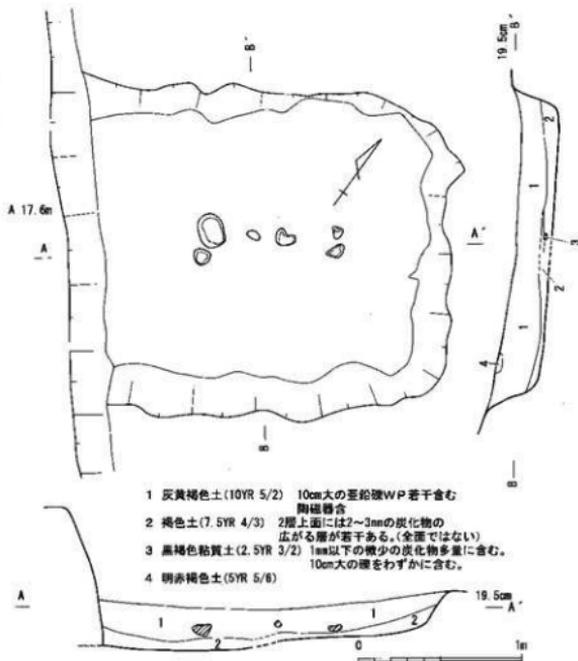
第133図 SA01遺構実測図 (S=1/60)

SA01 (第133図)

この遺構は14区の南側でSB10・11より一段登った平坦面に位置する柱穴列である。伝船親土墓からは20m程離れている。柱間は4間あり1間が1.2~1.4mで全長5.1mである。柱形形はおおよそ直径30cmの円形である。出土遺物はなく時期は不明であるが、遺構の性格としては柵や塀が考えられる。SB10・11などと同じ時期の可能性もあるが不明である。

SX03 (第134図)

11区のうち11年度に調査を行った部分の西端にあり、遺構の一部が調査区外に広がっている。方形の遺構で調査時では長さ2.1mで幅も2.1m、深

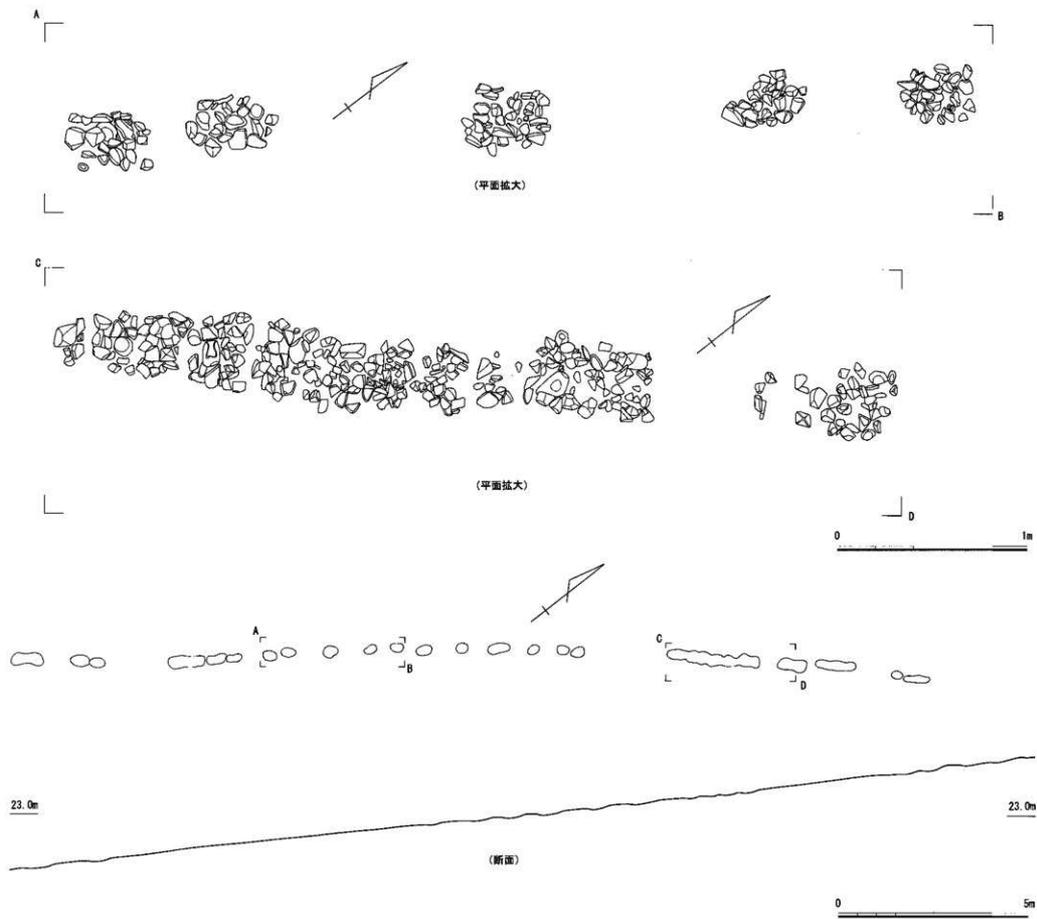


第134図 SX03遺構実測図 (S=1/30)

さ0.3mであった。底面中央部からは10~20cmの礫がやや浮いた状態で出土しているが、遺構の性格も含めて全く不明である。出土遺物は図示していないが磁器の小片が出土している。小片であるためはっきりしないが近世のものかもしれない。

古道 (第135図)

11区と14区にまたがり斜面に造られている。遺構のほとんどは敷かれた礫以外は降雨などの作用で流失している状態で検出された。遺構は北東方向に斜面を上っているが直線ではなく緩やかなS字を描いている。全長が23.8mで幅がおおよそ30mである。流失した部分も合わせるとさらに長かったものと思われる。最も低い地点から最高所までの比高差は2.9mである。古道の構造は、一定の間隔で溝の幅ほどのピットを掘り、そのピットに拳大の礫を敷き詰めている。しかし一部ではピット

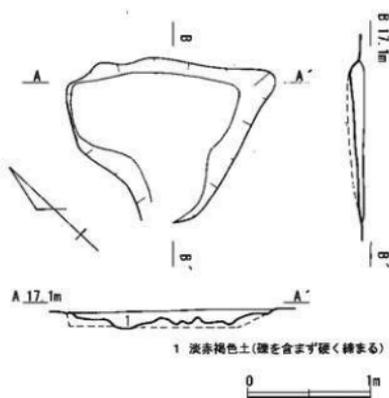


第 135 圖 古道実測圖 (S = 1 / 20 · 100)

だけでなく溝にも礫が敷かれていたことが判明している。礫はピットにのみ敷かれていた訳ではないようである。遺構に伴って遺物は出土せず、また関係のありそうな遺構も周辺から検出されていないので、時期は全く不明である。

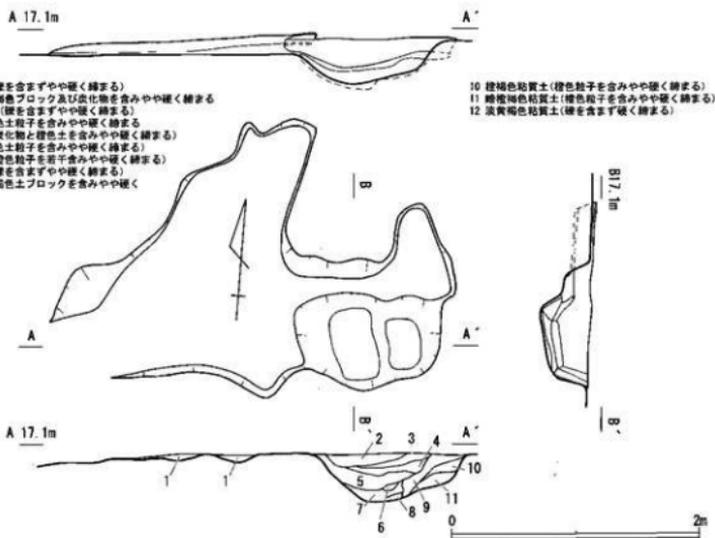
#### SX04 (第136図)

17区の南東端に位置する。後述するSX02と隣り合った遺構である。平面が三角形の浅い土坑状になっているが、底は平面ではなく土坑とも異なっているようである。埋土は硬く締まっており近代などの遺構とも考えられない。出土遺物はなく時期も性格も不明である。



第136図 SX04遺構実測図(S=1/40)

#### 17区SX05 (第137図)

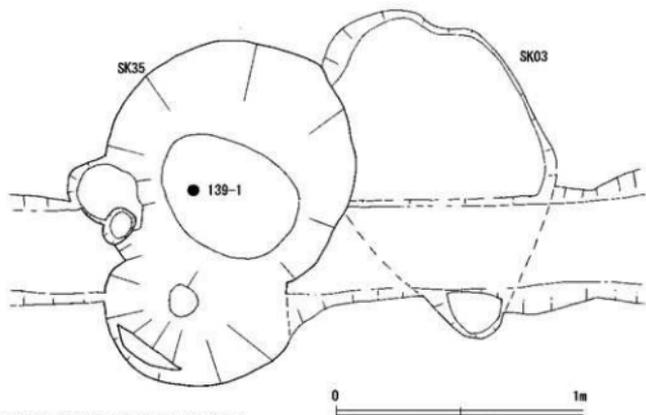


第137図 SX05遺構実測図(S=1/40)

SX01に隣接する遺構である。浅く掘り込まれた部分と0.4mほど掘り込まれた土坑状の部分からなっている。埋土は硬く締まっており近代などの新しい時期の遺構ではない可能性がある。出土遺物はなく時期も性格も不明である。

#### 22区SK35 (第138図)

22区の中央に位置し、縄文時代の土坑と思われるSK03を掘り込んでいる。さらに両者も近代以降の桑畑に削平されている。規模は長さ1.4mで幅1mの卵形である。底には30cm程の礫があったが、そこにあった理由は定かではない。

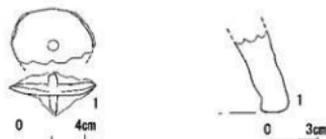


遺物は遺構の検出面で鉄製の紡錘車が1点出土している(第139図)。それ以外は出土せず遺構の時期や性格は不明である。

第138図 SK35遺構実測図(S=1/20)

## 第2節 遺物

第140図は不明土製品である。土師器のようにみえるが、東船遺跡では出土する土師器は古墳時代と中世であるがどちらに含まれるか不明である。また器種も不明である。内面には指頭圧痕が見られる。

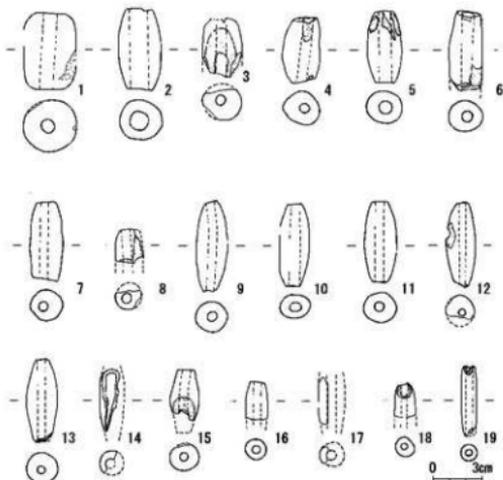


第139図 SK35  
出土紡錘車実測図  
(S=1/3)

第140図 不明土製品実測図  
(S=1/3)

第141図は土錘である。東船遺跡からは土錘が30点出土している。全て土師質である。そのうち19点を図化している。これらは大きさや形状から大きく3つに分類できる。

分類1は大形で俵型のもの(1)、分類2は中形のもの(2~18)、分類3は細形のもの(19)である。中形のは更に平面が長方形になるもの(6・7)と先端に向かって緩やかに細くなるものに分けられる。このような形態の分類からは土錘の使用法はいくつかあったのではないかと考えられる。



第141図 土錘実測図(S=1/3)

東船遺跡は今津港に面していて、当遺跡に生活していたどの時代の人々も漁業にある程度依存していたと考えられる。出土した土錘はこの一端を示している資料である。

## 第12章 まとめ

3か年にわたる東船遺跡の発掘調査では、縄文時代から近世まで様々な遺構を検出し、旧石器時代から近代までの数多くの遺物が出上している。これらは東船遺跡での人間活動の痕跡を現しており、東船遺跡を含む今津地区の歴史の一端を明らかにすることができた。

これまでの章で時代毎のまとめは簡単ではあるが行っている。ここでは述べられなかったことを整理し、東船遺跡のまとめとしたい。

### 第1節 東船遺跡で出土した遺物について

東船遺跡では様々な遺物が多数出土している。表9と第142図には調査区毎にどのような種類の遺物がどれぐらい出土しているのかまとめている。集計方法は遺物の残りに関わらず1つの破片を1点として集計している。したがって集計表の点数は個体数ではなくことを付け加えておく。

表11にあるように東船遺跡から出土した遺物は上石器と石器が圧倒的に多い。上石器は古墳時代後期のものがほとんどであると思われる。とりわけ11区から出土した十師器は5千点を超え、18区も千点を超えている。この2つの調査区には谷地形がありそこから十師器の大部分が出土している。しかし谷地形が検出された他の調査区ではこれほど出土していないことを考えると、11・18区周辺には古墳時代後期に何らかの人間の活動があったものと考えられる。

### 第2節 旧石器時代の東船遺跡

今回の東船遺跡の調査によって、発掘調査による隠岐島初の旧石器時代の遺物が出土した。旧石器として報告したのは台形様石器と細石刃核、細石刃核素材の3器種8点である。この器種の多様性と出土数は島根県内では際だっている。

また隠岐の島後には黒曜石の原産地があり、東船遺跡の調査以前から隠岐を除く中国地方を中心に隠岐産黒曜石を使った旧石器が出土していた。これは原産地である隠岐では旧石器が見つかっておらず、反対に消費地では見つかっているという状態であった。今回の調査は原産地である隠岐で後期旧石器時代前半期から隠岐産黒曜石の使用が認められたことは、広域で利用される黒曜石の流れを把握する上で貴重な資料を提供したといえる。

東船遺跡で出土した石器のうち、道具（狭義の石器）以外の器種、例えば剥片やチップ、石核の割合は非常に高い。これはここで石器の製作が行われていたことに起因するのではないだろうか。ほとんどの石器は原位置で出土せず、本来埋まっていた層位も分布もおさえられなかったため確かなことは言えない。しかし今津という風裏で良好な入り江にあり、晴れた日には日本海を挟んで島根半島や大山、三瓶山など見渡せる立地に位置している。

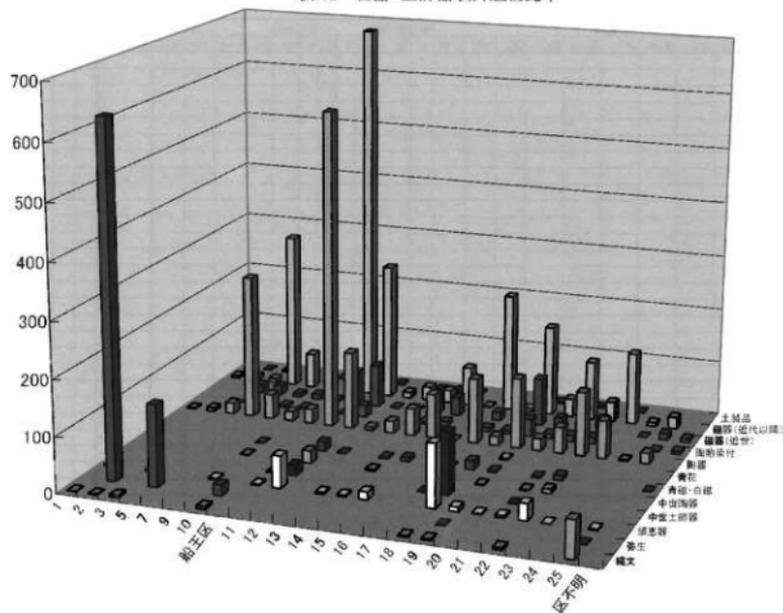
こういったことから推測ではあるが、原産地で採集した黒曜石を島根半島方面へと持ち出す一拠点として東船遺跡を考えてみたい。これは旧石器時代に限らず縄文時代や弥生時代も含んでいる。

### 第3節 中世の東船遺跡

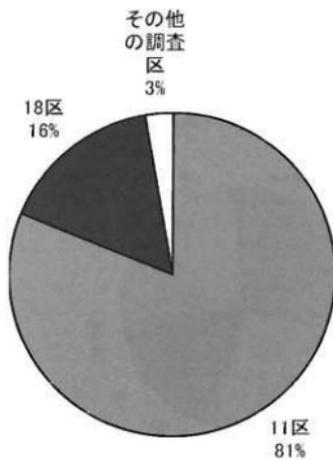
東船遺跡で検出された掘立柱建物跡は時期が不明なものが多いが出土した遺物の地区や構成から中世の掘立柱建物跡と考えられるものもあり、ここでまとめてみたい。



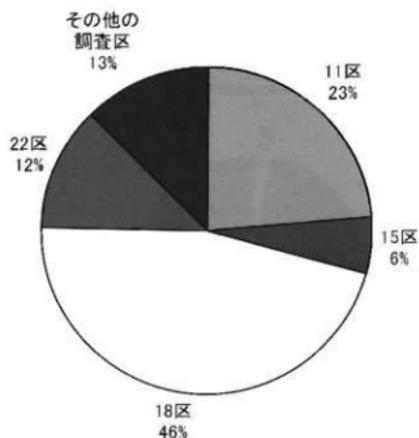
表 12 石器・土師器以外遺物比率



遺物出土調査区比率(石器・土師器除く)



土師器出土調査区比率

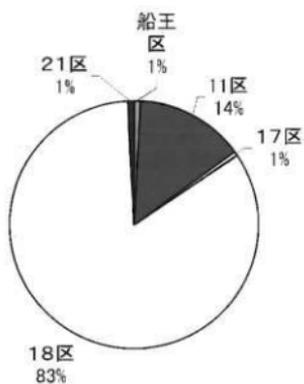


須恵器出土調査区比率

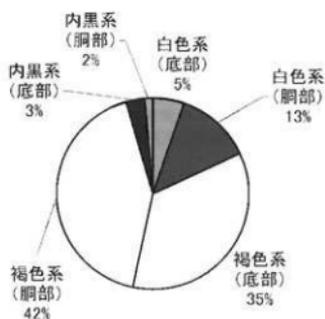


表 14 中世土師器集計表

調査区	白色系 (底部)	白色系 (胴部)	褐色系 (底部)	褐色系 (胴部)	内黒系 (底部)	内黒系 (胴部)	合計
船王区			1				1
11		1	11	7			19
17			1				1
18	7	16	34	49	4	2	112
21			1				1
合計	7	17	47	56	4	2	133



中世土師器調査区比率



中世土師器分類比率

東船遺跡の掘立柱建物跡は平ら面に造られるもの、緩斜面に造られるもの、谷地形内に造られるものに立地が分けられる。これは時期差によるものか性格の違いなのか分からない。しかし谷地形内の掘立柱建物跡は規模や周辺から出土した遺物から中世の遺構である可能性が高いと思われる。

隠岐の島後には中世の掘立柱建物跡は確認されていないようである。したがって東船遺跡で検出されたものが唯一の事例となる。しかし実際は調査されていないだけで中世の集落はどこにでもあり、現在人々が生活している集落内か、その周辺には必ず中世の集落があるのではないかと思う。

今回の調査で検出された掘立柱建物跡の内、SB10・11は床面積も広く一般の建物であったとは考えられない。しかし遺跡の出土遺物は通常の集落から出土するものが多く役所などは考えがたい。したがって今津の有力者の建物や集落の共同施設などを想定してみたい。

また意図的に谷に直交して掘立柱建物が建てられている例があった。調査中は谷を下る流水により遺構が破壊されるなど苦労したが、この水を当時は利用するために谷に掘立柱建物を建てたのではないかと考えている。

以上、今回の調査成果について想像を交えながらまとめてみた。検討すべき項目はまだあり反省すべき点は多いが、今後の課題としたい。

(註)

- ①旧石器の可能性のある資料(彫刻刀形石器)が紹介されている。竹広文明 1999 「旧石器時代における隠岐産黒曜石の獲得と利用をめぐって」『川中義昭先生追悼記念文集 地域に根ざして』田中義昭先生追悼記念事業会
- ②弥生時代後期の土器の編年については、出雲地方の編年を提示している以下の文献による。またこの章で草田〇期として表現するのは全てそれによる。  
鹿島町教育委員会 1992 『南講武草田遺跡』
- ③百郷町尼寺原遺跡で弥生時代後期と考えられる竪穴建物跡が2棟検出されている。  
隠岐島後教育委員会 1982 『甲ノ原遺跡発掘調査概報』Ⅲ
- ④海士町の郡山遺跡で弥生時代後期と考えられる竪穴建物跡が2棟と西ノ島町夕津遺跡で弥生時代末から古墳時代初期の竪穴建物が2棟検出されている。  
勝部 昭 1970 「調査概報 郡山台地の住居址」『島前の文化財』第1号 隠岐島前教育委員会  
西ノ島町教育委員会 植原恒平氏御教示による。
- ⑤横田 登 2000 「大城遺跡の瓦隅突出型墳丘墓について」『隠岐の文化財』第17集 隠岐島後教育委員会・海士町教育委員会・西ノ島町教育委員会・知夫村教育委員会
- ⑥東船遺跡で出土した須志器の年代などは以下の文献を参照した。  
大谷晃二 1994 「出雲地方の須志器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集 島根考古学会
- ⑦大谷晃二氏が隠岐型土師器として紹介している。  
島根県立八雲立つ風上記の丘 1998 『八雲立つ風上記の丘』No.147・148・149合併号
- ⑧東播系須志器は以下の文献を参考にした。  
森田 稔 1995 「8. 中世須志器」中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』
- ⑨25区に隣接した調査区は2001年度に調査が行われ、平ら面の溝が調査区のすぐ外で曲がること分り、遺構はこれ以上広がらないと判明した。 隠岐島後教育委員会 野津研吾氏の御教示による。
- ⑩貿易陶磁については右の文献を参考にした。 国立歴史民俗博物館編 1993 『日本出土の貿易陶磁』
- ⑪備前焼は以下の文献を参考にした。  
伊藤 兄 1995 「9. 中世陶器」[4] 備前 中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』
- ⑫この章の陶磁器の時期については以下の文献を参照した。  
『北海道から沖縄まで国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館 1984  
『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会 2000
- ⑬出土銭貨については以下の文献を参照している。  
永井久実男編 1998 『近世の出土銭』Ⅱ 兵庫県埋蔵銭調査会
- ⑭沼崎 陽 1999 「戦時下の「生産者別表示記號」(いわゆる統制番号)」を実見して、『東京考古』17号 東京考古談話会
- ⑮すでに銭貨の大量副葬が特徴的である点は西尾克己によって島根県内の銭貨出土近世墓の集検討によって指摘されている。  
西尾克己 2001 「島根県の近世墓出土銭について」『出土銭貨』第15号 出土銭貨研究会

# 東船遺跡出土黒曜石製遺物およびサヌカイト製遺物の原材産地分析

薬科哲男

(京都大学原子力実験所)

## はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている<sup>1, 2, 3</sup>。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、岩石と露頭原石の組成が一致すれば、その露頭から流れた岩石であると言うことは、自然法則に従って流れたルートを証明できる。産地分析では『石器とある産地の原石が一致したからと言って、その産地のものと言い切れないが、一致しなかった場合その産地のものではないと言い切れる』が大原則である。人が移動させた石器の組成とA産地原石の組成が一致したからと言って、産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、移動ルートが自然の法則に従って証明できず、その石器がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。A産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはA産地と交流がなかったと言い切れるからである。考古学において様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味を持っていて、まず見える様式としての形態、文様があり、それから見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、また一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味を持っている。

地質など自然科学の場合は、自然科学的方法（物理・化学的方法）に従って産地を特定するものである。しかし、分析装置を使用すれば科学的分析と誤解している科学者が一部にみられるが、あくまで装置は物差しにすぎず、得られた結果を自然の法則に従って処理し産地を特定しなければならぬ。考古学者は考古学を基準にして、例えば産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、または原産地地方との交流が石器以外の他の遺物で証明されているなどの条件を考えて、石器の石質と一致する最も近い産地の原石を肉眼観察を基準にして推測する。しかしこの結果が信用されるのは、石質の一致という条件よりも産地との交流を推測できる考古学条件に無理がない場合である。これは、遺跡から500km以上離れた産地の石材が石器と一致しても、遠距離の産地を言わず、近くの一致した産地しか言わないことから分かる。従って、実際に遠距離から伝播した原材でも、近くの産地のものとして処理してしまっている。だが日本中の産地の石材を観察すると、とても肉眼観察で産地を特定することはできないと思う。また地質学者に聞いても、とても肉眼観察で産地など特定できないと言う人が多い。このことから客観的なデータに基づいて決定した石器原材の岩石名、産出産地を記さなければ、報告書全体が正確さを欠くように思われる。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごと

に数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。今回分析した遺物は島根県隠岐郡西郷町大字今津に位置する東船遺跡の後期旧石器時代（約3万年前）～古墳時代初頭（約1,700年前）と推測される黒曜石製遺物108、奥山遺跡出土黒曜石製遺物6個と安山岩製遺物3個と原石1個および碧玉様剥片1個の合計120個について産地分析の結果が得られたので報告する。

#### 黒曜石、安山岩（サヌカイト含む）原石の分析

黒曜石、サヌカイト（珪晶の少ない緻密な安山岩を含む）両原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。

塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それをもって産地を特定する指標とした。

#### 黒曜石原石

黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてが調べつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表1に示す。この原石群に原産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると202個の原石群になる。中信高原地域の黒曜石産地の中で、霧ヶ峰群は、長野県下諏訪町金明水、星ヶ塔、星ヶ台の地点より採取した原石でもって作られた群で、同町観音沢の露頭の原石も、霧ヶ峰群に一致する元素組成を示した。和田峠地域原産の原石は、星ヶ塔の西方の山に位置する旧和田峠トンネルを中心にした数百メートルの範囲より採取され、これらを元素組成で分類すると、和田峠第一、第二、第三、第四、第五、第六の各群に分かたれる。和田峠第一、第三群に分類された原石は旧トンネル付近より北側の地点より採取され、和田峠第二群のものは、トンネルの南側の原石に多くみられる。和田峠第四群は男女倉側の新トンネルの入り口、また、和田峠第五、第六群は男女倉側新トンネル入り口左側で、和田峠第一、第三の両群の産地とは逆の方向である。男女倉原産地の原石は男女倉群にまともなり組成は和田峠第五群に似る。鷹山、泉鷲峠の黒曜石の中に和田峠第一群に属する物が多数みられる。麦草峠群は大石川の上流および麦草峠より採取された原石で作られた。これら中信高原の原産地は、元素組成で和田峠、霧ヶ峰、男女倉、麦草峠の各地域に区別される。伊豆箱根地方の原産地は笹塚、畑宿、鍛冶屋、上多賀、柏崎西の各地にあり、良質の石材は畑宿、柏崎西で、珪晶の多いやや石質の悪いものは鍛冶屋、上多賀の両原産地でみられる。笛塚産のものはピッチストーン様で、石器原材料としては良くないであろう。伊豆諸島の神津島原産地は砂糠峠、長浜、沢尻湾、恩馳島の各地点から黒曜石が採取され、これら原石から神津島第一群および第二群の原石群にまとめられる。浅間山の深沢川の黒曜石は貝殻状剥離せず石器の原材料としては不適當ではあるが、考古学者の間でしばしば話題に上るため大塚沢群として遺物と比較した。また、北陸地方では、富山県の魚津、石川県の比那、福井県の三里川、安島の各原産地が調査されていて、比那、魚津産黒曜石

が石器原材として使用されている。山陰地方の原産地は隠岐島の久見、津井、加茂に代表され石器原材としては小さすぎる豆粒大の黒曜石の露頭が裾浦地区にある。また、兵庫、鳥取の県境の雨滝地区から発見されている黒曜石は微小で石器原材としては使用できない。九州北部地方では佐賀県の腰岳地域および大分県の姫島地域の観音崎、向瀬の両地区は黒曜石の有名な原産地で、姫島地域ではガラス質安山岩もみられ、これについても分析を行なった。また、長崎県、老岐島も君ヶ浦、久喜/辻、角川、貝畑など地点から黒曜石が採取できる。西北九州地域で似た組成を示す黒曜石の原石群は、腰岳、古里第一、松浦第一の各群（腰岳系と仮称する）、それから淀姫、中町第一、古里第二、松浦第四の各群（淀姫系と仮称する）などである。また、古里第二群原石と肉眼のおよび成分的に似た原石は摩野町松尾地区でも採取でき、この原石は姫島産石灰色黒曜石と同色調をしているが、組成によって姫島産の黒曜石と容易に区別できる。だが、もし似た組成の原石で遺物を作られたとき、この遺物は複数の原産地に帰属され原産地を特定できない場合がある。たとえ遺物の原産地がこれら腰岳系、淀姫系の原石群の中の一類および古里第二群のみに帰属されても、この遺物の原産地は腰岳系、淀姫系および古里第二群の原石を産出する複数の地点を考えなければならない。また、角礫の黒曜石の原産地は腰岳および淀姫で、円礫は松浦、中町、古里（第二群は角礫）の各産地で産出していることから、似た組成の原産地の区別は遺物の自然面から円礫か角礫かを判断すれば原産地の判定に有用な情報となる。九州中部地域の塚瀬と小国の原産地は隣接し、黒曜石の生成マグマは同質と推測され両産地は区別できない。そして熊本県の南関、轟、冠ヶ岳の各産地原石はローム化した阿蘇の火砕流の層の中に含まれる最大で親指大の黒曜石で、非常に広範囲な地域から採取される原石である。

#### サヌカイト原石

サヌカイトでは、K/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Srの比量を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、その他には玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて32ヶ所の調査を終えている。図2にサヌカイトの原産地の地点を示す。このうち、香川県の金山・五色台地域では、その中の多く地点からは良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる。近年、九亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材で普通寺市の大麻山南からも産出している。これらの原石を良質の原石が産出する産地および原産地不明の遺物として元素組成で分類すると101個の原石群に分類でき、その結果を表2に示した。香川県内の石器原材の産地では金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の6個の群、城山群および双子山群に、またガラス質安山岩は、金山奥池・五色台地区産が奥池第一、二群、雄山群、神谷・南山群の4個の群に、大麻山南産が大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類され区別が可能なことを明らかにした。金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。これら岩屋のもの进行分类すると、全体の約2/3が表3に示す割合で金山・五色台地域の諸群に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことがわかる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からは、それぞれの地区に対して9.2%および8.8%の割合で岩屋第一群に一致する原石が存在し、その他に群を作らない

数個の原石とがみられ、金山・五色台地域の諸群に一致するものはみられなかった。和泉・岸和田原産地からも全体の約1%であるが金山東群に一致する原石が採取される(表4)。また和歌山市梅原産地からは、金山原産地の原石に一致する原石はみられない(表5)。仮に、遺物が岩屋、和泉・岸和田原産地などの原石で作られている場合には、産地分析の手続きは複雑になる。その遺跡から10個以上の遺物を分析し、表3、4のそれぞれの群に帰属される頻度分布を求め、確率論による期待値と比較して確認しなければならない。二上山群を作った原石は奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山を中心とした広い地域から採取された。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の原産地から6%の割合で採取されることから、遺跡10個以上の遺物を分析し、表4のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。

### 結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は、風化のためサヌカイト製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。

一方、黒曜石製のもは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。今回分析した東船遺跡から出土した黒曜石、安山岩製石器・剥片の分析結果を表6-1、6-2に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するために数理統計の手法を用いる。例えば試料番号78864番の遺物ではRb/Srの値は0.309で、金山東群の[平均値]±[標準偏差]は、 $0.316 \pm 0.017$ である。遺物と原石群の差を標準偏差値( $\sigma$ )を基準にして考えると遺物は原石群から0.4 $\sigma$ 離れている。ところで金山東原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.4\sigma$ のずれより大きいものが68個ある。すなわち、この遺物が金山東群の原石から作られていたと仮定しても、0.4 $\sigma$ 以上離れる確率は68%であると言える。だから、金山東群の平均値から0.4 $\sigma$ しか離れていないときには、この遺物が金山東群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を二上山産地の原石と比較すると、二上山群の平均値からの隔たりは、約10 $\sigma$ である。これを確率の言葉で表現すると、二上山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から10 $\sigma$ 以上離れている確率は、百分の一であると言える。このように、百億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、二上山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は金山東群に68%で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから金山東産原石が使用されいと同定され、さらに二上山群に対しては、億分の一の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから二上山産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地(金山東産地)と一致したからと言って、例え金山東群と二上山群の原石は成分が異なっている、分析している試料は原石でなく遺物でさらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種

岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（金山東群）に一致したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表2の101個すべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて金山東産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Srといった唯一の変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しづれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する(4,5)。産地の同定結果は1個の遺物に対して、安山岩（サヌカイト）製では101個、黒曜石製では202個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、これら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、香川県の金山東産原石と判定された遺物について、奈良県の二上山の原石とか北海道旭山産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみを結果を表7に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のパラツキの範囲を越え大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D2乗の値を記した。この遺物については、記入されたD2乗の値が原石群の中で最も小さなD2乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、その原産地と考えては間違いないと判断されたものである。今回分析した東船遺跡出土の黒曜石製遺物109個の中で久見産は82% (89個)、加茂産は11% (12個)、加茂または津井と同定された加茂・津井産が6% (6個)にそれぞれ判定された。また分析番号78952番の真珠岩様黒曜石は101個の原石・遺物群の中で久見群に比較的似た組成であるが、久見群に信頼限界の0.1%に達しなかった。また、久見産と同定された分析番号78869、78888、78905、78908、78944番の遺物は軽元素比を入れると表1の202個の何処群にも同定されなかった。産地分析で産地が特定できなかった理由は、(1)遺物が異常に風化し元素組成の変化が非常に激しい場合、(2)遺物の厚さが非常に薄いとき、特に遺物の平均厚さが1.5mm以下の薄い試料では、Mn/Zr、Fe/Zrの比値が大きく分析され、1mm厚でFe/Zr比は約15%程度大きく分析される。しかし、1mm厚あればRb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrについては分析誤差範囲で産地分析結果への影響は小さく、Mn/Zr、Fe/Zrの影響で推定確率は低くなるが原産地の同定は可能と思われる。(3)未発見の原石を使用している場合などが考えられる。今回分析した遺物は1mm以上の厚さがあり、厚さの影響はないと言える。産地が同定出来なかった遺物は、産地が同定された遺物より風化層が厚く、風化の影響を強く受けていると推測される。これは推測であるが、風化層内のK元素が黒曜石表面に移動し濃縮し、マトリクス効果の自己吸収によるK元素蛍光X線の減衰が減少す

るために、K元素のピークが大きく観測される。従ってK元素が分母のCa/K, Ti/Kの比値が小さくなる。将来的には風化層の厚さから補正が可能な様に思える。現時点では軽元素比を抜いてマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定を表1の202群の全ての原石、遺物群について行った結果を推定確率の欄に【 】内に区別して記した。次に東船遺跡出土の安山岩製石器、剥片4個の中で、分析番号78864番の石匙は金山東産に同定された。金山東産原石と同定された金山東産のサヌカイトは香川県金山原産地以外に岩屋原産地、和泉・岸和田原産地からも採取されるため、この石匙の原石産地は複数の地点を考えなければならない。この石匙の原石1個を岩屋原産地から採取する確率は5%で、和泉・岸和田原産地からは1%の確率で採取されることから、確率論的にはこれら産地で採取された原石の可能性も否定できない。岩屋原産地、和泉・岸和田原産地で確率高く採取される岩屋第1群と和泉群の原石が鳥取、島根県の遺跡で使用が確認されていないと言う考古学的事実を入れて考えると、即ち東船遺跡では金山東産は1個だけのため、近隣遺跡を含めて確率論的に考察すると、これら遺跡で使用された数多くの安山岩製遺物の中に、岩屋第1群と和泉群の石材が見られないのは、岩屋原産地、和泉・岸和田原産地から安山岩原石の供給を受けていなかったと結論できる。従って、石匙の原石は香川県金山東地区産サヌカイトが使用されていると判定できる。残りの分析番号78913、78914、78951番の3個の安山岩製遺物の原石産地は特定できなかった。これら3個の遺物の組成は相互に似ていて同じマグマで生成した、同じ産地の可能性が推測されるため、これら遺物の分析場所を変えて数十回分析し東船1遺物群を作った。今後、分析遺跡を増やして行くことにより東船1遺物群の使用圏が明らかになってくる。分析番号78970番の安山岩は隠岐郡五箇村郡ダム付近で採取された原石で、この原石は東船遺跡に持ち込まれた結果は得られなかった。ダム露頭の安山岩はSrが、東船1遺物群より大きく、隠岐の黒曜石を作ったマグマと異なっているようである。安山岩とした東船1遺物群の組成は、久見、加茂、津井産黒曜石とKが多い、Srが少ないなど共通点が多い。東船1遺物群の原石がこれら黒曜石産地の近くで採取できるとすれば、黒曜石を採取のときに採取された可能性が推測される。

次に分析番号78915番の碧玉様遺物の原産地分析の結果について報告する。

現在調査を終えている碧玉・碧玉様原産地を図3に示す。佐渡猿八原産地は、①新潟県佐渡郡畑野町猿八地区で、産出する原石は地元で青玉と呼ばれている緑色系の石で、良質なものは割れ面がガラス光沢を示し、質の良いものは光沢の少ないグリーンタフ的なものである。産出量は豊富であったらしく採石跡が何ヶ所も見られるが、今回分析した原石は猿八の各地点から表採したもの、および地元で提供された原石などであり、また提供されたものの中には露頭から得られたものがあり、それはグリーンタフ層の間に約7cm幅の良質の碧玉層が挟まれた原石であった。分析した原石の比重と個数は、比重が2.6~2.5の間のものは31個、2.5~2.4の間は5個の合計36個で、この中には、茶色の碧玉も2個含まれている。原石の比重が2.6~2.3の範囲で違っても、碧玉の色が茶色、緑色、また、茶色系と緑色系の縞があるなど、多少色の違いがあっても分析した組成上には大きな差はみられなかった。出雲の花仙山は近世まで採掘が行われた原産地で、所在地は②島根県八束郡玉湯町玉造温泉地域である。産出する原石は、濃緑色から緑色の緻密で剥離面が光沢をもつ良質の碧玉から淡緑色から淡白色などいろいろで、他に硬度が低そうなグリーンタフの様な原石も見られる。良質な原石の比重は2.5以上あり、質が悪くなるにしたがって比重は連続的に2.2まで低くなる。分析した原石は、比重が2.619~2.600の間のものは10個、2.599~2.500は18個、2.499~2.400は7

個、2.399～2.300は11個、2.299～2.200は11個、2.199～2.104は3個の合計60個である。比重から考えると碧玉からグリーンタフまでの領域のものが分析されているのがわかる。花仙山産原石は色の違い、比重の違いによる分析組成の差はみられなかった。玉谷産地は、③兵庫県豊岡市辻、八代谷、日高町玉谷地域で産出する碧玉の色、石質などは肉眼では花仙山産の原石と全く区別がつかない。また、原石の中には緑色系に茶色系が混じるものもみられ、これは佐渡嶽八産原石の同質のものに非常によく似ている。比重も2.6以上あり、質は花仙山産、佐渡嶽八産原石より緻密で優れた感じのものもみられる。この様な良質の碧玉の採取は、産出量も少ないことから長時間をかけて注意深く行う必要がある。分析した玉谷産原石は、比重が2.644～2.600は23個、2.599～2.589は4個の合計27個で、玉谷産原石は色の違いによる分析組成の差はみられなかった。また、玉谷原石と一致する組成の原石は日高町八代谷、石井、アンラクなどで採取できる。二俣原産地は、④石川県金沢市二俣町地域で、原石は二俣川の河原で採取できる。二俣川の源流は医王山であることから、露頭は医王山に存在する可能性がある。ここの河原で見られる碧玉原石は、大部分がグリーンタフ中に層状、レンズ状に非常に緻密な部分として見られる。分析した4個の原石の中で、3個は同一塊から3分割したもので、1個は別の塊からのもので、前者の3個の比重は2.42で後者は2.34である。また元素組成は他の産地の組成と異なっており区別できる。しかし、この4個が二俣原産地から産出する碧玉原石の特徴を代表しているかどうか検証するために、さらに分析数を増やす必要がある。細入村の産地は、⑤富山県婦負郡細入村割山定座岩地区にあり、そのグリーンタフの岩層に団塊として緻密な濃緑の碧玉質の部分が見られる。それは肉眼では、他の産地の碧玉と区別できず、また、出土する碧玉製の土類とも非常に似た石質である。しかし、比重が分析した8個は2.25～2.12と非常に軽く、この比重の値で他の原産地と区別できる場合が多い。土岐原産地は、⑥愛知県土岐市地域であり、そこでは赤色、黄色、緑色などが混じり合った原石が産出している。このうち緻密な光沢のよい濃緑で比重が2.62～2.60の原石を碧玉として11個分析を行った。ここの原石は鉄の含有量が非常に大きく、カリウム含有量が小さいという特徴を持ち、この元素比の値で他の原産地と区別できる。興部産地は、⑦北海道紋別郡西興部村にあり、その碧玉原石は鉄の含有量が非常に高く、他の原産地と区別する指標になっている。また、比重が2.6以下のものはなく遺物の産地を特定する指標として重要である。石戸の産地は、⑧兵庫県氷上郡山南町地区にあり、その安山岩に脈岩として採取されるが産出量は非常に少ない。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑨北海道富良野市の空知川流域から採取される碧玉は濃い緑色で比重が2.6以上が4個、2.62.5が5個、2.52.4が5個である。その碧玉の露頭は不明で河原の礫から採取するため、短時間で良質のもの碧玉を多数収集することは困難である。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑩北海道上磯郡上磯町の茂辺地川の川原で採取される碧玉は不均一な色の物が多く、管玉に使用できる色の均一な部分を大きく取り出せる原石は少ない。これら原石を原産地ごとに統計処理を行い、元素比の平均値と標準偏差値をもとめて母集団を作り表8-1に示す。各母集団に原産地名を付けて、その産地の原石群、例えば花仙山群と呼ぶ。花仙山群は比重によって2個の群に分けて表に示したが比重は異なっても組成に大きな違いはみられない。したがって、統計処理は一緒に行い、花仙山群として取り扱った。原石群とは異なるが、例えば、豊岡市女代南遺跡で主体的に使用されている原産地不明の碧玉製の玉の原材料で、玉作り行程途中の遺物が多数出土している。当初、原産地を探索すると言う目的で、これら玉、玉材遺物で作った女代南B（女代(B)）群であるが、同質の

材料で作られた可能性がある B類は最近の分析結果で日本全土に分布していることが明らかになってきた。宇木汲田遺跡の管 Eに産地未発見の原石を使用した同質の材料で作られた管玉で作った未定 C (未定(C)) 群をそれぞれ原石群と同じように使用する。また、岐阜県可児市の長塚古墳出土の管玉で作った長塚(1)、(2)の遺物群、多摩ニュータウン遺跡、梅田古墳群、上ノ段遺跡、梅田東古墳群、新方遺跡などから出土した玉類および玉材剥片でそれぞれ遺物群を作り他の遺跡、墳墓から出土する玉類に組成が一致するか定量的に判定できるようにし、遺物群を表 8-2 に示した。この他、鳥取県の福部村多鯨池、鳥取市防己尾岬などの自然露頭からの原石を4個分析した。比重は2.6以上あり元素組成は、興部、K谷、土岐石に似るが、他の原産地の原石とは組成で区別される。また、緑系の原石ではない。最近、兵庫県香住町の海岸から採取された親指大1個の碧玉様の玉材は貝殻状剥離がみられる緻密な石質で少し青っぽい緑の石材で玉の原材料になると思われる。この玉材の蛍光 X線分析の結果では、興部産碧玉に似ているが、E S R 信号および比重 (2.35) が異なっているため、興部産碧玉と区別ができる。これら碧玉・碧玉様原石および遺物群と碧玉様遺物との比較する。遺物は表面の泥を超音波洗浄器で水洗するだけの完全な非破壊分析で行っている。遺物の原料産地の同定をするために、(1)蛍光 X線法で求めた原石群と碧玉製遺物の分析結果を数値統計の手法を用いて比較をする定量的な判定法で行なう。(2)また、E S R 分析法により各産地の原石の信号と遺物のそれを比較して、似た信号の原石の産地の原料材であると推測する方法も応用した。

#### 蛍光 X線法による碧玉様遺物の産地分析

碧玉様遺物の蛍光 X線分析のスペクトルを図 4 に示し、比重および元素組成比を求めて結果を表 8 に示す。本研究で碧玉と分類するには、緻密で、蛍光 X線分析で Rb, Sr, Y, Zr の各元素が容易に観測でき、比重が 2.6~2.3 を条件に分類するが、分析した碧玉様遺物の比重は 2.19 で吸水が激しく正確な比重を求めることができなかった。この碧玉様遺物と似た原石は、富山県の細入産碧玉 (碧玉様) 原石である。この遺物の元素組成比の結果を碧玉原石群 (表 8) の結果と比較してみる。分析個数が少なく統計処理ができる群が作れなかった産地については、原石の元素組成比を比較したが一致するものは見られなかった。原石の数が多く分析された原産地については、数値統計のマハラノビスの距離を求めて行うホテリング T<sup>2</sup> 乗検定により同定を行ったところ、一致する原石・遺物群が見られなかったことから、未発見の碧玉様原産地の原石を使用している可能性が推測される。従って、碧玉様製遺物の結果から、東船遺跡は比較した碧玉産地および碧玉製遺物を使用している遺跡と関係がなかったことが証明された。東船遺跡で碧玉玉材が持ち込まれていることは、碧玉様製品が作られ他の遺跡に伝播している可能性も想定されることから、この碧玉様遺物の分析場所を変えて、40回分析し、東船 2 遺物群を作り、原石・遺物群 (表 8) に登録し、他の遺跡で、この碧玉様原料で作られた兄弟石製品の同定できるようにした。より正確に産地を特定するために E S R 分析を併用して産地分析を行った。

#### E S R 法による産地分析

E S R 分析は碧玉原石に含有されているイオンとか、碧玉が自然界からの放射線を受けてきた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。E S R の測定は、完全な非破壊分析で、直径が 1 mm 以下の管玉なら分析は可能で、小さい物は胡麻粒大で分析ができる場合がある。図 5-(1)の E S R のスペクトルは、幅広く磁場掃引したときに得られた信号スペクトルで、g 値が 4.3 の小さな信号 (I) は鉄イオンによる信号で、

g 値が2付近の幅の広い信号 (Ⅱ) と何本かの幅の狭いピーク群からなる信号 (Ⅲ) で構成されている。図5-①では、信号 (Ⅱ) より信号 (Ⅲ) の信号の高さが高く、図5-②、-③の二俣、細入原石ではこの高さが逆になっているため、原石産地の判定の指標に利用できる。例えば、碧玉遺物の中で信号 (Ⅱ) が信号 (Ⅲ) より小さい場合は、二俣、細入産でないといえる。各原産地の原石の信号 (Ⅲ) の信号の形は産地ごとに異同があり産地分析の指標となる。図6-①に花仙山、猿八、玉谷、土岐を図6-②に異部、石戸、八代谷-4、女代 (B) 遺物群、八代谷および図6-③に富良野市空知川の空知 (A)、(B)、北海道今金町花石および茂辺地川の各原石の代表的な信号 (Ⅲ) のスペクトルを示す。図6-④には宇木湊田遺跡の管玉で作った未定C形と未定D形およびグリーンタフ製管玉によく見られる不明E形を示した。ESR分析では玉材判片と管玉のESR信号の形が、それぞれ似た信号を示す原石だったり、産地不明遺物群のESR信号形と一致した場合、その産地の可能性が大きいことを示唆している。今回分析した碧玉様遺物のESR信号 (Ⅲ) の結果を図7に示すように、鐮の刃のようにギザギザとなっているのが特徴で、一致する原石・遺物群は見られなかった。この碧玉様原材で作られた兄弟石製品が他の遺跡で使用されていれば、ESR信号 (Ⅲ) は図7の鐮の刃状の信号になり、蛍光X線分析の結果が東船2遺物群に0.1%以上の確率で帰属されると、東船遺跡の碧玉様遺物と同定できる。

#### 非破壊分析による黒曜石製遺物の水和層測定

分析は黒曜石の表面に顕微鏡を通して光を照射したときに、黒曜石の表面で反射する光と、水和層で反射する光りで生じる干渉波の波長から水和層の厚さを求める方法。光りの反射を利用するため、遺物の表面のにできた使用痕および埋土中にできた摩耗傷などが水和層測定の障害になり測定できない場合が多々ある。また、水和層と新鮮面との境界面での反射光が非常に弱いため、境界面が明確に発達した部分を探して測定しなければならない。従って、傷のない場所を顕微鏡下で探して分析を行うため、試料によっては1個に三時間以上かかることもある。今回、分析一試料について一ヶ所10以上測定し水和層厚さの平均値を求め、これを3ヶ所以上を分析し、分析値の最大、中間、最小値を選んで表9に記した。年代換算されていない水和層厚さの結果は、同じ遺跡で出土する黒曜石の水和層厚さを比較することにより古さ(年代)の上下関係が明らかになる。水和層厚さを経過年代に換算するには、水和層を分析した黒曜石の経過年代を炭素-14法、フィッシュントラック法で求めた絶対年代から、水和速度を求めて行う。この水和速度は黒曜石の埋土中を受ける温度によって異なるため、黒曜石が環境から受けた温度を正確に求めなければ、正確な年代の換算はできない。年代は下記の式により水和層厚さを経過年代に換算する。

$$\text{推定換算年代(千年)} = \frac{\text{測定水和層厚}(\mu\text{m}) \times \text{測定水和層厚}(\mu\text{m})}{\text{水和速度}(\mu\text{2} / 1000 \text{年})}$$

今回の水和層測定を行った東船産黒曜石の水和速度は不明で年代に換算できないため、今後、水和層厚さを経過年代に換算するときの重要な係数である水和速度を決める必要がある。水和速度を左右する重要な要因は、黒曜石の化学組成と温度であるため、自然科学者の実験室で水和実験によって水和速度を決定できるが、国内産黒曜石に関して研究はそこまで進んでいないのが現状である。現在は水和速度の決定については考古学者の協力なしではできない。水和速度と温度の関係は、例えば、水和層年代が炭素-14年代に比べて古すぎる場合は、温泉地とか温度の高い地下水などで埋

土中の遺物温度が異常に高かったことが推測され、水和層は非常に厚くなり推定換算年代は古くなる。これは遺物の埋土位置の地温測定で推測できるが、しかし、過去の地温の測定はできない。実験室での水和層生成が困難である限り、水和速度の決定の舞台は遺跡になる。炭素-14年代などで年代の分かる層から出土する黒曜石の水和層から水和速度を決定するため、発掘が重要な鍵を握ることは言うまでもない。石器の組成（原産地）さえ分かれば、考古学者が炭素-14年代と水和層のデータを集積し整理するだけで、正確な水和層年代が得られるようになる。これら考古学的作業により求められた水和速度は、水和機構（理論）が証明されていないが、考古学資料として実用するには問題ないと推測できる。したがって、水和層年代は考古学者が企画するだけで実用的な年代が得られるため、将来、水和層年代が石器における土器編年のように身近な存在になると推測できる。

#### 参考文献

- 1) 薬科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅱ)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 薬科哲男・東村武信・鎌本義昌(1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学, 10, 11:53-81:33-47
- 3) 薬科哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1980), 考古学と物理化学。学生社



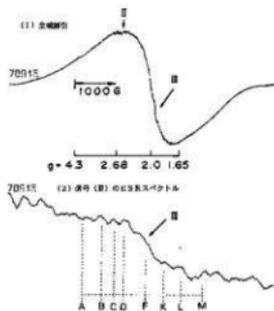
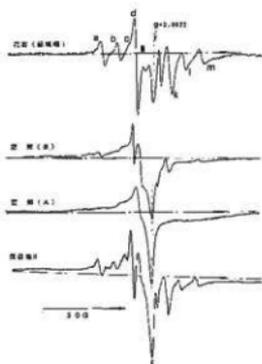
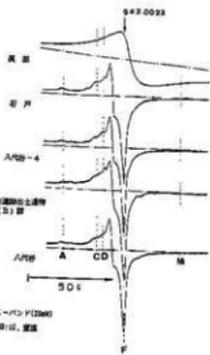
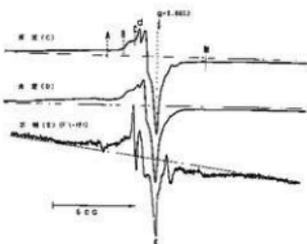
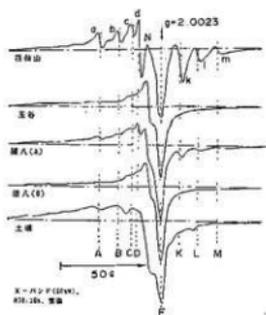
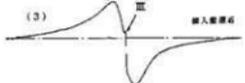
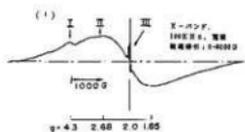
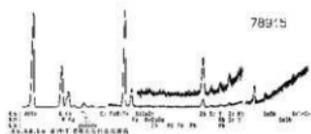




表 1-3 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	分析試料	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
新島群	佐賀第一	34	0.229±0.013	0.076±0.006	0.020±0.005	1.692±0.079	0.203±0.017	0.380±0.018	0.142±0.018	0.669±0.017	0.024±0.004	0.320±0.013
	佐賀第二	21	0.253±0.032	0.097±0.018	0.030±0.009	1.913±0.282	0.217±0.022	0.382±0.022	0.146±0.015	0.668±0.015	0.023±0.009	0.332±0.019
	上石川	45	0.231±0.007	0.070±0.003	0.009±0.011	2.051±0.070	0.201±0.010	0.381±0.012	0.142±0.013	0.673±0.023	0.026±0.007	0.359±0.020
	白川	46	0.237±0.012	0.080±0.003	0.109±0.012	1.278±0.110	0.172±0.009	0.722±0.006	0.374±0.007	0.118±0.014	0.027±0.002	0.407±0.009
	白河	22	0.509±0.012	0.142±0.007	0.032±0.005	1.096±0.949	0.281±0.012	0.332±0.011	0.362±0.015	0.633±0.011	0.026±0.002	0.291±0.014
	大谷川	46	0.31±0.011	0.097±0.007	0.030±0.007	1.711±0.066	0.218±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.613±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012
山岳	比	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.099±0.167	0.439±0.028	0.231±0.023	0.172±0.028	0.622±0.018	0.024±0.002	0.396±0.017
	三山	21	0.07±0.007	0.123±0.005	0.028±0.006	0.429±0.051	0.643±0.041	0.473±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010
長尾群	香取	50	0.276±0.005	0.082±0.002	0.045±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.205±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.001	0.365±0.008
	香取	50	0.276±0.012	0.109±0.006	0.048±0.009	1.784±0.056	0.813±0.045	0.207±0.020	0.112±0.020	0.139±0.018	0.026±0.012	0.446±0.012
島根群	津	20	0.166±0.006	0.093±0.006	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.909±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.011	0.249±0.016
	津	20	0.181±0.008	0.123±0.012	0.013±0.003	0.910±0.041	0.301±0.014	0.915±0.006	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.313±0.006
香川群	奥田	31	1.292±0.077	0.141±0.019	0.032±0.008	3.125±0.170	0.686±0.068	1.359±0.082	0.630±0.036	0.063±0.019	0.041±0.014	0.597±0.011
	奥田	31	1.292±0.126	0.141±0.019	0.032±0.008	3.125±0.170	0.686±0.068	1.359±0.082	0.630±0.036	0.063±0.019	0.041±0.014	0.597±0.011
	奥田	31	1.292±0.077	0.141±0.019	0.032±0.008	3.125±0.170	0.686±0.068	1.359±0.082	0.630±0.036	0.063±0.019	0.041±0.014	0.597±0.011
	奥田	31	1.292±0.077	0.141±0.019	0.032±0.008	3.125±0.170	0.686±0.068	1.359±0.082	0.630±0.036	0.063±0.019	0.041±0.014	0.597±0.011
	奥田	31	1.292±0.077	0.141±0.019	0.032±0.008	3.125±0.170	0.686±0.068	1.359±0.082	0.630±0.036	0.063±0.019	0.041±0.014	0.597±0.011
	奥田	31	1.292±0.077	0.141±0.019	0.032±0.008	3.125±0.170	0.686±0.068	1.359±0.082	0.630±0.036	0.063±0.019	0.041±0.014	0.597±0.011
福岡群	中野第一	69	0.257±0.007	0.081±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.348±0.015	0.612±0.018	0.075±0.014	0.023±0.007	0.021±0.011	0.321±0.011
	中野第二	40	0.345±0.007	0.104±0.006	0.027±0.005	1.735±0.039	0.453±0.017	0.397±0.014	0.069±0.015	0.030±0.014	0.026±0.009	0.329±0.008
	中野第三	44	0.271±0.009	0.121±0.005	0.025±0.019	1.895±0.065	0.366±0.019	0.610±0.016	0.072±0.011	0.023±0.007	0.023±0.009	0.335±0.009
	中野第四	44	0.271±0.009	0.121±0.005	0.025±0.019	1.895±0.065	0.366±0.019	0.610±0.016	0.072±0.011	0.023±0.007	0.023±0.009	0.335±0.009
	中野第五	40	0.44±0.009	0.07±0.003	0.01±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.090	0.147±0.026	0.225±0.049	0.020±0.007	0.388±0.009
	中野第六	40	0.400±0.007	0.132±0.019	0.025±0.018	1.692±0.369	1.179±0.111	2.023±0.122	0.171±0.022	0.253±0.047	0.023±0.003	0.375±0.006
大分群	龍	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.029±0.007	8.897±0.898	1.829±0.220	1.572±0.190	0.258±0.088	0.622±0.099	0.026±0.002	0.419±0.011
	龍	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.029±0.007	8.897±0.898	1.829±0.220	1.572±0.190	0.258±0.088	0.622±0.099	0.026±0.002	0.419±0.011
	龍	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.029±0.007	8.897±0.898	1.829±0.220	1.572±0.190	0.258±0.088	0.622±0.099	0.026±0.002	0.419±0.011
	龍	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.029±0.007	8.897±0.898	1.829±0.220	1.572±0.190	0.258±0.088	0.622±0.099	0.026±0.002	0.419±0.011
	龍	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.029±0.007	8.897±0.898	1.829±0.220	1.572±0.190	0.258±0.088	0.622±0.099	0.026±0.002	0.419±0.011
	龍	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.029±0.007	8.897±0.898	1.829±0.220	1.572±0.190	0.258±0.088	0.622±0.099	0.026±0.002	0.419±0.011

表 1-4 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	分析試料	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
長尾群	佐賀	34	0.172±0.009	0.060±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.365±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.013±0.002	0.275±0.007
	佐賀	28	0.174±0.007	0.068±0.002	0.030±0.006	1.174±0.028	0.389±0.015	0.013±0.005	0.139±0.014	0.358±0.012	0.023±0.003	0.278±0.008
	佐賀	28	0.148±0.009	0.038±0.002	0.030±0.009	1.691±0.30	0.748±0.065	0.630±0.066	0.246±0.049	0.77±0.047	0.029±0.002	0.338±0.019
	佐賀	49	0.135±0.019	0.037±0.002	0.036±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.922±0.013	0.334±0.006	0.714±0.049	0.020±0.009	0.339±0.015
	佐賀	23	0.215±0.018	0.032±0.008	0.027±0.016	2.534±0.181	0.759±0.178	0.429±0.029	0.271±0.064	0.254±0.048	0.019±0.002	0.340±0.006
	佐賀	17	0.033±0.011	0.021±0.005	0.071±0.021	2.286±0.319	1.522±0.182	0.309±0.082	0.344±0.074	0.264±0.049	0.024±0.002	0.337±0.010
島根群	津	20	0.284±0.022	0.086±0.008	0.045±0.011	1.896±0.157	0.774±0.179	0.455±0.091	0.148±0.032	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
	津	20	0.284±0.022	0.086±0.008	0.045±0.011	1.896±0.157	0.774±0.179	0.455±0.091	0.148±0.032	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
	津	20	0.284±0.022	0.086±0.008	0.045±0.011	1.896±0.157	0.774±0.179	0.455±0.091	0.148±0.032	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
	津	20	0.284±0.022	0.086±0.008	0.045±0.011	1.896±0.157	0.774±0.179	0.455±0.091	0.148±0.032	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
	津	20	0.284±0.022	0.086±0.008	0.045±0.011	1.896±0.157	0.774±0.179	0.455±0.091	0.148±0.032	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
	津	20	0.284±0.022	0.086±0.008	0.045±0.011	1.896±0.157	0.774±0.179	0.455±0.091	0.148±0.032	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
大分群	龍	41	0.332±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.455±0.042	0.119±0.022	0.099±0.016	0.026±0.002	0.339±0.015
	龍	41	0.332±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.455±0.042	0.119±0.022	0.099±0.016	0.026±0.002	0.339±0.015
	龍	41	0.332±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.455±0.042	0.119±0.022	0.099±0.016	0.026±0.002	0.339±0.015
	龍	41	0.332±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.455±0.042	0.119±0.022	0.099±0.016	0.026±0.002	0.339±0.015
	龍	41	0.332±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.455±0.042	0.119±0.022	0.099±0.016	0.026±0.002	0.339±0.015
	龍	41	0.332±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.455±0.042	0.119±0.022	0.099±0.016	0.026±0.002	0.339±0.015
島根群	津	20	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	津	20	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	津	20	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	津	20	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	津	20	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	津	20	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
大分群	龍	41	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	龍	41	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	龍	41	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	龍	41	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	龍	41	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
	龍	41	0.192±0.011	0.092±0.004	0.053±0.018	2.649±0.195	1.174±0.195	0.421±0.060	0.306±0.054	0.285±0.044	0.024±0.002	0.333±0.009
島根群	津	20	0.288±0.021	0.091±0.009	0.031±0.006	1.833±0.088	1.02±0.099	0.613±0.034	0.162±0.027	0.027±0.022	0.027±0.002	0.317±0

表1-5 各黒曜石の原産地における黒曜石製造物群の元素比の平均値と標準偏差

原産地	分析試料	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
北海道	H5 1製造物	67	0.251±0.021	0.107±0.005	0.018±0.005	1.296±0.077	0.420±0.015	0.132±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042
	H5 2製造物	60	0.433±0.011	0.135±0.009	0.041±0.009	1.755±0.075	0.448±0.021	0.119±0.019	0.130±0.015	0.011±0.019	0.034±0.010	0.300±0.019
	F R 1製造物	31	0.643±0.012	0.124±0.009	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.159±0.015	0.014±0.009	0.023±0.011	0.407±0.047
	F R 2製造物	39	0.335±0.006	0.106±0.012	0.053±0.009	2.345±0.138	0.557±0.051	0.463±0.029	0.145±0.011	0.016±0.022	0.077±0.009	0.372±0.043
	F R 3製造物	37	0.800±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.596±0.086	0.981±0.033	0.161±0.021	0.017±0.023	0.020±0.006	0.292±0.039
	F R 4製造物	44	0.261±0.013	0.074±0.019	0.051±0.008	2.580±0.117	0.639±0.057	0.579±0.023	0.135±0.022	0.009±0.017	0.039±0.006	0.238±0.036
	F R 1 1製造物	32	0.698±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.545±0.101	0.426±0.018	0.812±0.023	0.150±0.013	0.017±0.021	0.073±0.005	0.447±0.031
	K T 1 1製造物	35	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.514±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.039±0.021	0.040±0.007	0.516±0.035
	K S 1 1製造物	30	0.959±0.027	0.151±0.006	0.095±0.010	2.882±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.021±0.016	0.042±0.008	0.519±0.019
	K S 2 1製造物	32	0.275±0.007	0.127±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.028	0.408±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010
	K S 3 1製造物	62	0.344±0.011	0.079±0.004	0.056±0.013	1.749±0.108	1.000±0.106	0.434±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011
	K S 3 2製造物	68	0.164±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.563±0.126	1.409±0.037	1.623±0.019	0.369±0.042	0.069±0.028	0.034±0.002	0.377±0.015
K I 1 9製造物	46	0.385±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.050±0.019	0.023±0.012	0.260±0.009	
青森県	I I Y 1製造物	31	0.238±0.011	0.121±0.006	0.049±0.006	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.008±0.028	0.020±0.015	0.391±0.039
	S N 1 1製造物	33	0.252±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.397±0.057	0.211±0.011	0.288±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.008	0.239±0.016
	S N 2 1製造物	29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.006	1.371±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.261±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015
秋田県	K N 1製造物	107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.029	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.049
	T B 1製造物	61	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.277±0.029	0.003±0.027	0.036±0.006	0.278±0.016
岩手県	A 1 1製造物	61	1.519±0.026	0.217±0.010	0.078±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.011	0.009±0.012	0.056±0.017	0.529±0.024
	A 1 2製造物	61	1.141±0.014	0.352±0.021	0.080±0.008	2.752±0.042	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.003±0.029	0.363±0.049
	A 1 3製造物	61	0.959±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.396±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.4±0.016	0.029±0.006	0.360±0.049
	A 1 4製造物	122	1.850±0.059	0.474±0.025	0.087±0.007	2.653±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105
	A 1 5製造物	122	1.167±0.026	0.096±0.027	0.101±0.009	3.707±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.061±0.020	0.234±0.052
	S D 1製造物	45	2.272±0.099	0.997±0.029	0.053±0.007	1.791±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.307±0.018	0.029±0.027	0.011±0.011	0.339±0.011
	F S 2製造物	68	1.910±0.059	0.711±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.025	0.246±0.013	0.009±0.017	0.063±0.013	1.198±0.029
新潟県	A C 1製造物	43	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.006	1.561±0.075	0.400±0.017	1.119±0.019	1.169±0.019	0.061±0.015	0.033±0.005	0.427±0.014
	A C 2製造物	49	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	2.081±0.076	0.901±0.035	0.408±0.029	0.408±0.021	0.108±0.023	0.038±0.003	0.419±0.007
	A C 3製造物	36	0.637±0.016	0.144±0.006	0.083±0.010	1.891±0.051	0.232±0.019	0.381±0.017	0.288±0.019	0.011±0.012	0.040±0.005	0.616±0.013
	I M 1 1製造物	46	0.226±0.012	0.078±0.004	0.066±0.010	2.046±0.177	0.901±0.048	0.731±0.045	0.127±0.030	0.008±0.016	0.028±0.009	0.338±0.007
	I N 2 2製造物	46	0.745±0.013	0.110±0.004	0.149±0.015	1.176±0.213	0.729±0.039	1.582±0.080	0.104±0.030	0.028±0.013	0.036±0.003	0.396±0.010
長野県	N K 1製造物	37	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014
山口県	Y M 1製造物	36	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.024	0.721±0.039	0.497±0.025	0.128±0.022	0.041±0.028	0.028±0.003	0.231±0.013
	N M 1製造物	49	0.339±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.751±0.083	1.048±0.067	0.518±0.034	0.196±0.037	0.055±0.019	0.022±0.003	0.326±0.011
	N K 1 1製造物	49	0.087±0.008	0.059±0.002	0.101±0.003	0.677±0.023	0.379±0.097	0.066±0.002	0.126±0.012	0.282±0.010	0.028±0.002	0.337±0.010
	M K 2 2製造物	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.745±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.368±0.007

表1-6 各黒曜石の原産地における黒曜石製造物群の元素比の平均値と標準偏差

原産地	分析試料	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
宮城県	H D 1製造物	48	0.197±0.035	0.157±0.053	0.008±0.042	1.099±0.844	0.434±0.062	0.975±0.130	0.368±0.079	0.126±0.079	0.090±0.022	0.312±0.323
	H D 2製造物	46	0.414±0.102	0.557±0.074	0.110±0.044	9.900±1.595	0.176±0.069	1.209±0.052	0.127±0.069	0.178±0.069	0.178±0.044	0.938±1.532
鹿児島県	K 1 1製造物	45	0.383±0.012	0.101±0.005	0.061±0.004	1.913±0.158	0.963±0.037	0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009
	K 1 2製造物	46	0.402±0.015	0.168±0.008	0.060±0.017	1.529±0.148	0.729±0.052	0.565±0.038	0.137±0.023	0.083±0.006	0.029±0.003	0.443±0.022
	I T 1製造物	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.033±0.019	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.029	0.168±0.027	0.034±0.028	0.040±0.011	0.390±0.014
	S G 1製造物	46	1.869±0.094	0.778±0.028	0.062±0.010	1.466±0.222	0.307±0.014	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.011	0.353±0.033
	O K 1製造物	32	1.371±0.074	0.087±0.005	0.057±0.008	1.039±0.181	0.202±0.012	0.376±0.021	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.338±0.021
	K 2 1製造物	46	0.347±0.010	0.080±0.003	0.051±0.012	1.965±0.153	0.887±0.086	0.487±0.055	0.119±0.028	0.184±0.023	0.027±0.002	0.265±0.008
北陸道	会楽輪内産製造物群	70	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.668±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.001	0.319±0.012
ロシア	ノリスタヤ	26	18.989±2.100	0.088±0.008	0.202±0.032	27.263±3.698	0.055±0.017	0.716±0.167	0.163±0.016	0.400±0.030	0.173±0.029	1.674±0.240
	ノリスタヤ-1	46	0.786±0.016	0.235±0.011	0.048±0.010	1.851±0.180	0.246±0.014	0.376±0.070	0.427±0.016	0.015±0.009	0.041±0.004	0.482±0.022
	ノリスタヤ-2	46	0.717±0.018	0.269±0.006	0.031±0.006	1.624±0.043	0.119±0.007	0.389±0.016	0.095±0.008	0.016±0.006	0.031±0.003	0.402±0.019
	ノリスタヤ-3	48	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.033	0.262±0.011	0.733±0.026	0.066±0.029	0.4±0.012	0.017±0.003	0.176±0.009
	ノリスタヤ-4	48	0.141±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.007	0.150±0.006	0.106±0.009	0.024±0.006	0.016±0.002	0.165±0.001
	ノリスタヤ	48	0.220±0.008	0.104±0.004	0.099±0.016	1.261±0.062	0.608±0.028	0.500±0.025	0.122±0.030	0.061±0.023	0.024±0.003	0.340±0.006
	アプチャ	46	0.235±0.007	0.160±0.005	0.029±0.004	1.121±0.034	0.192±0.007	0.151±0.008	0.106±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007
樺太群島	J G -1	27	0.758±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.165±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

H S 2群=黒川・釧路山脈に一致、F R 2群=ケシヨツツ山群に一致

K 1 1製造物: 黒川山脈、\* : ガラス質貫入岩、N K 1製造物: 中ノ原産地、I I Y 1製造物: 利根山産地、S N 1製造物: 二内山産地、F R 1 1製造物: 此良産地、H S 1製造物: 北濃産地、K I 1 9製造物: 黒川山脈、U T 1製造物: 内陸産地、A 1 1製造物: 黒川山脈、F S 2製造物: 黒川山脈、S D 1製造物: 黒川山脈、N M 1製造物: 友成山、I 2製造物: F 1 1製造物: 友成山、H 5 1 1製造物: 黒川山脈、K S 1 1製造物: ケス4産地 A-R 産地、S G 1製造物: 志保産地、O K 1製造物: 黒川山脈、T B 1製造物: 戸平山脈、N 2製造物: 長門産地、M K 1製造物: 志保産地、Y M 1製造物: 黒川山脈、N K 1 1製造物: 黒川山脈、I M 1 1製造物: 黒川山脈、I N 1 1製造物: 黒川山脈、K 1 9製造物: 黒川山脈、K K 1 1製造物: 黒川山脈、H 2 1 1製造物: 黒川山脈、K 2 1 1製造物: 黒川山脈、K 2 2 1製造物: 黒川山脈、K 2 3 1製造物: 黒川山脈、K 2 4 1製造物: 黒川山脈、K 2 5 1製造物: 黒川山脈、K 2 6 1製造物: 黒川山脈、K 2 7 1製造物: 黒川山脈、K 2 8 1製造物: 黒川山脈、K 2 9 1製造物: 黒川山脈、K 2 10 1製造物: 黒川山脈、K 2 11 1製造物: 黒川山脈、K 2 12 1製造物: 黒川山脈、K 2 13 1製造物: 黒川山脈、K 2 14 1製造物: 黒川山脈、K 2 15 1製造物: 黒川山脈、K 2 16 1製造物: 黒川山脈、K 2 17 1製造物: 黒川山脈、K 2 18 1製造物: 黒川山脈、K 2 19 1製造物: 黒川山脈、K 2 20 1製造物: 黒川山脈、K 2 21 1製造物: 黒川山脈、K 2 22 1製造物: 黒川山脈、K 2 23 1製造物: 黒川山脈、K 2 24 1製造物: 黒川山脈、K 2 25 1製造物: 黒川山脈、K 2 26 1製造物: 黒川山脈、K 2 27 1製造物: 黒川山脈、K 2 28 1製造物: 黒川山脈、K 2 29 1製造物: 黒川山脈、K 2 30 1製造物: 黒川山脈、K 2 31 1製造物: 黒川山脈、K 2 32 1製造物: 黒川山脈、K 2 33 1製造物: 黒川山脈、K 2 34 1製造物: 黒川山脈、K 2 35 1製造物: 黒川山脈、K 2 36 1製造物: 黒川山脈、K 2 37 1製造物: 黒川山脈、K 2 38 1製造物: 黒川山脈、K 2 39 1製造物: 黒川山脈、K 2 40 1製造物: 黒川山脈、K 2 41 1製造物: 黒川山脈、K 2 42 1製造物: 黒川山脈、K 2 43 1製造物: 黒川山脈、K 2 44 1製造物: 黒川山脈、K 2 45 1製造物: 黒川山脈、K 2 46 1製造物: 黒川山脈、K 2 47 1製造物: 黒川山脈、K 2 48 1製造物: 黒川山脈、K 2 49 1製造物: 黒川山脈、K 2 50 1製造物: 黒川山脈、K 2 51 1製造物: 黒川山脈、K 2 52 1製造物: 黒川山脈、K 2 53 1製造物: 黒川山脈、K 2 54 1製造物: 黒川

表 2-1 各サマサイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原 産 地 名	分析 標本	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	元 素 比	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
北海道	イトムト 旭山	0.399±0.020	0.139±0.011	0.081±0.008	5.984±0.223	0.196±0.011	0.129±0.003	0.383±0.050	0.012±0.001	0.013±0.001
	旭山	0.353±0.011	0.283±0.010	0.089±0.005	5.964±0.149	0.174±0.011	0.095±0.009	0.411±0.029	0.015±0.001	0.015±0.001
新潟県	野 郎 89	0.211±0.008	0.369±0.029	0.141±0.016	0.218±0.329	0.141±0.012	0.199±0.011	0.419±0.042	0.019±0.012	0.012±0.001
群馬県	豊 登 止 43	0.194±0.076	0.360±0.028	0.129±0.014	5.205±1.183	0.089±0.034	0.085±0.014	0.428±0.082	0.009±0.019	0.013±0.001
長野県	八 瀬 川 79	0.183±0.007	0.360±0.017	0.153±0.017	11.018±0.299	0.118±0.011	0.187±0.013	0.721±0.039	0.019±0.009	0.022±0.001
	八 瀬 川 79	0.274±0.028	0.231±0.011	0.090±0.008	9.905±0.326	0.131±0.009	0.181±0.013	0.412±0.009	0.018±0.002	0.018±0.001
静岡県	大 火 井 49	0.092±0.006	0.286±0.009	0.156±0.009	10.466±0.332	0.083±0.006	0.111±0.006	0.485±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001
神奈川	戸 沢 日 93	1.376±0.065	0.227±0.011	0.038±0.004	0.766±0.025	0.277±0.009	0.021±0.013	0.594±0.024	0.025±0.007	0.056±0.003
奈良県	一 上 山 51	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	4.639±0.270	0.202±0.012	0.069±0.009	0.620±0.022	0.021±0.010	0.019±0.001
	一 上 山 51	0.494±0.023	0.285±0.025	0.056±0.004	1.060±0.148	0.796±0.021	0.065±0.010	0.708±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001
兵庫県	野 郎 第一 52	0.618±0.021	0.254±0.012	0.057±0.005	3.619±0.189	0.265±0.019	0.064±0.012	0.845±0.025	0.027±0.017	0.013±0.001
	野 郎 第二 52	0.535±0.020	0.263±0.006	0.053±0.005	4.438±0.103	0.340±0.015	0.042±0.012	1.069±0.030	0.026±0.014	0.017±0.001
香川県	分 分 寺 18	0.487±0.011	0.251±0.007	0.058±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.008±0.015	0.015±0.001
	野 郎 寺 25	0.499±0.012	0.248±0.008	0.053±0.005	3.718±0.129	0.309±0.019	0.043±0.015	0.938±0.031	0.014±0.001	0.014±0.001
岡山県	分 分 寺 21	0.524±0.015	0.262±0.007	0.052±0.005	3.376±0.109	0.340±0.014	0.040±0.015	0.971±0.031	0.022±0.011	0.017±0.001
	野 郎 寺 25	0.397±0.009	0.239±0.007	0.069±0.005	4.019±0.127	0.277±0.012	0.059±0.011	1.164±0.039	0.021±0.013	0.015±0.001
金 山 山 24	0.688±0.012	0.222±0.004	0.079±0.005	4.817±0.126	0.316±0.017	0.087±0.011	1.186±0.023	0.020±0.015	0.013±0.001	0.155±0.001
	0.688±0.012	0.222±0.004	0.082±0.004	4.809±0.125	0.292±0.017	0.065±0.011	1.099±0.025	0.020±0.011	0.013±0.001	0.153±0.001
山 山 山 63	0.402±0.011	0.216±0.006	0.079±0.006	4.741±0.128	0.289±0.014	0.088±0.016	1.065±0.026	0.021±0.011	0.013±0.001	0.116±0.001
	0.350±0.007	0.232±0.005	0.074±0.006	5.989±0.169	0.261±0.012	0.061±0.014	1.093±0.035	0.021±0.015	0.011±0.001	0.105±0.001
山 山 山 51	0.812±0.046	0.127±0.005	0.025±0.002	2.087±0.088	0.492±0.030	0.018±0.016	0.722±0.047	0.046±0.015	0.035±0.003	0.545±0.024
	0.641±0.052	0.133±0.007	0.033±0.002	2.471±0.136	0.397±0.019	0.021±0.017	0.934±0.047	0.038±0.011	0.029±0.003	0.531±0.027
山 山 山 50	0.873±0.062	0.128±0.006	0.026±0.002	1.199±0.061	0.485±0.031	0.016±0.014	0.711±0.059	0.043±0.014	0.035±0.003	0.531±0.027
	0.185±0.040	0.131±0.007	0.027±0.008	2.083±0.088	0.495±0.026	0.020±0.016	0.708±0.045	0.049±0.014	0.035±0.004	0.433±0.023
* 天 山 山 山 36	0.624±0.072	0.199±0.007	0.041±0.003	2.792±0.180	0.772±0.043	0.024±0.021	0.966±0.041	0.014±0.012	0.029±0.003	0.342±0.028
	0.792±0.041	0.224±0.009	0.024±0.001	2.779±0.138	0.691±0.021	0.027±0.012	0.771±0.052	0.014±0.015	0.029±0.003	0.402±0.018
愛媛県	中 井 寺 40	0.168±0.041	0.374±0.007	0.073±0.009	5.160±0.187	0.399±0.022	0.198±0.017	1.473±0.061	0.027±0.021	0.026±0.008
鳥取県	下 野 山 23	0.188±0.007	0.183±0.006	0.011±0.001	0.916±0.033	0.032±0.002	0.020±0.002	1.177±0.009	0.044±0.002	0.015±0.001
	下 野 山 23	0.188±0.007	0.182±0.004	0.021±0.003	1.447±0.038	0.028±0.004	0.018±0.003	0.282±0.005	0.027±0.003	0.019±0.001
山 山 山 51	0.447±0.012	0.444±0.044	0.061±0.006	3.570±0.097	0.199±0.026	0.063±0.009	0.988±0.022	0.078±0.020	0.027±0.005	0.256±0.009
	0.447±0.012	0.444±0.044	0.061±0.006	3.570±0.097	0.199±0.026	0.063±0.009	0.988±0.022	0.078±0.020	0.027±0.005	0.256±0.009

※原産地は岡山県山鹿村大字小嶋石見の原産地 (日本式発表予定)

表 2 2 各サマサイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原 産 地 名	分析 標本	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	元 素 比	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
広島県	高 瀬 寺 49	0.601±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.323±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.462±0.017	0.165±0.010	0.025±0.002
	高 瀬 寺 49	0.277±0.010	0.348±0.008	0.089±0.002	1.604±0.057	0.039±0.015	0.009±0.013	0.028±0.006	0.019±0.001	0.171±0.006
	伊 豆 山 25	0.340±0.008	0.319±0.008	0.039±0.003	1.347±0.025	0.047±0.011	0.011±0.005	0.261±0.021	0.019±0.006	0.395±0.009
	伊 豆 山 25	0.823±0.019	0.263±0.031	0.019±0.011	1.057±0.060	0.093±0.008	0.008±0.005	0.309±0.020	0.025±0.009	0.171±0.006
	山 山 山 51	1.185±0.061	0.173±0.022	0.037±0.005	2.229±0.090	0.245±0.011	0.023±0.009	0.243±0.024	0.248±0.013	0.019±0.003
山口県	平 生 46	0.184±0.009	0.190±0.006	0.112±0.001	7.296±0.336	0.170±0.015	0.077±0.011	0.691±0.040	0.029±0.010	0.011±0.001
福岡県	八 女 寺 50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.052±0.007	2.125±0.063	0.493±0.019	0.107±0.012	1.477±0.049	0.049±0.022	0.049±0.005
	八 女 寺 50	0.962±0.066	0.899±0.029	0.041±0.005	3.075±0.123	0.034±0.009	0.111±0.020	1.071±0.134	0.016±0.012	0.012±0.001
	八 女 寺 50	1.142±0.060	0.725±0.035	0.013±0.001	2.919±0.099	0.025±0.006	0.015±0.008	1.021±0.111	0.012±0.009	0.015±0.001
	八 女 寺 50	1.922±0.109	0.081±0.009	0.061±0.006	3.023±0.103	0.087±0.023	0.122±0.017	1.887±0.036	0.040±0.015	0.060±0.004
佐賀県	多 久 寺 53	0.831±0.047	0.454±0.013	0.095±0.007	4.719±0.225	0.310±0.027	0.062±0.009	0.650±0.033	0.222±0.018	0.016±0.001
	多 久 寺 53	0.051±0.005	0.396±0.016	0.061±0.018	1.345±0.041	0.066±0.004	0.020±0.002	0.323±0.012	0.016±0.001	0.280±0.011
	多 久 寺 53	1.097±0.222	0.350±0.028	0.062±0.014	4.496±0.093	0.701±0.084	0.084±0.005	0.628±0.052	0.239±0.019	0.021±0.001
	多 久 寺 53	1.207±0.015	0.319±0.013	0.058±0.010	3.643±0.225	0.714±0.029	0.061±0.022	0.821±0.023	0.266±0.022	0.080±0.009
	多 久 寺 53	0.923±0.039	0.263±0.031	0.019±0.011	1.057±0.060	0.093±0.008	0.016±0.001	0.691±0.016	0.208±0.023	0.045±0.002
	多 久 寺 53	0.529±0.043	0.330±0.010	0.070±0.008	5.000±0.323	0.489±0.029	0.065±0.017	0.654±0.022	0.132±0.018	0.013±0.001
	多 久 寺 53	0.453±0.019	0.331±0.006	0.089±0.010	7.489±0.249	0.307±0.024	0.081±0.015	0.689±0.027	0.106±0.010	0.023±0.002
	多 久 寺 53	0.717±0.036	0.438±0.012	0.081±0.006	5.712±0.241	0.383±0.034	0.015±0.013	0.819±0.039	0.068±0.020	0.018±0.001
	多 久 寺 53	0.792±0.031	0.325±0.011	0.067±0.008	3.223±0.214	0.543±0.006	0.075±0.011	0.691±0.016	0.208±0.023	0.046±0.002
	多 久 寺 53	0.822±0.027	0.369±0.010	0.045±0.010	3.888±0.236	0.362±0.021	0.078±0.018	0.586±0.049	0.085±0.020	0.027±0.009
	多 久 寺 53	0.679±0.016	0.399±0.016	0.073±0.007	4.665±0.219	0.385±0.021	0.078±0.012	0.849±0.049	0.028±0.013	0.024±0.007
	多 久 寺 53	0.820±0.011	0.191±0.007	0.078±0.010	5.371±0.189	0.264±0.019	0.073±0.015	0.587±0.020	0.075±0.009	0.032±0.002
	多 久 寺 53	0.714±0.014	0.409±0.010	0.080±0.010	5.176±0.292	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.022	0.096±0.013	0.029±0.003
長門県	大 島 寺 28	1.111±0.118	0.140±0.009	0.065±0.003	1.050±0.290	0.226±0.043	0.041±0.027	0.438±0.028	0.062±0.022	0.050±0.006
	大 島 寺 28	1.077±0.041	0.144±0.008	0.061±0.008	1.776±0.016	0.184±0.014	0.088±0.013	0.497±0.030	0.062±0.012	0.087±0.004
	大 島 寺 28	0.784±0.005	0.345±0.026	0.069±0.008	4.961±0.236	0.075±0.022	0.220±0.028	0.727±0.053	0.299±0.039	0.015±0.003
	大 島 寺 28	0.591±0.340	0.228±0.012	0.088±0.010	7.759±0.411	1.142±0.194	0.395±0.031	0.969±0.017	0.496±0.041	0.012±0.001
	大 島 寺 28	0.302±0.026	0.352±0.022	0.052±0.006	4.186±0.227	0.102±0.018	0.074±0.009	0.624±0.039	0.052±0.011	0.019±0.001
	大 島 寺 28	0.905±0.048	0.265±0.027	0.071±0.004	4.851±0.274	0.203±0.029	0.081±0.012	1.174±0.918	0.054±0.017	0.011±0.001
	大 島 寺 28	0.630±0.012	0.329±0.005	0.090±0.011	7.831±0.215	1.211±0.640	0.367±0.035	1.038±0.047	0.434±0.033	0.013±0.001
	大 島 寺 28	0.512±0.014	0.317±0.008	0.084±0.011	7.187±0.212	0.941±0.027	0.311±0.027	0.878±0.040	0.431±0.020	0.011±0.001
	大 島 寺 28	0.302±0.026	0.352±0.022	0.052±0.006	4.186±0.227	0.102±0.018	0.074±0.009	0.624±0.039	0.052±0.011	0.019±0.001
	大 島 寺 28	0.599±0.178	0.373±0.045	0.072±0.011	5.187±0.749	0.203±0.050	0.077±0.016	0.608±0.060	0.085±0.027	0.015±0.001
熊本県	大 島 寺 28	0.642±0.017	0.310±0.019	0.070±0.009	5.829±0.264	0.398±0.016	0.085±0.014	0.826±0.039	0.022±0.002	0.062±0.002
	大 島 寺 28	0.642±0.017	0.310±0.019	0.070±0.009	5.829±0.264	0.398±0.016	0.085±0.014	0.826±0.039	0.022±0.002	0.062±0.002
熊本県	大 島 寺 28	2.006±0.258	0.646±0.062	0.061±0.01						

表2-3 原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

産 地 名	遺 物 群 名	分析 個数	元 素 比									
			K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
北海道	釧路市遺物群	35	0.332±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	3.376±0.771	0.170±0.015	0.103±0.016	0.974±0.101	0.008±0.011	0.017±0.021	0.154±0.090
石川県	能登遺物群	29	0.476±0.016	0.396±0.012	0.097±0.013	4.229±0.198	0.360±0.019	0.119±0.016	1.262±0.053	0.021±0.008	0.020±0.017	0.228±0.075
岐阜県	野原No.261遺物群	56	0.623±0.032	0.393±0.013	0.043±0.005	2.234±0.079	0.176±0.009	0.046±0.012	1.030±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.212±0.019
	野原No.271遺物群	30	0.487±0.019	0.261±0.006	0.046±0.005	1.883±0.041	0.099±0.006	0.033±0.006	0.871±0.030	0.023±0.005	0.016±0.001	0.172±0.006
	野原No.282遺物群	33	0.799±0.009	0.312±0.010	0.042±0.005	2.342±0.086	0.221±0.014	0.077±0.011	1.212±0.049	0.044±0.007	0.026±0.002	0.240±0.014
	野原No.289遺物群	32	3.215±0.134	1.988±0.047	0.149±0.023	6.420±0.453	0.617±0.041	0.210±0.022	1.302±0.067	0.158±0.027	0.167±0.015	0.222±0.061
	野原No.292遺物群	49	0.394±0.064	0.218±0.006	0.037±0.002	2.358±0.069	0.332±0.007	0.011±0.002	0.661±0.023	0.022±0.005	0.017±0.001	0.161±0.004
愛知県	春日No.285遺物群	32	3.584±0.178	1.477±0.058	0.075±0.016	3.770±1.151	0.441±0.024	0.187±0.019	1.118±0.063	0.162±0.028	0.140±0.019	0.289±0.159
大阪府	春日No.17群	35	0.324±0.004	0.362±0.006	0.067±0.009	3.890±0.159	0.093±0.006	0.044±0.007	0.759±0.044	0.027±0.003	0.017±0.002	0.147±0.019
	春日No.15群	35	1.016±0.022	0.320±0.012	0.043±0.006	4.187±0.141	0.477±0.019	0.069±0.010	1.722±0.068	0.038±0.025	0.037±0.009	0.557±0.021
	吹田No.6群	30	0.226±0.003	0.319±0.003	0.073±0.006	4.960±0.089	0.194±0.010	0.083±0.011	0.888±0.019	0.019±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002
	吹田No.49群	30	0.319±0.005	0.253±0.003	0.057±0.004	2.724±0.071	0.228±0.015	0.050±0.010	0.616±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.147±0.002
	吹田No.62群	30	0.333±0.003	0.228±0.003	0.069±0.004	4.363±0.096	0.217±0.014	0.056±0.011	0.618±0.019	0.018±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002
	吹田No.82群	30	0.349±0.003	0.228±0.003	0.066±0.006	1.392±0.065	0.208±0.010	0.069±0.009	0.638±0.015	0.018±0.011	0.016±0.001	0.138±0.002
	吹田No.86群	2	0.258±0.007	0.249±0.026	0.025±0.008	4.536±0.140	0.031±0.019	0.139±0.027	1.425±0.050	0.059±0.019	0.097±0.033	0.190±0.046
	吹田No.89群	30	0.601±0.006	0.287±0.004	0.046±0.004	3.077±0.069	0.302±0.014	0.048±0.012	1.008±0.022	0.022±0.014	0.028±0.002	0.256±0.004
	吹田No.104群	30	0.132±0.002	0.117±0.002	0.096±0.006	6.363±0.098	0.112±0.007	0.044±0.019	0.338±0.020	0.039±0.009	0.011±0.001	0.102±0.002
	豊田No.14群	30	0.361±0.001	0.253±0.004	0.051±0.007	3.116±0.079	0.236±0.016	0.093±0.014	0.684±0.025	0.027±0.008	0.018±0.001	0.179±0.004
豊田No.17群	33	0.371±0.004	0.262±0.004	0.048±0.007	2.867±0.060	0.241±0.010	0.056±0.009	0.615±0.024	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.003	
豊田No.19群	49	4.421±0.009	0.237±0.005	0.038±0.009	4.389±0.132	0.217±0.012	0.067±0.009	0.661±0.025	0.026±0.009	0.015±0.002	0.139±0.006	
豊田No.25群	48	0.249±0.002	0.268±0.005	0.058±0.007	4.198±0.087	0.169±0.010	0.039±0.009	0.683±0.027	0.022±0.008	0.018±0.002	0.123±0.004	
奈良県	春日No.2群	48	0.491±0.008	0.224±0.009	0.040±0.002	2.278±0.047	0.098±0.006	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006
	春日No.2群	48	0.324±0.007	0.268±0.007	0.040±0.002	2.859±0.079	0.098±0.006	0.061±0.006	0.622±0.025	0.048±0.006	0.021±0.002	0.152±0.006
兵庫県	平石遺物群	70	0.211±0.006	0.286±0.007	0.062±0.014	7.108±0.245	0.096±0.011	0.071±0.012	0.952±0.038	0.021±0.008	0.013±0.001	0.118±0.005
	法印谷遺物群	91	3.161±0.177	2.341±0.134	1.188±0.041	17.661±0.479	1.999±0.048	0.288±0.036	2.124±0.106	0.127±0.035	0.121±0.011	1.261±0.085
	下山遺物群	60	0.196±0.003	0.280±0.005	0.060±0.010	8.074±0.311	0.083±0.008	0.064±0.008	0.529±0.021	0.017±0.008	0.014±0.001	0.102±0.009
	下山No.2遺物群	48	0.178±0.002	0.284±0.003	0.048±0.007	7.148±0.141	0.062±0.007	0.060±0.009	0.561±0.023	0.013±0.005	0.012±0.001	0.095±0.003
	下山No.11遺物群	48	0.161±0.014	0.272±0.001	0.060±0.008	7.586±0.287	0.076±0.009	0.069±0.008	0.468±0.019	0.014±0.006	0.012±0.001	0.087±0.003
和泉市遺物群	48	4.547±0.289	0.802±0.030	0.168±0.048	10.523±1.762	2.447±0.281	0.375±0.120	14.878±3.061	1.094±0.240	0.114±0.030	1.029±0.247	
奈良県	六甲山遺物群	30	0.307±0.004	0.268±0.005	0.047±0.005	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.023	0.020±0.013	0.016±0.005	0.133±0.004
	滝の宮遺物群	66	0.684±0.014	0.288±0.006	0.056±0.017	1.139±0.128	0.429±0.019	0.077±0.022	1.178±0.040	0.098±0.013	0.025±0.002	0.262±0.007
高知県	初ノ山遺物群	27	0.610±0.017	0.223±0.004	0.097±0.005	4.528±0.120	0.235±0.016	0.063±0.017	1.181±0.008	0.039±0.014	0.024±0.002	0.195±0.006
宮崎県	水田No.18遺物群	48	0.292±0.007	0.237±0.003	0.036±0.006	3.976±0.127	0.164±0.010	0.061±0.010	0.668±0.026	0.024±0.008	0.017±0.002	0.127±0.001
	水田No.19遺物群	48	0.449±0.005	0.193±0.002	0.021±0.005	6.471±0.098	0.073±0.002	0.037±0.005	0.912±0.047	0.009±0.008	0.039±0.017	0.307±0.049

注：向山遺物群、下山No.5, No.11群、中ノ山遺物群、六甲山遺物群、松ノ山遺物群、春日遺物群、鬼化川遺物群、野原No.262, 299群、栗原谷遺物群、水田2遺物群、塩野2遺物群の遺物群の分析個数は1個の遺物の分析個数を変えて分析した回数にあらず。下山遺物群(No.4, No.14, No.15)、平石遺物群(No.12, No.13)、滝の宮遺物群、野原遺物群、貫崎遺物群、京奈和遺物群の分析個数はそれぞれ2、3個の遺物の分析個数を変えて分析した回数にあらず。

表3 岩屋原産地からのサヌカイト原石6個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	20	30%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
第二群	22	33	白峰群に一致
	6	9	法印谷群に一致
	5	8	園分寺群に一致
	4	6	蓮光寺群に一致
	3	5	金山東群に一致
	2	3	和泉群に一致
	4	6	不明(どこの原石群にも属さない)

表4 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石7個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	12	17%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
和泉群	9	13	"、"、"
岩屋第二群	6	8	白峰群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	3	9	不明(どこの原石群にも属さない)

表5 和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石2個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
和泉群	10	48%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第一群	1	5	"、"、"
	1	4	不明(どこの原石群にも属さない)

表6-1 東船道跡出土土曜石製石器・剥片の元素比分析結果

分析番号	元 素 比						
	Ca/K	Ti/E	Mn/Zr	Fe/Zr	Kb/Zr	Sr/Zr	Ta/Zr
70651	0.133	0.458	0.813	0.936	3.37	0.003	0.111
70652	0.149	0.670	0.620	0.364	0.719	0.003	0.094
70653	0.112	0.462	0.616	0.708	0.654	0.009	0.258
70654	0.153	0.695	0.628	0.813	0.289	0.007	0.168
70655	0.239	0.087	0.013	0.97	0.393	0.007	0.122
70656	0.102	0.161	0.019	0.023	0.281	0.010	0.003
70657	0.159	0.461	0.618	0.982	0.388	0.003	0.102
70658	0.166	0.682	0.622	0.486	0.402	0.008	0.123
70659	0.169	0.161	0.025	0.028	0.407	0.019	0.123
70660	0.136	0.554	0.739	0.603	0.952	0.005	0.106
70661	0.138	0.680	0.617	0.827	0.372	0.004	0.105
70662	0.133	0.884	0.617	1.002	0.738	0.008	0.104
70663	0.154	0.662	0.613	0.976	0.287	0.005	0.113
70664	0.160	0.666	0.616	0.668	0.363	0.008	0.129
70666	0.151	0.609	0.617	1.051	0.384	0.006	0.101
70667	0.181	0.872	0.618	0.930	0.372	0.008	0.108
70668	0.147	0.665	0.628	0.622	0.778	0.006	0.093
70669	0.096	0.244	0.019	0.368	0.480	0.007	0.119
70670	0.158	0.871	0.616	0.813	0.320	0.006	0.081
70671	0.112	0.661	0.619	0.862	0.367	0.008	0.104
70672	0.123	0.616	0.617	1.063	0.318	0.007	0.105
70673	0.148	0.681	0.621	1.040	0.393	0.003	0.116
70674	0.167	0.936	0.611	0.890	0.232	0.007	0.084
70675	0.120	0.662	0.621	0.720	0.378	0.007	0.105
70676	0.154	0.656	0.618	0.981	0.382	0.005	0.124
70677	0.149	0.682	0.624	0.930	0.386	0.006	0.107
70678	0.126	0.668	0.623	1.039	0.376	0.006	0.098
70679	0.122	0.662	0.613	0.827	0.360	0.008	0.102
70680	0.158	0.658	0.615	0.966	0.373	0.007	0.103
70681	0.151	0.662	0.615	0.968	0.370	0.006	0.117
70682	0.167	0.668	0.620	1.028	0.388	0.004	0.121
70683	0.162	0.667	0.614	0.987	0.388	0.006	0.109
70684	0.137	0.662	0.623	0.946	0.378	0.004	0.090
70685	0.143	0.660	0.615	0.940	0.383	0.001	0.098
70686	0.159	0.661	0.618	0.968	0.382	0.005	0.102
70687	0.131	0.660	0.618	0.961	0.387	0.007	0.095
70688	0.094	0.039	0.013	0.072	0.275	0.007	0.090
70689	0.151	0.659	0.612	0.958	0.230	0.016	0.082
70690	0.174	0.664	0.616	1.017	0.377	0.008	0.105
70691	0.137	0.671	0.616	0.979	0.389	0.003	0.099
70692	0.126	0.663	0.617	0.930	0.440	0.011	0.117
70693	0.132	0.667	0.618	0.938	0.388	0.006	0.110
70694	0.158	0.662	0.623	0.988	0.382	0.006	0.121
70695	0.177	0.615	0.644	0.324	0.005	0.089	0.215
70696	0.168	0.66	0.618	0.917	0.383	0.006	0.109
70697	0.168	0.668	0.617	0.928	0.387	0.006	0.108
70698	0.163	0.667	0.616	1.032	0.377	0.008	0.104
70699	0.162	0.662	0.619	0.974	0.384	0.011	0.099
70700	0.156	0.671	0.614	0.958	0.378	0.006	0.101
70691	0.167	0.667	0.616	0.986	0.388	0.006	0.109

表6-3 東船道跡出土土曜石製石器・剥片の元素比分析結果

分析番号	元 素 比						
	Ca/E	Ti/E	Mn/Zr	Fe/Zr	Kb/Zr	Sr/Zr	Ta/Zr
70696	0.145	0.670	0.615	0.890	0.232	0.006	0.082
70697	0.156	0.662	0.620	0.996	0.387	0.004	0.110
70698	0.158	0.662	0.618	0.911	0.376	0.005	0.117
70699	0.131	0.658	0.622	0.962	0.380	0.004	0.104
70700	0.124	0.617	0.618	1.074	0.406	0.006	0.094
70691	0.156	0.658	0.611	0.981	0.377	0.005	0.111
70692	0.168	0.663	0.617	0.947	0.388	0.003	0.119
70693	0.169	0.627	0.617	1.020	0.396	0.007	0.123
70694	0.162	0.673	0.618	0.988	0.382	0.005	0.120
70695	0.165	0.681	0.613	0.975	0.388	0.006	0.072
70696	0.152	0.668	0.619	0.971	0.379	0.006	0.123
70697	0.153	0.670	0.618	0.988	0.382	0.005	0.120
70698	0.160	0.673	0.619	0.928	0.376	0.004	0.099
70699	0.152	0.671	0.617	0.981	0.375	0.007	0.109
JC-1	0.811	0.221	0.070	0.399	0.200	0.279	0.310

表6-2 東船道跡出土土曜石製石器・剥片の元素比分析結果

分析番号	元 素 比						
	Ca/K	Ti/E	Mn/Zr	Fe/Zr	Kb/Zr	Sr/Zr	Ta/Zr
70692	0.164	0.661	0.616	0.902	0.383	0.003	0.110
70693	0.151	0.688	0.615	0.882	0.367	0.007	0.073
70694	0.169	0.610	0.613	0.909	0.276	0.006	0.106
70695	0.12	0.674	0.620	0.951	0.391	0.009	0.25
70696	0.16	0.61	0.613	0.996	0.387	0.004	0.091
70697	0.149	0.690	0.619	1.027	0.388	0.003	0.104
70698	0.108	0.648	0.622	0.953	0.393	0.005	0.261
70699	0.127	0.661	0.615	0.958	0.388	0.005	0.097
70700	0.161	0.667	0.626	1.018	0.384	0.003	0.21
70691	0.159	0.671	0.619	0.917	0.311	0.006	0.076
70692	0.162	0.674	0.616	0.982	0.382	0.007	0.079
70693	0.144	0.662	0.620	0.992	0.375	0.005	0.108
70694	0.137	0.666	0.611	0.935	0.383	0.005	0.091
70695	0.107	0.653	0.613	0.919	0.387	0.004	0.087
70696	0.163	0.662	0.616	0.952	0.376	0.005	0.092
70697	0.160	0.661	0.618	0.933	0.373	0.003	0.100
70698	0.127	0.657	0.618	0.944	0.391	0.008	0.123
70699	0.170	0.666	0.620	0.971	0.384	0.006	0.101
70700	0.15	0.616	0.616	0.940	0.373	0.006	0.122
70692	0.163	0.662	0.618	0.876	0.370	0.007	0.119
70693	0.145	0.658	0.622	0.880	0.380	0.006	0.110
70694	0.162	0.66	0.621	0.933	0.376	0.006	0.112
70695	0.163	0.662	0.618	0.876	0.370	0.007	0.119
70696	0.145	0.658	0.622	0.880	0.380	0.006	0.110
70697	0.162	0.66	0.621	0.933	0.376	0.006	0.112
70698	0.163	0.662	0.618	0.876	0.370	0.007	0.119
70699	0.145	0.658	0.622	0.880	0.380	0.006	0.110
70700	0.162	0.66	0.621	0.933	0.376	0.006	0.112
70692	0.163	0.662	0.618	0.876	0.370	0.007	0.119
70693	0.145	0.658	0.622	0.880	0.380	0.006	0.110
70694	0.162	0.66	0.621	0.933	0.376	0.006	0.112
70695	0.163	0.662	0.618	0.876	0.370	0.007	0.119
70696	0.145	0.658	0.622	0.880	0.380	0.006	0.110
70697	0.162	0.66	0.621	0.933	0.376	0.006	0.112
70698	0.163	0.662	0.618	0.876	0.370	0.007	0.119
70699	0.145	0.658	0.622	0.880	0.380	0.006	0.110
70700	0.162	0.66	0.621	0.933	0.376	0.006	0.112
JC-1	0.142	0.631	0.619	0.890	0.273	0.006	0.099
70692	0.147	0.606	0.619	1.004	0.291	0.005	0.226
70693	0.149	0.605	0.620	1.008	0.286	0.004	0.201
70694	0.092	0.033	0.023	0.067	0.394	0.011	0.11
70695	0.139	0.609	0.619	0.969	0.277	0.007	0.105
70696	0.127	0.603	0.618	0.982	0.288	0.010	0.22
70697	0.108	0.601	0.616	1.024	0.288	0.010	0.22
70698	0.139	0.603	0.617	0.997	0.272	0.006	0.2
70699	0.162	0.605	0.618	1.018	0.287	0.006	0.104
70700	0.162	0.600	0.620	0.965	0.289	0.005	0.118
70691	0.143	0.608	0.613	0.907	0.282	0.008	0.219
70692	0.157	0.603	0.616	0.910	0.277	0.006	0.070
70693	0.157	0.602	0.618	0.910	0.277	0.007	0.081
70694	0.139	0.603	0.613	0.912	0.288	0.008	0.071

表6-4 東船道跡出土安山岩製石器・剥片の元素比分析結果

分析番号	元 素 比						
	K/Co	Ti/Ca	Mn/Zr	Fe/Zr	V/Zr	Sr/Zr	Al/Co
70694	4.028	0.217	0.902	4.956	0.800	0.068	1.292
70693	4.783	0.643	0.760	1.620	2.906	0.187	1.678
70691	4.977	0.636	0.760	1.977	1.787	0.177	1.684
70692	4.508	0.832	0.946	2.103	1.841	0.204	1.609
70690	0.841	0.028	0.030	0.233	0.233	0.078	1.117
JC-1	1.286	0.296	0.652	2.723	0.434	0.184	0.728

JC-1 鑛物組成: And., K-feldspar, B. quartz, Tr. chlorite. Fe 1975 composition of data on the 532 geochemical reference samples JC 1 granulite and And-basalt. *Geochimical Journal*, Vol. 9, p. 176-182 (1975)



表 8-1 各碧玉の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	分析回数	Al/Si X <sub>2</sub> ±σ	K/Si X <sub>2</sub> ±σ	Ca/K X <sub>2</sub> ±σ	Ti/K X <sub>2</sub> ±σ	K/F X <sub>2</sub> ±σ
精製	31	0.171±0.003	0.086±0.020	1.123±0.127	0.041±0.040	0.022±0.024
女木川	42	0.039±0.006	0.026±0.281	2.729±0.207	0.124±0.011	0.042±0.011
宇佐川	3	0.019±0.009	0.072±0.377	0.623±0.203	0.172±0.031	0.040±0.007
宇佐川	2	0.066±0.003	0.037±0.287	0.080±0.094	0.099±0.005	0.292±0.034
宇佐川	3	0.048±0.007	0.091±0.548	0.049±0.038	0.054±0.011	0.370±0.206
宇佐川	51	0.066±0.004	0.061±0.121	0.072±0.042	0.094±0.005	0.023±0.005
宇佐川	27	0.075±0.009	0.025±0.287	0.191±0.022	0.176±0.104	0.045±0.024
宇佐川	1	0.019±0.004	0.069±0.437	0.117±0.169	0.222±0.088	0.059±0.019
宇佐川	33	0.027±0.001	0.176±0.224	0.157±0.180	0.229±0.179	0.050±0.015
宇佐川	2	0.019±0.005	0.034±0.284	0.291±0.388	0.372±0.125	0.011±0.008
宇佐川	4	0.043±0.001	0.044±0.181	0.237±0.079	0.158±0.039	0.122±0.069
宇佐川	1	0.019±0.004	0.062±0.236	0.022±0.022	0.154±0.072	0.022±0.022
宇佐川	1	0.031±0.002	0.047±0.248	0.077±0.021	0.222±0.022	0.092±0.021

原産地	分析回数	Rb/Fr X <sub>2</sub> ±σ	Fc/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Rb/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Sr/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Y/Zr X <sub>2</sub> ±σ
精製	31	0.070±0.021	174.09±154.9	16.990±13.44	0.668±0.435	1.801±1.434
女木川	42	0.132±0.058	3.099±1.265	0.353±0.101	12.485±3.706	0.022±0.043
宇佐川	3	0.037±0.019	57.465±16.97	1.132±0.759	5.938±3.179	0.349±0.251
宇佐川	2	0.455±0.019	2.281±0.278	1.035±0.184	0.235±0.064	0.139±0.022
宇佐川	3	0.184±0.153	1.869±1.070	0.980±0.195	1.59±0.127	0.35±0.138
宇佐川	51	0.096±0.025	43.087±23.28	0.456±2.545	0.371±0.368	0.159±0.150
宇佐川	27	0.151±0.020	6.190±1.959	0.940±0.295	0.192±0.170	0.153±0.075
宇佐川	1	0.235±0.028	10.532±3.616	2.545±0.893	0.478±0.192	0.898±0.052
宇佐川	33	0.219±0.028	12.877±2.988	2.742±0.984	0.472±0.164	0.132±0.011
宇佐川	2	0.075±0.020	12.394±7.752	0.062±0.201	1.879±0.698	0.026±0.022
宇佐川	1	0.338±0.039	1.650±0.726	0.181±0.175	0.079±0.021	0.080±0.014
宇佐川	4	0.170±0.079	7.431±1.907	1.142±0.151	0.649±0.130	0.247±0.092
宇佐川	4	0.199±0.052	6.566±1.549	0.960±0.044	0.300±0.032	0.171±0.021

原産地	分析回数	Mn/Fc X <sub>2</sub> ±σ	Ti/Fc X <sub>2</sub> ±σ	Kb/Zr X <sub>2</sub> ±σ	比重 X <sub>2</sub> ±σ
精製	31	0.064±0.003	0.001±0.001	0.076±0.052	6.828±0.032
女木川	42	0.038±0.001	0.006±0.004	0.004±0.001	6.055±0.038
宇佐川	3	0.409±0.003	0.006±0.002	0.134±0.187	7.812±0.012
宇佐川	2	0.015±0.002	0.022±0.004	0.123±0.010	5.677±0.021
宇佐川	1	0.003±0.001	0.011±0.010	0.022±0.014	5.543±0.049
宇佐川	51	0.001±0.001	0.001±0.001	0.072±0.180	5.677±0.009
宇佐川	27	0.066±0.003	0.016±0.003	0.054±0.021	6.249±0.014
宇佐川	1	0.001±0.001	0.009±0.002	0.042±0.034	5.710±0.044
宇佐川	33	0.001±0.001	0.009±0.001	0.030±0.025	5.998±0.079
宇佐川	2	0.002±0.002	0.006±0.002	0.021±0.014	7.165±0.039
宇佐川	4	0.007±0.002	0.043±0.020	0.043±0.027	5.140±0.093
宇佐川	1	0.007±0.001	0.009±0.002	0.027±0.009	5.201±0.666
宇佐川	1	0.002±0.001	0.016±0.001	0.132±0.069	5.543±0.033

X<sub>2</sub>: 平均値, σ: 標準偏差値

原産地	分析回数	Mn/Fc X <sub>2</sub> ±σ	Ti/Fc X <sub>2</sub> ±σ	Kb/Zr X <sub>2</sub> ±σ	比重 X <sub>2</sub> ±σ
女木川	58	0.311±0.034	3.238±0.009	0.034±0.016	5.55±0.019
宇佐川	58	0.302±0.001	0.101±0.019	0.39±0.016	5.46±0.023
宇佐川	47	0.305±0.001	0.091±0.013	0.022±0.016	5.733±0.016
宇佐川	45	0.046±0.001	0.047±0.004	0.054±0.013	5.80±0.003
宇佐川	32	0.006±0.001	0.033±0.001	0.006±0.009	2.308
宇佐川	28	0.008±0.001	0.038±0.002	0.006±0.010	2.277
宇佐川	28	0.014±0.003	0.058±0.003	0.002±0.005	2.270
宇佐川	32	0.015±0.001	0.049±0.002	0.006±0.008	2.256
宇佐川	36	0.001±0.001	0.005±0.001	0.004±0.001	2.582
宇佐川	40	0.021±0.001	0.009±0.001	0.014±0.010	5.73±0.013
宇佐川	44	0.052±0.001	0.080±0.011	0.035±0.015	2.531±0.037
宇佐川	40	0.052±0.001	0.080±0.011	0.035±0.015	2.531±0.037
宇佐川	48	0.045±0.001	0.079±0.002	0.039±0.010	2.446
宇佐川	52	0.046±0.001	0.079±0.001	0.142±0.018	6.03±0.001
宇佐川	51	0.046±0.001	0.062±0.014	0.027±0.018	5.241±0.016
宇佐川	47	0.040±0.001	0.046±0.006	0.007±0.009	2.240±0.016
宇佐川	30	0.024±0.003	0.061±0.004	0.032±0.017	5.36±0.011
宇佐川	39	0.068±0.027	0.057±0.013	0.007±0.007	5.257±0.024
宇佐川	31	0.044±0.001	0.035±0.001	0.021±0.011	4.402
宇佐川	30	0.044±0.001	0.035±0.001	0.021±0.011	4.402
宇佐川	40	0.011±0.000	0.002±0.000	0.115±0.058	5.130 請求

表 8-2 各原石産地不明碧玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群	分析回数	Al/Si X <sub>2</sub> ±σ	K/Si X <sub>2</sub> ±σ	Ca/K X <sub>2</sub> ±σ	Ti/K X <sub>2</sub> ±σ	K/F X <sub>2</sub> ±σ
女木川	66	0.040±0.016	0.115±0.445	0.042±0.024	1.071±0.036	0.232±0.099
宇佐川	58	0.050±0.004	0.416±0.613	0.013±0.011	1.207±0.031	0.549±0.130
宇佐川	47	0.019±0.004	0.315±0.347	0.033±0.065	1.979±0.050	0.011±0.030
宇佐川	15	0.028±0.007	0.405±0.122	0.010±0.004	0.081±0.003	0.759±0.088
宇佐川	32	0.043±0.004	0.080±0.025	0.349±0.071	0.833±0.016	0.011±0.002
宇佐川	20	0.037±0.001	0.990±0.021	2.041±0.047	0.601±0.029	0.044±0.003
宇佐川	28	0.039±0.001	0.928±0.020	2.277±0.114	0.081±0.009	0.033±0.002
宇佐川	32	0.047±0.001	0.855±0.023	2.771±0.079	2.228±0.035	0.037±0.003
宇佐川	23	0.040±0.006	0.185±0.162	0.021±0.006	0.102±0.003	0.821±0.019
宇佐川	40	0.021±0.001	1.204±0.004	0.020±0.007	0.124±0.008	0.062±0.003
宇佐川	44	0.027±0.004	0.239±0.246	0.025±0.006	0.322±0.050	0.172±0.003
宇佐川	40	0.027±0.001	0.911±0.002	0.000±0.001	0.713±0.010	0.261±0.012
宇佐川	39	0.081±0.008	1.149±0.238	0.023±0.043	0.042±0.002	0.555±0.020
宇佐川	42	0.011±0.001	0.413±0.098	0.053±0.028	1.399±0.040	0.033±0.006
宇佐川	51	0.040±0.007	1.874±0.317	0.023±0.011	0.523±0.061	1.922±0.011
宇佐川	37	0.062±0.005	1.889±0.115	1.640±0.127	0.732±0.069	0.079±0.012
宇佐川	39	0.046±0.009	0.150±0.181	0.232±0.181	0.310±0.010	0.212±0.010
宇佐川	39	0.046±0.009	0.150±0.181	0.232±0.181	0.789±0.287	0.000±0.011
宇佐川	1	0.046±0.004	0.375±0.879	0.316±0.099	0.234±0.094	1.164±0.138
宇佐川	41	0.112±0.012	0.475±0.191	0.222±0.022	0.662±0.040	0.044±0.004
宇佐川	50	0.112±0.010	0.568±0.241	0.375±0.069	0.101±0.004	0.020±0.001

遺物群	分析回数	Rb/Fr X <sub>2</sub> ±σ	Fc/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Rb/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Sr/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Y/Zr X <sub>2</sub> ±σ
女木川	68	0.287±0.063	2.324±0.676	0.295±0.045	0.211±0.097	0.177±0.047
宇佐川	68	0.620±0.113	0.283±0.110	0.369±0.033	0.990±0.030	0.070±0.026
宇佐川	47	0.301±0.019	2.780±0.277	0.980±0.110	0.712±0.083	0.379±0.143
宇佐川	15	0.332±0.051	0.412±0.048	0.311±0.023	0.050±0.010	0.385±0.262
宇佐川	32	0.041±0.001	1.019±0.018	0.870±0.016	0.665±0.374	0.239±0.026
宇佐川	20	0.074±0.011	4.021±0.071	0.102±0.015	0.680±0.322	1.194±0.017
宇佐川	28	0.062±0.009	0.666±0.190	0.009±0.015	0.455±0.187	1.342±0.031
宇佐川	32	0.119±0.022	1.139±0.123	0.139±0.020	0.825±0.190	0.117±0.020
宇佐川	32	0.092±0.040	0.444±0.077	0.447±0.025	0.397±0.020	0.266±0.020
宇佐川	40	0.230±0.029	2.230±0.882	0.710±0.031	0.273±0.371	0.741±0.134
宇佐川	23	0.290±0.075	0.517±0.201	0.020±0.051	0.316±0.046	0.239±0.066
宇佐川	40	0.150±0.017	0.261±0.289	0.101±0.017	0.329±0.028	0.046±0.048
宇佐川	44	0.473±0.028	1.001±0.046	0.616±0.018	0.215±0.033	0.100±0.013
宇佐川	42	0.223±0.020	3.772±1.448	0.803±0.068	0.079±0.037	0.266±0.053
宇佐川	40	0.231±0.019	0.266±0.014	0.312±0.060	0.475±0.024	0.101±0.042
宇佐川	67	0.112±0.280	4.018±0.284	0.170±0.018	0.260±0.419	0.078±0.019
宇佐川	2	0.062±0.001	0.006±0.001	0.006±0.001	0.006±0.001	0.006±0.001
宇佐川	39	0.098±0.018	1.686±0.413	0.144±0.050	1.449±1.605	1.382±0.056
宇佐川	61	0.236±0.021	0.871±0.181	0.470±0.020	0.991±0.080	0.077±0.023
宇佐川	41	0.075±0.011	0.786±0.051	0.706±0.042	0.117±0.011	1.728±0.022
宇佐川	40	0.097±0.004	0.814±0.046	0.230±0.030	0.760±0.136	0.056±0.074

遺物群	分析回数	Rb/Fr X <sub>2</sub> ±σ	Fc/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Rb/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Sr/Zr X <sub>2</sub> ±σ	Y/Zr X <sub>2</sub> ±σ
女木川	68	0.287±0.063	2.324±0.676	0.295±0.045	0.211±0.097	0.177±0.047
宇佐川	68	0.620±0.113	0.283±0.110	0.369±0.033	0.990±0.030	0.070±0.026
宇佐川	47	0.301±0.019	2.780±0.277	0.980±0.110	0.712±0.083	0.379±0.143
宇佐川	15	0.332±0.051	0.412±0.048	0.311±0.023	0.050±0.010	0.385±0.262
宇佐川	32	0.041±0.001	1.019±0.018	0.870±0.016	0.665±0.374	0.239±0.026
宇佐川	20	0.074±0.011	4.021±0.071	0.102±0.015	0.680±0.322	1.194±0.017
宇佐川	28	0.062±0.009	0.666±0.190	0.009±0.015	0.455±0.187	1.342±0.031
宇佐川	32	0.119±0.022	1.139±0.123	0.139±0.020	0.825±0.190	0.117±0.020
宇佐川	32	0.092±0.040	0.444±0.077	0.447±0.025	0.397±0.020	0.266±0.020
宇佐川	40	0.230±0.029	2.230±0.882	0.710±0.031	0.273±0.371	0.741±0.134
宇佐川	23	0.290±0.075	0.517±0.201	0.020±0.051	0.316±0.046	0.239±0.066
宇佐川	40	0.150±0.017	0.261±0.289	0.101±0.017	0.329±0.028	0.046±0.048
宇佐川	44	0.473±0.028	1.001±0.046	0.616±0.018	0.215±0.033	0.100±0.013
宇佐川	42	0.223±0.020	3.772±1.448	0.803±0.068	0.079±0.037	0.266±0.053
宇佐川	40	0.231±0.019				

第9-1-1 東松原地区土留置五箇五箇区、製片の地盤調査分科による水和調査結果表

地質調査番号	地質調査番号	試料位置	水和量の百分率(%)	備 考		
78652-1	197	入 見	4.187	4.520	4.521	上部粘土層
78652-2	220	入 見	---	---	---	製成り方目
78653-3	321	入 見	2.739	---	---	中部粘土層
78654-4	223	加圧・増圧	---	---	---	下部粘土層
78655-5	207	入 見	---	---	---	下部粘土層
78656-6	213	加圧・増圧	---	---	---	下部粘土層
78657-7	214	入 見	2.160	2.570	2.603	下部粘土層
78658-8	218	入 見	---	---	---	下部粘土層
78659-9	217	入 見	4.168	4.529	4.466	製成り方目
78660-10	165	入 見	5.140	5.548	5.747	製成り方目
78661-11	195	入 見	4.385	4.649	4.815	製成り方目
78662-12	61	入 見	4.002	4.075	4.605	製成り方目
78663-13	240	入 見	5.191	5.090	4.959	上部粘土層
78664-14	116	入 見	4.746	4.931	5.113	上部粘土層
78665-15	211	入 見	4.771	4.719	4.645	製成り方目
78666-16	211	加圧	4.715	4.948	4.923	製成り方目
78667-17	107	加圧	4.715	4.715	4.694	製成り方目
78668-18	70	加圧	5.116	4.715	4.694	製成り方目
78669-19	155	加圧	4.754	4.795	4.529	製成り方目
78670-20	218	加圧	4.654	4.692	4.529	製成り方目
78671-21	200	入 見	4.617	4.692	4.692	製成り方目
78672-22	36	入 見	4.544	4.718	4.514	製成り方目
78673-23	100	加圧	4.690	4.523	4.607	製成り方目
78674-24	32	加圧・増圧	4.690	4.326	5.045	製成り方目
78675-25	73	入 見	4.538	4.194	4.877	製成り方目
78676-26	90	入 見	4.307	4.371	4.521	製成り方目
78677-27	136	入 見	4.528	4.551	4.590	製成り方目
78678-28	26	入 見	4.523	4.440	4.552	製成り方目
78679-29	34	入 見	4.469	4.537	4.561	製成り方目
78680-30	64	入 見	4.433	4.156	4.492	製成り方目
78681-31	199	入 見	4.696	4.552	4.615	製成り方目
78682-32	11	入 見	4.744	4.748	4.497	製成り方目
78683-33	172	加圧・増圧	4.746	4.589	5.185	製成り方目
78684-34	62	入 見	4.817	4.885	4.820	製成り方目
78685-35	180	入 見	4.840	4.874	4.783	製成り方目
78686-36	253	入 見	4.448	4.768	4.720	下部粘土層
78687-37	95	入 見	4.970	4.952	4.852	中部粘土層
78688-38	103	入 見	4.643	4.609	4.737	下部粘土層
78689-39	34	加圧	4.747	4.658	4.707	下部粘土層
78690-40	34	加圧	4.794	4.771	4.790	下部粘土層
78691-41	181	加圧	4.523	4.623	4.487	下部粘土層
78692-42	107	加圧	4.622	4.585	4.750	下部粘土層
78693-43	224	入 見	4.522	4.585	4.750	下部粘土層
78694-44	224	加圧	4.521	4.524	4.575	下部粘土層
78695-45	158	加圧	4.521	4.524	4.575	下部粘土層

第9-1-2 東松原地区土留置五箇五箇区、製片の地盤調査分科による水和調査結果表

地質調査番号	地質調査番号	試料位置	水和量の百分率(%)	備 考		
78696-46	150	入 見	4.718	4.795	4.641	下部粘土層
78697-47	150	入 見	5.023	4.894	4.864	下部粘土層
78698-48	110	加圧	4.902	4.938	4.458	下部粘土層
78699-49	106	加圧	4.759	4.935	4.679	下部粘土層
78700-50	93	加圧	5.281	4.977	4.919	下部粘土層
78701-51	211	入 見	4.718	4.893	4.602	下部粘土層
78702-52	211	加圧	4.396	4.447	4.425	下部粘土層
78703-53	226	入 見	4.695	4.727	4.674	下部粘土層
78704-54	227	入 見	4.671	4.579	4.523	下部粘土層
78707-57	99	入 見	4.601	4.623	4.509	下部粘土層
78708-58	96	入 見	4.585	4.800	4.707	下部粘土層
78709-59	5	入 見	4.930	4.326	4.936	下部粘土層
78710-60	189	入 見	4.677	4.560	4.540	下部粘土層
78711-61	計73箇	加圧	4.740	4.919	4.724	下部粘土層
78712-62	228	加圧	4.795	4.612	4.579	下部粘土層
78718-68	89	入 見	4.748	4.899	4.625	下部粘土層
78719-69	124	入 見	4.781	4.844	4.772	下部粘土層
78721-71	129	入 見	5.150	5.024	4.670	下部粘土層
78728-78	121	入 見	4.893	4.868	5.105	下部粘土層
78747-97	210	入 見	5.013	4.708	4.854	下部粘土層
78748-98	84	入 見	4.771	4.748	4.799	下部粘土層
78749-99	84	加圧	---	---	---	下部粘土層
78750-100	計407	加圧	4.771	4.748	4.799	下部粘土層
78751-101	239	入 見	3.218	3.282	3.400	下部粘土層
78756-110	計723	加圧	---	---	---	下部粘土層
78761-111	計2035	加圧	4.002	4.286	4.031	下部粘土層
78762-112	計3359	加圧	4.684	5.749	4.369	下部粘土層
78763-113	計238	加圧	---	---	---	下部粘土層
78764-114	計238	加圧	4.484	4.500	4.576	下部粘土層
78765-115	計103箇	加圧・増圧	---	---	---	下部粘土層
78766-116	計103箇	加圧・増圧	---	---	---	下部粘土層
78767-117	計103箇	加圧・増圧	---	---	---	下部粘土層
78768-118	計103箇	加圧・増圧	---	---	---	下部粘土層
78769-119	計103箇	加圧・増圧	4.652	4.594	4.612	下部粘土層
78770-120	計103箇	加圧・増圧	---	---	---	下部粘土層

石器観察表

採掘地	種別	区	遺構	層位・出土O	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	計測値 (100%)	石材	
第3001	立形棒石器	21		褐色土	2.4	2.4	1.1		505 (4182)	黒曜石	
第3002	立形棒石器	21		褐色土	(2.6)	2.0	0.9		485 (2645)	黒曜石	
第3003	立形棒石器	11			1.9	2.5	1.1		368 (2320)	黒曜石	
第3004	立形棒石器	25	S D O 3		3.3	2.1	1.1	7.4	550 (4077)	黒曜石	
第3005	立形棒石器	11	付帯	2種	3.3	1.9	1.0		532 (4167)	黒曜石	
第3006	立形棒石器	25	S D O 3	褐色土	3.4	1.9	0.9		515 (2827)	黒曜石	
第3007	棒状石	11	付帯		2.1	2.5	1.4		1	黒曜石	
第3008	細長片状石器	11	付帯	灰褐色土	3.55	2.5	1.6	13.47	551 (4181)	黒曜石	
第3401	石鏃	11	付帯	灰褐色土	(3.8)	2.3	0.9		603	黒曜石	
第3402	石鏃	11	付帯	褐色土	3.3	2.3	0.9	5.1	650	黒曜石	
第3403	石鏃	18	北壁	褐色土	3.2	2.4	0.6	4.3		黒曜石	
第3404	石鏃	11	第六層		3.6	2.3	0.6		3070 (2228)	黒曜石	
第3405	石鏃	22	付帯	褐色土	(2.5)	1.9	0.6	2.8	2102 (720)	黒曜石	
第3406	石鏃	11	付帯	褐色土	2.1	1.8	0.6	1.0	644	黒曜石	
第3407	石鏃	11	付帯	褐色土	2.6	1.9	0.4	1.0	642	黒曜石	
第3408	石鏃	18			(2.8)	1.9	0.4	1.1	(77)	黒曜石	
第3409	石鏃				2.7	1.7	0.48	1.36	(18)	黒曜石	
第3410	石鏃	18			2.6	1.8	0.4	1.3	(6)	黒曜石	
第3411	石鏃	18			(2.6)	1.4	0.3	0.9	(34)	黒曜石	
第3412	石鏃	25	S D O 3		2.6	1.6	0.3	0.7	653 (4248)	黒曜石	
第3413	石鏃	22		褐色土	(1.7)	1.5	0.4	0.30	232	黒曜石	
第3414	石鏃	18			2.7	1.5	0.5	1.2	801	黒曜石	
第3415	石鏃	22	S H O 2		2.9	1.4	0.5		1471 (311)	黒曜石	
第3416	石鏃	25	S D O 3	2種	1.9	1.1	0.3		552 (4248)	黒曜石	
第3417	石鏃	22			2.0	1.5	0.4	0.8	15	黒曜石	
第3418	石鏃	22			1.4	1.8	0.4	0.4	13	黒曜石	
第3419	石鏃	22	砂層	褐色土	1.3	1.4	0.3	0.4	2103 (737)	黒曜石	
第3420	石鏃	22		褐色土	1.3	1.7	0.6		151 (186)	黒曜石	
第3421	石鏃	22			1.4	1.3	0.4	0.4	63	黒曜石	
第3422	石鏃	25	S D O 1	褐色土	2.85	(1.8)	0.4	0.55	5471 (4081)	黒曜石	
第3501	石鏃	6			(3.5)		1.3		736	黒曜石	
第3502	石鏃	14	南壁		5.7	3.1	1.0		472	ササカイト	
第3503	石鏃				2.5	2.5	0.7		ε	(725)	黒曜石
第3504	スクレイパー				3.0	3	1.1		5384 (4044)	黒曜石	
第3505	スクレイパー		付帯		5.2	3.8	2.1		303	(605)	黒曜石
第3506	スクレイパー	18		褐色土	7.0	4.9	2.35		2178 (1488)	黒曜石	
第3507	スクレイパー	18	北壁		2.9	3.0	0.7		3614 (2071)	黒曜石	
第3508	スクレイパー	11		褐色土	3.75	3.36	1.1	11.94	3885 (2647)	黒曜石	
第3509	スクレイパー	22	付帯	褐色土	2.7	3.0	1.3		2330 (684)	黒曜石	
第3510	スクレイパー	22			3.8	3.8	0.8		1343 (177)	黒曜石	
第3511	スクレイパー	25	S D O 3	褐色土	4.5	3.0	1.2		5393 (4052)	黒曜石	
第3512	スクレイパー	22		褐色土	1.7	2.7	0.8		ε	1833 (187)	黒曜石
第3513	スクレイパー	23		褐色土	5.5	4.7	1.5		ε	3796 (2425)	黒曜石
第3514	スクレイパー	18	北壁		5.1	3.9	1.8		ε	4538 (3297)	黒曜石
第3515	スクレイパー	25			7.4	4.7	1.2		ε	3522 (2122)	黒曜石
第3516	スクレイパー	22			6.0	7.9	2.3		ε	5526 (4182)	黒曜石
第3517	スクレイパー	20		褐色土	5.0	2.7	1.8		ε	2704 (1333)	黒曜石
第3518	スクレイパー	17	北側縁部	褐色土	2.4	2.8	0.7		ε	3716 (2376)	黒曜石
第3519	撻動石器	18	南壁		2.9	1.8	1.2	5.4	3885 (2547)	黒曜石	
第3520	撻動石器	18		褐色土	3.0	1.8	1.5		ε	2618 (1218)	黒曜石
第3521	撻動石器	22		褐色土	2.7	3.0	0.6		ε	4637 (2294)	黒曜石
第3522	撻動石器	19			2.8	1.8	1.0		ε	4057 (2289)	黒曜石
第3523	撻動石器	22			2.1	2.5	0.3		ε	1367 (1)	黒曜石
第3701	二次加工のある断片	18	北側縁部	褐色土	3.2	1.4	0.4		ε	3614 (2336)	黒曜石
第3702	二次加工のある断片	18	北側縁部	褐色土	2.4	2.0	0.5		ε	2620 (2482)	黒曜石
第3703	二次加工のある断片	18	北側縁部	褐色土	11.8	8	2.4		ε	4634 (3296)	黒曜石
第3801	石鏃?	18	北壁	褐色土	2.7	2.3	2.0		ε	3034 (1872)	黒曜石
第3802	石鏃	18			3.7	2.8	1.8		ε	2414 (1198)	黒曜石
第3803	石鏃	11		褐色土	2.3	3.2	2.0		ε	5524 (2188)	黒曜石
第3804	石鏃	11		褐色土	3.8	3.1	2.0		ε	4122 (2746)	黒曜石
第3805	石鏃	25	S D O 3	褐色土148	4.6	5.1	3.0		ε	5142 (3823)	黒曜石
第3806	石鏃	5	S I O 2	M層砂	4.6	5.6	1.2		ε	4624 (3284)	黒曜石
第3807	石鏃	19	北側縁部	褐色土	6.3	6.7	3.4		ε	3126 (1774)	黒曜石
第3808	石鏃	23		褐色土	3.2	3.7	4.0		ε	3798 (2482)	黒曜石
第3809	石鏃	11			4.4	4.4	3.8		ε	4301 (2042)	黒曜石
第3810	石鏃	11	北側縁部	褐色土	4.9	10.0	2.6		ε	3841 (2227)	黒曜石
第3811	石鏃	20			3.1	7.4	1.6		ε	3623 (2181)	黒曜石
第3812	石鏃	18	北側縁部	褐色土	2.9	8.5	4.4		ε	3651 (2292)	黒曜石
第4001	細長片状?	11		褐色土	(2.8)	(3.8)	(2.7)		ε	4330 (1992)	黒曜石
第4002	石鏃	25		褐色土	2.35	2.4	2.3		ε	4095 (2607)	黒曜石
第4003	厚板状石器	22	付帯	褐色土	4.3	4.1	1.2		ε	2200 (834)	黒曜石
第4004	断片	11	S D O 3	褐色土	1.6	0.45	0.25		ε	6128 (3788)	黒曜石
第4005	断片	25			2.0	1.75	1.0		ε	5555 (4284)	黒曜石
第4101	打製石鏃	11	付帯	灰褐色土	18.7	7.0	3.16		ε		不明
第4102	打製石鏃	25	S D O 1	褐色土208	(8.2)	7.3	2.7		ε	5475 (4125)	不明
第4103	打製石鏃	11			8.8	4.5	2.3		ε	688	不明
第4201	打製石鏃	18	北側縁部		6.15	7.3	2.5		ε	5009 (4169)	不明
第4202	石鏃	11	付帯	褐色土	10.4	8.4	4.1		ε		不明
第4203	石鏃	11	付帯	褐色土	9.8	5.95	3.5		ε	5511 (4171)	不明
第4204	石鏃	11	付帯	褐色土	14.8	7.4	6		ε	5516 (4176)	不明
第4205	石鏃	11	付帯	褐色土	8.1	6.75	4.1		ε	5510 (4176)	不明
第4701	石鏃	5	S I O 1		15.3	7.5	4.8		ε	580.0	不明
第5004	石鏃	8	S I O 2	M層砂	10.1	9.2	6.4		ε	120.0	不明
第5005	石鏃	8	S I O 2	M層砂	9.6	4.8	3.9		ε	180.0	不明
第5006	石鏃	8	S I O 2						ε		不明
第5007	石鏃	8	S I O 2						ε		不明
第5008	石鏃	8	S I O 2						ε		不明
第5009	石鏃	8	S I O 2						ε		不明
第5010	石鏃	8	S I O 2						ε		不明

縄文土器 観察表

発掘地	層	区	遺構	層位・ 出土NO	口径 (cm)	胴高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	調査	胎土	色調
第3001	深鉢	22	9920	上海	08	08	08	08	(外) 不明 (内) 不明	7.5以下の子粒を含む	黄褐色～黄緑褐色 (外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第3002	深鉢	25	5003	黒色土324	08	08	08	08	(外) 赤褐色 (内) 赤褐色	7.5以下の子粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第3003	深鉢	25	5003	黒色土333	08	08	08	08	(外) 赤褐色 (内) 赤褐色	7.5以下の子粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第3004	深鉢	25	5003	黒色土330	08	08	08	08	(外) 不明 (内) 不明	7.5以下の子粒を含む	(外) 不明 (内) 不明
第3005	深鉢	16	北新館原跡	黒色土	08	08	08	08	(外) 不明 (内) 不明	7.5以下の子粒を含む	(外) 不明 (内) 不明
第3006	深鉢	16	北新館原跡	黒色土	08	08	08	08	(外) ハケマツ不明 (内) 不明	7.5以下の子粒を含む	(外) 不明 (内) 不明

弥生土器 観察表

発掘地	層	区	遺構	層位・ 出土NO	口径 (cm)	胴高 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	調査	胎土	色調
第4001	甕	2	9023	97 P99	(18.2) (底径)	(4.0)	(18.2)	08	(外) ハケマツ (内) ヨコナダ	2.0以下程度の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第4002	甕	2	9021	97 P94	(14.0) (底径)	(4.8)	(14.1)	08	(外) ナダ, ヨコナダ, ハケマツ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	2.0以下程度の砂粒と赤色粒子を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第4003	甕	2	9021	97 P95	(15.2) (底径)	(5.4)	(15.4)	08	(外) ナダ, ハケマツ (内) ナダ, ヘラケズリ	1.5以下の子粒と1.0以下程度の赤色粒子を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第4004	甕	2	9104	97 P90	(14.8) (底径)	(4.0)	(14.8)	08	(外) ナダ (内) ナダ, ヘラケズリ	2.5以下程度の砂粒と2.0以下の赤色粒子を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第4005	甕	2	9104	97 P92	(18.1) (底径)	(7.3)	(18.2)	08	(外) ナダ, ヨコナダ, ハケマツ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	2.0以下程度の砂粒と赤色粒子を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第4006	甕	2	9104	97 P90, 90, 94 P93, 92	14.7	(14.5)	(18.8)	08	(外) ナダ, ハケマツ (内) ナダ, ヘラケズリ	1.5以下の子粒と1.0以下の赤色粒子を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第4007	甕	2	9104	97 P91	20.9	(4.10.1)	(21.0)	08	(外) ヨコナダ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	黄 (1.5以下程度の砂粒を含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第4008	甕	2	9021	97 P93	15.6	(4.0.10.1)	(17.3)	08	(外) ヨコナダ, ハケマツ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	黄 (1.5以下程度の砂粒を多く含む)	黄緑褐色
第4009	甕	2	9021	97 P90	12.2	(5.0.10.1)	(12.2)	08	(外) ヨコナダ (内) ヘラケズリ	黄 (1-2.5以下の砂粒を多く含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第40010	甕	2	9021	97 P98	16.2	(5.2.10.1)	(16.4)	08	(外) ヨコナダ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	黄 (1-2.5以下の赤色の砂粒を含む)	黄緑褐色
第40011	甕	2	9101	97 P77	17.7	19.2	22.7	08	(外) ナダ, ヨコナダ, ハケマツ, 赤土 (内) ナダ, ヘラケズリ	1.0以下の子粒を含む	(外) 黄褐色～黄緑褐色 (内) 黄褐色
第40012	甕 (底蓋)	2	9101	97 P71	(9.4) (底径)	08	08	08	(外) ナダ (内) ナダ, ケズリ	2.0以下程度の砂粒と赤色粒子を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第40013	甕 (底蓋)	2	9101	97 P81	3.1	(1.4)	(4.3)	08	(外) ナダ (内) ナダ	2.0以下程度の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第40014	甕	2	9101	97 P93	不明	(4.0.10.1)	08	08	(外) ヨコナダ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	黄 (1-2.5以下の砂粒を多く含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第40015	甕	2	9101	97 P93	21.6	(2.7.10.1)	(21.7)	08	(外) ヨコナダ, 平行波線文 (内) ヨコナダ	黄 (1-2.5以下程度の砂粒を含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第40016	甕	2	9101	ベルト内 P95	15.6	(6.10.1)	08	08	(外) ヨコナダ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	黄 (1-2.5以下の砂粒を多く含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第40017	甕	2	9101	97 P95	(23.7) (底径)	(5.3)	(22.7)	08	(外) 黄化が著しく不明 (内) ヘラケズリ	2.5-0.8以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色～黄緑褐色 (内) 黄褐色
第40018	甕	2	9101	97 P90	不明	(4.2.10.1)	08	08	(外) ヨコナダ, 平行波線文 (内) ナダ	黄 (1-2.5以下の砂粒を多く含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第40019	甕	2	9101	97 P73	16.4	(4.9.10.1)	(16.5)	08	(外) ヨコナダ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	黄 (1.5以下程度の砂粒を含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第40020	甕 (底蓋)	2	9101	97 P91	08	(1.5.10.1)	(6.3)	08	(外) ヨコナダ (内) ヨコナダ, ヘラケズリ	黄 (1-2.5以下の砂粒を多く含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第5001	甕	9B	9101	埋土	08	08	08	08	(外) 不明 (内) 不明	1-2.5以下の砂粒を含む	黄褐色
第5002	甕?	9B	9101	埋土	08	08	08	08	(外) ヨコナダ?不明 (内) 不明	1-2.5以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第5003	甕	9B	9101	埋土	08	08	08	08	(外) 不明 (内) ケズリ	黄 (1.5以下程度の砂粒を含む)	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第5004	甕	10	9004		(24.0) (底径)	(10.0)	(27.7)	08	(外) ヨコナダ, ナダ, ケズリ (内) ヨコナダ, ナダ, ケズリ 一連ナダ?	3.0-0.8以下の砂粒を多く含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色 [土入付]
第5005	甕	19	9005	黒色土	(16.2)	(15.2)	(21.2)	08	(外) ハケマツ, ナダ (内) ナダ, 赤褐色	5.5以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第5006	甕	10	9001	9a2	(16.2)	(16.2)	(21.2)	08	(外) ナダ (内) ヨコナダ, ミガキ, ケズリ 互層ナダ?	黄 (1-1.5以下程度の砂粒を含む)	黄褐色～黄緑褐色
第5007	甕	10	9001	9a1 9a1	(14.1)	(7.5)	(16.4)	08	(外) ヘラケズリ (内) ナダ?	1.5以下程度の砂粒を含む	(外) 黄褐色～黄緑褐色 (内) 黄褐色
第5008	甕	9B	P1c		08	08	08	08	(外) ヨコナダ?不明 (内) ヨコナダ?	1-2.5以下の砂粒を多く含む	黄褐色
第5009	甕か壺	25	9002	9a1a2	08	08	08	08	(外) 不明 (内) 不明	1.5以下の石片, 長石, 赤褐色を含む	黄褐色
第5010	甕か壺	30	P1c30		08	08	08	4.8	(外) 不明 (内) 不明	1-2.5以下の砂粒を多く含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色
第5011	甕か壺	18			08	08	08	6.4	(外) 不明 (内) 不明	2.5以下の子石片, 長石を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色



土師器 観察表

種別	器 種	区	遺跡	形状・高さ(口)	口径 (cm)	器高 (cm)	最大径 (cm)	胎体 (cm)	脚部	胎土	色別
第19084	甕	11	S103	褐色土	(15.3)	観察表(2.8)	08	08	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状含む	(外)黄褐色 (内)赤褐色
第19085	甕	11	S103	褐色土	08	08	08	08	(外)ハケム (内)不明	1.5以下の赤石、石片含む	(外)黄褐色 (内)赤褐色
第19086	甕	11	S103	S103-10	08	08	08	08	(外)不明 (内)不明	不明	黄褐色
第19087	小壺	11	S103	S103-23	10.9	観察表(1.7)	08	08	(外)不明 (内)ヘラケズリ、不明	0.5以下の赤石をわずかに含む	黄褐色
第19088	高坏 (片持)	11	DR08	2	(14.1) (破欠)	(5.3)	(15.0)	08	(外)ヨコナデ、ナデ (内)不明	1.5以下の砂状を多く含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19089	甕	11	DR08	区南西土層	19.0	22.9	22.6	08	(外)ヨコナデ、ナデ (内)ヨコナデ、ナデ	2.5以下の砂状を含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19090	甕	11	DR08		08	08	08	08	(外)不明 (内)不明	石質、赤石をわずかに含む	黄褐色
第19091	高坏	75	DR10		08	(7.7)	(13.7)	8.4	(外)不明 (内)不明	5.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19092	高坏	75	DR10		17.9	10.1	3.3	8.8	(外)不明 (内)不明	1.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19093	甕	16	S101	褐色土	(26.8) (破欠)	(5.5)	08	08	(外)ナデ (内)ナデ	2.0以下の砂状を含む	(外)黄褐色 (内)赤褐色
第19094	甕	11	F11	PR6107	(22.4)	08	08	08	(外)不明 (内)不明	1.5以下の赤石、石片を 含む	(外)黄褐色 (内)赤褐色
第19095	甕	11		褐色土 P532	(13.4) (破欠)	(9.4)	(15.1)	08	(外)不明 (内)不明	1.5以下の砂状を2.0以下の 赤褐色石を含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19096	甕	11		褐色土	08	08	08	08	(外)不明 (内)不明	不明	黄褐色
第19097	甕	11		褐色土	(18.4) (破欠)	(4.6)	(18.4)	08	(外)ヨコナデ、ハケム (内)ヨコナデ、ナデ	1.5以下の砂状を多く含む	(外)黄褐色 (内)赤褐色
第19098	甕	11		褐色土	(18.2) (破欠)	(7.1)	(22.8)	08	(外)ヨコナデ、ナデ (内)ヨコナデ、ナデ	1.5以下の砂状を多く含む	(外)黄褐色 (内)赤褐色
第19099	甕	11		P532 P540	(17.7) (破欠)	(5.4)	(17.1)	08	(外)ヨコナデ、ハケム (内)ヨコナデ	1.5以下の砂状を多く含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19100	甕	11		P532 P540	08	08	08	08	(外)ヨコナデ、ハケム (内)ヨコナデ	1.5以下の砂状を多く含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19101	甕	11		褐色土	16.7	23.5	22.0	08	(外)ハケム (内)不明	2.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19102	鉢	11		褐色土	14.2	6.0	14.7	08	(外)不明 (内)不明	2.5以下の赤石を多く含む	褐色
第19103	鉢	11		褐色土 PR624	(12.8)	観察(5.7)	(13.0)	08	(外)不明 (内)不明	2.5以下の赤石、赤石を含む	(外)褐色 (内)赤褐色
第19104	高坏	11		褐色土	(14.4)	08	(14.7)	(16.3)	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	(外)赤褐色 (内)黄褐色
第19105	高坏 (片持)	11		P531 P533	08	08	08	08	(外)ナデ (内)ナデ	1.5以下の砂状を多く含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19106	高坏	11		PR637	08	観察(8.1)	08	(15.4)	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	不明
第19107	甕	11	区	褐色土					(外)ヨコナデ、ナデ (内)ヨコナデ、ナデ	2.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19108	甕	16			08	08	08	08	(外)不明 (内)不明	1.5以下の赤石をわずかに含む	(外)黄褐色 (内)赤褐色
第19109	甕	16	北壁	褐色土	08	08	08	08	(外)不明 (内)不明	2.5以下の赤石、石片を多く含む	赤褐色
第19110	片口鉢	12	DR11 F12		18.4	6.7	15.0	7.2	(外)不明 (内)不明	不明	赤褐色

中世土師器・黒色土器・不明土製品 観察表

種別	器 種	区	遺跡	形状・高さ(口)	口径 (cm)	器高 (cm)	最大径 (cm)	胎体 (cm)	脚部	胎土	色別
第19111	かわらけ甕 (片持)	17		褐色土	08	(8.4)	(8.4)	4.4	(外)不明 (内)不明	1.5以下の砂状を含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19112	甕 (かわらけ)	11		P126	(8.7)	3.4	(9.8)	(5.4)	(外)不明 (内)不明	不明	(外)褐色 (内)褐色
第19113	甕 (かわらけ)	11		PR411	08	(7.8)	(10.8)	(8.4)	(外)不明 (内)不明	不明	(外)褐色 (内)褐色
第19114	甕 (かわらけ)	18			08	観察(10.3)		6.9	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19115	かわらけ甕	18	北壁 北壁部		(15.0)	4.2	(15.2)	(8.8)	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	白褐色
第19116	かわらけ甕	18	北壁 北壁部	褐色土	08	(2.7)	(10.2)	(5.4)	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19117	かわらけ甕	18	北壁	褐色土	08	(7.8)	(7.8)	(8.8)	(外)不明 (内)不明	不明	黄褐色
第19118	かわらけ甕	21		褐色土	08	(4.1)	(12.1)	(7.2)	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19119	かわらけ 高台付甕	18	北壁	褐色土	08	(7.8)	(8.2)	(8.8)	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19120	かわらけ 高台付甕	18	北壁 北壁部		45	08	08	08	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	黄褐色
第19121	褐色土器 高台付甕	18	北壁 試験		08	08	08	08	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19122	褐色土器 高台付甕	18	北壁 試験		08	08	08	08	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色
第19123	不明土製品	12	北壁 北壁部	褐色土	08	08	08	08	(外)不明 (内)不明	2.5以下の砂状を含む	(外)黄褐色 (内)黄褐色

陶磁器 観察表

種別No	種 類	区	産地	胎土 胎土No	口径 (mm)	胎高 (mm)	最大径 (mm)	底径 (mm)	脚高	脚数	胎土	備考
第0901	青磁碗	22	京都	焼桐色土	08	08	08	08	(内) 胎、底面 (外) 胎、底面	2	灰、灰色	
第0902	青磁(高)	9(小)			08	08	08	08	(内) 胎面、胎面 (外) 胎面	2	灰 (1.5以下の子粒含む)	
第0903	青磁碗	15	北	褐色土	08	08	08	08	(内) 胎、底面、胎面 (外) 胎、胎面	2	灰、灰白色	
第0904	青磁碗	11	中央東洋	青	08	08	08	08	(内) 胎、胎面 (外) 胎、胎面	2	灰、灰色	
第0905	青磁碗	15	献上用土		08	08	08	08	(内) 胎、胎面 (外) 胎、胎面	2	灰、黄白色	
第0906	青磁碗	11	京都	焼赤褐色	08	08	08	08	(内) 胎、胎面 (外) 胎、胎面	2	灰、灰色	
第0907	青白磁皿	22	京都	褐色土	08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	灰、白色(黒色粒子含む)	
第0908	青磁碗				08	08	08	08	(内) 胎、底面 (外) 胎、胎面	2	灰、白灰色	
第0909	青磁碗(小)	11	京都	上野	08	1.0	5.4	3.8	(内) 胎 (外) 胎	2	灰、赤褐色	
第0910	青磁碗(小)	11	京都	上野	08	3.0	6.0	5.3	(内) 胎 (外) 胎	2	灰、灰色/白黄色	
第0911	青磁碗(小)	18	京都	胎面	08	1.0	6.0	5.1	(内) 胎 (外) 胎	2	灰、白灰色	
第0912	青磁碗	22	京都		08	2.7	3.2	6.4	胎 (内胎なし、胎面ナシ)	2	胎、胎土色/灰色 (底色の濃し)	
第0913	青磁碗	18			08	2.4	5.4	6.8	胎 (内胎なし、胎面ナシ)	2	胎、白色	
第0914	白磁皿(平)	22		褐色土	08	1.1	5.8	6.2	(内) 胎 (外) 胎	2	胎、白色	
第0915	白磁皿	15			08	08	08	5.1	(内) 胎 (外) 胎	2	胎、白黄色	
第0916	白磁皿	11	京都	焼桐色土	08	08	08	08	(内) 胎、胎面ナシ、胎面ナシ (外) 胎、胎面ナシ、胎面ナシ	2	胎、白色	
第0917	白磁皿(平)	11			08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎、白色	
第0918	白磁皿	11			08	08	08	08	胎 (内肉上なし)	2	胎、白黄色	
第0919	白磁皿	18			08	1.1	7.2	7.0	(内) 胎 (外) 胎	2	胎、白灰色	
第0920	青花皿	18			08	1.0	7.0	6.5	(内) 胎 (外) 胎	2	胎、白黄色	
第0921	青花皿	18			08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎、白黄色	
第0925	茶? 碗				08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第0926	茶? 碗	15	京都	胎面	16.0	5.1	25.4	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第0927	磁鉢	17		焼赤土	34.0	5.1	34.2	08	(内) ハケム、胎面 (胎面)	1-2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第0928	磁鉢	11	中央		08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第0929	磁鉢	14 15		胎面	15.4	23.0	15.0	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第0930	片口磁鉢	21			08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第0931	磁鉢	11	京都	茶褐色土	08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	構成中不具
第0932	鉢	18	京都	褐色土	08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第0933	磁鉢	11	東洋	青灰色土	08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第0934	鉢	11	京都		08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	構成中不具
第1001	青磁碗	15	1001		08	08	08	08	(内) 胎、胎面 (外) 胎、胎面	2	胎、灰色	
第1002	青磁碗	3	SX1		08	3.2	12.0	7.9	(内) 胎 (外) 胎	2	胎	
第1003	碗	3	SX1		10.4	6.1	10.6	4.2	全面に胎面	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第1004	碗	3	SX1		08	2.1	6.5	4.4	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒多量含む)	
第1005	鉢(小)	3	SX1		15.5	2.3	17.0	08	全面に胎面だが口縁部のみなし	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第1006	磁鉢	3	SX1		08	08	08	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第1007	水筒	17	SX2	胎面	長さ 5.8	直径 4.2	高さ 1.95	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第1008	茶碗	17	SX2	胎面	11.0	2.2	11.2	08	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第12001	碗	取組茶碗(茶)			9.0	4.05	9.2	3.1	全面に胎面	2	胎	
第12002	碗	取組茶碗(茶)	胎土		6.6	6.2	8.7	3.6	全面に胎面	2	胎 (1.5以下の子粒含む)	
第12003	碗	取組茶碗(茶)	胎土		11.2	6.2	11.2	5.8	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (黄色調 4本(1.1, 2) 胎)	
第13001	碗	1A(15,小)			10.1	7.2	10.2	4.8	(内) 胎 (外) 胎	2	胎	
第13002	小	1A(小)			08	3.5	12.4	4.2	(内) 胎 (外) 胎	2	胎 (黄色と黒褐色、粉付)	

種別名	群	区	道標	標高・ 取上NO	口径 (cm)	長さ (cm)	最大径 (cm)	厚径 (cm)	調査	出土	備考
第10003	器	10 (300)			12.5		(2.2)	12.9	器		
第10004	香炉 (香爐)	78 (100期)			10.8		(6.4)	11.2	器		注 (1より以下の形制を参照)
第10005	丸らし皿	10		東北	68		68	68	器		注、白色

### 金属器 観察表

種別名	群	区	道標	標高・ 取上NO	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	その他 (cm)	備考
第10001	鍔	11	S009		刀身長 12.2(4.2)	刀身幅 1.2	刀厚 1.2	2.8-3.0	身幅が5以下木葉部中3.2木 葉部厚1.0 木質
第10002	刀子	船工區	S015	No4	刀身長 12.0	刀身幅 0.4	刀厚 0.4	5.8	身幅1.8(0.4) 刀厚0.3(0.4) 木質
第10003	刀子	船工區	S017	No11	2.7	1.5	0.25		刀身部 錆付状況 黒
第10004	鉄釘	船工區	S017	No1	4.0	0.45	0.40		器
第10005	鉄釘	船工區	S017	No4	2.8	0.4	0.25		器
第10006	鉄釘	船工區	S017	No3	3.0	0.4	0.25		器
第10007	鉄釘	船工區	S017	No8	1.9	0.35	0.4		器
第10008	鍔	17	S018	No2	刀身長 15.6(以上)	刀幅 3.9	刀厚 0.3	柄幅 12.7(以上)	柄幅2.2(柄幅0.4)刃先は欠、 木質
第10009	刀子	17	S018	No1	長 (4.8以上)	幅 0.8	厚さ 3.5		刀身部 錆付 柄幅が5.5以上木質、木幅 が3.5以上木質、木幅 が3.5以上木質、木幅 が3.5以上木質
第10010	刀子 (ハヤシタ)	17	S021	番号D	3.1	1.10	0.40		器
第10011	刀子 (ハヤシタ)	17	S021	番号C	2.4	1.10	0.20		器
第10012	?	17	S021	No3-1	4.5 (4.3)	0.70	0.25		器
第10013	?	17	S021	No4	7.6	0.60	0.40		器
第10014	?	17	S021	番号A	2.7	0.70	0.40		器
第10015	?	17	S021	No3-2	2.1	0.50	0.20		器
第10016	釘	17	S021	番号G	2.5	0.45	0.20		器 木質 柄幅は刀身と変わらない
第10017	釘	17	S021	番号F	2.4	0.35	0.20		器 木質 柄幅は刀身
第10018	釘	17	S021	No16	1.7	0.30	0.20		器 木質 柄幅は刀身
第10019	釘	17	S021	No11	1.7	0.25	0.20		器 柄幅は刀身
第10020	釘	17	S021	番号E	2.3	0.40	0.25		器 木質
第10021	釘	17	S021	No12	1.4	0.25	0.20		器 木質
第11001	内鋼鉄線	17	S22 No8		全長 19.6	鋼線最大径 10.9	厚さ 0.15-0.45	重量 137.64g	
第11002	小槌	17	S022	No10	全長 (刃先5.6以上)	刀身長 10.6	刀身幅 1.4	刀厚 0.3	柄長9.5(柄幅1.4)柄幅0.25柄 幅は柄先、花文木、刀身部は
第11003	ヤスリ ハヤシタ	17	S022	No17	7.6	0.4	0.45		器 木質
第11004	ハヤシ タ	17	S022	No1	全長 (14.6以上)	刀身長 5.0	幅 1.1	厚 0.4	柄長 9.5(柄幅1.4)柄幅0.25柄 幅は柄先、花文木、刀身部は柄先 が中や中
第11005	ヤスリ ハヤシタ	17	S022	No16	4.4	0.5	0.5		器
第11006	ヤスリ ハヤシタ	17	S022	番号01	5.5	0.5	0.4		器
第11007	ヤスリ ハヤシタ	17	S022	番号02	5.8	0.5	0.55		器
第11008	ヤスリ ハヤシタ	17	S022	番号03	2.3	0.4	0.4		器
第11009	ヤスリ ハヤシタ	17	S022	番号04	3.3	0.25	0.4		器 木質
第11010	釘	17	S022	No1-3	4.3	0.40	0.40		器 木質
第11011	釘	17	S022	No1-1	4.2	0.40	0.40		器 木質
第11012	釘	17	S022	No1-2	3.8	0.30	0.40		器
第11013	釘	17	S022	No2	4.2	0.40	0.40		器 木質
第11014	釘	17	S022	No1-1	3.0	0.25	0.2		器 木質
第11015	釘	17	S022	No3-1	2.6	0.25	0.4		器 木質
第11016	釘	17	S022	No1-2	3.5	0.4	0.4		器
第11017	釘	17	S022	No1-3	3.0	0.4	0.25		器 木質
第11018	釘	17	S022	No19	7.7	0.2	0.25		器 木質

標記No	品 種	区	造機	製造・ 取上NO	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	その他 (cm)	備考
第111図16	釘	17	SK22	No20	2.4	0.4	0.35	0	0
第111図17	釘 ヤスナ	17	SK22	No16	2.2	0.3	0.3	0	0
第111図18	釘 ヤスナ	17	SK22	No4-1	1.9	0.35	0.4	0	0
第111図19	釘 ヤスナ	17	SK22	No5	1.4	0.4	0.3	0	0
第111図20	釘 ヤスナ	17	SK22	番号A	1.5	0.35	0.3	0	0
第111図21	釘 ヤスナ	17	SK22	No21	2.2	0.35	0.4	0	0
第112図1	環状製品 (図7)	17	SK22	番号	径 3.25	0	0.6	0	0
第112図2	釘	17	SK23	No1	2.4	0	0.35	0.4	0
第116図1	刀子 (小刀)	17	SK26	No1	刀身長 (11.4以上)	刀身幅 3.0	刀身厚 0.4	握柄 4.8以上	手廻し(扉裏)の4枚裏(11.7以上)片端、裏尻欠、握り筋に欠
第116図2	釘	17	SK27	No1	3.7	0.3	0.4	0	0
第120図1	刀子	17	SK28	No6	刀身長 9.0	1.9	0.35	0	0
第120図2	釘	17	SK28	No1	4.0	0.4	0.4	0	0
第120図3	釘	17	SK28	No2	5.2	0.3	0.3	0	0
第120図4	釘	17	SK28	No4	4.0	0.35	0.35	0	0
第120図5	釘	17	SK28	No4-1	3.8	0.35	0.3	0	0
第120図6	釘	17	SK28	No4-2	3.4	0.35	0.4	0	0
第120図7	釘	17	SK28	No4-3(扉裏) No2-2(扉裏)	2.8	0.4	0.3	0	0
第120図8	釘	17	SK28	No3-1	2.0	0.35	0.3	0	0
第120図9	釘	17	SK28	No2-2	3.1	0.4	0.3	0	0
第120図10	釘	17	SK28	No10-1(A)	1.4	0.25	0.35	0	0
第120図11	釘	17	SK28	No10-1(B)	2.4	0.35	0.35	0	0
第120図12	釘	17	SK28	No10-2	1.5	0.3	0.2	0	0
第120図13	刀子	17	SK29	No1	刀身長 7.4	刀身幅 2.1	刀身厚 0.4	握柄 直径1.5(握柄0.3金表11.8以上)握柄の本表は逆片	0
第124図1	釘	17			3.3	0.3	0.35	0	0
第124図2	釘	17			6.7	0.4	0.3	0	0
第130図1	破線車	22区							

## 古銭 観察表

標記No	品 種	区	造機	製造・ 取上NO	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
第131図1	新貨水	3	SK11		2.52	0.12	2.35	背裏に文?
第131図2	?	3	10A		2.42	0.13	2.06	
第131図3	新貨水?	3	50		2.38	0.11	2.88	
第131図4	新貨水	9	11E ㊶		2.28	0.12	1.94	背裏に文?
第131図5	新貨水?	9	11E ㊷		2.32	0.13	2.10	
第131図6	新貨水?	9	11E ㊸		2.32	0.10	2.39	
第131図7	西文銭 (14区)	10			2.43	0.12	4.71	
第131図8	新貨水	10			2.15	0.09	1.53	
第131図9	新貨水	17	印の人々た 真		2.31	0.11	133	
第131図10	新貨水	17	SK21	7-6	2.55	0.13	3.50	背裏に文
第131図11	新貨水	17	SK21	6-4	2.55	0.13	3.53	背裏に文
第131図12	新貨水	17	SK21	2-2	2.57	0.17	2.22	背裏に文
第131図13	新貨水	17	SK21	6-3	2.54	0.19	4.36	背裏に文
第131図14	新貨水	17	SK21	14-1	2.56	0.16	1.66	背裏に文
第131図15	寛永	17	SK21	7-1	2.43	0.13	1.40	
第131図16	新貨水	17	SK21	6-2	2.55	0.17	2.04	背裏に文

緯度No.	番 号	区	道標	管区 取上NO	径 (cm)	深さ (cm)	量器 (L)	備考
第131017	新橋本	17	SK21	榎林2	2.98	0.13	1.84	青函ニ文
第131018	新橋本?	17	SK21	榎林5	2.52	0.13	2.01	青函ニ文字?
第131019	寛永	17	SK21	榎林4	2.45	0.18	3.02	
第131020	寛永	17	SK21	榎林3	(2.40?)	0.14	0.93	
第131021	寛永	17	SK21	9-1	2.54	0.13	2.72	
第131022	寛永	17	SK21	15-1	2.43	0.12	2.61	
第131023	寛永	17	SK21	7-4	2.47	0.15	2.88	
第131024	寛永	17	SK21	6-2	2.55	0.14	3.30	
第131025	寛永	17	SK21	15-2	2.51	0.13	2.78	
第131026	寛永	17	SK21	7-3	2.46	0.14	3.38	
第131027	寛永	17	SK21	15-3	2.50	0.15	3.02	
第131028	寛永?	17	SK21	6-1	2.25	0.15	2.65	
第131029	寛永	17	SK21	7-2	2.52	0.11	2.68	
第131030	寛永	17	SK21	榎林1	2.38	0.12	2.96	
第131031	寛永	17	SK21	6-5	2.41	0.15	2.68	
第131032	寛永	17	SK21	2-4	2.48	0.17	2.65	
第131033	寛永	17	SK21	7-6	2.52	0.14	0.78	
第131034	寛永	17	SK21	7-1	un	un	0.78	
第131036	大船渡	17	SK22	14-18	2.47	0.13	2.68	
第131038	新寛永	17	SK22	14-3	2.54	0.12	2.14	青函ニ文
第131037	新寛永	17	SK22	14-4	2.53	0.11	2.96	青函ニ文
第131038	新寛永	17	SK22	13-3	2.54	0.13	2.56	青函ニ文
第131039	新寛永	17	SK22	14-9	2.51	0.12	3.85	青函ニ文
第131040	新寛永	17	SK22	14-10	2.55	0.11	2.88	青函ニ文
第131041	新寛永?	17	SK22	11-2	2.54	0.12	1.95	青函ニ文
第131042	新寛永	17	SK22	14-8	2.58	0.11	3.29	青函ニ文
第131043	新大船渡	17	SK22	14-13	2.43	0.17	2.25	
第131044	寛永	17	SK22	14-15	2.51	0.12	3.29	
第131045	新寛永	17	SK22	13-2	2.51	0.10	1.41	青函不明
第131046	寛永	17	SK22	14-14	2.40	0.13	2.89	
第131047	寛永	17	SK22	14-1	2.40	0.13	3.46	
第131048	新寛永	17	SK22	14-12	2.47	0.15	3.19	
第131049	寛永	17	SK22	14-2	2.45	0.11	2.97	
第131050	寛永	17	SK22	14-6	2.38	0.11	2.97	
第131051	寛永	17	SK22	14-5	2.42	0.12	3.87	
第131052	寛永	17	SK22	14-16	2.44	0.12	2.82	
第131053	寛永	17	SK22	14-11	2.56	0.11	2.26	
第131054	寛永	17	SK22	14-17	2.45	0.18	3.73	
第131056	寛永?	17	SK22	12-2	2.48	0.14	2.88	(注)有数箇所
第131056	寛永	17	SK22	13-1	2.49	0.11	1.96	
第131057	寛永	17	SK22	14-7	2.43	0.15	3.38	
第131057	寛永?	17	SK22	11-1	(2.51?)	0.12	1.53	
第131059	古寛永	17	SK22	12-1	2.42	0.14	2.66	
第131060	新寛永	17	SK29	4-5	2.52	0.14	3.45	青函ニ文
第131061	新寛永	17	SK29	4-7	2.52	0.15	3.36	青函ニ文

碑頭No	部 種	区	造標	遺跡・ 取上No	径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
第131862	?	17	SK29	5-14	2.27	0.10	3.13	
第131863	寛永?	17	SK29	5-12	2.37	0.13	2.00	
第131864	古寛永	17	SK29	5-8	2.35	0.13	2.06	
第131865	新寛永	17	SK29	5-11	2.33	0.11	2.06	
第131866	寛永	17	SK29	5-9	2.47	0.13	2.52	
第131867	?	17	SK29	5-10	2.45	0.11	3.04	
第131868	新寛永	17	SK29	5-13	2.41	0.10	2.55	
第131869	寛永	17	SK29	5-2	2.53	0.13	2.87	
第131870	寛永	17	SK29	4-1	2.45	0.13	2.07	
第131871	寛永	17	SK29	5-1	2.47	0.13	2.70	
第131872	寛永	17	SK29	4-8	2.44	0.17	2.75	
第131873	寛永	17	SK29	4-6	2.51	0.17	4.18	
第131874	寛永	17	SK29	4-4	2.55	0.16	3.75	
第131875	寛永	17	SK31	No1	2.41	0.10	1.83	
第131876	?	船橋五 基塚	SK15	6	2.50	0.17	3.11	
第131877	?	船橋五 基塚	SK15	1-2	(2.50)	(0.20)	1.04	
第131878	新寛永?	船橋五 基塚	SK15	5	2.44	0.13	2.10	
第131879	新寛永	船橋五 基塚	SK15	1-1	2.62	0.21	2.19	
第131880	新寛永?	船橋五 基塚	SK17	15-1	2.54	0.17	1.58	
第131881	寛文錢?	船橋五 基塚	SK17	5	1.92	0.12	0.40	
第131882	新寛永	船橋五 基塚	SK17	19	2.62	0.15	1.04	
第131883	?	船橋五 基塚	SK17	17-1	(2.28)	(0.13)	0.62	
第131884	新寛永	船橋五 基塚	99979		2.34	0.11	2.00	
第131885	新寛永	船橋五 基塚	99998		2.32	0.12	2.05	
第131886	新寛永	船橋五 基塚	富士		2.21	0.13	2.30	
第131887	新寛永	船橋五 基塚	下段富士		2.42	0.13	2.26	

## 硯 観察表

碑頭No	部 種	区	造標	遺跡・ 取上No	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
第101	硯	17	SK22	No16	12.85	5.3	1.85	
第101	硯	17	SK21	No1	6.65	4.7	0.85	裏面に文字
第91	硯	18	ビット					

## 小玉 観察表

碑頭No	部 種	区	造標	遺跡・ 取上No	直径 (mm)	穴直径 (mm)	厚さ (mm)	備考
第115	数珠玉	17	SK26	番外	4.4	1.0	3.5	
第115	数珠玉	17	SK29	No7-1	4.75	1.20	3.0	
第115	数珠玉	17	SK28	No7-2	4.75	1.20	3.0	

## 土錘 観察表

錘番号	種類	区	地層	層位・ 層上R.O.	長さ (m)	最大径 (m)	孔径 (mm)	備考
第14106	土錘	3	S01		(3.0)	(2.0)	0.55	層(1.5m以下の砂粒) 褐色、暗褐色
第14107	土錘	3	S01		4.5	1.0	0.3	1.5m以下の砂粒含む 褐色、暗褐色
第14108	土錘	19		褐色土	4.75	3.2	0.8	
第14109	土錘	船越五 区		船越五 区	5.0	2.8	1.1	瓦質(塊状良好) 黄 灰色→黒
第14110	土錘	17	溝		規定(3.0)	2.4	0.4	層(1.5m以下の砂粒) 塊状好、褐色
第14110A	土錘	19			4.95	2.3	0.65	
第14110B	土錘	船越五 区			4.4	2.1	0.7~0.8	瓦質(塊状) 黄 灰色→黒
第14110C	土錘	21			4.9	2.1	0.75	
第14110D	土錘	(津原オマ ツ) 2			4.85	2.0	0.5	底部の硬い位さが違う 層、黄灰、暗褐色
第14110E	土錘	15	溝	褐色土	(2.1)	1.7	0.8	
第14110F	土錘	20			5.6	1.95	0.5	
第14110G	土錘	23		褐色土	5.0	1.8	0.5	
第14110H	土錘	13			4.9	2.0	0.65	層(1.5m以下の砂粒) 塊状好、暗褐色
第14110I	土錘	船越五 区A		黄土	5.2	1.8	0.4	塊状良好 層(1.5m以下の砂粒) 暗褐色
第14110J	土錘	船越五 区A			5.1	1.9	0.5	層(1.5m以下の砂粒) 褐色、黄褐色
第14110K	土錘	16			(3.8)	(1.8)	(0.5)	
第14110L	土錘	9(W)			規定(3.0)	1.8	0.5	層(1.5m以下の砂粒) 塊状好、暗褐色
第14110M	土錘	11	砂礫 層	暗茶褐色 土	(2.2)	1.4	0.4	
第14110N	土錘	11	砂礫 層		(2.0)	(1.0)	(0.4)	
第14110O	土錘	11		黄土	(2.1)	1.2	0.35	
第14110P	土錘	21			4.3	1.0	0.4	













No.	品名	規格	目	単位	数量	単価	金額	備考
1443	SS							
1444	SS							
1445	SS							
1446	SS							
1447	SS							
1448	SS							
1449	SS							
1450	SS							
1451	SS							
1452	SS							
1453	SS							
1454	SS							
1455	SS							
1456	SS							
1457	SS							
1458	SS							
1459	SS							
1460	SS							
1461	SS							
1462	SS							
1463	SS							
1464	SS							
1465	SS							
1466	SS							
1467	SS							
1468	SS							
1469	SS							
1470	SS							
1471	SS							
1472	SS							
1473	SS							
1474	SS							
1475	SS							
1476	SS							
1477	SS							
1478	SS							
1479	SS							
1480	SS							
1481	SS							
1482	SS							
1483	SS							
1484	SS							
1485	SS							
1486	SS							
1487	SS							
1488	SS							
1489	SS							
1490	SS							
1491	SS							
1492	SS							
1493	SS							
1494	SS							
1495	SS							
1496	SS							
1497	SS							
1498	SS							
1499	SS							
1500	SS							

No.	品名	規格	目	単位	数量	単価	金額	備考
1501	SS							
1502	SS							
1503	SS							
1504	SS							
1505	SS							
1506	SS							
1507	SS							
1508	SS							
1509	SS							
1510	SS							
1511	SS							
1512	SS							
1513	SS							
1514	SS							
1515	SS							
1516	SS							
1517	SS							
1518	SS							
1519	SS							
1520	SS							
1521	SS							
1522	SS							
1523	SS							
1524	SS							
1525	SS							
1526	SS							
1527	SS							
1528	SS							
1529	SS							
1530	SS							
1531	SS							
1532	SS							
1533	SS							
1534	SS							
1535	SS							
1536	SS							
1537	SS							
1538	SS							
1539	SS							
1540	SS							
1541	SS							
1542	SS							
1543	SS							
1544	SS							
1545	SS							
1546	SS							
1547	SS							
1548	SS							
1549	SS							
1550	SS							
1551	SS							
1552	SS							
1553	SS							
1554	SS							
1555	SS							
1556	SS							
1557	SS							
1558	SS							
1559	SS							
1560	SS							

































No.	国名	産地	品名	規格	数量	単価	合計	備考	品名	規格	数量	単価	合計	備考
8521	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8522	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8523	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8524	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8525	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8526	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8527	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8528	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8529	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8530	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8531	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8532	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8533	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8534	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8535	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8536	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8537	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8538	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				

No.	国名	産地	品名	規格	数量	単価	合計	備考	品名	規格	数量	単価	合計	備考
8539	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8540	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8541	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8542	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8543	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8544	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8545	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8546	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8547	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8548	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8549	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8550	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8551	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8552	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8553	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8554	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8555	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8556	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8557	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				
8558	11	米	無農薬	無農薬					無農薬	無農薬				



# 圖 版





東船遺跡全景空撮（今津港上空から）

カラー図版2



遺跡全景空撮（西郷町提供）



遺跡全景空撮（西郷町提供）



日本海より遺跡を望む



SI01・SD01 出土弥生土器

カラー図版 4



出土中世陶磁器



SK22 出土金属製品



第1調査区全景(調査後)



第3調査区全景(調査後)



第5調査区全景(調査後北側)

図版2



第5調査区全景(調査後南側)



第7調査区全景(調査後西側)



第7調査区全景(調査後東側)



第9調査区全景(調査後)



第10調査区全景(調査後西側)



第10調査区全景(調査後東側)

図版 4



船王調査区全景(調査後南側)



船王調査区全景(調査後北側)



F調査区全景(調査後)



第11調査区全景(調査後)



第12調査区全景(調査後)



第13調査区全景(調査後)

図版 6



第14調査区全景(調査後)



第16調査区全景(調査後)



第17調査区全景(調査後)



第18調査区全景(調査後)



第21調査区全景(調査後)



第22調査区全景(調査後)

図版 8



第23調査区全景(調査後)



第24調査区全景(調査後)



遺跡見学会風景



伝船親王墓全景  
(調査前南西より)



伝船親王墓全景  
(調査前北西より)



伝船親王墓 石塔

図版 10



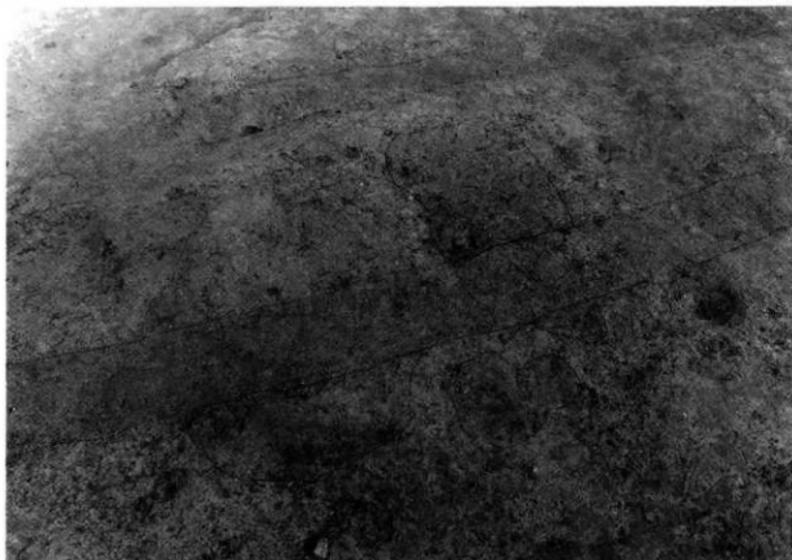
伝船親王墓 土層断面  
(東西ベルト)



伝船親王墓 土層断面  
(東西ベルト)



伝船親王墓 土層断面  
(南北ベルト)



SK03 検出状況



SK03 遺物出土状況



SI01 検出状況



SI01 遺物出土状況



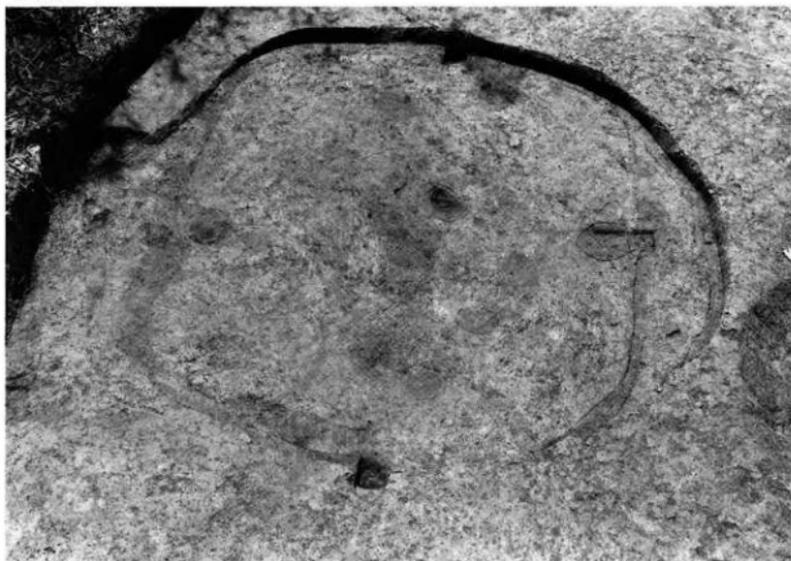
SI01 土層断面



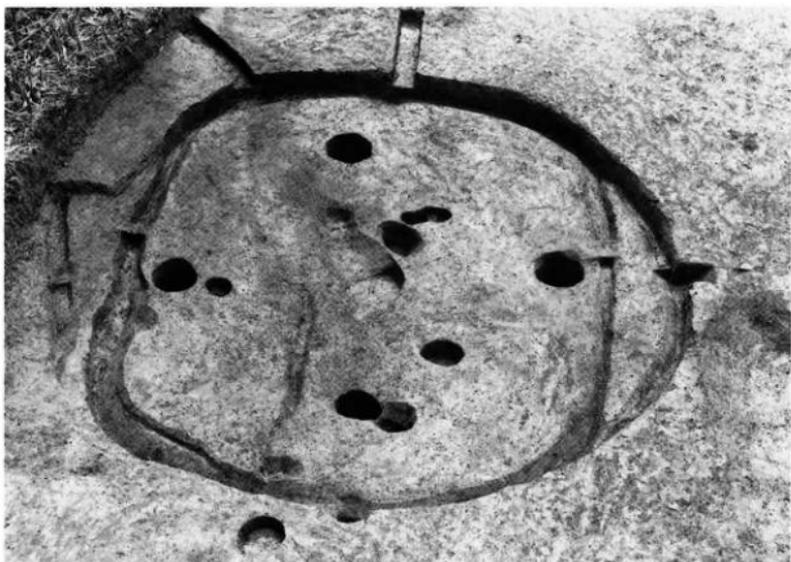
SI01 ピット・溝検出状況



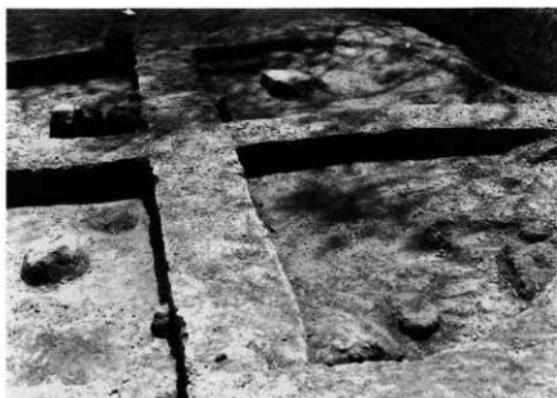
SI01 完掘状況



SI02 ビット・溝検出状況



SI02 完掘状況



SI02 土層断面



SI02 遺物出土状況



SI02 遺物出土状況



SK05・06・07 検出状況



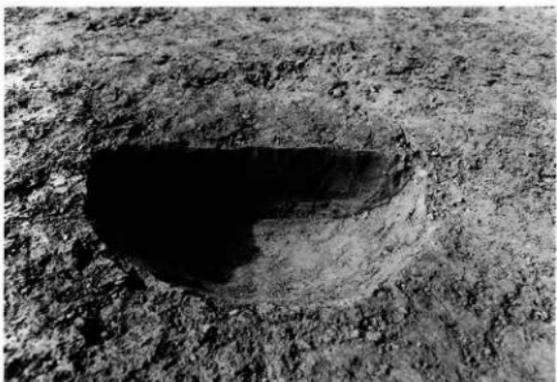
SK05 弥生土器状況



SK05 土层断面



SK06 土层断面



SK07 土层断面

図版 18



SK04 遺物出土状況



SD01 完掘状況



SD01 弥生土器出土状況



SD02・03 検出状況



SD03 遺物出土状況